

感染症発生動向調査事業報告書

平成23年(2011年)



東京都福祉保健局

序

感染症発生動向調査事業は、感染症の発生状況を把握・分析し、情報提供することにより、感染症の発生及びまん延を防止することを目的として行われている事業で、「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく事前対応型感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、一類感染症から五類感染症、新型インフルエンザなど、全症例の届出が義務付けられている疾患、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っております。

国においては平成 24 年までに麻しんを排除することを目標として掲げ、麻しん排除計画を策定しており、この計画に基づき取組を進めております。

都でも、麻しん対策会議において今後の対策のあり方について検討を進めております。ここでの議論を踏まえて、当センターでは平成 22 年麻しんに係る病原体レファレンスとして遺伝子検査を実施しております。

麻しん患者数は徐々に減少してきておりましたが、平成 23 年 4 月から、都内では麻しん患者の発生が続きました。検査結果から、麻しんウイルスがヨーロッパ、アジア由来の遺伝子型であることなど、流行拡大を防止するための貴重なデータを得ることができました。

今後とも、得られたデータ等については関係機関等に迅速に情報提供し、情報の共有を図ってまいります。

本報告書は、東京都医師会感染症予防検討委員会において行われた、平成 23 年の感染症発生情報の評価や、予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向については、「小児科・内科疾患（インフルエンザ）」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は井上賢治委員に執筆をお願いし、「一、二、三、四、五類（全数届出）」、「性感染症」及び「病原体情報」につきましては当センターの担当者が執筆いたしました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力いただいた東京都医師会、定点医療機関、保健所等の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

関係各位におかれましては、本書を広くご活用いただき、感染症対策の一助としていただくようお願い申し上げます。

平成 24 年 7 月

東京都健康安全研究センター所長 住友 眞佐美

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾病	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年（2011年）の概況	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類（全数把握対象）	5
(2) 五類感染症（定点把握対象）	7
(3) 疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）	9
表2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一、二、三、四、五類全数）	10
表2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（全数動物）	11
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点） ..	12
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	13
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	13
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	14
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（STI 定点）	14
表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（疑似症定点）	14
3 各疾患の動向	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）	15
ア 一類感染症	15
イ 二類感染症	15
ウ 三類感染症	15
エ 四類感染症	24
オ 五類感染症（全数把握対象）	36
表3-1 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表	61
表3-2 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 保健所別累計表	64
表3-3 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表	67
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	70

イ	R S ウイルス感染症	71
ウ	咽頭結膜熱	72
エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73
オ	感染性胃腸炎	74
カ	水痘	75
キ	手足口病	76
ク	伝染性紅斑	77
ケ	突発性発しん	78
コ	百日咳	79
サ	ヘルパンギーナ	80
シ	流行性耳下腺炎	81
ス	不明発しん症	82
セ	川崎病	83
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	84
イ	流行性角結膜炎	85
(4) 基幹定点における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	86
イ	無菌性髄膜炎	87
ウ	マイコプラズマ肺炎	88
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	89
(5) 基幹定点における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	90
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	91
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	92
エ	薬剤耐性アシネトバクター感染症	93
(6) 性感染症（STI）		
ア	性器クラミジア感染症	94
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	95
ウ	尖圭コンジローマ	96
エ	淋菌感染症	97
オ	膣トリコモナス症	98
カ	梅毒様疾患	99
表 4-1	週別患者報告数	100

表 4-2	週別定点当たり患者報告数	102
表 5-1	保健所別患者報告数	104
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	106
表 6-1	年齢階級別患者報告数（インフルエンザ・小児科）	108
表 6-2	年齢階級別患者報告数（小児科・眼科・基幹）	109
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	110
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	111
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	112
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	112
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	112
表 8-4	年齢階級別患者報告数（基幹）	113
表 9-1	月別患者報告数（STI）	113
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（STI）	113
表 9-3	月別・性別患者報告数（STI）	114
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（STI）	114
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI）	115
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI）	116
表 9-7	年齢階級別患者報告数（STI）	117
表 1 0	検査結果別報告数（基幹）	117
表 1 1	疑似症サーベイランス報告数	118

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	121
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	122
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	123
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	124
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	130
(2) 内科病原体定点から搬入された検体の検査結果		
ア	2010年/2011年シーズンのウイルス検出状況(再掲分)	130
イ	2010年/2011年シーズンのウイルス検出状況	130
ウ	インフルエンザウイルスの抗原解析	131

2 細菌検査結果

(1) 三類感染症の病原体検索	134
(2) 四類感染症の病原体検索	134
(3) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	134
(4) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	134

3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果

(1) クラミジア・淋菌遺伝子検査・細菌分離同定	136
(2) ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査	139
(3) 単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査	139
(4) 膣トリコモナス検査	139

第3章 資料

1 東京都感染症発生動向調査定点名簿	143
2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿	158
3 感染症発生動向調査事業の流れ	159
4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	160

別表 1 感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	167
2 五類感染症（全数把握）	168
3 新型インフルエンザ等感染症	169
4 五類感染症（定点把握）	169
5 疑似症	169

別表 2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	170
----------------------------	-----

別表 3 疑似症の調査単位と報告時期	170
--------------------	-----

別記様式一覧表	171
---------	-----

別記様式 1	172
--------	-----

別記様式 2	173
--------	-----

別記様式 3	174
--------	-----

別記様式 4	175
--------	-----

別記様式 5	176
--------	-----

別記様式 6	177
--------	-----

別記様式 7	179
--------	-----

別記様式 8	180
--------	-----

別記様式 9	181
--------	-----

別記様式 10	183
---------	-----

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

(2011 年)

(2011 年 1 月 3 日～2012 年 1 月 1 日)

2011 年の感染症発生動向調査では発生から 3 年目を迎える新型インフルエンザ(AH1pdm09 型)の消長が注目されました。2009/2010 年シーズンのインフルエンザの流行パターンは例年とかなり異なり、44 週(10 月 26 日～11 月 1 日)にピークがあり 1～3 月には流行の山がないというパターンをとりました。また東京都健康安全研究センターで 36～46 週(8 月 31 日～11 月 29 日)に検出されたウイルスは 468 件中 467 件が AH1pdm09 型でした。一方、2010/2011 年シーズンのインフルエンザの流行パターンはほぼ例年通りとなりました。また、健康安全研究センターで検出されたウイルスの型別では、流行初期の 2～5 週(1 月 10 日～2 月 6 日)では AH1pdm 約 70%、AH3(A 香港)約 25%、B 約 5%、6～9 週(2 月 7 日～3 月 6 日)では AH1pdm 約 35%、AH3 約 50%、B 約 15%、後期の 10～13 週(3 月 7 日～4 月 3 日)では AH1pdm 約 5%、AH3 約 50%、B 約 45%となり、流行初期は AH1pdm が多く、終期になるにつれて、AH3 や B に取って変わられる形となりました。今後どのような流行形態となるのか注目したいと思います。

2011 年は手足口病とマイコプラズマ肺炎の大きな流行がありました。この 2 疾患以外でも過去 10 年で最多の報告数があった疾患は、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、川崎病、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、梅毒様疾患を挙げることができます。一方、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は過去 10 年で最も少ない報告数でした。

また、感染症予防検討委員会ではポリオ生ワクチン接種後の麻痺症例の報道後、ワクチン接種率の低下の問題が大きく取り上げられました(2012 年 3 月の厚生労働省速報によると 2011 年秋のワクチン接種率は 75.6%で春シーズンより 7.9 ポイント減)。不活化ポリオワクチンへの移行などできるだけ速やかな対応が求められています。

本事業報告にあたり、定点医療機関の関係者の方々、ご指導いただいた都医師会担当理事の角田徹先生、副委員長の岡部信彦、沼口俊介両先生を始めとする各委員の先生方、事務局の皆様に感謝申し上げます。

平成 24 年 7 月

東京都医師会感染症予防検討委員会
委員長 長 岡 常 雄

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾病

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」および「感染症発生動向調査実施要綱」に指定している全数把握対象疾患および五類定点把握対象疾患のほかに、都単独に不明発しん症と川崎病及び性感染症として脛トリコモナス症と梅毒様疾患を調査対象としている。2011年9月6日より基幹定点医療機関報告対象疾患にインフルエンザによる入院患者が追加され、インフルエンザの重症化サーベイランスが開始となった。また、厚生労働省令で定める2疑似症を疑似症サーベイランス対象としている。（第3章別表1参照）

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症単独定点 26 が設定され、このうち 69 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点と内科定点は、インフルエンザ定点および疑似症定点としても機能している。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点数

（2011年12月31日現在）

定 点 種 別 (疾病数)	患 者 定 点	病 原 体 定 点
	定 点 数	定 点 数
小 児 科 定 点 (14)	264	26
内 科 定 点 (1)	155	15
眼 科 定 点 (2)	39	4
基 幹 定 点 (9)	25	20
性 感 染 症 定 点 (6)	55	4
疑似症単独定点 (2)	26	

(3) 運営方法

小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症（STI）定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月単位となっている。

週単位で報告される疾病については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者に関して、小児科、内科、眼科の各定点医療機関においては年齢別の患者数を、基幹定点医療機関においては年齢、検出病原体名を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

月単位で報告される月報告疾患については、性感染症定点医療機関が当該月の年齢別患者数を、基幹定点医療機関が患者の年齢、検体採取部位を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

疑似症サーベイランスについては、報告基準を満たす患者が発生した場合には、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し、直ちに保健所に FAX で送付する（疑似症単独定点は、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する）。なお、発生がない場合であっても、その旨、週単位で報告する。

定点医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。健康安全研究センター疫学情報室（基幹地方感染症情報センター）は、保健所からの

情報を確認後、国へ送信する。

(4) 情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ (<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>) で公開され、広く都民に情報還元が図られている。

また、隔月第4木曜日に、感染症予防検討委員会が開催され、直近2か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載している。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」を掲載している。

2 本年(2011年)の概況

(1) 一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象)

ア 一類感染症

一類感染症《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

イ 二類感染症

二類感染症は総計1件の届出があった(結核を除く)。

急性灰白髄炎は1件届出があった。ワクチン株由来のポリオウイルス3型が検出され、推定感染地は国内であった。

二類感染症のうち《ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)》の届出はなかった。結核の動向については、別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

ウ 三類感染症

三類感染症は総計361件の届出があった。

コレラは3件届出があった。全てO1エルトル小川で、推定感染地は全て国外であった。

細菌性赤痢は86件届出があった。フレキシネル菌10件、ボイド菌5件、ソンネ菌69件、型別不明2件であった。推定感染地は国内40件、国外45件、国内又は国外1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症は257件届出があった。O157VT1が14件、O157VT2が55件、O157VT1・VT2が105件、O157VT不明が17件、O26VT1が15件、O26VT2が1件、O26VT1・VT2が10件、O26VT不明が1件、O145VT2が6件、O111VT1が5件、O111VT1・VT2が3件、その他が25件であった。症状別では、患者194人(うち溶血性尿毒症症候群HUS11人)、無症状病原体保有者63人であった。

腸チフスは6件届出があった。推定感染地は国内2件、国外4件であった。

パラチフスは9件届出があった。推定感染地は全て国外であった。

エ 四類感染症

四類感染症は総計192件の届出があった。

E型肝炎は9件届出があった。推定感染地は国内7件、国外2件であった。

A型肝炎は27件届出があった。推定感染地は国内16件、国外11件であった。

エキノコックス症は2件届出があった。全て多包条虫で、推定感染地は全て国外であった。

オウム病は3件届出があった。推定感染地は全て国内であった。

コクシジオイデス症は2件届出があった。推定感染地は全て国外であった。

つつが虫病は13件届出があった。推定感染地は国内12件、国外1件であった。

デング熱は27件届出があった。その中でデング出血熱の届出はなかった。推定感染地は全て国外であった。

日本紅斑熱は1件届出があった。推定感染地は国内であった。

日本脳炎は1件届出があった。推定感染地は国外であった。

マラリアは27件届出があった。三日熱マラリア5件、四日熱マラリア1件、熱帯熱マラリア20件、型別不明1件であった。推定感染地は全て国外であった。

ライム病は3件届出があった。推定感染地は国内2件、国外1件であった。

レジオネラ症は72件届出があった。肺炎型69件、ポンティアック型3件であった。推定感染地は国内69件、国外3件であった。

レプトスピラ症は5件届出があった。推定感染地は国内3件、国外2件であった。

四類感染症のうち《ウエストナイル熱、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1を除く）、ニパウイルス感染症、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱》の届出はなかった。

オ 五類感染症

五類感染症は総計1,178件の届出があった。

アメーバ赤痢は178件届出があった。腸管アメーバ症140件、腸管外アメーバ症23件、腸管及び腸管外アメーバ症15件であった。推定感染地は国内152件、国外25件、国内及び国外1件であった。

ウイルス性肝炎は40件届出があった。B型肝炎39件、C型肝炎1件であった。推定感染地は国内38件、国外1件、国内又は国外1件であった。

急性脳炎は19件届出があった。病原体はインフルエンザウイルス6件、ヒトヘルペスウイルス2件、ムンプスウイルス1件、ロタウイルス1件、不明9件であった。推定感染地は全て国内であった。

クリプトスポリジウム症は2件届出があった。推定感染地は国内1件、国外1件であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は13件届出があった。孤発性プリオン病・古典型CJD12件、感染性プリオン病・変異型CJD1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は30件届出があった。血清群はA群17件、B群2件、C群1件、G群10件であった。推定感染地は全て国内であった。死亡は9件報告された。

後天性免疫不全症候群は409件届出があった。HIV感染者295件、AIDS患者84件、その他30件であった。推定感染地は国内341件、国外17件、国内及び国外2件、不明49件で、推定感染経路は性的接触360件、静注薬物1件、輸血1件、その他2件、2経路以上2件、不明43件であった。

ジアルジア症は13件届出があった。推定感染地は国内6件、国外6件、国内又は国外1件であった。

髄膜炎菌性髄膜炎は2件届出があった。推定感染地は全て国内であった。

梅毒は248件届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期28件、早期顕症梅毒Ⅱ期125件、晩期顕症梅毒6件、無症候89件であった。推定感染地は国内242件、国外6件であった。

破傷風は 8 件届出があった。推定感染地は全て国内であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 6 件届出があった。耐性遺伝子型は *vanB* 1 件、*vanC* 4 件、不明 1 件であった。

風しんは 32 件届出があった。検査診断例 25 件、臨床診断例 7 件であった。推定感染地は国内 30 件、国外 2 件であった。

麻しんは 178 件届出があった。麻しん（検査診断例）104 件、麻しん（臨床診断例）44 件、修飾麻しん（検査診断例）30 件であった。推定感染地は国内 166 件、国外 11 件、国内又は国外 1 件であった。

五類感染症のうち《先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2010 年と比較して減少した疾患は流行性耳下腺炎、百日咳、感染性胃腸炎の 3 疾患であった。報告数が前年並であった疾患は、RS ウイルス感染症、水痘、突発性発しん、ヘルパンギーナの 4 疾患であった。前年比増加した疾患はインフルエンザ、手足口病、咽頭結膜熱、川崎病、不明発しん症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑の 7 疾患であった。

〔前年比減少疾患〕

流行性耳下腺炎：2011 年は 4,488 人、定点当たり 17.23 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比で 0.49 であり、過去 10 年でも 3 番目に少ない報告数であった。

百日咳：2011 年は 450 人、定点当たり 1.73 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比で 0.51 であったが前年が過去 10 年で最も多い報告数であった年であり 2011 年の報告数も過去 10 年で 3 番目に多い報告数であった。

感染性胃腸炎：2011 年は 95,910 人、定点当たり 367.56 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 0.86 であったが過去 10 年では 3 番目に多い報告数であった。

〔前年比横這いであった疾患〕

RS ウイルス感染症：2011 年は 3,628 人、定点当たり 13.94 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 0.96 であった。

水痘：2011 年は 15,679 人、定点当たり 60.11 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 0.94 であるが過去 10 年では 3 番目に多い報告数であった。

突発性発しん：2011 年は 8,447 人、定点当たり 32.44 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 1.09 であった。

ヘルパンギーナ：2011 年は 14,431 人、定点当たり 55.78 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 0.98 であったが、前年が過去 10 年で最多の年であり、2011 年はこれに次ぐ 2 番目の報告数であった。

〔前年比増加疾患〕

インフルエンザ：2011 年は 99,941 人、定点当たり 240.03 人の報告があった。定点当たりの当年/前

年比は 5.46 で過去 10 年で 3 番目に多い報告数であった。

手足口病：2011 年は 24,786 人、定点当たり 95.84 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 2.25 で、過去 10 年で最も多い報告数であった。

咽頭結膜熱：2011 年は 4,936 人、定点当たり 18.95 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 1.42 であった。

川崎病：2011 年は 217 人、定点当たり 0.83 人の報告があった。定点当たりの当年/前年比は 1.38 で、過去 10 年で最も多い報告数であった。

不明発しん症：2011 年は 1,506 人、定点当たり 5.78 人の報告があった、定点当たりの当年/前年比は 1.37 で、過去 10 年で 2 番目に多い報告数であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2011 年は 25,487 人、定点当たり 97.66 人の報告があった。当年/前年比は 1.29 で、過去 10 年で最も多い報告数であった。

伝染性紅斑：2011 年は 6,317 人、定点当たり 24.23 人の報告があった。当年/前年比は 1.22 で、過去 10 年で最も多い報告数であった。

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎：2011 年は 31 人、定点当たり 0.84 人の報告があった。前年と比べ半分以下となった。全国と比較すると 7 月までは同程度だったが、7 月以降は全国の報告数が増加した。

流行性角結膜炎：2011 年は 842 人、定点当たり 22.73 人の報告があった。過去 5 年間と同等だった。全国と比較するとやや少ない傾向にあった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2011 年は 52 人、定点当たり 2.14 人の報告があった。過去 10 年で最多の報告であった。

無菌性髄膜炎：2011 年は 96 人、定点当たり 3.91 人の報告があった。過去 10 年で最多の報告数であった。

マイコプラズマ肺炎：2011 年は 1,143 人、定点当たり 46.78 人の報告があった。過去 10 年で最多の報告数であった。

クラミジア肺炎：2011 年は 18 人、定点当たり 0.74 人の報告があった。過去 10 年では平均的な報告数であった。

インフルエンザ入院：2011 年は 12 人、定点当たり 0.48 人の報告があった。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（MRSA）：2011 年は 1,136 人、定点当たり 46.67 人の報告があった。過去 10 年で最も少ない報告数であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2011 年は 596 人、定点当たり 24.55 人の報告があった。過去 10 年、報告数に大きな変化はみられない。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2011 年は 37 人、定点当たり 1.52 人の報告があった。過去数年減少が見られていたが 2011 年は若干増加が見られた。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：2011 年 2 月より調査が開始されたが報告例はなかった。

オ 性感染症（STI）

性器クラミジア感染症：2011 年は 2,426 人、定点当たり 44.37 人の報告があった。定点当たりの報告数は過去 10 年で 3 番目に少ない報告数であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：2011 年は 1,236 人、定点当たり 22.60 人の報告があった。定点当たりの報告数は過去 10 年で平均的な報告数であった。

尖圭コンジローマ：2011 年は 837 人、定点当たり 15.31 人の報告があった。定点当たりの報告数は過去 10 年で平均的な報告数であった。

淋菌感染症：2011 年は 1,212 人、定点当たり 22.15 人の報告があった。定点当たりの報告数は過去 10 年で平均的な報告数であった。

膣トリコモナス症：2011 年は 136 人、定点当たり 2.49 人の報告があった。定点当たりの報告数は過去 10 年で一番少ない報告数であった。

梅毒様疾患：2011 年は 117 人、定点当たり 2.14 人の報告があった。定点当たりの報告数は過去 10 年で一番多い報告数であった。

（３）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 9 人、発熱及び発しん又は水疱は 4 人の報告があった。

表2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一、二、三、四、五類全数)

分類	疾 病 名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
一 類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう *1	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱 *2	/	/	/	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二 類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	1
	結核 *2 (2012年4月19日現在の報告数)	-	-	3,305	3,228	3,219	3,045	5,147
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 *3	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *4	/	/	/	/	-	-	-
三 類	コレラ *5	13	8	3	6	3	2	3
	細菌性赤痢 *5	89	67	86	64	48	86	86
	腸管出血性大腸菌感染症	238	268	476	409	317	339	257
	腸チフス *5	11	19	11	13	11	12	6
	パラチフス *5	4	12	7	7	12	5	9
四 類	E型肝炎 *1	8	4	3	7	6	9	9
	ウエストナイル熱 *6	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎 *1	24	28	19	31	24	45	27
	エキノкокクス症	1	1	3	-	1	1	2
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	3	4	1	-	1	-	3
	オムスク出血熱 *2	/	/	/	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
	キャサヌル森林病 *2	/	/	/	-	-	-	-
	Q熱	3	-	2	1	1	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	1	1	2	-	1	1	2
	サル痘 *1	-	-	-	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎 *2	/	/	/	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎 *2	/	/	/	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 *7	/	/	/	/	/	/	-
	つつが虫病	6	1	15	18	14	14	13
	デング熱	29	18	23	32	32	70	27
	東部ウマ脳炎 *2	/	/	/	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く) *8	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	-	-	1	1
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	1
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽 *2	/	/	/	-	-	-	-
	ブルセラ症	1	1	-	-	1	-	-
	ベネズエラウマ脳炎 *2	/	/	/	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症 *2	/	/	/	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症 *9	1	-	-	-	-	-	-

分類	疾 病 名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
四 類	マラリア	21	16	23	23	26	27	27
	野兔病 *1	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	4	2	3	-	1	1	3
	リッサウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱 *2				-	-	-	-
	類鼻疽 *2				-	-	1	-
	レジオネラ症	24	62	53	80	53	55	72
	レプトスピラ症 *1	3	4	4	4	-	2	5
	ロッキー山紅斑熱 *2				-	-	-	-
五 類 (全数届出)	アメーバ赤痢 *10	183	181	166	189	140	180	178
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く) *10	36	34	40	30	35	48	40
	急性脳炎 *1	16	6	20	11	45	14	19
	クリプトスポリジウム症 *10	1	5	1	4	4	3	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病 *10	15	22	16	15	19	15	13
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *10	7	14	6	19	10	19	30
	後天性免疫不全症候群 *10	417	453	515	545	471	509	409
	ジアルジア症 *10	13	28	19	20	24	13	13
	髄膜炎菌性髄膜炎 *10	3	1	3	2	1	-	2
	先天性風しん症候群 *10	-	-	-	-	-	-	-
	梅毒 *10	98	132	162	205	196	173	248
	破傷風 *10	2	8	1	5	7	5	8
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *10	13	20	17	15	15	17	6
	風しん *11				46	19	15	32
	麻しん *11				1,174	110	76	178
新型	新型インフルエンザ *12					1,160		

*1 2003年11月5日より新たに追加指定された。

*2 2007年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

*4 2008年5月12日より新たに追加指定された。

*5 2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

*6 2002年11月1日より四類感染症に追加され、急性脳炎に含まれなくなった。

*7 2011年2月1日より新たに追加指定された。

*8 2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定、2007年4月1日より「鳥インフルエンザ」に変更。

*9 2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。

*10 2003年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。

*11 2008年1月1日より五類(定点届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。

*12 2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定された。全数届け出は2009年7月23日まで。

表 2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(全数動物)

疾 病 名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
エボラ出血熱のサル	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病のサル	-	-	-	-	-	-	-
ペストのプレーリードッグ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	-	-	-	-	-	-	-
結核のサル			-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類		-	-	-	1*	-	-
細菌性赤痢のサル	1	1	-	-	-	-	-
ウエストナイル熱の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス症の犬	-	-	-	-	-	-	-

* 2009年の報告は動物実験による感染

表 2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
小児科定点数 *1	142	142	142	142	142	150	150	150	150	264
インフルエンザ定点数 *2	178	178	178	178	178	290	290	290	290	419
インフルエンザ	14,877	27,007	18,958	43,336	23,953	53,927	23,059	142,140	12,614	99,940
	83.58	151.72	106.51	243.46	134.57	191.41	80.47	495.53	43.97	240.03
RSウイルス感染症 *3		68	432	848	818	1,403	1,722	845	2,153	3,628
		0.48	3.04	5.97	5.76	9.57	11.71	5.73	14.52	13.94
咽頭結膜熱	600	1,353	2,123	2,468	3,929	2,793	2,927	1,339	1,979	4,936
	4.23	9.53	14.95	17.38	27.67	18.96	19.86	9.07	13.37	18.95
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	3,772	4,261	5,842	7,564	11,213	11,913	13,925	10,058	11,231	25,487
	26.56	30.01	41.14	53.27	78.96	81.32	93.97	68.03	75.80	97.66
感染性胃腸炎	34,659	35,718	39,464	42,578	51,945	46,783	58,681	37,599	63,372	95,910
	244.08	251.54	277.92	299.85	365.81	318.41	395.92	254.50	427.41	367.56
水 痘	7,079	6,439	6,845	7,565	8,345	8,874	8,682	7,079	9,472	15,679
	49.85	45.35	48.20	53.27	58.77	60.77	58.68	47.94	63.93	60.11
手足口病	3,213	6,872	3,585	3,296	2,885	4,382	4,487	3,426	6,257	24,786
	22.63	48.39	25.25	23.21	20.32	29.73	30.60	23.36	42.52	95.84
伝染性紅斑	1,574	1,471	2,771	2,035	3,109	2,879	1,168	1,558	2,929	6,317
	11.08	10.36	19.51	14.33	21.89	19.73	7.90	10.54	19.79	24.23
突発性発しん	3,632	3,777	4,043	4,048	4,119	4,691	4,944	4,463	4,397	8,447
	25.58	26.60	28.47	28.51	29.01	31.95	33.49	30.24	29.74	32.44
百日咳	32	34	47	28	23	151	278	225	506	450
	0.23	0.24	0.33	0.20	0.16	1.02	1.88	1.53	3.42	1.73
風しん *4	71	143	234	40	21	35				
	0.50	1.01	1.65	0.28	0.15	0.24				
ヘルパンギーナ	5,067	5,064	5,275	6,909	5,900	6,804	6,470	2,574	8,400	14,431
	35.68	35.66	37.15	48.65	41.55	46.10	44.08	17.63	57.06	55.78
麻しん *4	377	376	78	49	25	303				
	2.65	2.65	0.55	0.35	0.18	2.05				
流行性耳下腺炎	3,678	1,290	3,250	7,321	4,481	1,940	3,662	5,175	5,154	4,488
	25.90	9.08	22.89	51.56	31.56	13.24	24.83	35.05	34.87	17.23
不明発しん症 *5	613	579	540	461	966	665	734	657	622	1,506
	4.32	4.08	3.80	3.25	6.80	4.52	4.98	4.48	4.21	5.78
川崎病 *5	60	66	69	56	101	110	109	71	89	217
	0.42	0.46	0.49	0.39	0.71	0.75	0.73	0.48	0.60	0.83

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 2007年は、12月末時点の定点数

*3 2003年45週より実施

*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

*5 東京都独自疾患

表 2－3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）

上段：年間報告数

下段：定点当たり

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
定点数＊	14	14	14	14	14	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	12	18	6	7	8	82	64	53	74	31
	0.86	1.29	0.43	0.50	0.57	2.15	1.66	1.37	1.91	0.84
流行性角結膜炎	925	880	719	567	535	968	865	703	951	842
	66.07	62.86	51.36	40.50	38.21	32.04	22.41	18.28	24.60	22.73

＊ 2007年は、12月末時点の定点数

表 2－4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
（基幹定点週報告分）

上段：年間報告数

下段：定点当たり

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
定点数	25	25	25	25	25	25	24	24	25	25
細菌性髄膜炎	24	18	25	17	15	28	24	24	18	52
	0.96	0.72	1.00	0.68	0.60	1.14	1.01	1.02	0.76	2.14
無菌性髄膜炎	66	66	27	28	40	50	34	28	38	96
	2.64	2.64	1.08	1.12	1.60	2.03	1.42	1.17	1.61	3.91
マイコプラズマ肺炎	163	173	184	164	218	247	298	305	416	1143
	6.52	6.92	7.36	6.56	8.72	10.11	12.53	12.93	17.76	46.78
クラミジア肺炎	2	3	4	9	13	20	25	46	20	18
	0.08	0.12	0.16	0.36	0.52	0.81	1.05	1.96	0.85	0.74
インフルエンザ入院 ＊1										12
										0.48
成人麻疹 ＊2	116	144	16	1	3	262				
	4.64	5.76	0.64	0.04	0.12	10.70				

＊1 2011年36週より実施

＊2 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表 2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
定点数	25	25	25	25	25	25	24	24	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,759 70.36	1,761 70.44	1,552 62.08	1,539 61.56	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36	1,136 46.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	557 22.28	617 24.68	444 17.76	534 21.36	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30	635 26.77	596 24.55
薬剤耐性緑膿菌感染症	107 4.28	61 2.44	39 1.56	35 1.40	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93	26 1.10	37 1.52
薬剤耐性アシネトバクター感染症										0 0.00

表 2-6 東京都感染症発生動向調査年別報告数 (S T I 定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
定点数 *1	41	41	41	41	41	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,536 61.85	2,422 59.07	2,476 60.39	2,132 52.00	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07	2,426 44.37
性器ヘルペスウイルス感染症	950 23.17	865 21.10	982 23.95	923 22.51	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15	1,236 22.60
尖圭コンジローマ	502 12.24	518 12.63	627 15.29	555 13.54	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47	842 15.62	837 15.31
淋菌感染症	1,249 30.46	1,298 31.66	1,171 28.56	1,006 24.54	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81	1,212 22.15
膣トリコモナス症 *2	447 10.90	343 8.37	298 7.27	212 5.17	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55	150 2.78	136 2.49
梅毒様疾患 *2	41 1.00	68 1.66	42 1.02	43 1.05	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74	83 1.54	117 2.14

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 東京都独自疾患

表 2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数 (疑似症定点)

上段:年間報告数

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
定点数							315	315	315	443
発熱及び呼吸器症状 *							11	147	20	9
発熱及び発しん・水疱 *							8	6	9	4

* 2008年7月より実施

3 各疾患の動向

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症 (全数把握対象)

ア 一類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

イ 二類感染症

① 急性灰白髄炎

急性灰白髄炎は、1件届出があった。

ワクチン株由来のポリオウイルス3型が検出された。

性別は男性、年齢は5歳未満、推定感染地は国内であった。

急性灰白髄炎 (n=1)						
受理日	受理週	性別	年齢	病型	症状	推定感染地
5/12	19	男	6か月	ワクチン株由来 (ポリオウイルス3型)	発熱、全身倦怠感、 弛緩性麻痺、 腱反射の減弱・消失	国内

② 結核

結核の発生動向は別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

以下の疾患は届出がなかった。

ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ (H5N1)

ウ 三類感染症

① コレラ

コレラは3件届出があった。菌型は全てO1エルトル小川であった。

性別は男性2人、女性1人で、年齢別は20歳代1人、30歳代1人、40歳代1人であった。推定感染地は全て国外で、フィリピン1件、インド1件、インドネシア1件であった。

コレラ (n=3)					
受理日	受理週	性別	年齢	菌型	推定感染地
8/9	32	女	30	O1 エルトール小川	フィリピン
10/26	43	男	29	O1 エルトール小川	インド
10/27	43	男	40	O1 エルトール小川	インドネシア

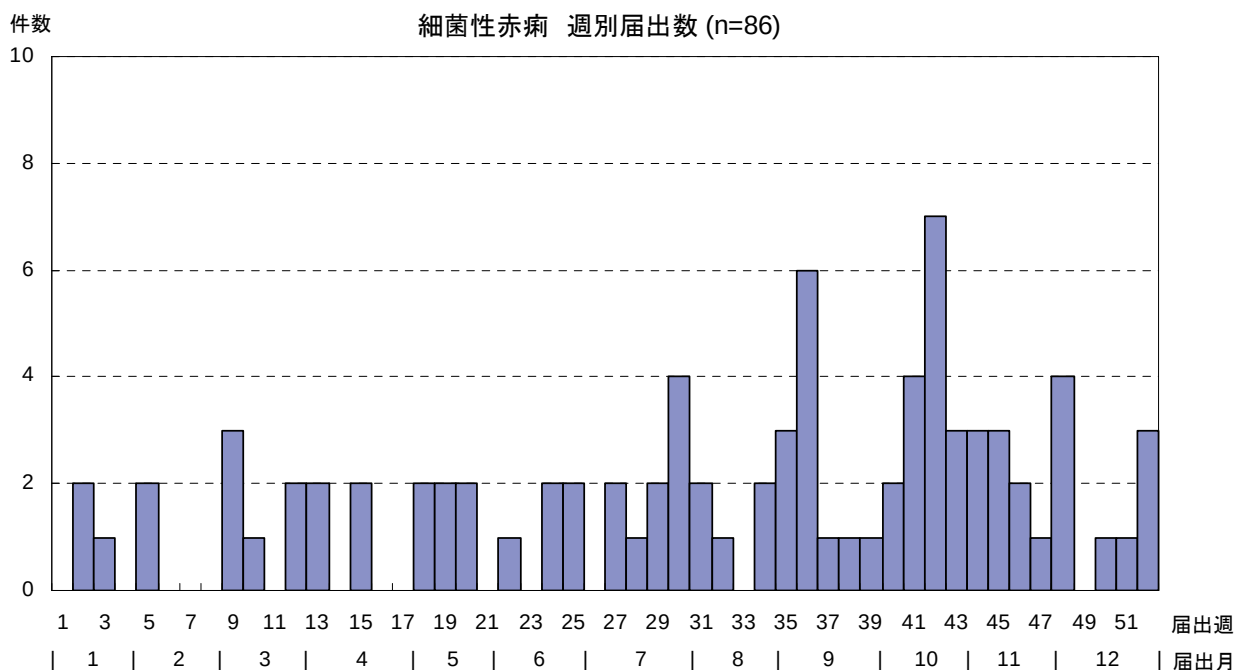
② 細菌性赤痢

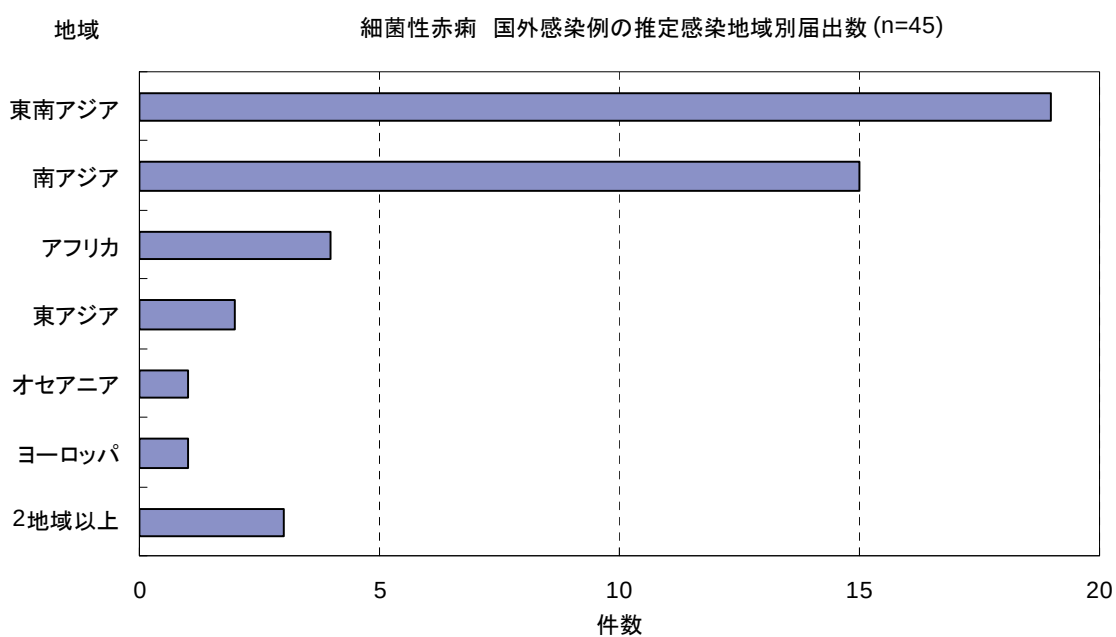
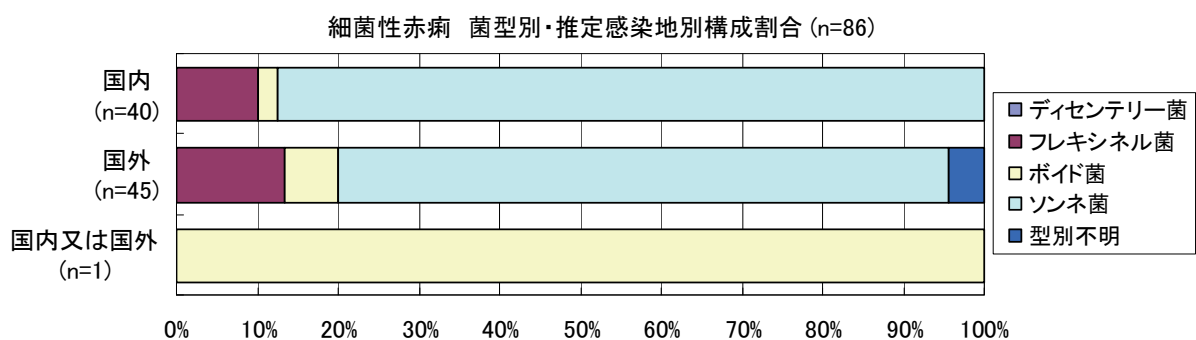
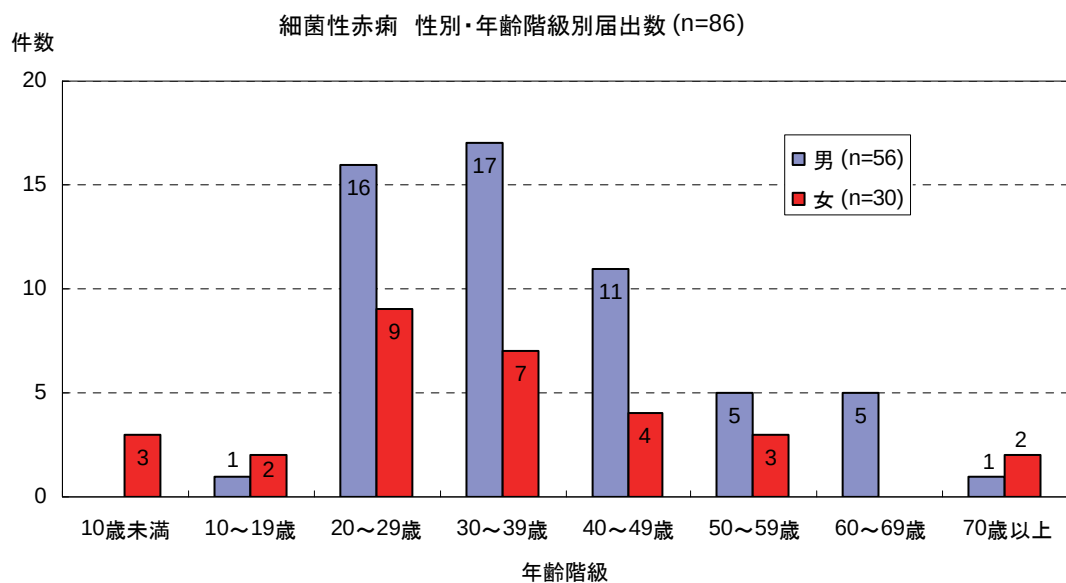
細菌性赤痢は86件届出があった。菌型はフレキシネル菌10件、ボイド菌5件、ソンネ菌69件、型別不明2件であった。

性別は男性 56 人、女性 30 人で、年齢は 10 歳未満 3 人（うち 5 歳未満 2 人）、10 歳代 3 人、20 歳代 25 人、30 歳代 24 人、40 歳代 15 人、50 歳代 8 人、60 歳代 5 人、70 歳以上 3 人であった。

推定感染地は国内 40 件、国外 45 件、国内又は国外 1 件であった。国外感染例 45 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 19 件、南アジア 15 件、アフリカ 4 件、東アジア 2 件が多く、推定感染国別にみると、インド 10 件、インドネシア 8 件、フィリピン 6 件、ネパール 3 件、カンボジア 2 件、ベトナム 2 件、バングラデシュ 2 件、中華人民共和国 2 件が多かった。症例の集積は、第 30 週ネパールへの渡航者 2 人（ソンネ）、第 42～43 週カンボジア・ベトナムへの渡航者 2 人（ソンネ）に認められた。

国内感染が疑われる 40 件の年齢は、10 歳未満 1 人、10 歳代 1 人、20 歳代 9 人、30 歳代 11 人、40 歳代 9 人、50 歳代 4 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 3 人であった。推定感染経路が性的接触（糞口感染）の症例が、第 25 週に 1 人（ソンネ）、29 週に 1 人（ソンネ）、48 週に 2 人（ソンネ 2 件）、51 週に 1 人（ソンネ）確認された。





細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別・国別届出数 (n=45)

推定感染地域	件数	推定感染国	件数
東南アジア	19	インドネシア	8
		フィリピン	6
		カンボジア	2
		ベトナム	2
		ベトナム/カンボジア	1
南アジア	15	インド	10
		ネパール	3
		バングラデシュ	2
アフリカ	4	コンゴ共和国	1
		ザンビア	1
		南スーダン	1
		モロッコ	1
東アジア	2	中華人民共和国	2
オセアニア	1	パプアニューギニア	1
ヨーロッパ	1	ウズベキスタン	1
2 地域以上	3	タイ/インド	1
		ベトナム/中華人民共和国	1
		ケニア/タンザニア/アラブ首長国連邦	1
計	45		

細菌性赤痢 国内感染例 (n=40)

受理日	受理週	性別	年齢	菌型	症状	推定感染地	備考
3/23	12	女	54	ソンネ	有	東京都	
3/29	13	男	52	ソンネ	有	東京都	
5/6	18	男	36	ソンネ	有	不明	
5/6	18	男	38	ソンネ	有	東京都	
5/12	19	女	9	フレキシネル	有	東京都	
5/19	20	女	84	ボイド	有	東京都	
6/13	24	男	21	ソンネ	有	東京都	
6/24	25	男	22	ソンネ	有	不明	性的接触
7/4	27	男	64	ソンネ	有	東京都	
7/19	29	男	26	ソンネ	有	東京都	性的接触
7/22	29	男	31	ソンネ	有	不明	
8/3	31	女	52	ソンネ	有	東京都	
8/23	34	男	40	ソンネ	有	不明	
8/29	35	男	33	ソンネ	有	不明	
9/6	36	女	16	フレキシネル	有	東京都	
9/7	36	男	44	ソンネ	有	不明	
9/7	36	男	62	フレキシネル	有	東京都	
9/8	36	男	37	ソンネ	有	不明	
9/8	36	男	46	ソンネ	有	北海道	

9/12	37	男	47	ソンネ	有	不明	
9/20	38	男	31	ソンネ	有	東京都	
9/28	39	女	48	ソンネ	有	不明	
10/5	40	男	53	ソンネ	有	東京都	
10/11	41	男	29	ソンネ	有	千葉県	
10/11	41	男	34	ソンネ	有	東京都	
10/14	41	男	49	ソンネ	有	不明	
10/17	42	女	78	フレキシネル	有	東京都	
10/19	42	男	38	ソンネ	有	東京都	
10/19	42	男	26	ソンネ	有	東京都	
10/31	44	男	27	ソンネ	有	不明	
10/31	44	男	48	ソンネ	有	東京都	
10/31	44	男	30	ソンネ	有	東京都	
11/10	45	男	35	ソンネ	有	埼玉県	
11/11	45	男	36	ソンネ	有	東京都	
11/14	46	男	29	ソンネ	有	不明	
11/28	48	男	29	ソンネ	有	不明	性的接触
11/28	48	男	71	ソンネ	有	不明	
11/30	48	男	42	ソンネ	有	東京都	性的接触
12/16	50	女	20	ソンネ	有	東京都	
12/24	51	男	40	ソンネ	有	不明	性的接触

③ 腸管出血性大腸菌感染症

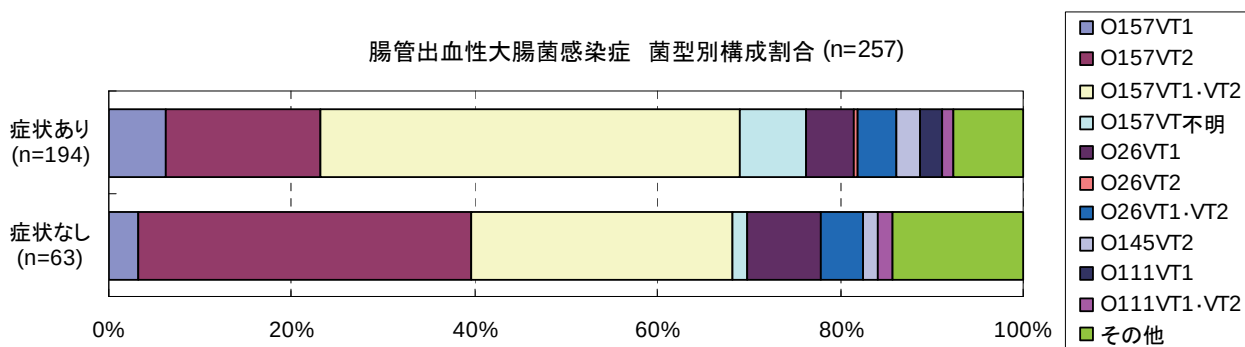
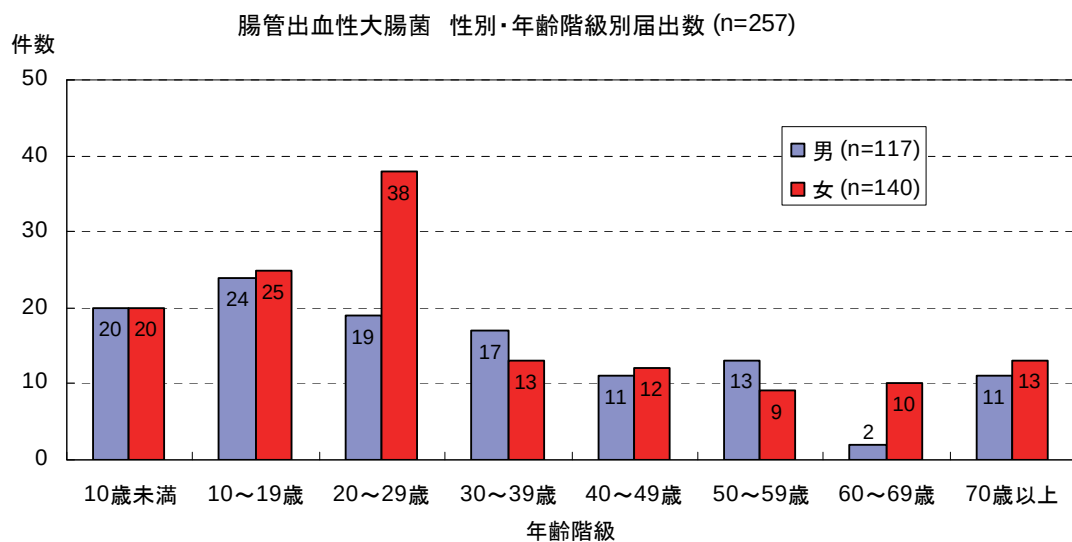
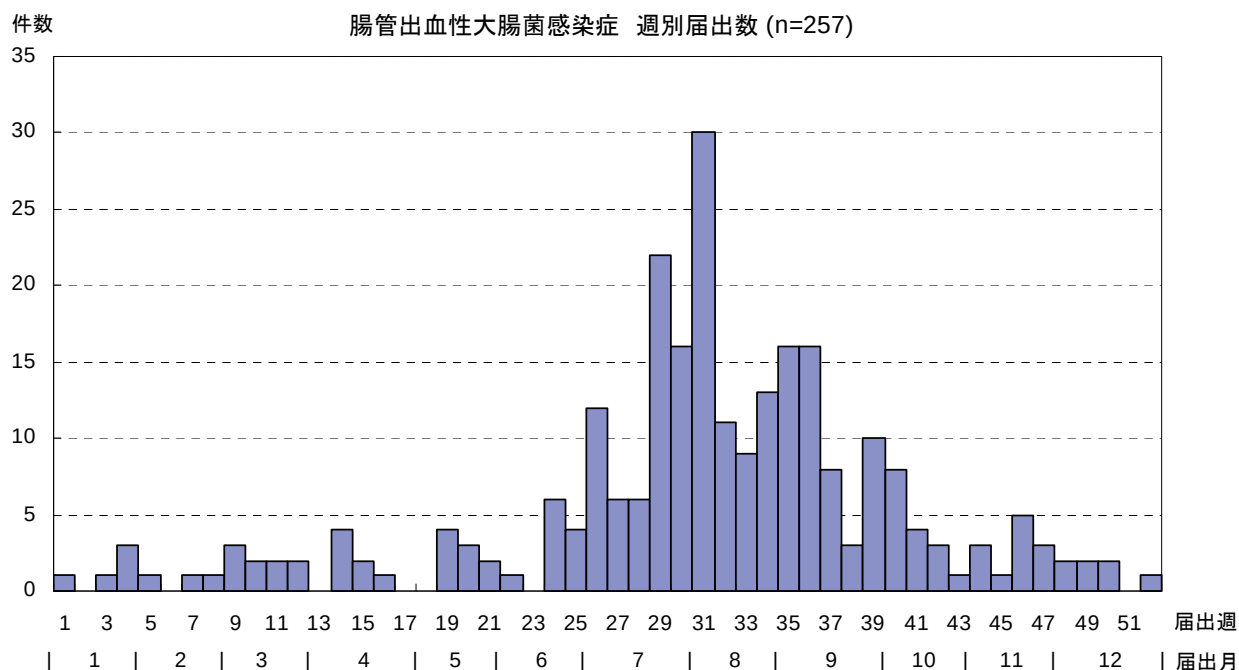
腸管出血性大腸菌感染症は 257 件届出があった。

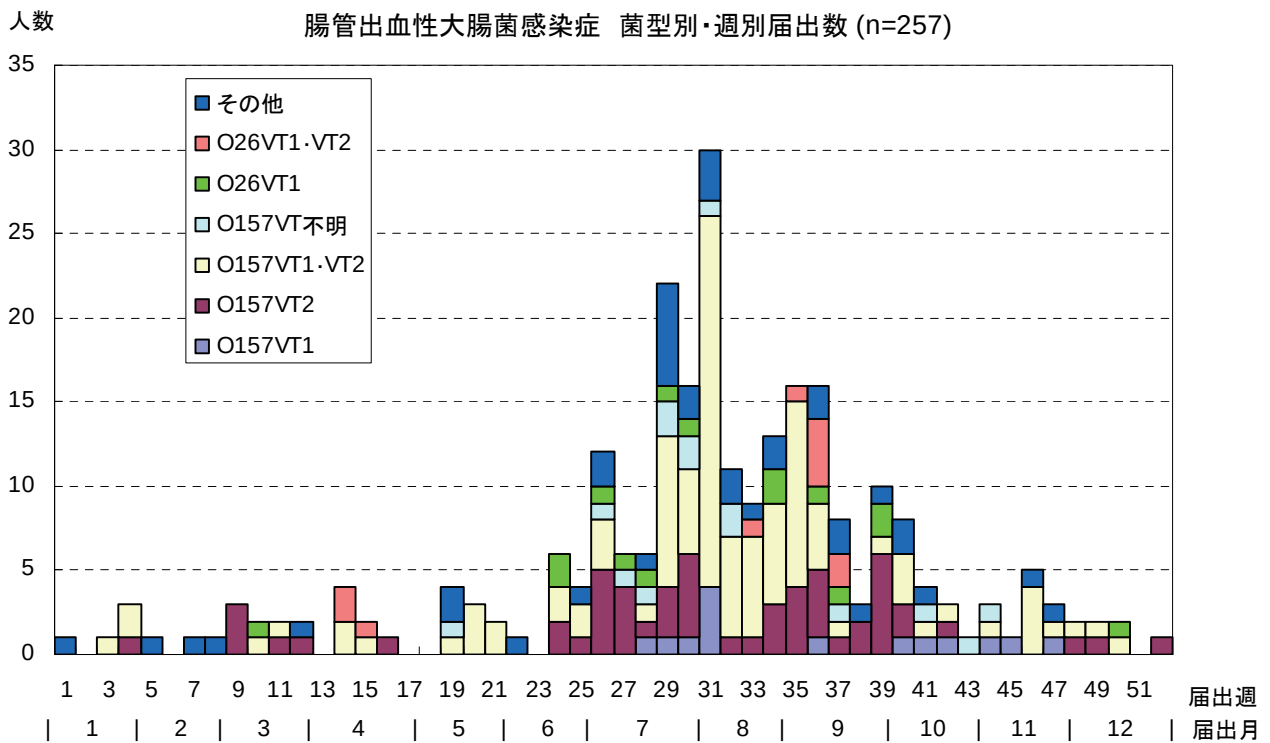
性別は男性 117 人、女性 140 人で、年齢は 10 歳未満 40 人（うち 5 歳未満 19 人）、10 歳代 49 人、20 歳代 57 人、30 歳代 30 人、40 歳代 23 人、50 歳代 22 人、60 歳代 12 人、70 歳以上 24 人であった。

菌型は O157VT1 が 14 件、O157VT2 が 56 件、O157VT1・VT2 が 107 件、O157VT 不明が 15 件、O26VT1 が 15 件、O26VT2 が 1 件、O26VT1・VT2 が 11 件、O145VT2 が 6 件、O111VT1 が 5 件、O111VT1・VT2 が 3 件、その他が 24 件であった。

症状別では、患者 194 人、無症状病原体保有者 63 人であった。溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明している者は 11 人おり、年齢は 10 歳未満 5 人（うち 5 歳未満 4 人）、10 歳代 3 人、20 歳代 1 人、50 歳代 1 人、80 歳代 1 人で、菌型は O157VT2 が 1 件、O157VT1・VT2 が 3 件、O26VT2 が 1 件、O26VT1・VT2 が 1 件、血清での O 抗原凝集抗体の検出が 4 件、便でのペロ毒素の検出が 1 件であった。推定感染地は国内 244 件、国外 13 件（うち大韓民国 7 件、中華人民共和国 3 件、インドネシア 1 件、タイ 1 件、フランス 1 件）であった。死亡は 1 人（80 歳代の HUS 症例）確認された。

症例の集積は、第 19～20 週に山形県での柏餅による食中毒関連が 3 人（O157VT1・VT2、O157VT 不明）認められた。その他、韓国での焼肉などの喫食による症例が 7 人認められた。



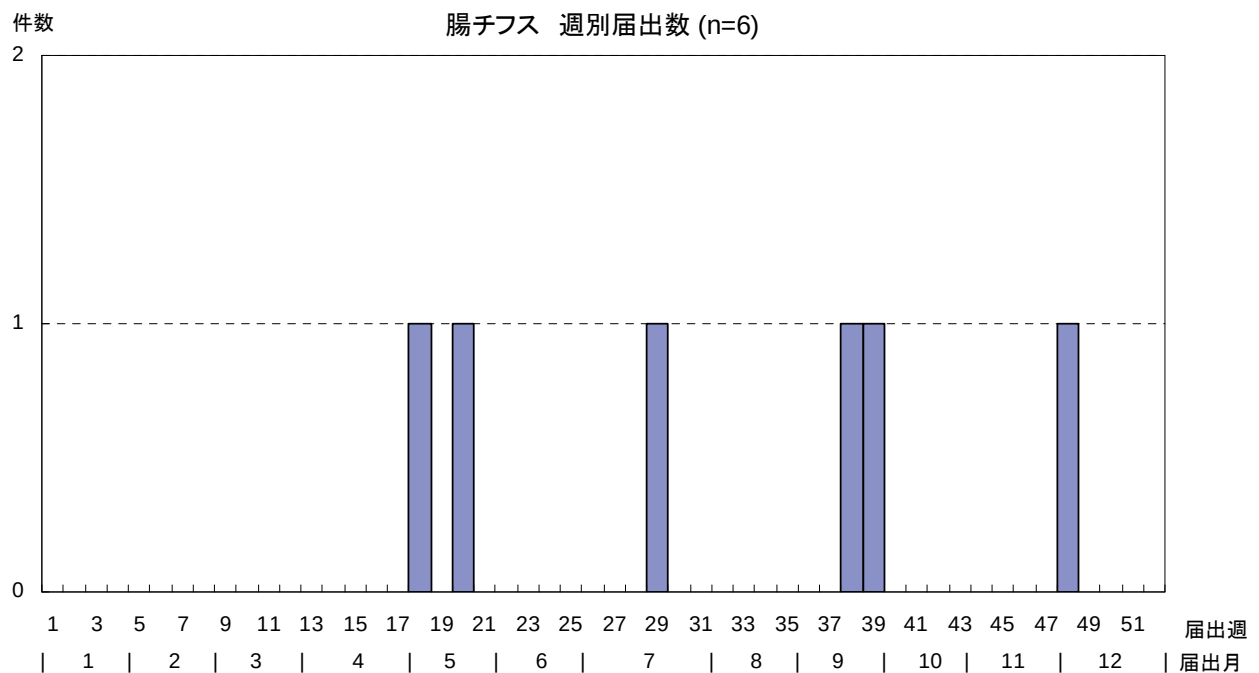


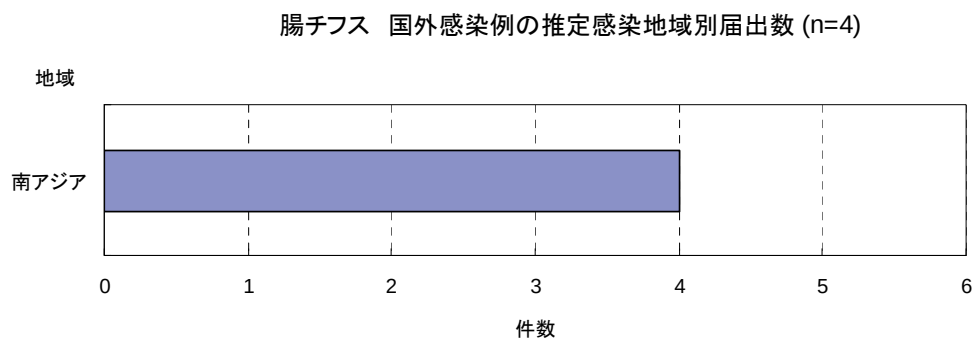
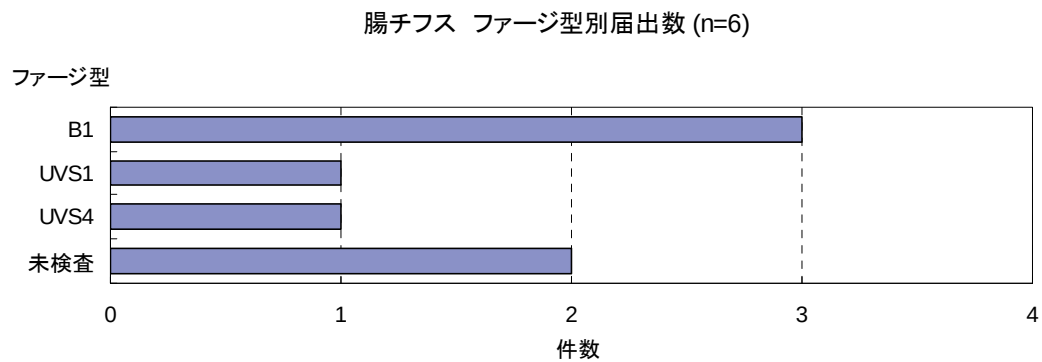
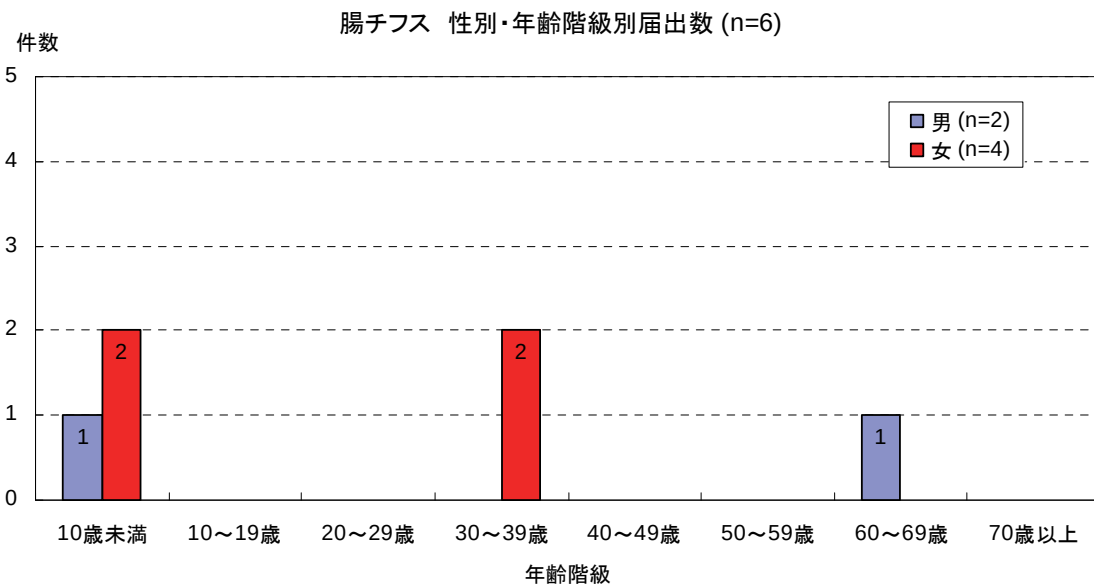
④ 腸チフス

腸チフスは6件届出があった。

性別は男性2人、女性4人で、年齢は10歳未満3人（うち5歳未満1人）、30歳代2人、60歳代1人であった。症状別では、患者5人、無症状病原体保有者1人であった。

推定感染地は国内2件、国外4件であった。国外感染例4件を推定感染地域別にみると、南アジア4件で、推定感染国別では、インド3件、ネパール1件であった。





腸チフス 国内感染例 (n=2)

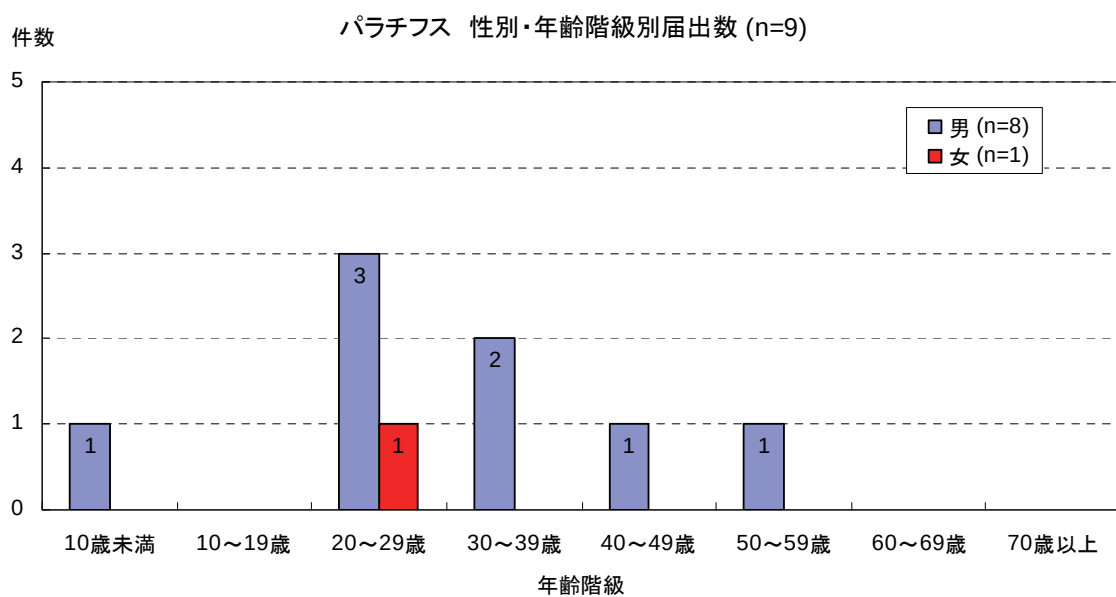
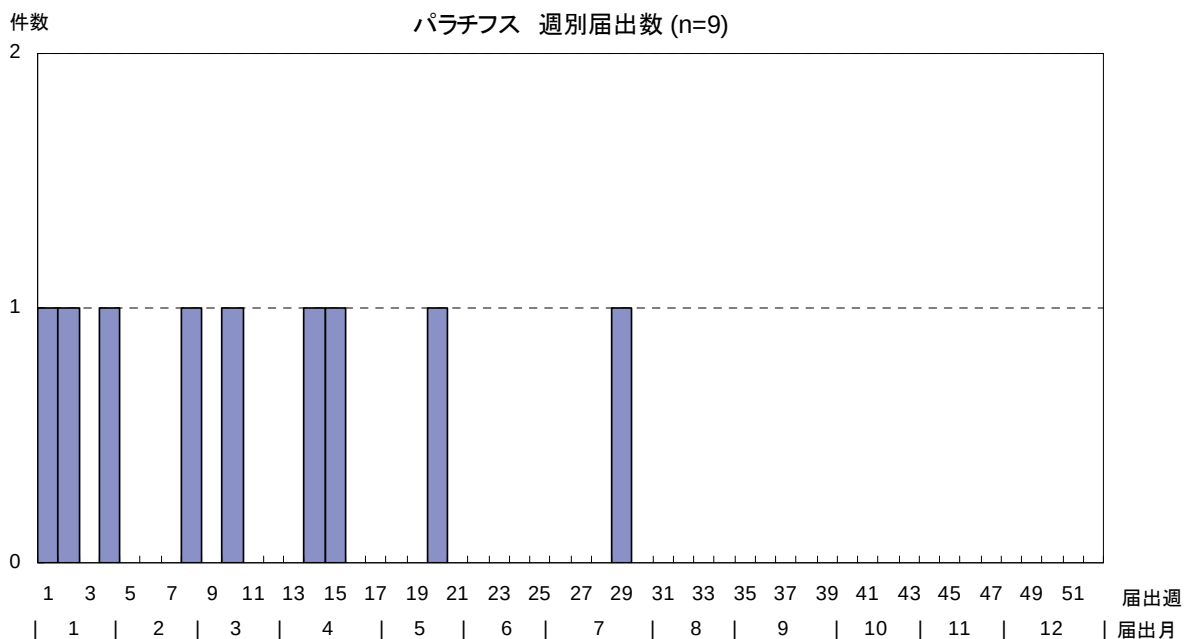
受理日	受理週	性別	年齢	ファージ型	症状	推定感染地	備考
9/24	38	女	5	B1	有	都道府県不明	
9/30	39	女	36	B1	無	都道府県不明	上記症例の家族

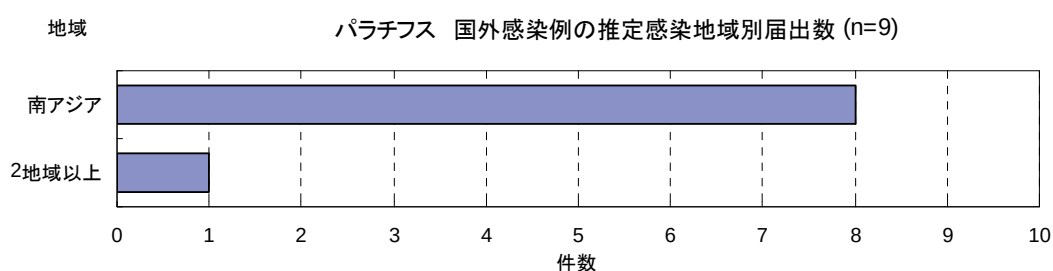
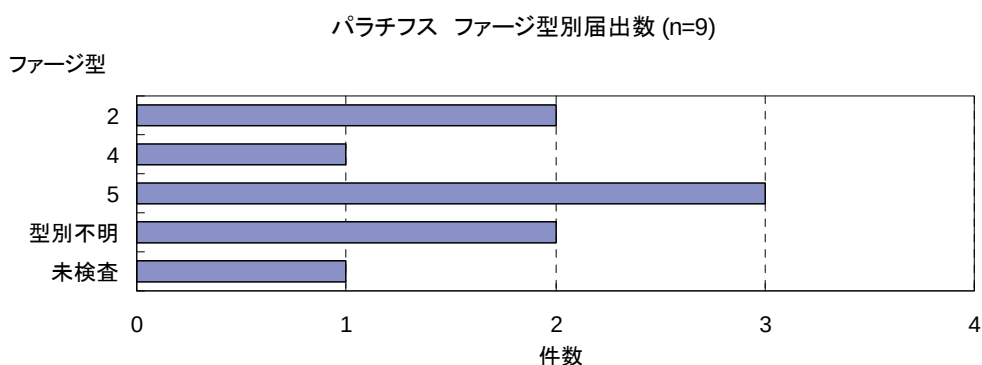
⑤ パラチフス

パラチフスは9件届出があった。

性別は男性8人、女性1人で、年齢は5～9歳1人、20歳代4人、30歳代2人、40歳代1人、50歳代1人であった。

推定感染地は全て国外であった。推定感染地域別では、南アジア8件、2地域以上1件で、推定感染国別では、バングラデシュ5件、インド2件、ネパール1件、タイ又はバングラデシュ1件であった。





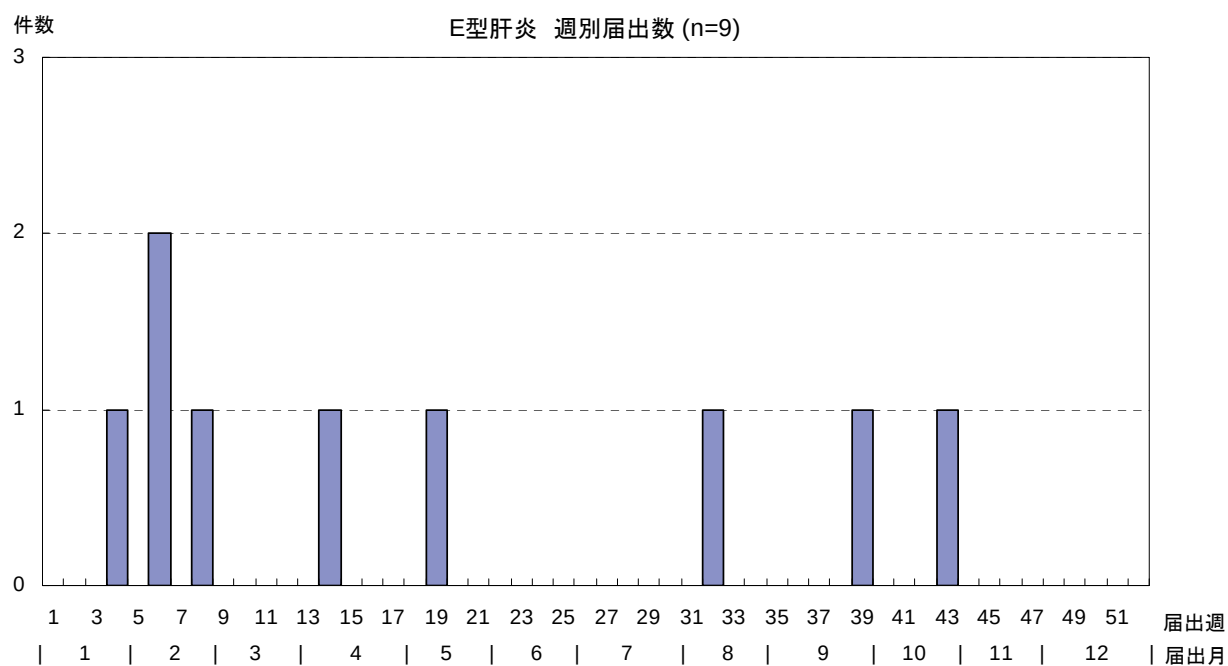
エ 四類感染症

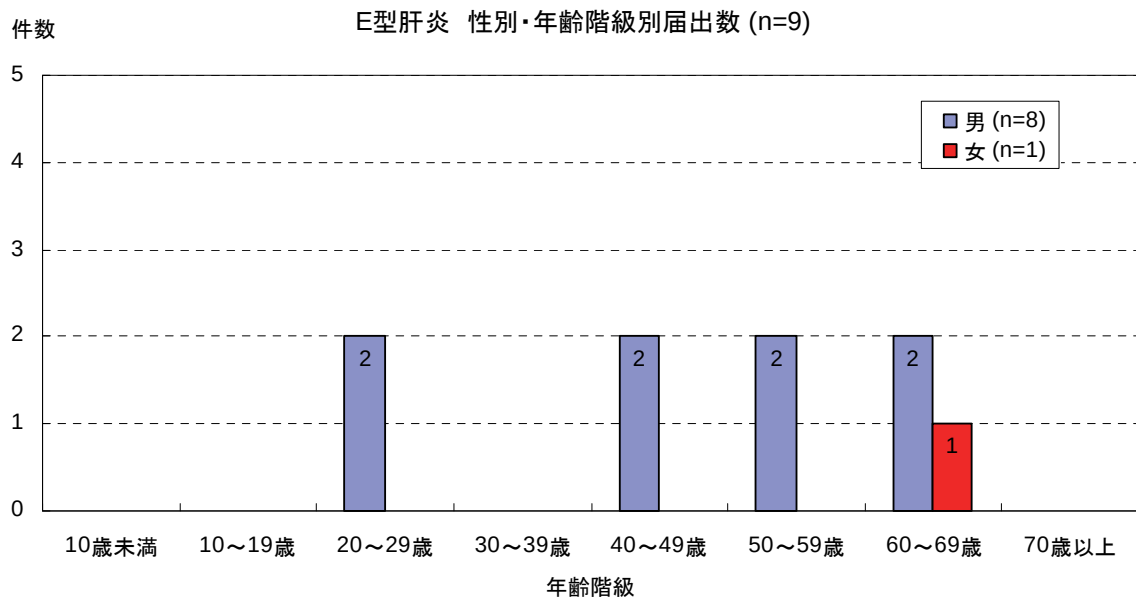
① E型肝炎

E型肝炎は9件届出があった。

性別は男性8人、女性1人で、年齢は20歳代2人、40歳代2人、50歳代2人、60歳代3人であった。

推定感染地は国内7件、インド1件、大韓民国又はベトナム1件であった。推定感染経路は4人が豚肉の喫食を認めた。





E型肝炎 (n=9)						
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/25	4	男	61	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（豚肉）
2/7	6	男	59	全身倦怠感、黄疸	国内	飲食物による経口感染（豚肉レバー）
2/10	6	男	57	黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（肉類）
2/25	8	男	47	全身倦怠感、食欲不振	国内	飲食物による経口感染（豚肉レバー）
4/8	14	男	45	発熱、全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	ベトナム 又は大韓民国	飲食物による経口感染
5/12	19	男	21	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	インド	飲食物による経口感染（生水他）
8/9	32	男	21	発熱、肝機能異常	国内	不明
9/30	39	男	63	全身倦怠感、食欲不振	国内	不明
10/27	43	女	61	全身倦怠感、食欲不振、肝機能異常、肝腫大	国内	飲食物による経口感染（豚肉）

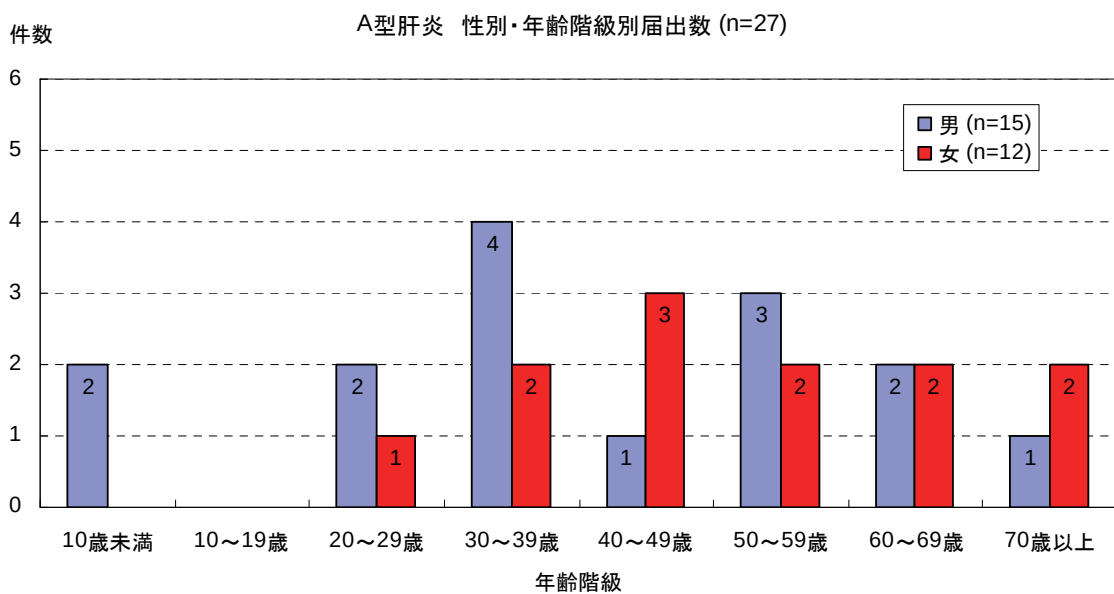
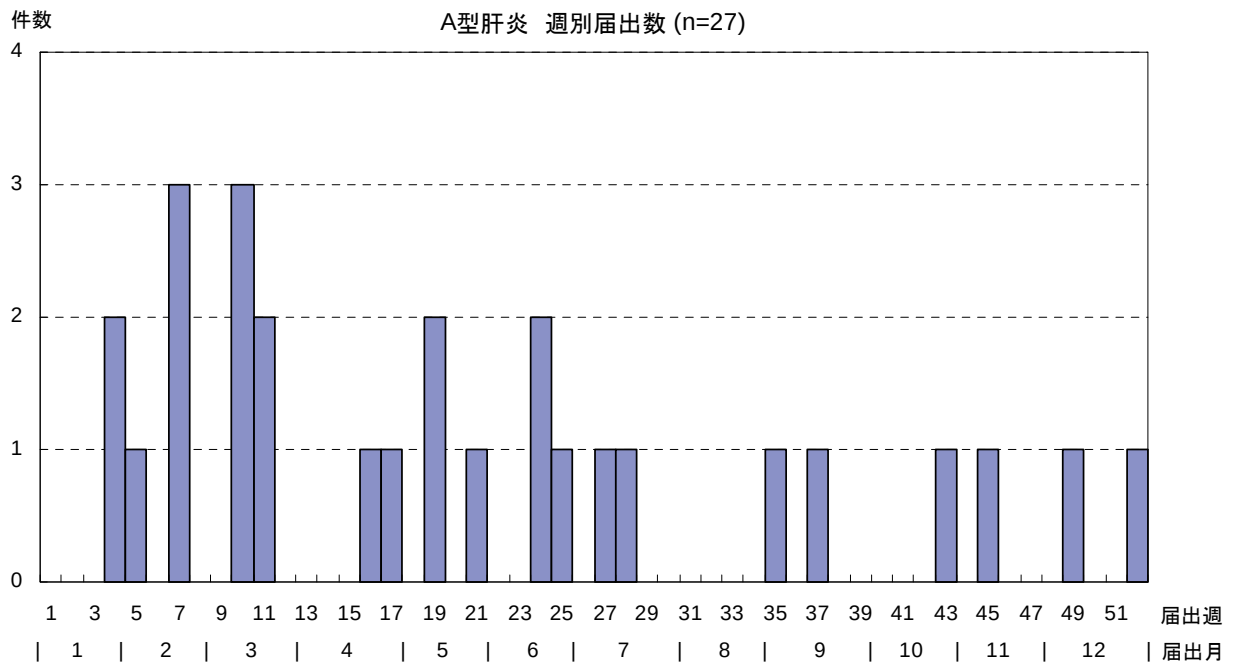
② A型肝炎

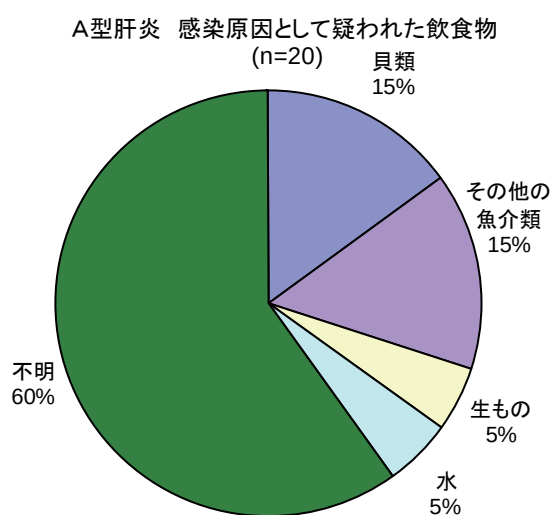
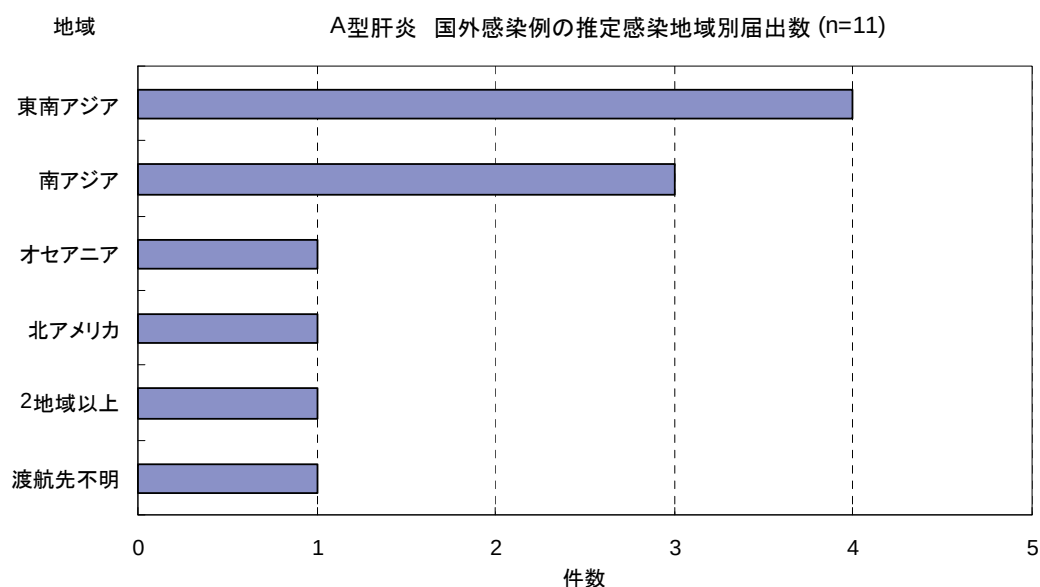
A型肝炎は27件届出があった。

性別は男性15人、女性12人で、年齢は5～9歳2人、20歳代3人、30歳代6人、40歳代4人、50歳代5人、60歳代4人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内16件、国外11件であった。国外の推定感染地域別では、東南アジア4件、南アジア3件、オセアニア1件、北アメリカ1件、2地域以上1件、渡航先不明1件で、推定感染国別では、インド3件、カンボジア1件、タイ1件、フィリピン1件、ミャンマー又はタイ1件、アメリカ1件、パプアニューギニア1件、台湾又は中華人民共和国又はフィリピン1件、渡航先不明1件であった。

推定感染経路は、飲食物による経口感染 20 件、その他（不明）7 件であった。飲食物による経口感染 20 件のうち推定原因食材は、貝類が 3 件(15%)、その他の魚介類が 3 件(15%)、生ものが 1 件(5%)、水が 1 件（5%）、不明 12 件（60%）であった。





③ エキノコックス症

エキノコックス症は2件届出があった。

性別は男性1人、女性1人で、年齢は10歳代1人、40歳代1人であった。病型はいずれも単包条虫、推定感染地はシリア1件、アフガニスタン又はパキスタン1件であった。

エキノコックス症 (n=2)								
受理日	受理週	性別	年齢	原因寄生虫種	症状	推定感染地	推定感染経路	
1/19	3	女	13	単包条虫	肝臓の画像異常所見	アフガニスタン又はパキスタン	不明	
12/12	50	男	40	単包条虫	肝臓の画像異常所見	シリア	不明	

④ オウム病

オウム病は3件届出があった。

性別は男性1人、女性2人で、年齢は60歳代1人、70歳以上2人であった。推定感染地は全て国内、推定感染経路はペットのインコからの感染が2件であった。

オウム病 (n=3)						
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
3/24	12	女	77	発熱、咳、肺炎、肝機能障害	国内	ペットのインコ
7/6	27	男	77	発熱、咳、肺炎、呼吸困難	国内	ペットのインコ
8/1	31	女	61	発熱、頭痛、肺炎	国内	カラスの糞

⑤ コクシジオイデス症

コクシジオイデス症は2件届出があった。

性別は男性1人、女性1人で、年齢は30歳代2人であった。推定感染地はいずれも米国、推定感染地は塵埃感染1件、不明1件であった。

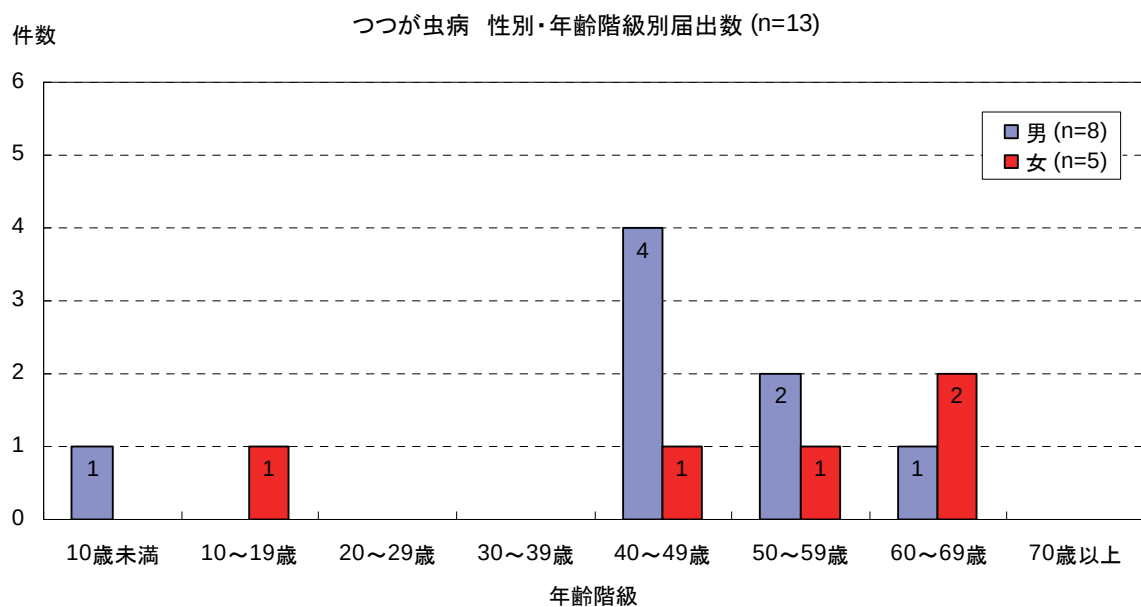
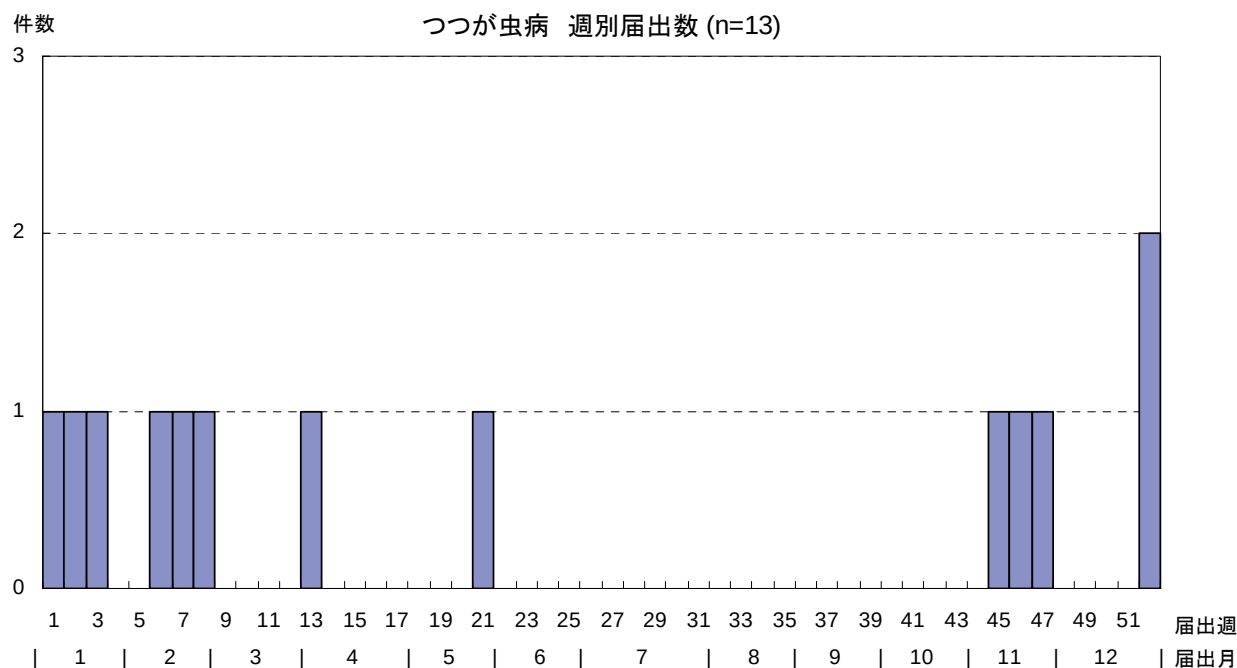
コクシジオイデス症 (n=2)						
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/7	1	男	37	発熱、咳	米国（アリゾナ州）	塵埃感染
2/8	6	女	35	なし	米国（ニューメキシコ州）	不明

⑥ つつが虫病

つつが虫病は13件届出があった。

性別は男性8人、女性5人で、年齢は5～9歳1人、10歳代1人、40歳代5人、50歳代3人、60歳代3人であった。

推定感染地は東京都（島しょ地区）5件、千葉県2件、静岡県2件、群馬県1件、国内（不明）2件、マレーシア1件であった。



つつが虫病 (n=13)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	職業
1/4	1	女	17	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、食思不振、軽度頭痛	島しょ地区	学生
1/11	2	女	52	頭痛、発熱、刺し口、発疹	島しょ地区	主婦
1/21	3	女	66	頭痛、発熱、刺し口、発疹、上気道炎症状、肝機能障害	島しょ地区	無職
2/8	6	男	44	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	千葉県	不明
2/14	7	女	43	刺し口、リンパ節腫脹	千葉県	不明
2/22	8	男	9	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹	島しょ地区	小学生

3/30	13	男	54	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、 発疹	マレーシア	無職
5/25	21	男	58	発熱、刺し口、結膜充血、肝機能障 害	国内（不明）	土木作業員
11/10	45	男	41	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、 発疹	静岡県	自衛官
11/17	46	女	68	頭痛、発熱、刺し口、発疹	島しょ地区	無職
11/25	47	男	43	発熱、刺し口、発疹	静岡県	自衛官
12/28	52	男	41	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、 発疹	国内（不明）	会社員
12/28	52	男	64	頭痛、発熱、刺し口、発疹	群馬県	無職

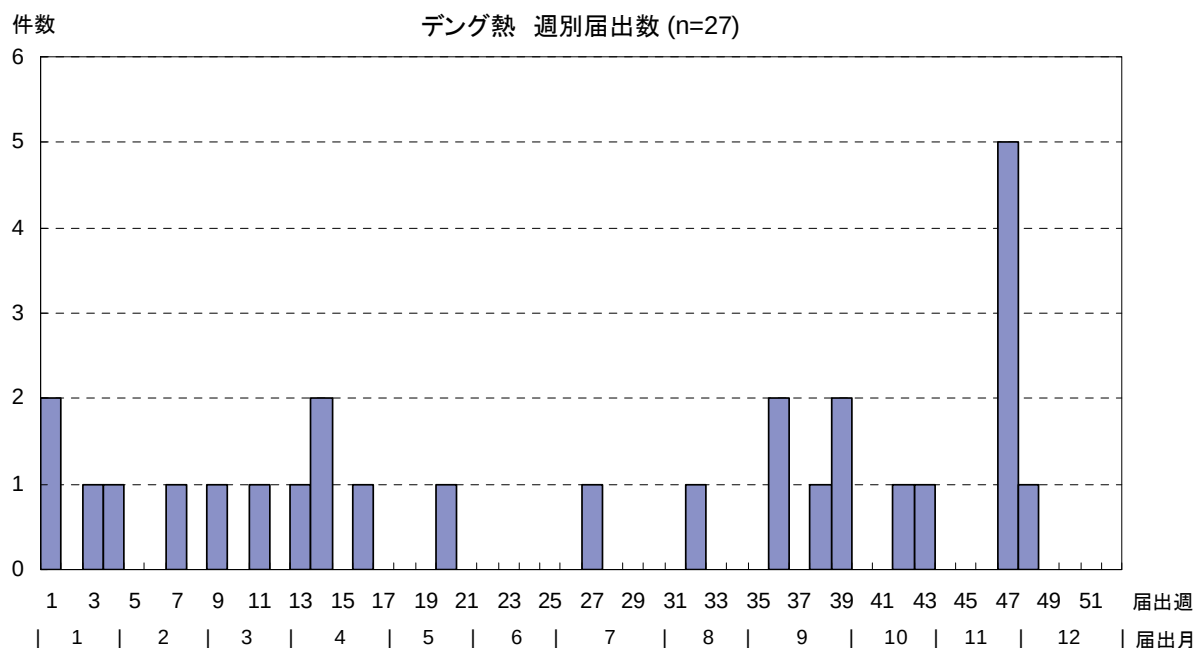
⑦ デング熱

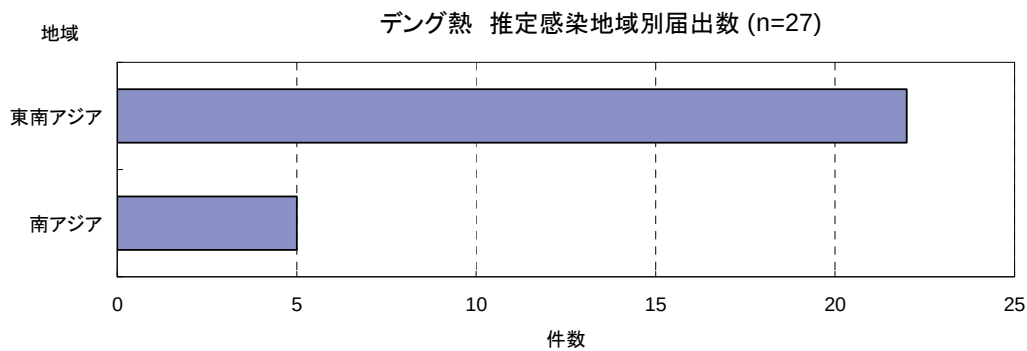
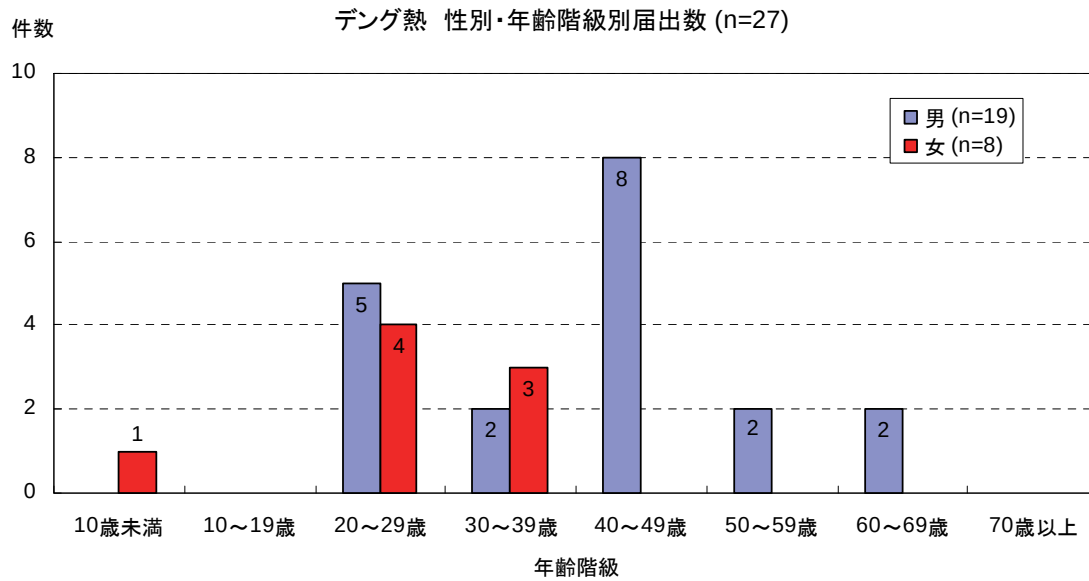
デング熱は 27 件届出があった。その中でデング出血熱の届出はなかった。

性別は男性 19 人、女性 8 人で、年齢は 5 歳未満 1 人、20 歳代 9 人、30 歳代 5 人、40 歳代 8 人、50 歳代 2 人、60 歳代 2 人であった。

推定感染地は全て国外で、推定感染地域別では、東南アジア 22 件、南アジア 5 件であった。推定感染国別では、インドネシア 7 件、フィリピン 6 件、マレーシア 3 件、タイ 3 件、ベトナム 2 件、インド 2 件、バングラデシュ 1 件、パキスタン 1 件、シンガポール又はタイ 1 件、インド又はネパール 1 件であった。

血清型は 9 件で報告されており、1 型 5 件、2 型 3 件、3 型 1 件であった。





⑧ 日本紅斑熱

日本紅斑熱は1件届出があった。

症例は30歳代女性で、推定感染地は大阪府であった。

日本紅斑熱 (n=1)						
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	備考
5/24	21	女	34	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	大阪府	軽快退院

⑨ 日本脳炎

日本脳炎は1件届出があった。

症例は70歳代男性で、推定感染地はインドであった。

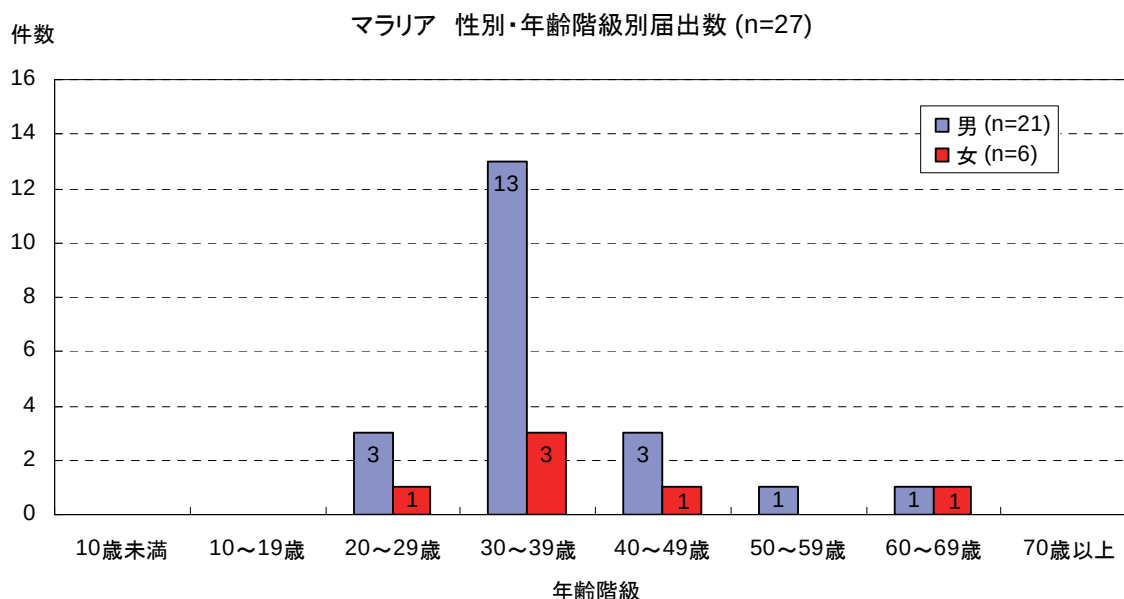
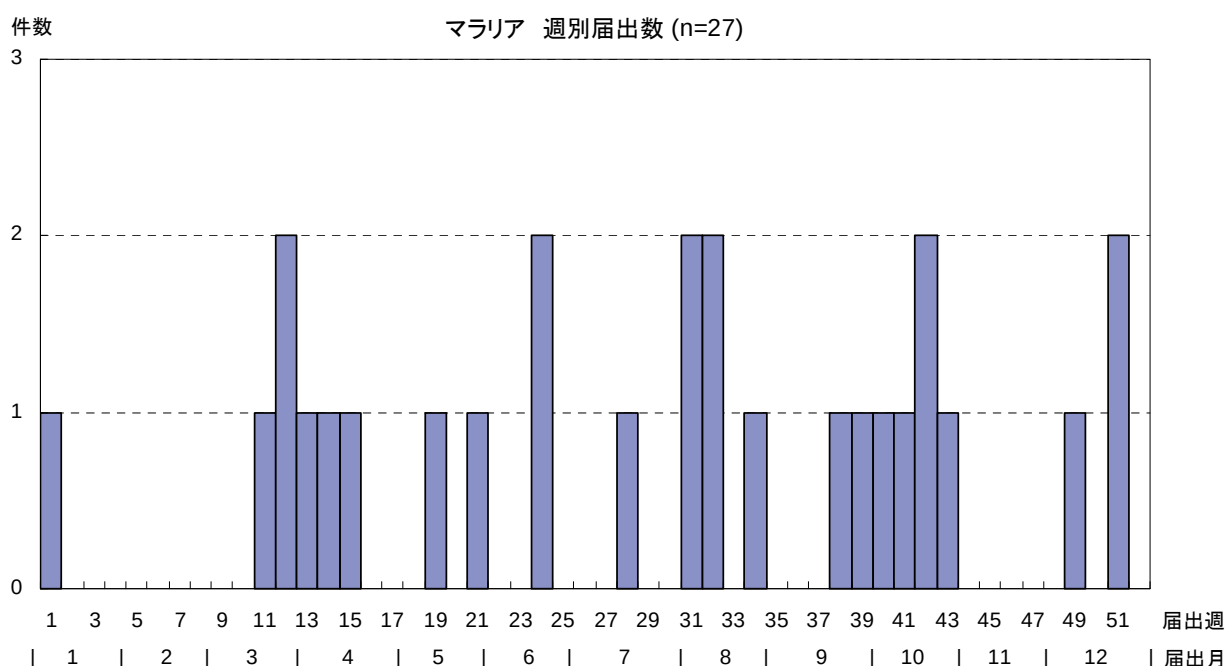
日本脳炎 (n=1)						
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	備考
2/21	8	男	78	発熱、頭痛、意識障害	インド	インド旅行で感染

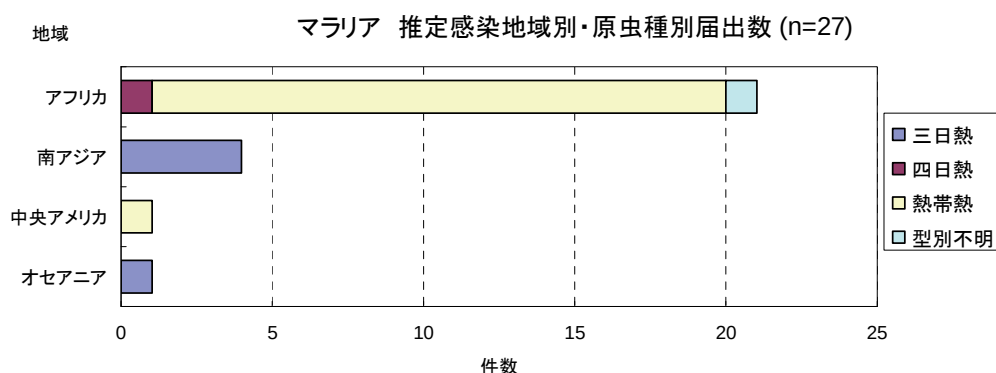
⑩ マラリア

マラリアは27件届出があった。三日熱マラリア5件、四日熱マラリア1件、熱帯熱マラリア20件、型別不明1件であった。

性別は男性21人、女性6人で、年齢は20歳代4人、30歳代16人、40歳代4人、50歳代1人、60歳代2人であった。

推定感染地は全て国外で、推定感染地域別では、アフリカ21件、南アジア4件、中央アメリカ1件、オセアニア1件であった。推定感染国別では、ブルキナファソ7件、インド4件、ナイジェリア3件、ガーナ2件、ギニア2件、スーダン2件、ウガンダ1件、トーゴ1件、モザンビーク1件、リベリア1件、ウガンダ又はスーダン1件、ハイチ1件、パプアニューギニア1件であった。





⑪ ライム病

ライム病は3件届出があった。

性別は男性2人、女性1人で、年齢は5歳未満1人、40歳代1人、50歳代1人であった。

推定感染地は国内2件、シリア又はヨルダン1件であった。

ライム病 (n=3)						
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	職業
3/30	13	男	48	遊走性紅斑	シリア又はヨルダン	海外旅行添乗員
4/15	15	男	53	筋肉痛、神経症状	国内（不明）	農業教師
8/1	31	女	3	なし	北海道	無職

⑫ レジオネラ症

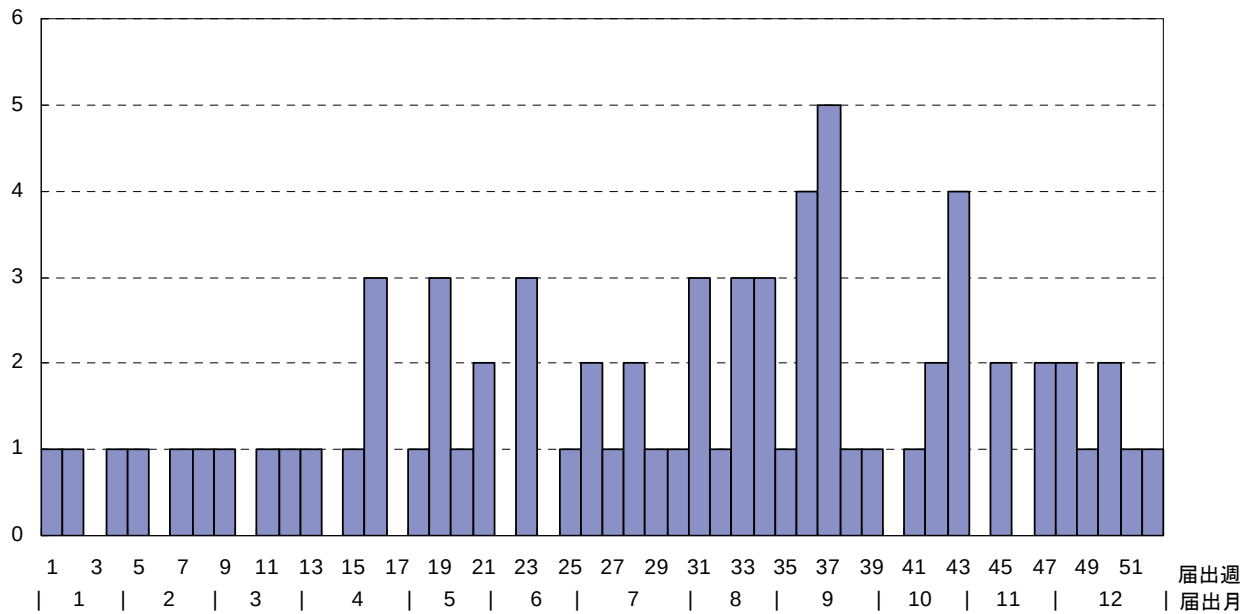
レジオネラ症は72件届出があった。病型は肺炎型69件、ポンティアック型3件であった。

性別は男性65人、女性7人で、年齢は5歳未満1人、30歳代1人、40歳代7人、50歳代15人、60歳代22人、70歳以上26人であった。

推定感染地は国内69件、台湾1件、フィリピン1件、メキシコ1件であった。推定感染経路は、水系感染22件、塵埃感染7件、その他（不明）43件であった。水系感染のうち温泉入浴施設での感染が推定されているものは7件(31.8%)だった。

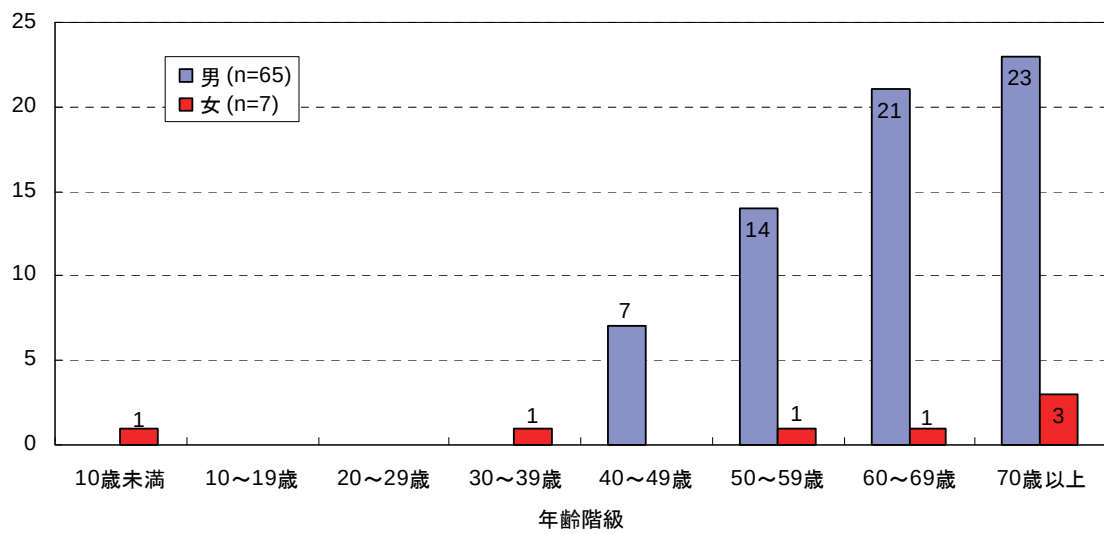
件数

レジオネラ症 週別届出数 (n=72)

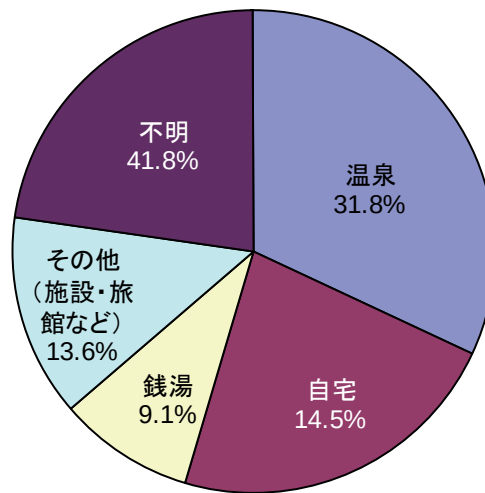


件数

レジオネラ症 性別・年齢階級別届出数 (n=72)



レジオネラ症 水系感染の内訳
(n=22)



⑬ レプトスピラ症

レプトスピラ症は 5 件届出があった。

性別は男性 4 人、女性 1 人で、年齢は 20 歳代 2 人、30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、70 歳代以上 1 人であった。

推定感染地は国内 3 件、ラオス 1 件、タイ・ミャンマー国境 1 件であった。推定感染原因は、国内感染事例はネズミ、国外感染事例は河川が疑われている。

レプトスピラ症 (n=5)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染原因
1/26	4	女	70	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、出血症状、蛋白尿、腎不全	東京都	ネズミ
3/22	12	男	38	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、蛋白尿、腎不全	神奈川県	ネズミ
4/26	17	男	28	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、出血症状、蛋白尿、腎不全、血小板減少	東京都	ネズミ
10/20	42	男	43	発熱、結膜充血	タイ・ミャンマー国境	河川
11/8	45	男	22	発熱、結膜充血	ラオス	河川

⑭ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 を除く)、ニパウイルス感染症、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキーマウンテン紅斑熱

オ 五類感染症（全数把握対象）

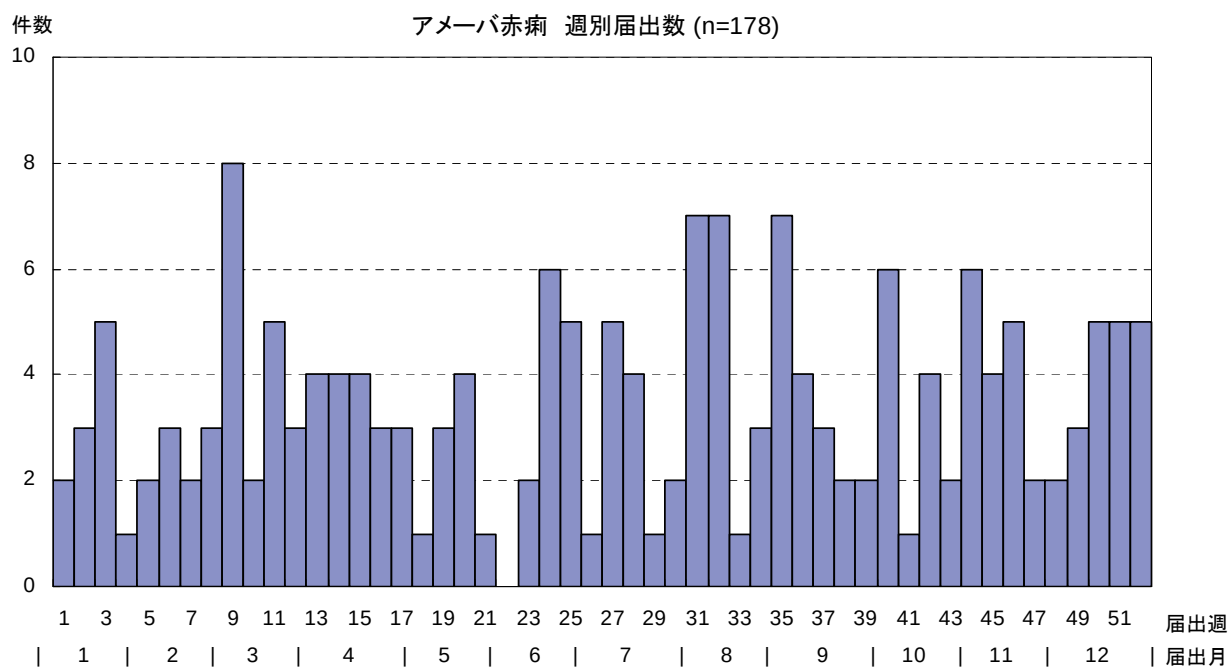
① アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は 178 件届出があった。腸管アメーバ症 140 件、腸管外アメーバ症 23 件、腸管及び腸管外アメーバ症 15 件であった。

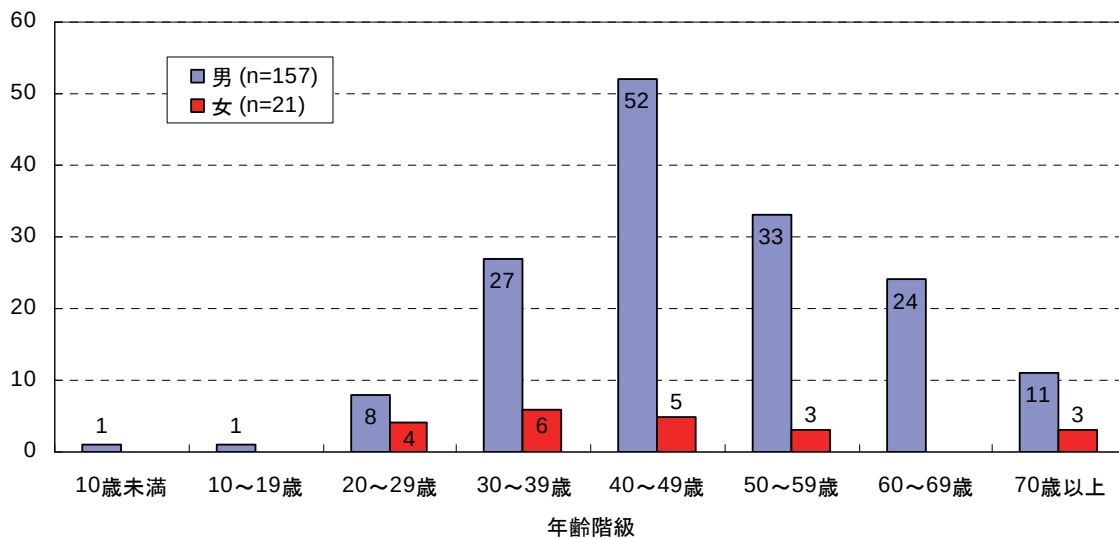
性別は男性 157 人、女性 21 人で、年齢は 5 歳未満 1 人、10 歳代 1 人、20 歳代 12 人、30 歳代 33 人、40 歳代 57 人、50 歳代 36 人、60 歳代 24 人、70 歳以上 14 人であった。

推定感染地は国内 152 件、国外 25 件、国内又は国外 1 件であった。国外感染例 25 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 16 件、東アジア 4 件、南アジア 3 件、ヨーロッパ 1 件、渡航先不明 1 件で、推定感染国別にみると、タイ 5 件、フィリピン 5 件、インドネシア 4 件、インド 3 件、台湾 2 件、中華人民共和国 2 件、タイ又はカンボジア 1 件、マレーシア又はシンガポール 1 件、モナコ又はイタリア 1 件、渡航先不明 1 件であった。

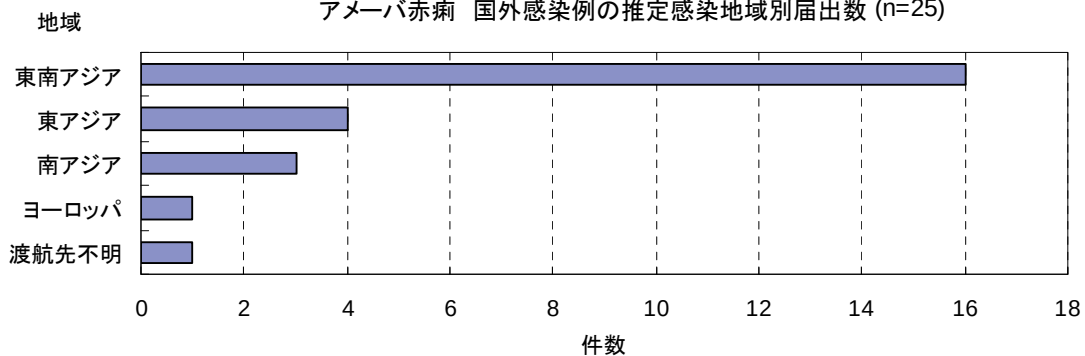
推定感染経路は、性的接触 58 件（同性間 14 件、異性間 30 件、両性間 2 件、性別不明 12 件）、飲食物による経口感染 35 件、その他 6 件、2 経路以上 6 件、不明 73 件であった。



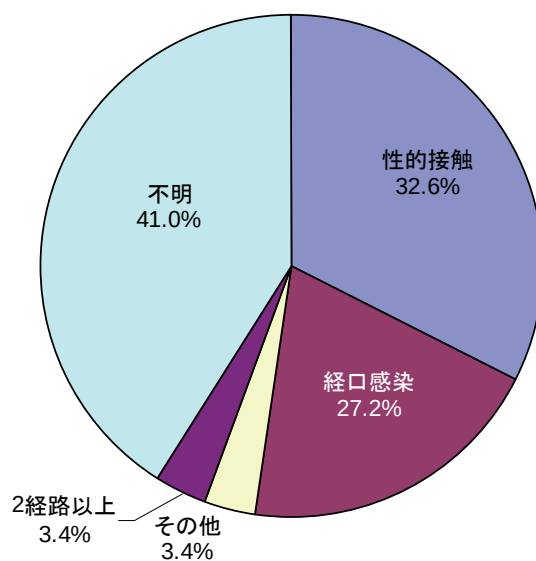
アメーバ赤痢 性別・年齢階級別届出数 (n=178)



アメーバ赤痢 国外感染例の推定感染地域別届出数 (n=25)



アメーバ赤痢 推定感染経路別割合 (n=178)

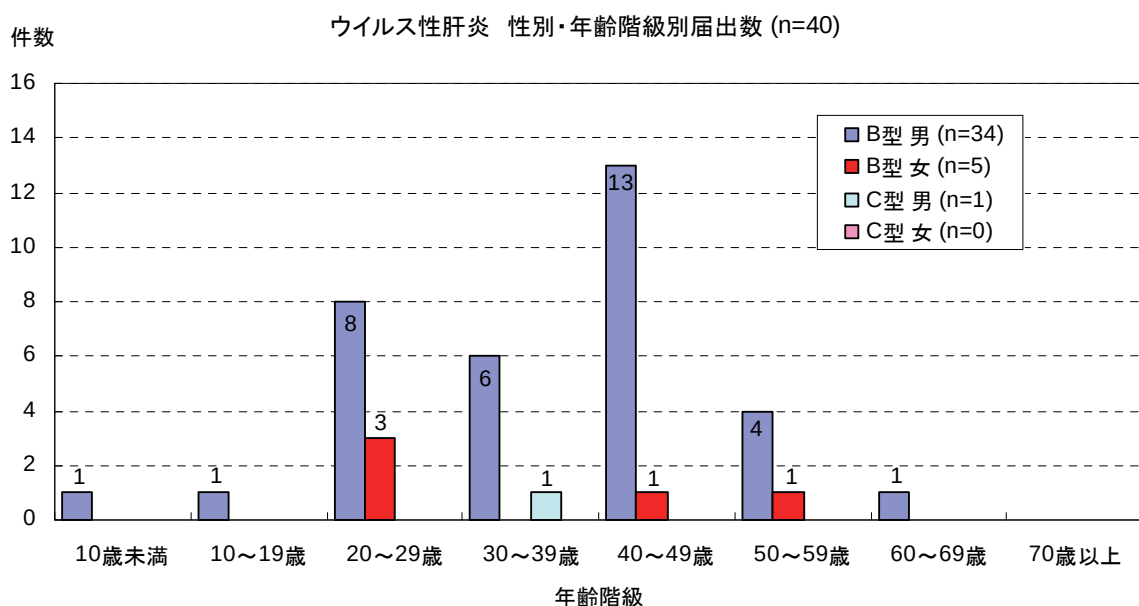
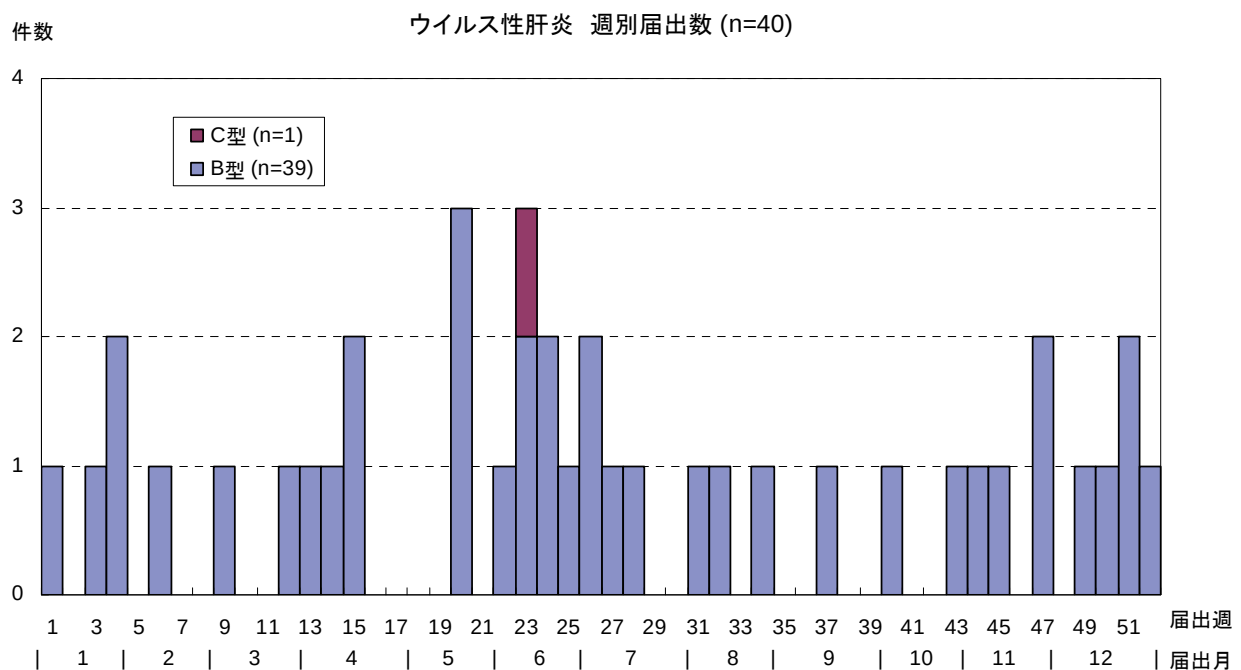


② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

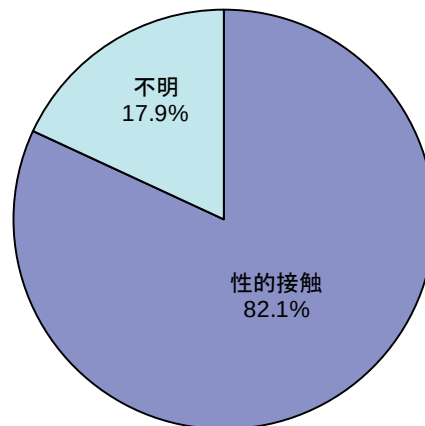
ウイルス肝炎は40件届出があった。B型肝炎39件、C型肝炎1件であった。

B型肝炎39件について記述すると、性別は男性34件、女性5件で、年齢は5～9歳1人、10歳代1人、20歳代11人、30歳代6人、40歳代14人、50歳代5人、60歳代1人であった。推定感染経路は、性的接触32件（同性間6件、異性間21件、両性間1件、性別不明4件）、不明7件で、推定感染地は、国内37件、タイ1件、国内又は国外（渡航先不明）1件であった。

C型肝炎の症例は、男性で、年齢は30歳代であった。推定感染経路は性的接触（同性間）で、推定感染地は国内であった。



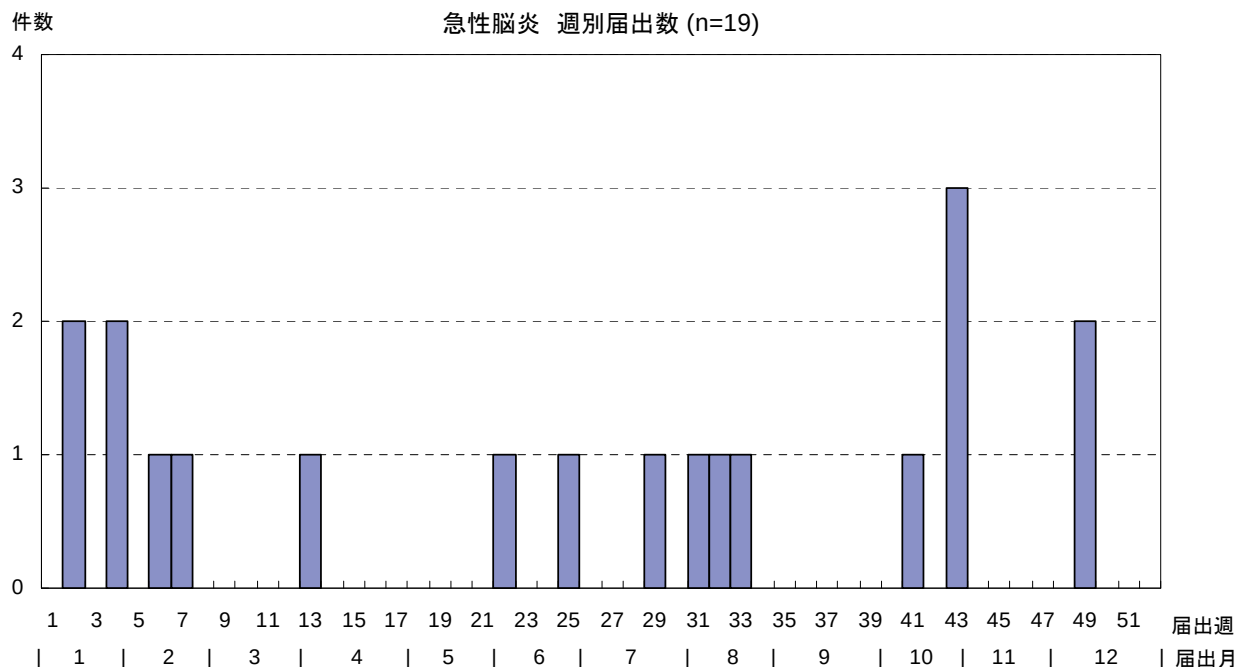
B型肝炎 推定感染経路別割合 (n=39)

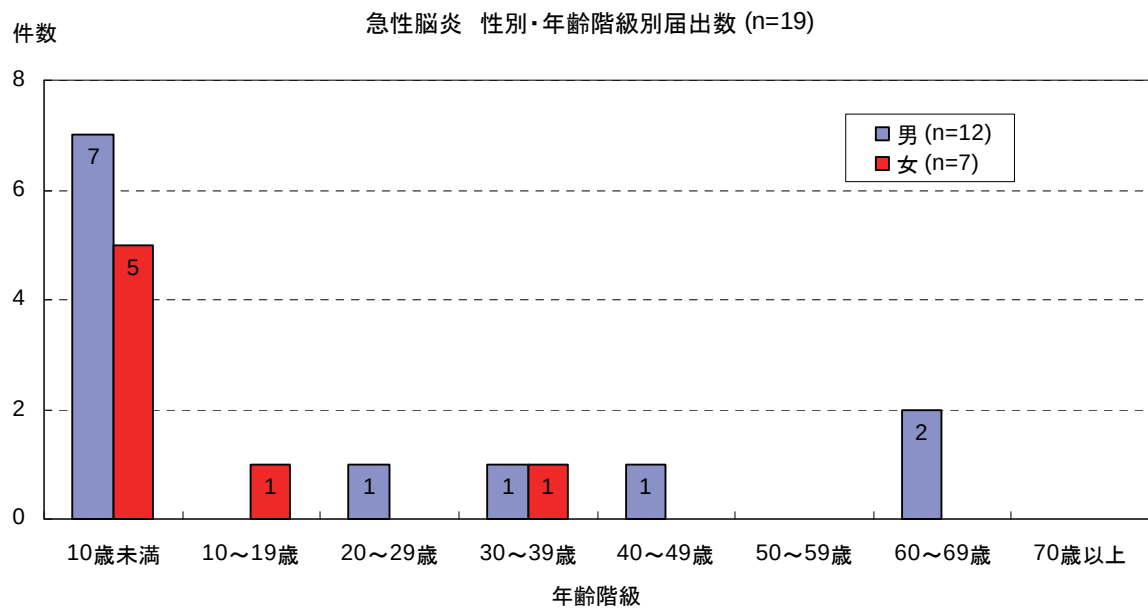


③ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は 19 件届出があった。病原体はインフルエンザウイルス 6 件、ヒトヘルペスウイルス 2 件、ムンプスウイルス 1 件、ロタウイルス 1 件、不明 9 件であった。

性別は男性 12 人、女性 7 人で、年齢は 10 歳未満 12 人（うち 5 歳未満 7 人）、10 歳代 1 人、20 歳代 1 人、30 歳代 2 人、40 歳代 1 人、60 歳代 2 人であった。推定感染地は全て国内であった。





急性脳炎 (n=19)

受理日	受理週	性別	年齢	病原体	症状・所見	推定感染地
1/13	2	男	27	インフルエンザウイルス A/H1N1pdm2009	発熱、痙攣、意識障害、失計算	国内
1/14	2	女	36	インフルエンザウイルス A/H1N1pdm2009	発熱、頭痛、痙攣、意識障害	国内
1/27	4	男	7	インフルエンザウイルス A/H1N1pdm2009	発熱、意識障害	国内
1/26	4	男	46	インフルエンザウイルス A 型	発熱、意識障害	国内
2/10	6	女	10	インフルエンザウイルス	発熱、頭痛、意識障害	国内
2/16	7	男	36	インフルエンザウイルス A/H1N1pdm2009	発熱、意識障害	国内
3/28	13	男	7	ロタウイルス	発熱、頭痛、意識障害、その他(脳圧亢進)	国内
5/31	22	女	0	ヒトヘルペスウイルス (単純ヘルペスウイルス)	発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加、軟便	国内
6/24	25	女	3	不明	発熱、痙攣、意識障害、眼球出血、下痢	国内
7/20	29	男	61	不明	発熱、嘔吐、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加、発疹	国内
8/4	31	男	5	不明	発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
8/11	32	男	67	ヒトヘルペスウイルス	発熱、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
8/19	33	男	5	ムンプスウイルス	発熱、痙攣、意識障害	国内
10/13	41	女	1	不明	発熱、痙攣、意識障害	国内

10/27	43	女	1	不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
10/27	43	男	4	不明	発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加、易刺激性	国内
10/27	43	女	0	不明	痙攣、意識障害、けいれん群発、脳波徐波化	国内
12/6	49	男	9	不明	発熱、頭痛、項部硬直、意識障害、咽頭炎	国内
12/9	49	男	1	不明	意識障害、髄液細胞数の増加、歩行障害	国内

④ クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は2件届出があった。

いずれも性別は男性で、年齢は20歳代1人、30歳代1人であった。

推定感染地は、国内1件、インド1件で、推定感染経路は、経口感染1件、接触感染又は性的接触（同性間）1件であった。

クリプトスポリジウム症（n=2）

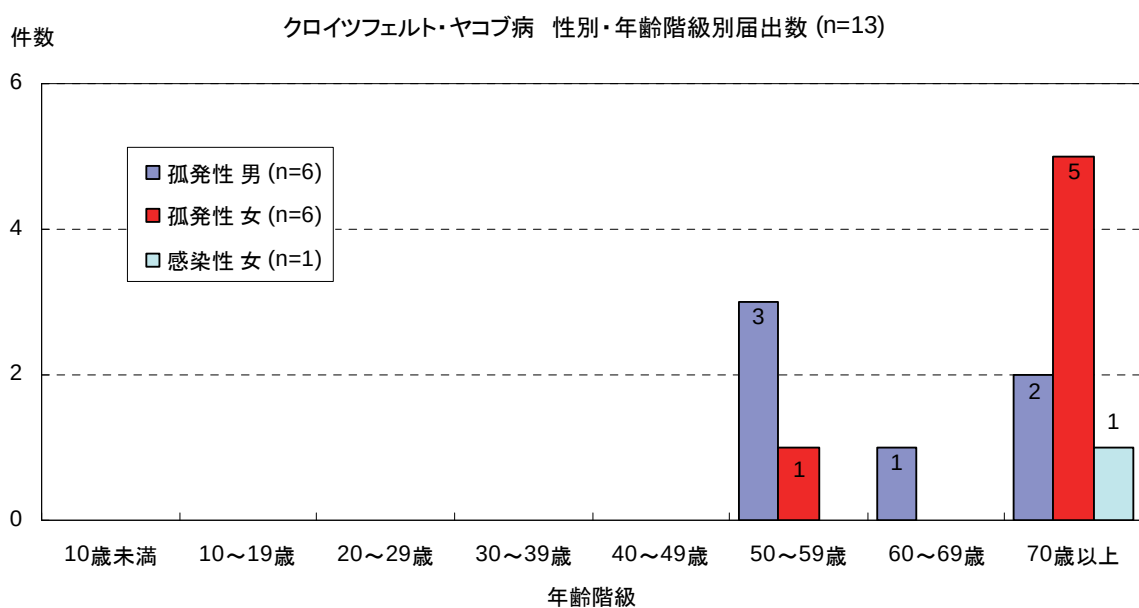
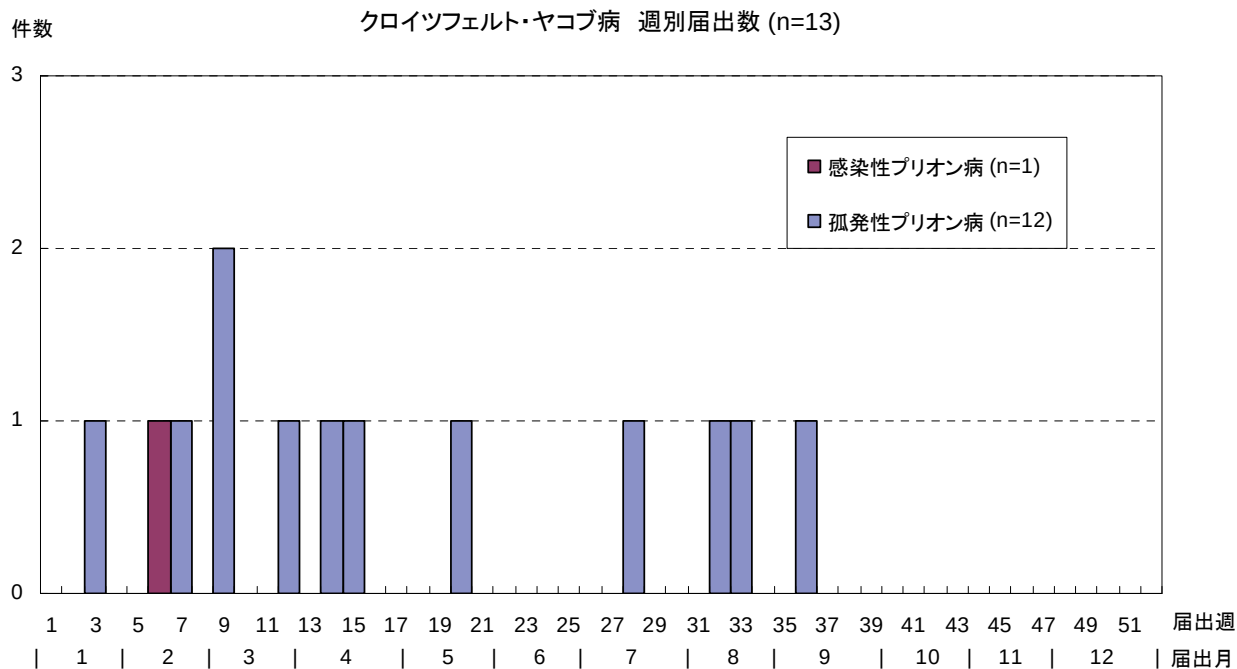
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
2/16	7	男	23	下痢	インド	経口感染
3/29	13	男	36	下痢	国内	接触感染又は性的接触（同性間）

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は13件届出があった。孤発性プリオン病・古典型CJD 12件（ほぼ確実9件、疑い3件）、感染性プリオン病・変異型CJD（ほぼ確実）1件であった。

性別は男性が6人、女性が7人で、年齢は50歳代4人、60歳代1人、70歳以上8人であった。

症状は進行性認知症13件（100%）、ミオクローヌス10件（77%）、錐体路症状6件（46%）、錐体外路症状8件（62%）、小脳症状4件（31%）、視覚異常4件（31%）、無動性無言状態7件（54%）、記憶障害9件（69%）、精神・知能障害9件（69%）、臨床的に頑固な不眠2件（15%）、異常感覚2件（15%）、痙攣性対麻痺1件（0.8%）、筋強剛7件（54%）、その他3件（2.3%）であった。



クロイツフェルト・ヤコブ病 (n=13)								
#	受理日	受理週	性別	年齢	病型	確実度	推定感染地	推定感染経路
1	1/18	3	女	78	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
2	2/9	6	女	77	感染性-変異型 CJD	ほぼ確実	国内	手術等観血的処置
3	2/14	7	男	58	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
4	2/28	9	女	74	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
5	3/2	9	男	50	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		

6	3/22	12	女	74	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実
7	4/4	14	女	71	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実
8	4/13	15	男	67	孤発性-古典型 CJD	疑い
9	5/16	20	男	73	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実
10	7/14	28	男	73	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実
11	8/11	32	男	58	孤発性-古典型 CJD	疑い
12	8/15	33	女	73	孤発性-古典型 CJD	疑い
13	9/8	36	女	57	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実

クロイツフェルト・ヤコブ病（n=13）別表

#	発病日	初診日	診断日	症状												診断方法		
				進行性認知症	ミオクロームス	錐体路症状	錐体外路症状	小脳症状	視覚異常	無動性無言状態	記憶障害	精神・知能障害	臨牀的に頑固な不眠	異常感覚	痙性対麻痺	筋強剛	その他	脳波 PSD
1	20101203	20101215	20110112	+	+		+			+	+				+		+	+
2	20100801	20110118	20110204	+	+	+	+	+			+	+			+	+	+	+
3	20101222	20110203	20110213	+	+		+	+	+	+	+	+			+		+	+
4	20101000	20100106	20110225	+	+	+	+			+	+	+			+	+	+	+
5	20110120	20110223	20110225	+	+				+								+	+
6	20110111	20110128	20110131	+		+	+			+							+	+
7	20110200	20110329	20110329	+	+	+	+				+	+				+	+	+
8	20110411	20110318	20110411	+		+				+	+	+					+	+
9	20110424	20110506	20110510	+	+					+	+	+					+	+
10		20110628	20110710	+	+			+			+	+				+	+	+
11		20110809	20110809	+	+		+		+									+
12	20110300	20110610	20110808	+		+				+		+						+
13	20110700	20110830	20110908	+	+		+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+
計				13	10	6	8	4	4	7	9	9	2	2	1	7	3	11

⑥ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

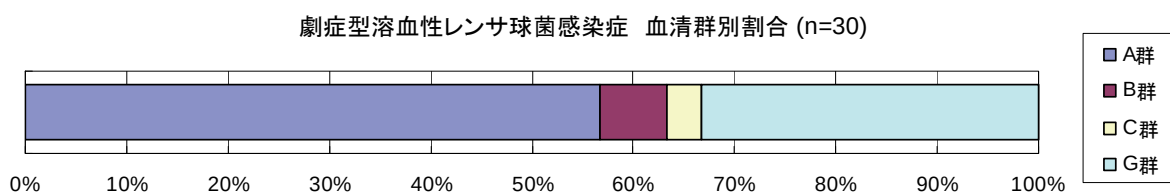
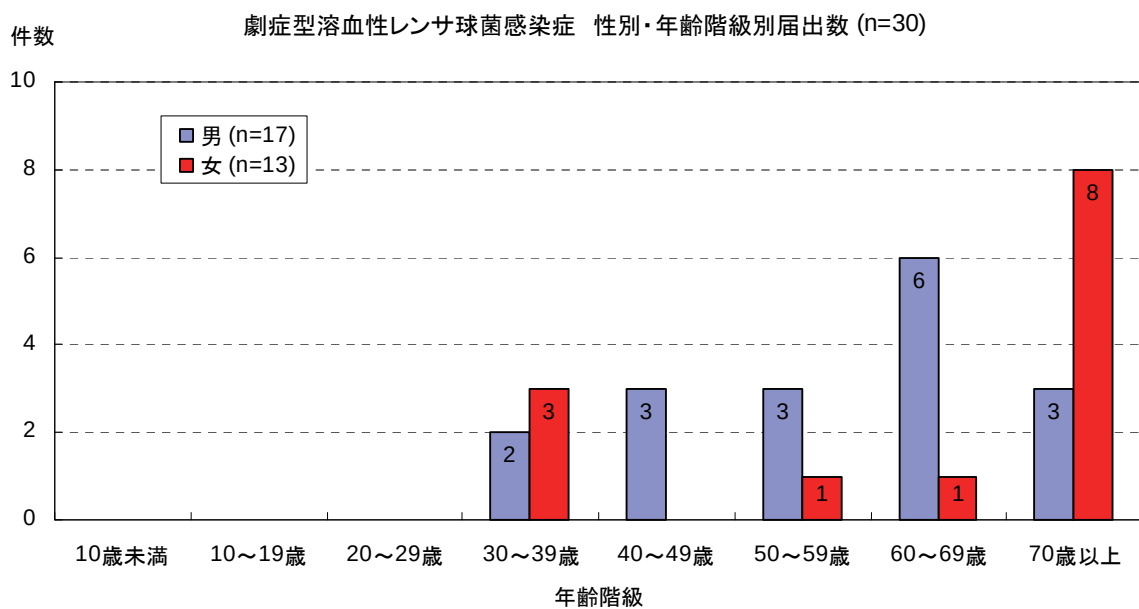
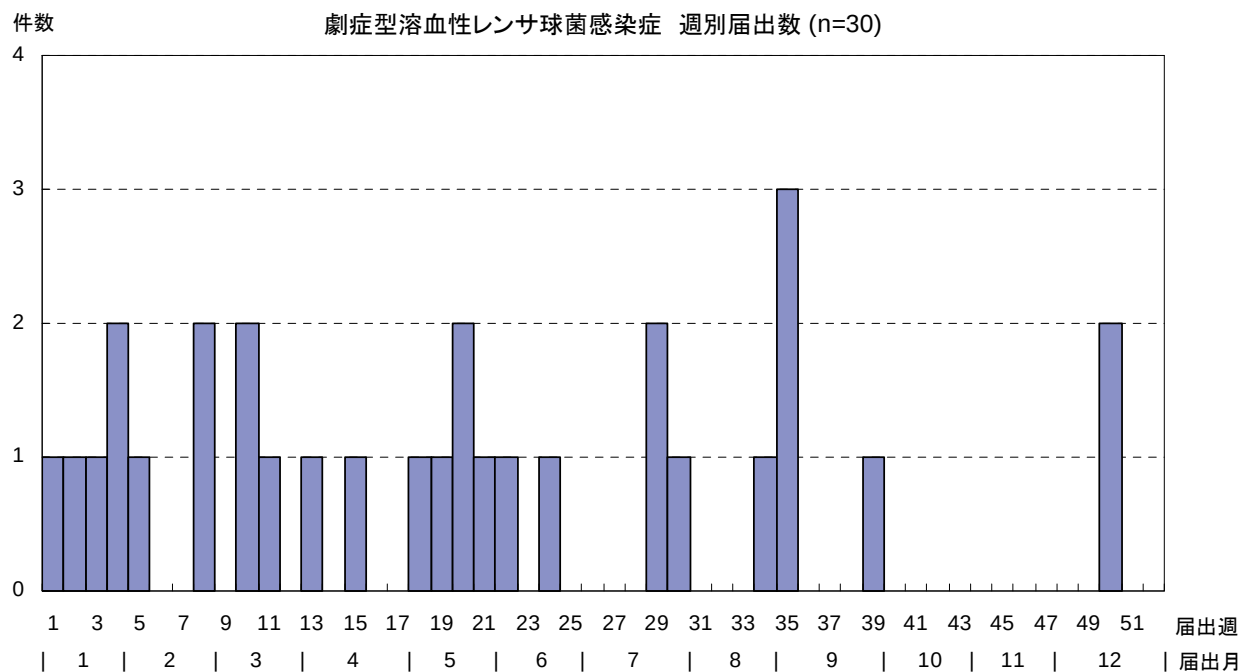
劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 30 件届出があった。血清群は、A 群 17 件、B 群 2 件、C 群 1 件、G 群 10 件であった。

性別は男性 17 人、女性 13 人で、年齢は 30 歳代 5 人、40 歳代 3 人、50 歳代 4 人、60 歳代 7 人、70 歳以上 11 人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染原因は、創傷感染 13 件、飛沫・飛沫核感染 2 件、その他 3 件、

不明 12 件であった。

死亡は 9 件（30 歳代 2 人、50 歳代 1 人、60 歳代 2 件、70 歳以上 4 件）報告された。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (n=30)

受理日	受理週	性別	年齢	血清群	症状	推定感染原因	備考
1/4	1	男	53	A 群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎	不明	死亡
1/11	2	男	64	G 群	ショック、DIC、軟部組織炎	創傷感染(右肘を中心とした壊死性筋膜炎)	
1/19	3	男	66	A 群	ショック、腎不全、DIC、全身性紅斑性発疹、中枢神経症状	不明	死亡
1/26	4	男	57	A 群	ショック、DIC、軟部組織炎	不明	
1/26	4	男	37	B 群	ショック、DIC、軟部組織炎	創傷感染(左下肢)	
2/1	5	男	69	A 群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎	創傷感染(左上肢)	死亡
2/22	8	女	81	G 群	ショック、肝不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	不明	死亡
2/23	8	女	70	A 群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎	創傷感染(右上腹部から側胸部)	
3/7	10	女	83	G 群	ショック、DIC、中枢神経症状	不明	
3/9	10	女	30	A 群	ショック、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	その他(産褥期付属器感染疑い)	
3/16	11	女	33	A 群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC	飛沫・飛沫核感染	死亡
3/31	13	女	59	G 群	ショック、軟部組織炎、中枢神経症状	不明	
4/14	15	男	34	A 群	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎	創傷感染(右母指球切創)	
5/6	18	男	68	G 群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC	創傷感染(左下腿蜂窩織炎)	
5/11	19	女	38	G 群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	不明	死亡
5/19	20	男	67	A 群	ショック、肝不全、DIC	不明	
5/20	20	男	51	A 群	ショック、DIC、軟部組織炎	その他(陰のう皮下、右ソケイ部皮下の軟部組織感染)	
5/24	21	女	78	B 群	ショック、腎不全、軟部組織炎	不明	
6/2	22	男	62	A 群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎	創傷感染(内視鏡による生検後創部)	
6/15	24	男	43	A 群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎	創傷感染(左足背)	
7/22	29	女	78	G 群	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎	創傷感染(左下腿)	
7/22	29	女	85	A 群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎	不明	
7/26	30	女	75	A 群	ショック、DIC、壊死性筋膜炎	飛沫・飛沫核感染	
8/25	34	女	60	A 群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎	創傷感染(壊死性筋膜炎)	
8/29	35	男	79	G 群	ショック、腎不全、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	創傷感染(左下肢)	死亡
8/30	35	男	47	G 群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、軟部組織炎	不明	
8/31	35	女	95	C 群	ショック、腎不全、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	創傷感染	死亡

9/27	39	男	71	G 群	ショック、DIC、軟部組織炎、 中枢神経症状	創傷感染 (左下肢軟部組織炎)	死亡
12/12	50	男	43	A 群	ショック、腎不全、軟部組織炎、 全身性紅斑性発疹	不明	
12/13	50	男	86	A 群	ショック、腎不全、DIC	その他(免疫不全)	

⑦ 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は 409 件届出があった。HIV 感染者 295 件、その他 30 件、AIDS 患者 84 件であった。

HIV・その他について記述すると、性別は男性 310 人、女性 15 人で、年齢は 10 歳代 6 人、20 歳代 96 人、30 歳代 116 人、40 歳代 63 人、50 歳代 34 人、60 歳代 8 人、70 歳以上 2 人であった。

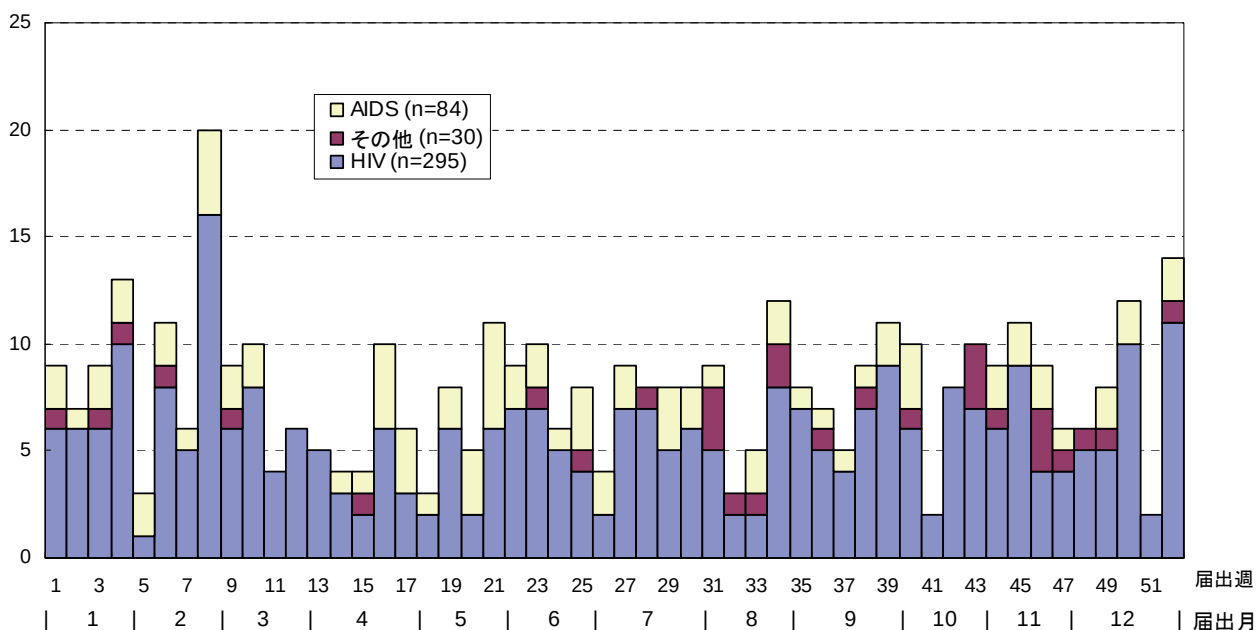
AIDS について記述すると、性別は男性 73 人、女性 11 人で、年齢は 20 歳代 8 人、30 歳代 26 人、40 歳代 31 人、50 歳代 15 人、60 歳以上 4 人であった。

推定感染地は国内 341 件、国外 17 件、国内又は国外 2 件、不明 49 件であった。国外感染例 17 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 7 件、アフリカ 3 件、北アメリカ 3 件、ヨーロッパ 1 件、東アジア 1 件、南アメリカ 1 件、渡航先不明 1 件であった。推定感染国別にみると、タイ 4 件、ミャンマー 2 件、米国 2 件、フィリピン 1 件、中央アフリカ 1 件、ジブチ 1 件、ザンビア 1 件、カナダ 1 件、イタリア 1 件、大韓民国 1 件、ペルー 1 件、渡航先不明 1 件であった。

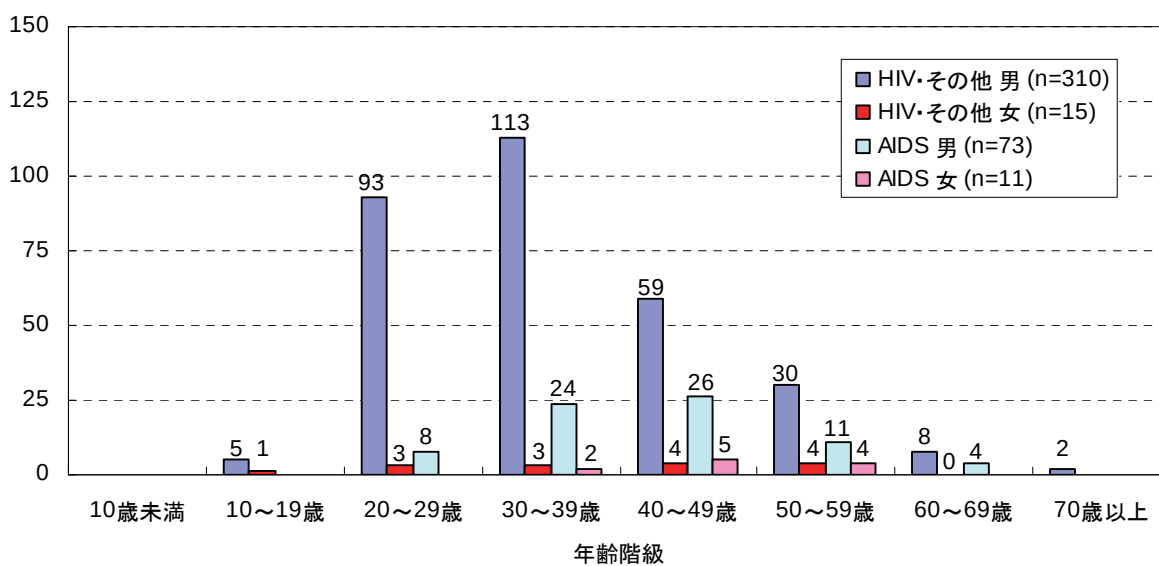
推定感染経路は性的接触 360 件（同性間 280 件、異性間 56 件、両性間 19 件、性別不明 5 件）、その他（注射針共用）2 件、2 経路以上 2 件（同性間性的接触又は静注薬物 1 件、異性間性的接触又はタトゥー施行 1 件）、静注薬物 1 件、輸血 1 件(ミャンマー)、不明 43 件であった。

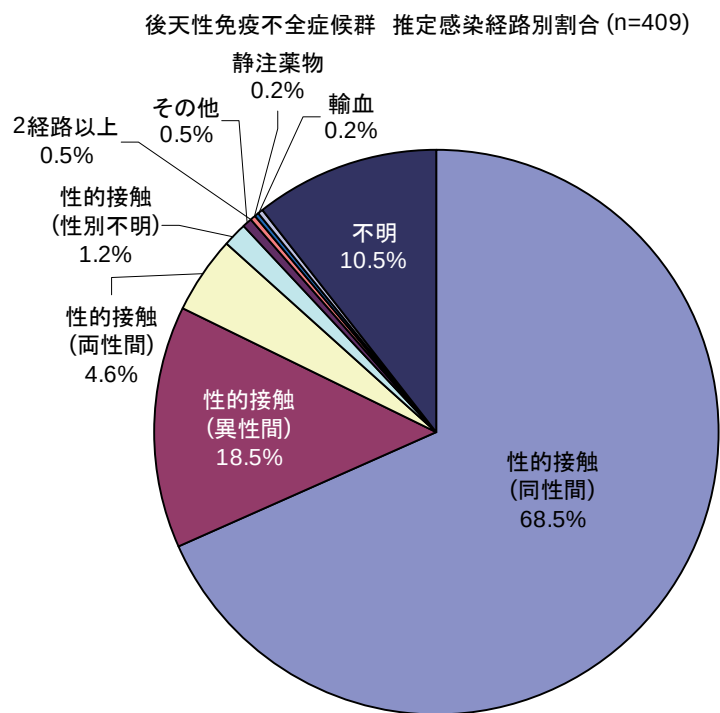
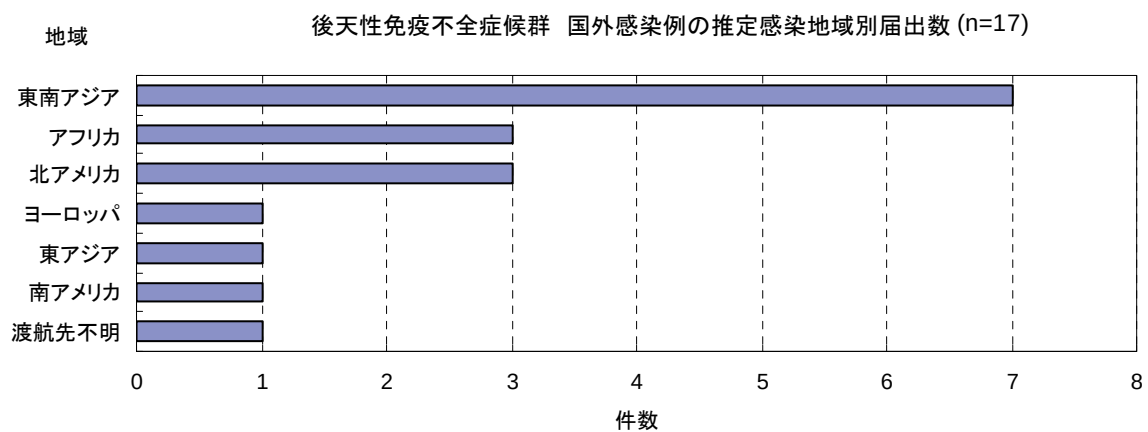
AIDS と診断した指標疾患は 84 件中、ニューモシスティス肺炎 51 件、カンジダ症 22 件、活動性結核 5 件、サイトメガロウイルス感染症 5 件、単純ヘルペスウイルス感染症 4 件、非ホジキンリンパ腫 4 件、HIV 脳症 4 件、HIV 消耗性症候群 4 件、クリプトコッカス症 3 件、カポジ肉腫 3 件、進行性多巣性白質脳症 1 件、原発性脳リンパ腫 1 件、反復性肺炎 1 件であった。これらの中には複数疾患発症者の報告 20 件が含まれている（2 疾患 16 人、3 疾患 4 人）。

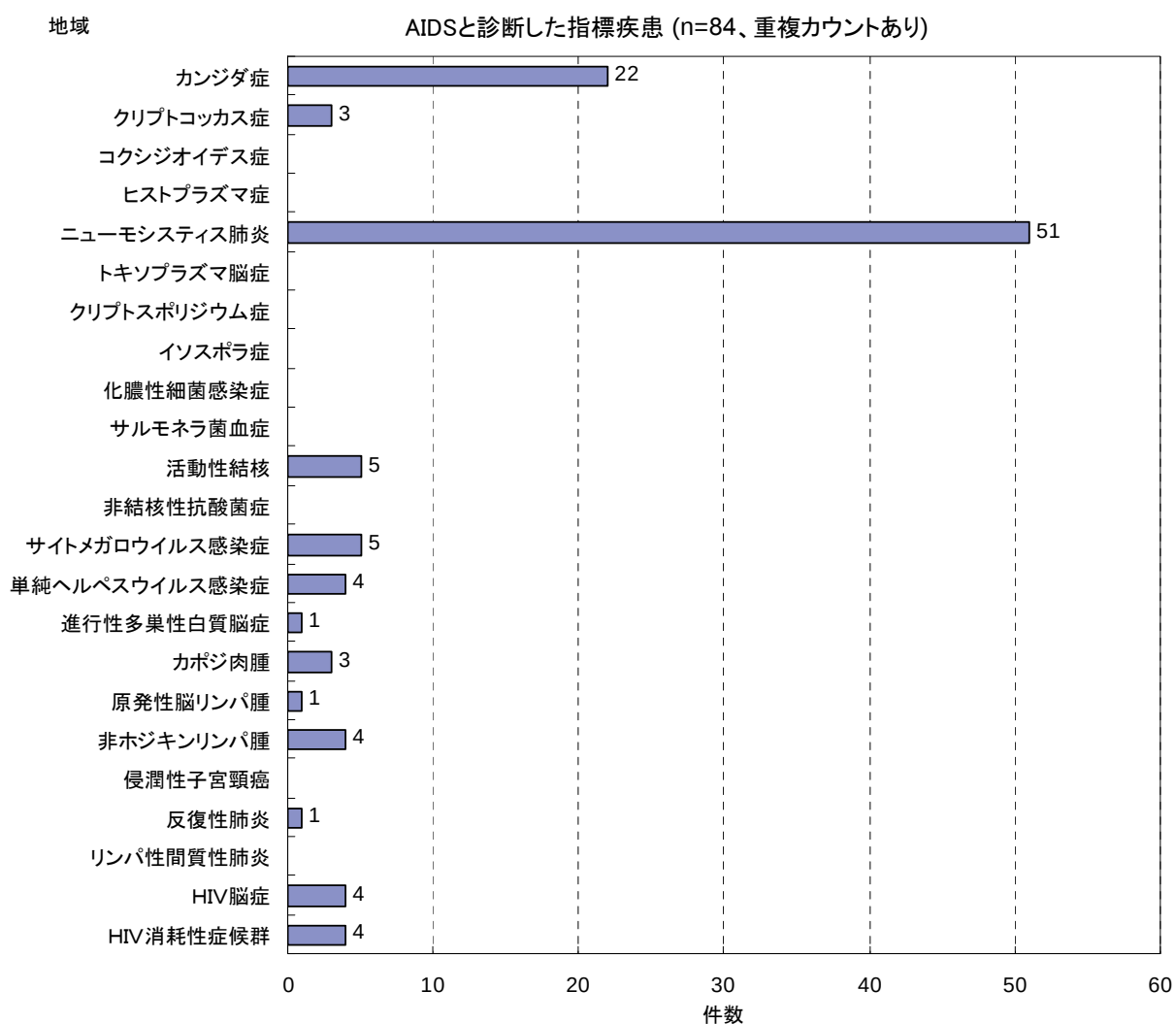
件数 後天性免疫不全症候群 週別届出数 (n=409)



件数 後天性免疫不全症候群 性別・年齢階級別届出数 (n=409)







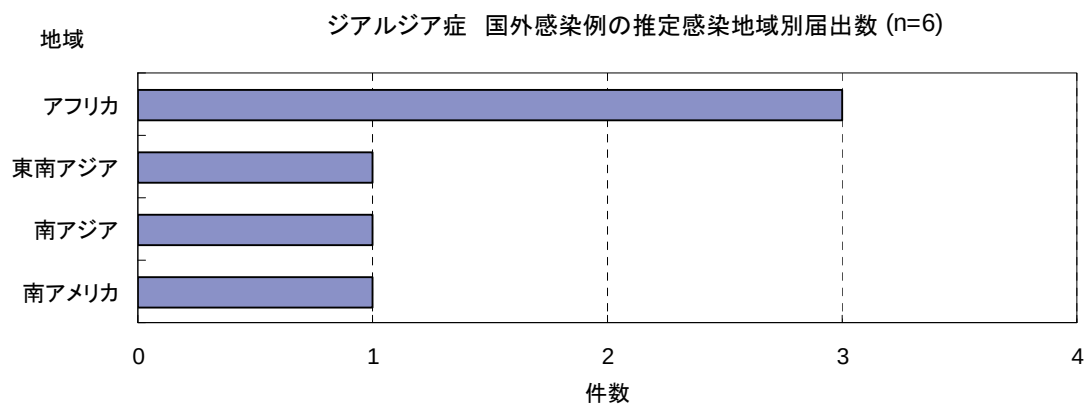
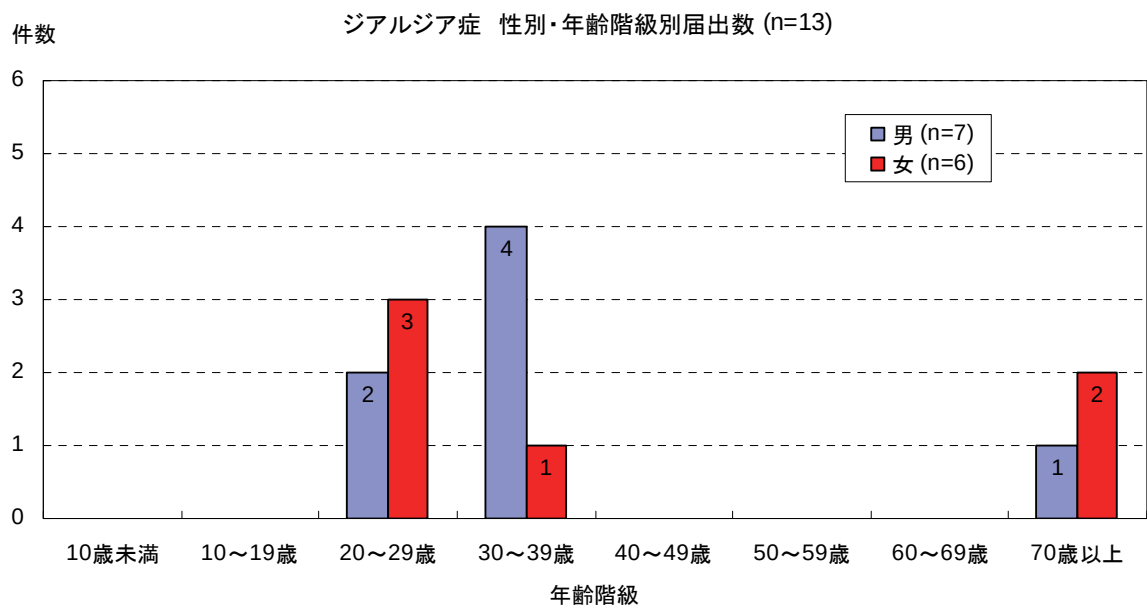
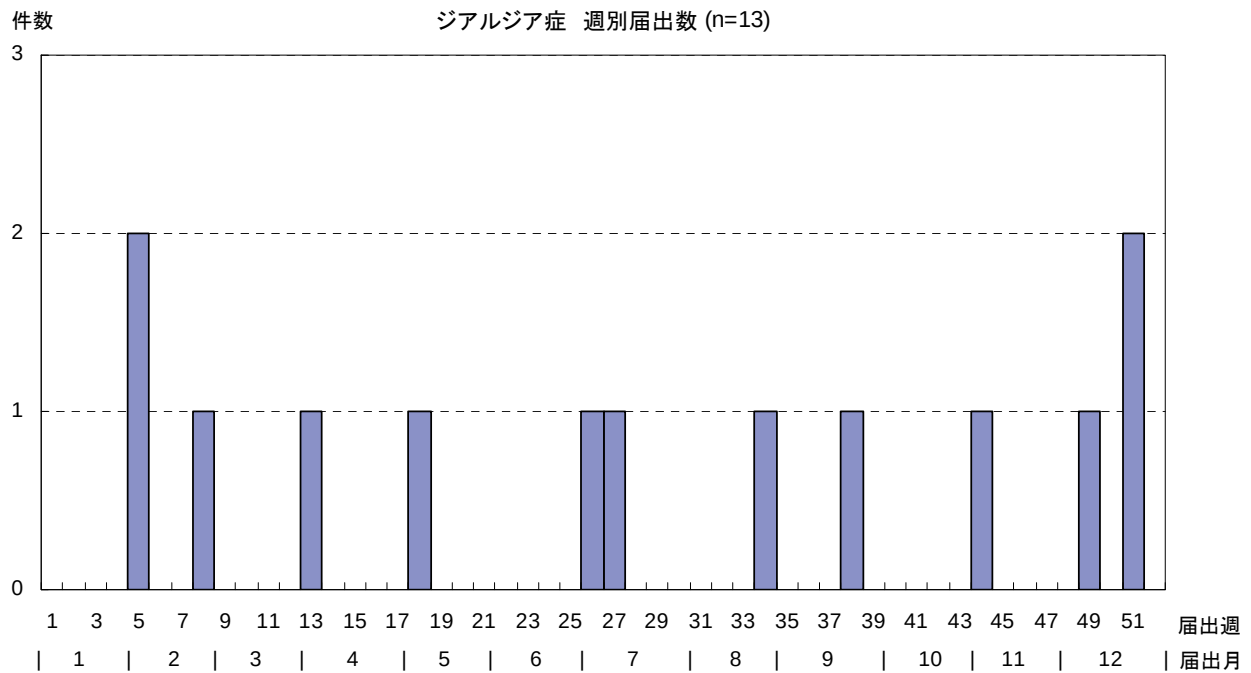
⑧ ジアルジア症

ジアルジア症は 13 件届出があった。

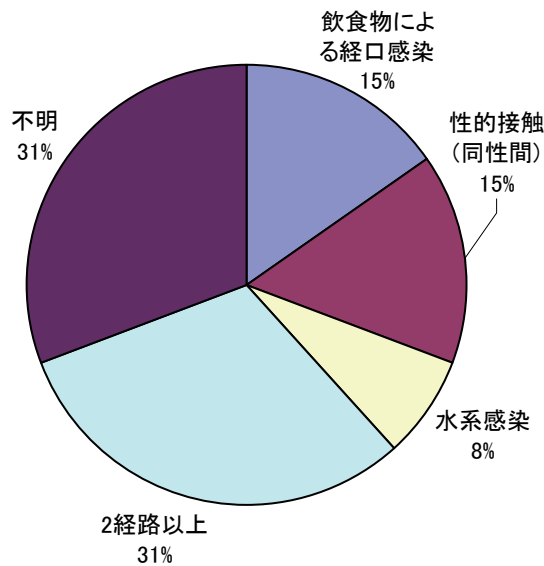
性別は男性 7 人、女性 6 人で、年齢は 20 歳代 5 人、30 歳代 5 人、70 歳以上 3 人であった。

推定感染地は国内 6 件、国外 6 件、国内又は国外 1 件であった。国外感染例 6 件を推定感染地域別にみると、アフリカ 3 件、東南アジア 1 件、南アジア 1 件、南アメリカ 1 件で、推定感染国別にみると、マダガスカル 1 件、ブルキナファソ 1 件、フィリピン 1 件、インド 1 件、ペルー 1 件、エチオピア又はエジプト 1 件であった。

推定感染経路は、飲食物による経口感染 2 件、性的接触（同性間）2 件、水系感染 1 件、2 経路以上 4 件、不明 4 件であった。



ジアルジア症 推定感染経路 (n=13)



ジアルジア症 (n=13)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/31	5	男	25	腹部不快感、下痢	エチオピア 又はエジプト	経口感染又は水系感染
2/4	5	男	36	腹部不快感、その他	ペルー	水系感染
2/21	8	男	37	腹部不快感、下痢	国内	不明
3/29	13	女	29	下痢	マダガスカル	経口感染又は水系感染
5/2	18	男	83	その他(好酸球増多 呼吸困難)	国内	不明
7/1	26	女	27	腹部不快感、下痢	インド	経口感染又は水系感染
7/4	27	男	29	下痢	国内	同性間性的接触
8/22	34	男	32	腹部不快感、下痢	国内	同性間性的接触
9/21	38	男	34	下痢	国内又は台湾	水系感染又は同性間性的 接触
11/4	44	女	27	下痢	ブルキナファソ	経口感染
12/7	49	女	86	下痢	国内	不明
12/20	51	女	75	その他	国内	不明
12/21	51	女	39	下痢	フィリピン	経口感染

⑨ 髄膜炎菌性髄膜炎

髄膜炎菌性髄膜炎は2件届出があった。

性別はいずれも男性、年齢は50歳代1人、70歳代1人であった。推定感染地はいずれも国内、推定感染経路はいずれも不明であった。

髄膜炎菌性髄膜炎 (n=2)

受理日	受理週	性別	年齢	血清型	症状	推定感染地	推定感染経路
5/2	18	男	54	型別不明	発熱、痙攣、意識障害、項部硬直、DIC、多臓器不全	国内	不明
6/6	23	男	76	不明	発熱、点状出血、ショック、DIC	国内	不明

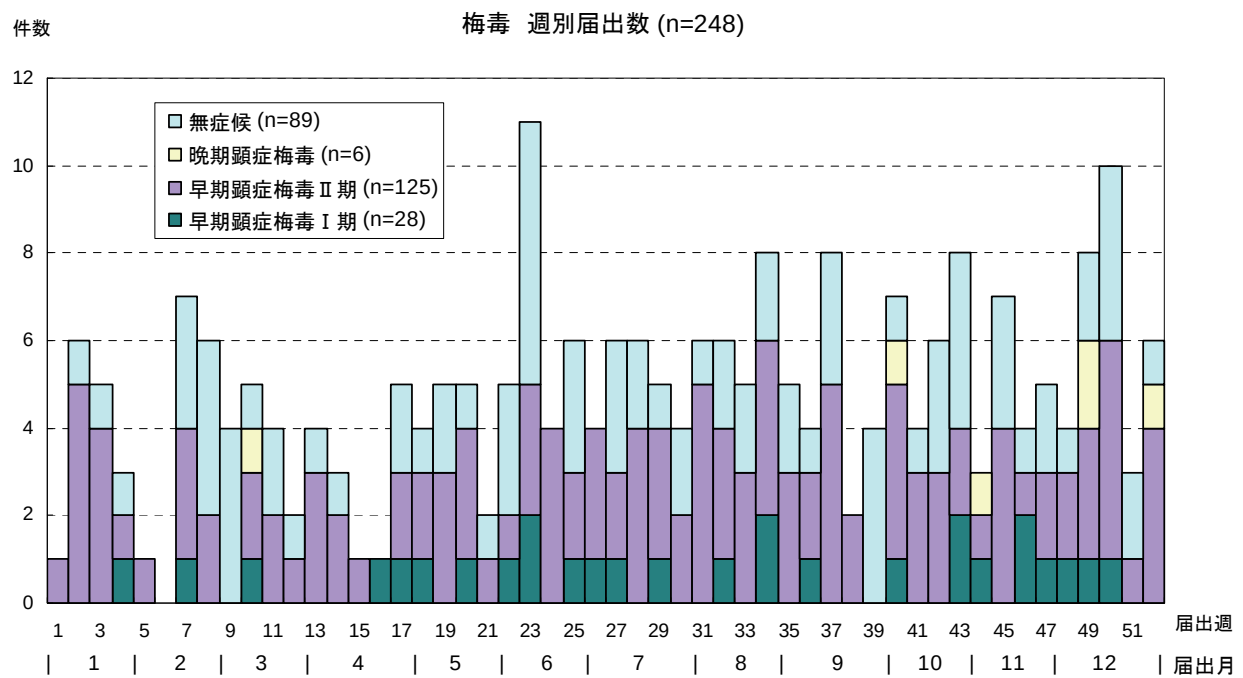
⑩ 梅毒

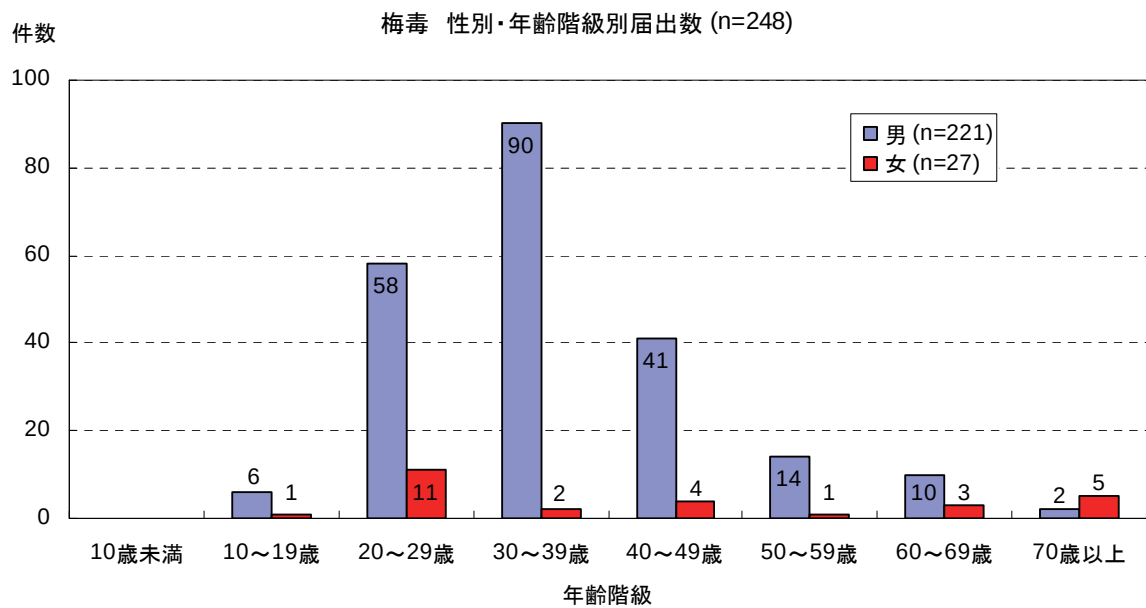
梅毒は 248 件届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期 28 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 125 件、晩期顕症梅毒 6 件、無症候 89 件であった。先天梅毒の届出はなかった。

性別は男性 221 人、女性 27 人で、年齢は 10 歳代 7 人、20 歳代 69 人、30 歳代 92 人、40 歳代 45 人、50 歳代 15 人、60 歳代 13 人、70 歳以上 7 人であった。

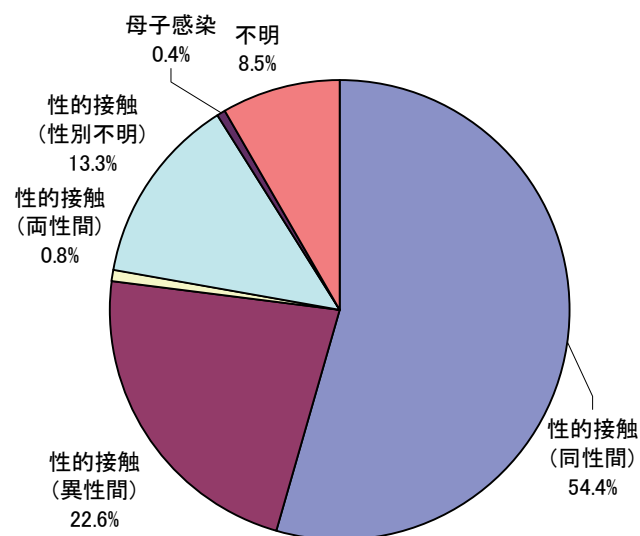
推定感染地は国内 242 件、国外 6 件で、国外感染例 6 件の内訳は、中華人民共和国 3 件、大韓民国 2 件、ペルー 1 件であった。

推定感染経路は、性的接触 226 件（同性間 135 件、異性間 56 件、両性間 2 件、性別不明 33 件）、母子感染 1 件、不明 21 件であった。





梅毒 推定感染経路 (n=248)



⑪ 破傷風

破傷風は 8 件届出があった。

性別は全て男性で、年齢は 10 歳代 1 人、40 歳代 1 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 4 人であった。推定感染地は全て国内であった。70 歳以上の症例の死亡が 1 件報告された。

破傷風 (n=8)

受理日	受理週	性別	年齢	診断方法	症状	推定感染地	推定感染経路	備考
3/9	10	男	11	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害	国内	不明	

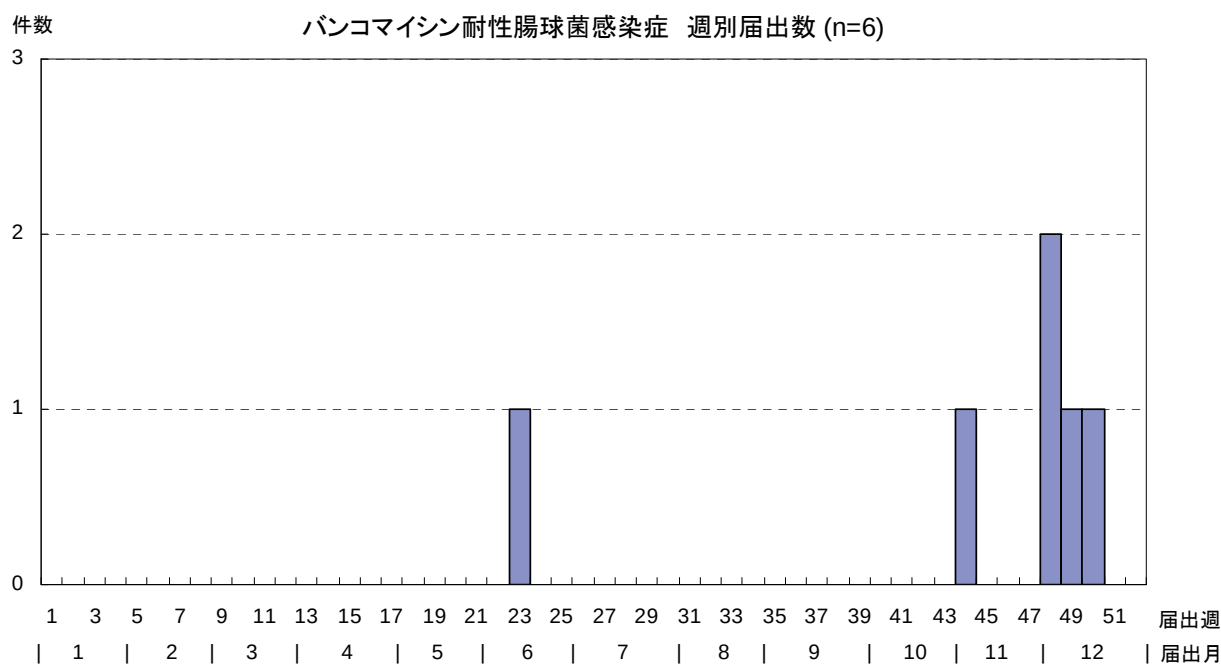
5/11	19	男	49	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、痙攣、反弓緊張	国内	不明	
5/18	20	男	78	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害	国内	創傷感染（後頭部挫）	
6/16	24	男	69	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害	国内	創傷感染（慢性中耳炎による排膿）	
6/30	26	男	83	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、痙攣、呼吸困難（痙攣性）、易興奮性	国内	不明	
8/2	31	男	68	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害	国内	創傷感染（虫刺を土のついた手で搔破）	
10/24	43	男	74	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難（痙攣性）、反弓緊張	国内	創傷感染（左前腕擦過傷）	
12/1	48	男	73	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害	国内	創傷感染（後頭部打撲）	死亡

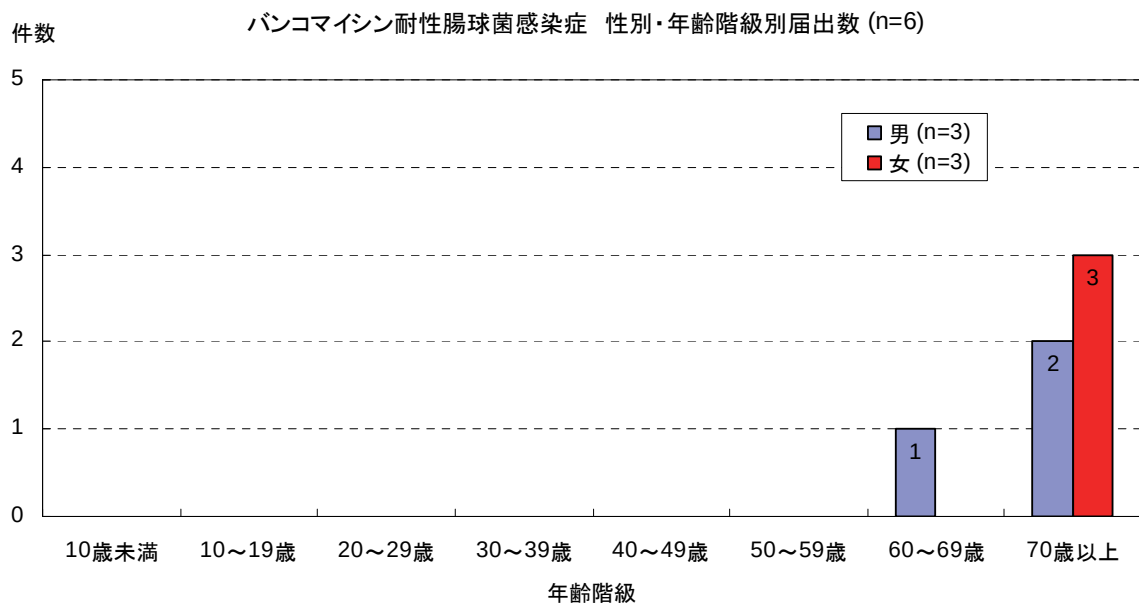
⑫ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 6 件届出があった。

菌種は *Enterococcus faecium* 1 件、*Enterococcus faecalis* 1 件、*Enterococcus gallinarum* 1 件、*Enterococcus casseliflavus* 3 件で、耐性遺伝子型は *vanB* 1 件、*vanC* 4 件、不明 1 件であった。

性別は男性 3 人、女性 3 人で、年齢は 60 歳代 1 人、70 歳以上 5 人であった。推定感染地は全て国内であった。





バンコマイシン耐性腸球菌感染症 菌種と耐性遺伝子型 (n=6)

菌種	vanA	vanB	vanC	不明	計
<i>E. faecium</i>				1	1
<i>E. faecalis</i>		1			1
<i>E. gallinarum</i>			1		1
<i>E. casseliflavus</i>			3		3
不明					
計		1	4	1	6

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (n=6)

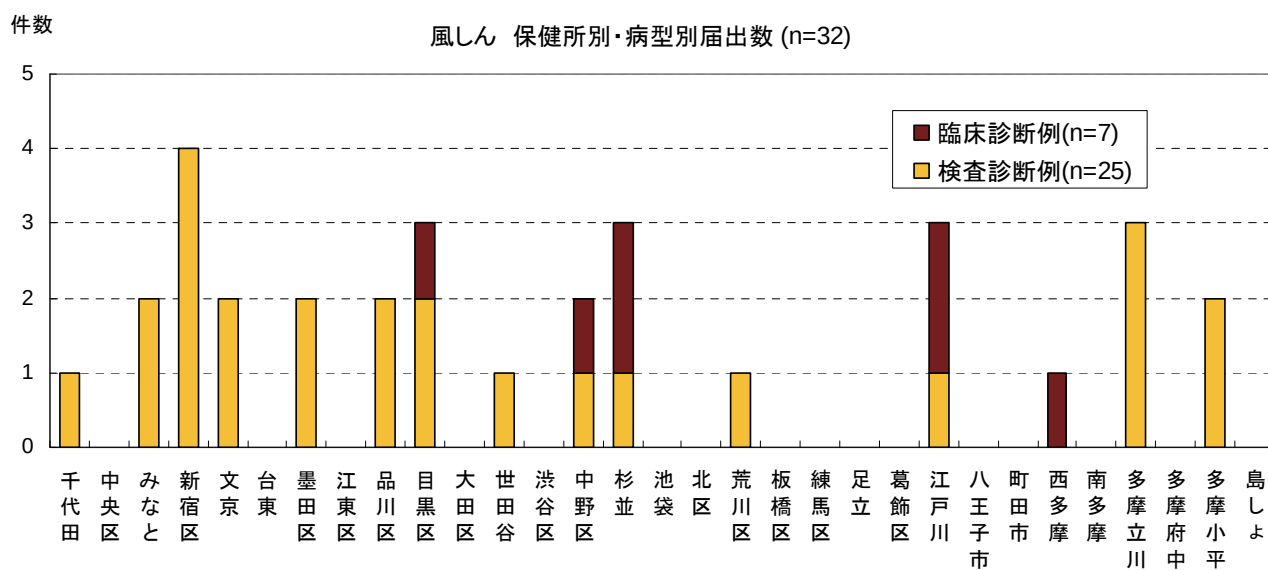
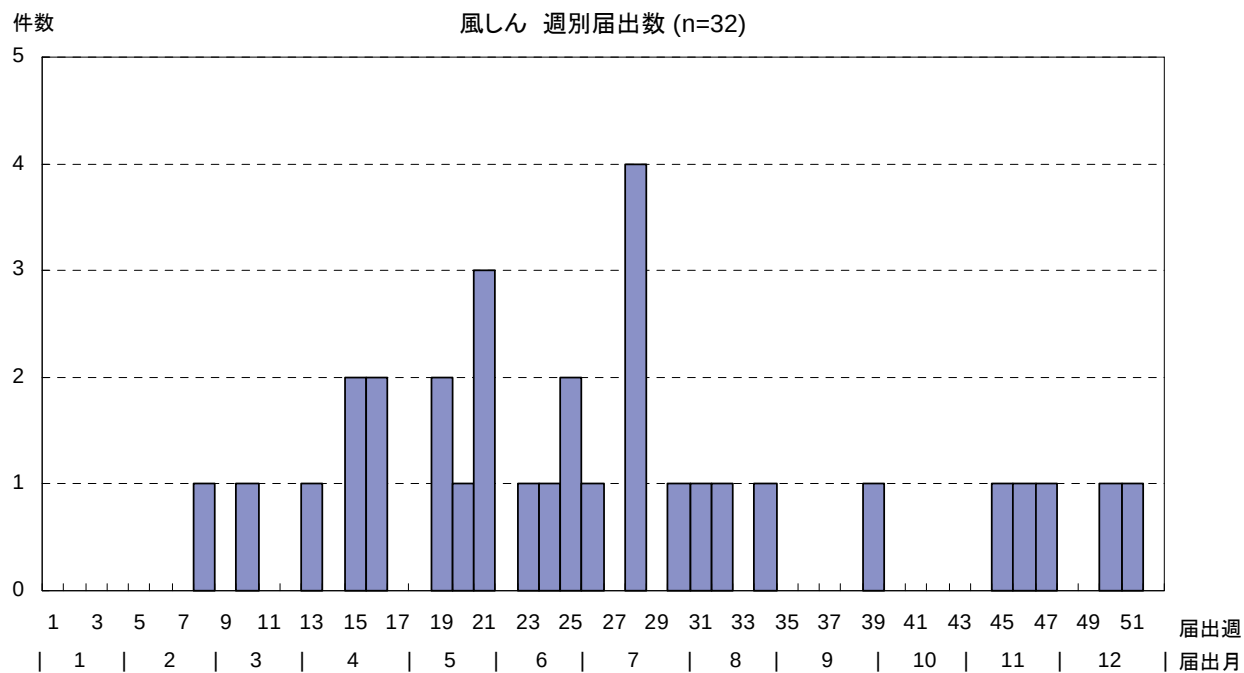
受理日	受理週	性別	歳	検体	菌種	耐性遺伝子型	症状	推定感染地	推定感染経路
6/7	23	男	90	尿	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、食欲不振	国内	保菌
10/31	44	女	79	腹水	<i>E. gallinarum</i>	vanC	腹膜炎	国内	保菌
11/29	48	男	94	尿	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、急性胆管炎	国内	不明
12/1	48	男	63	血液	<i>E. faecium</i>		発熱、菌血症、免疫不全	国内	保菌
12/8	49	女	72	血液、便	<i>E. faecalis</i>	vanB	発熱、腸炎	国内	不明
12/13	50	女	81	血液	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、腹痛、胆管炎	国内	不明

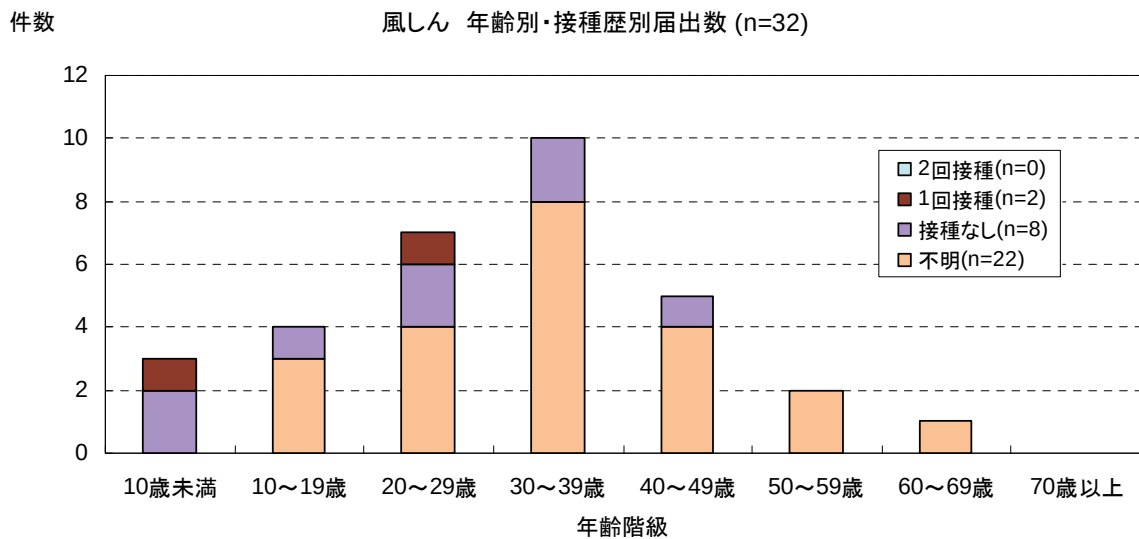
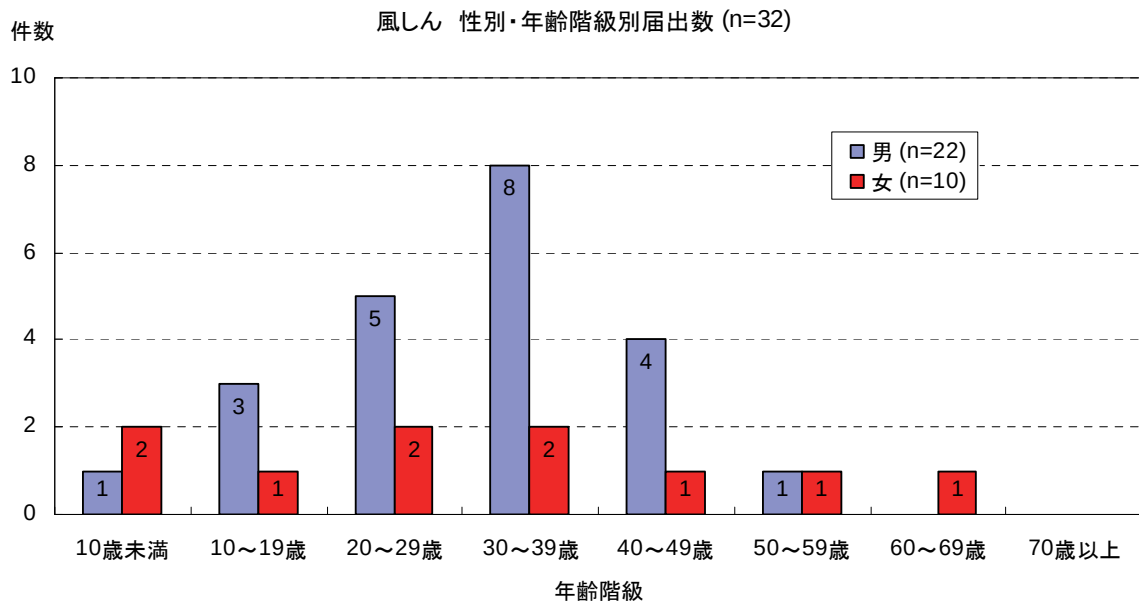
⑬ 風しん

風しんは 32 件届出があった。検査診断例 25 件、臨床診断例 7 件であった。

性別は男性 22 人、女性 10 人で、年齢は 5 歳未満 3 人、10 歳代 4 人、20 歳代 7 人、30 歳代 10 人、40 歳代 5 人、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人であった。推定感染地は国内 30 件、ベトナム 1 件、タイ又はベトナム又はラオス 1 件であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、なし 8 件 (25%)、1 回 2 件 (6%)、不明 22 件 (69%) であった。





⑭ 麻疹

麻疹は178件届出があった。麻疹（検査診断例）104件、麻疹（臨床診断例）44件、修飾麻疹（検査診断例）30件であった。

性別は男性105人、女性73人で、年齢は10歳未満62人（うち5歳未満47人）、10歳代31人、20歳代34人、30歳代34人、40歳代14人、50歳代2人、60歳代1人であった。推定感染地は国内166件、フィリピン2件、フランス2件、イギリス1件、インドネシア1件、グルジア1件、タイ1件、シンガポール又はスリランカ1件、ドイツ又はスイス又はフランス1件、マレーシア又はフランス又はポルトガル1件、国内又はフィリピン1件であった。

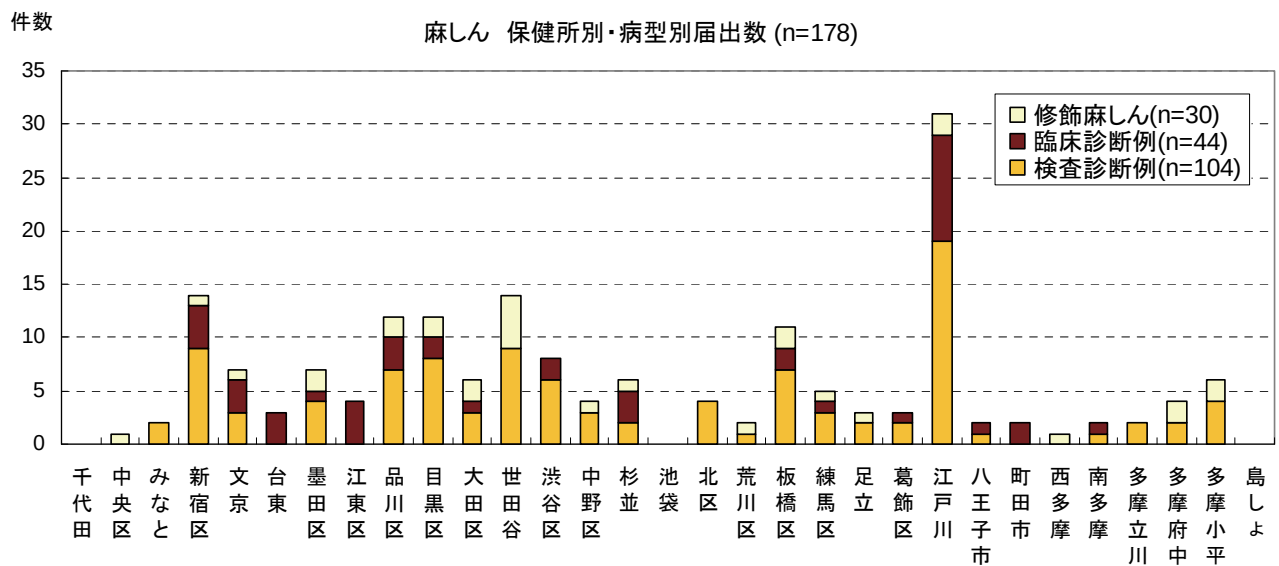
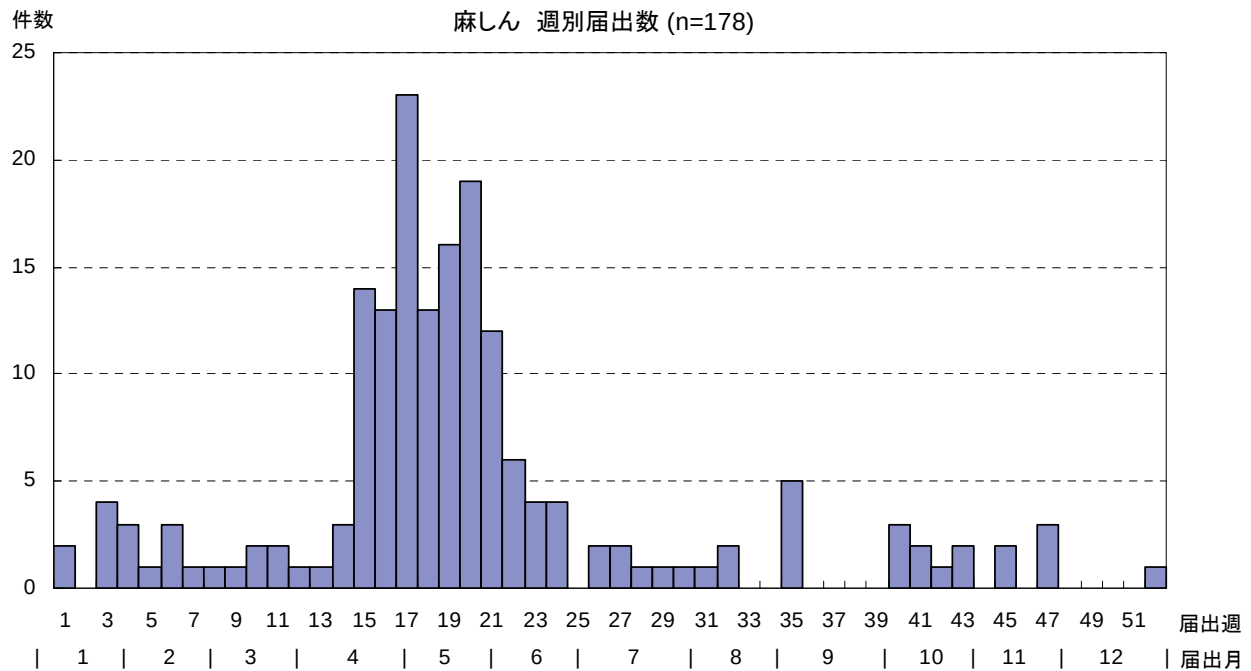
麻疹含有ワクチン接種歴は、なし62件（35%）、1回50件（28%）、2回10件（6%）、不明56件（31%）であった。

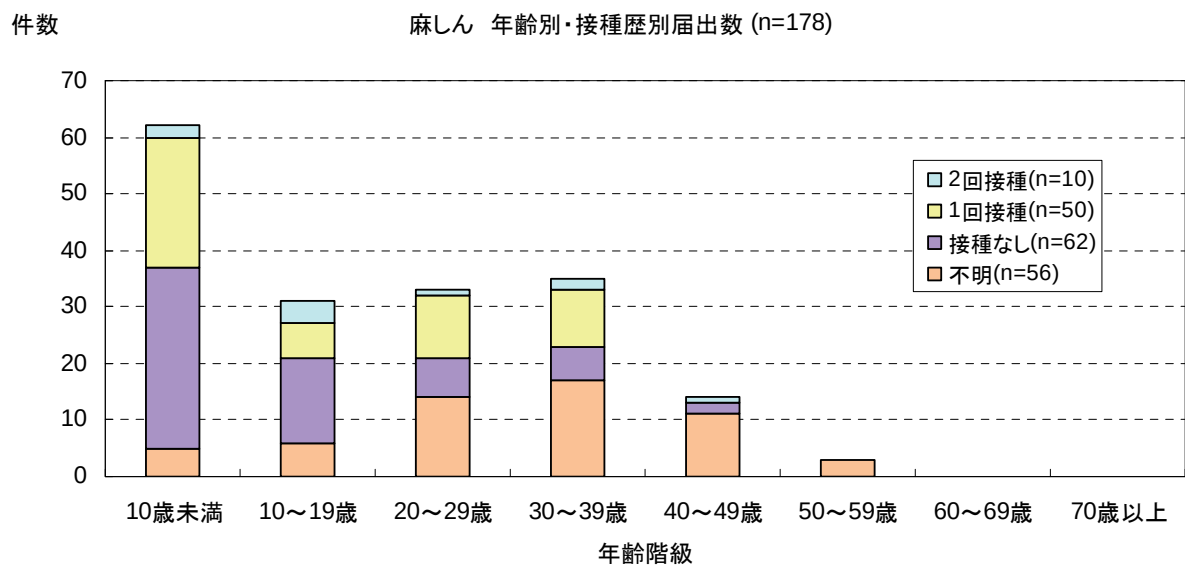
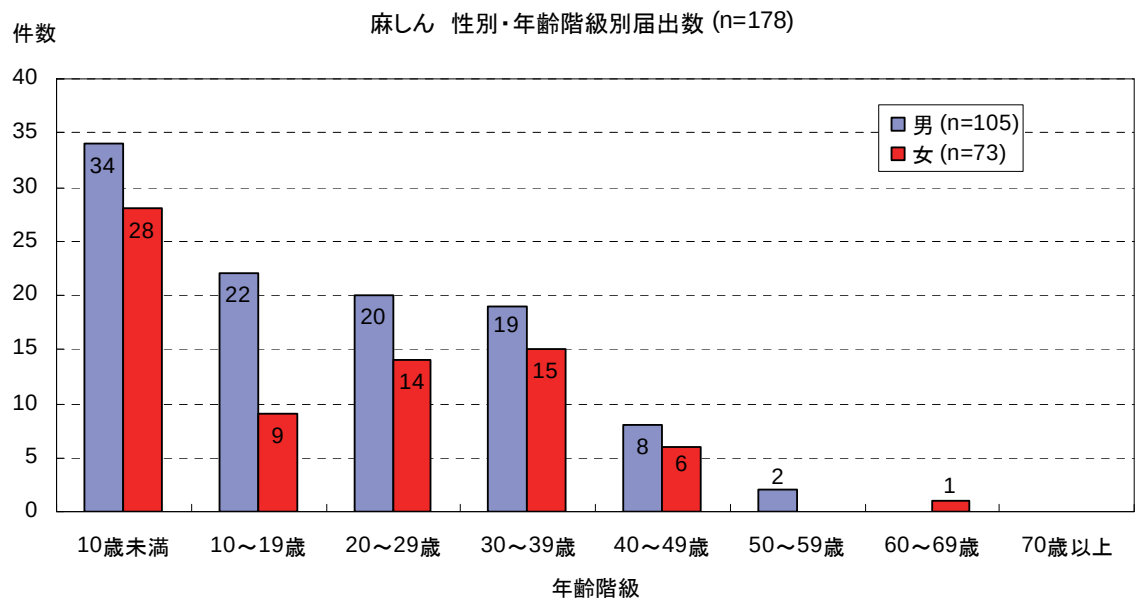
肺炎合併の報告は4件あり、年齢は、1歳3人、2歳1人で、麻疹含有ワクチン接種歴は1回2

件、なし1件、不明1件であった。脳炎合併の報告はなかった。

麻しんウイルスの遺伝子型の検出状況は、D4型47件、D9型22件、D8型1件、型別検出不能3件、A型4件（ワクチンタイプ）であった。

2011年に入り、麻しんは東南アジアやヨーロッパの国々で流行がみられた。それに伴い都内でのウイルス検出状況も、これまで国内を循環していたD5型の麻しんウイルスではなく、ヨーロッパで循環しているD4型や、主に東南アジアを循環しているD9型が検出された。





麻疹ウイルス分離・検出状況内訳

受理週	D4 型	D9 型	D8 型	型別検出不能	A 型	推定感染地
2 週					1*	
3 週	1	1				D4：イギリス、D9：シンガポール・スリランカ
4 週		1				D9：国内及びフィリピン
5 週		1				D9：国内
6 週		1				D9：国内
11 週		2				D9：国内
13 週	1					D4：国内
14 週	2					D4：フランス
15 週	8					D4：国内
16 週	9	2		1		D4：国内、D9：フィリピン、グルジア、型別検出不能：国内
17 週	13		1			D4：国内、D8：タイ
18 週	7	1				D4：国内、D9：国内
19 週		6		1*		D9：国内、型別検出不能：国内
20 週	5	4		1		D4：国内、D9：国内、インドネシア、型別検出不能：国内
21 週	1	2				D4：国内、D9：国内
23 週					1	
24 週					1*	
28 週					1*	
40 週		1				D9：ポルトガル・フランス・マレーシア
計	47	22	1	3	4	

*病原体定点からの検体

注：A 型はワクチン株であり、麻疹患者の届出基準に当てはまらないため患者届出数には含まれない。

⑮ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表3-1(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数 2011年第1週～2011年第52週

週	期間	一 類							二 類				三 類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス
1	1. 3～ 1. 9								83						1		1
2	1.10～ 1.16								71					2			1
3	1.17～ 1.23								88					1	1		
4	1.24～ 1.30								88						3		1
5	1.31～ 2. 6								123					2	1		
6	2. 7～ 2.13								70								
7	2.14～ 2.20								107						1		
8	2.21～ 2.27								114						1		1
9	2.28～ 3. 6								92					3	3		
10	3. 7～ 3.13								98					1	2		1
11	3.14～ 3.20								98						2		
12	3.21～ 3.27								74					2	2		
13	3.28～ 4. 3								107					2			
14	4. 4～ 4.10								87						4		1
15	4.11～ 4.17								109					2	2		1
16	4.18～ 4.24								99						1		
17	4.25～ 5. 1								96								
18	5. 2～ 5. 8								48					2		1	
19	5. 9～ 5.15							1	89					2	4		
20	5.16～ 5.22								78					2	3	1	1
21	5.23～ 5.29								102						2		
22	5.30～ 6. 5								86					1	1		
23	6. 6～ 6.12								106								
24	6.13～ 6.19								100					2	6		
25	6.20～ 6.26								101					2	4		
26	6.27～ 7. 3								106						12		
27	7. 4～ 7.10								104					2	6		
28	7.11～ 7.17								127					1	6		
29	7.18～ 7.24								95					2	22	1	1
30	7.25～ 7.31								103					4	16		
31	8. 1～ 8. 7								95					2	30		
32	8. 8～ 8.14								98				1	1	11		
33	8.15～ 8.21								106						9		
34	8.22～ 8.28								103					2	13		
35	8.29～ 9. 4								116					3	16		
36	9. 5～ 9.11								100					6	16		
37	9.12～ 9.18								140					1	8		
38	9.19～ 9.25								84					1	3	1	
39	9.26～10. 2								112					1	10	1	
40	10. 3～10. 9								120					2	8		
41	10.10～10.16								96					4	4		
42	10.17～10.23								109					7	3		
43	10.24～10.30								92				2	3	1		
44	10.31～11. 6								89					3	3		
45	11. 7～11.13								109					3	1		
46	11.14～11.20								103					2	5		
47	11.21～11.27								92					1	3		
48	11.28～12. 4								128					4	2	1	
49	12. 5～12.11								122						2		
50	12.12～12.18								100					1	2		
51	12.19～12.25								95					1			
52	12.26～ 1. 1								89					3	1		
	合 計							1	5,147				3	86	257	6	9

* 2012年4月19日現在の報告数

表3-1(2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数 2011年第1週～2011年第52週

週	期間	四類												
		E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	1. 3～ 1. 9					1	1	2			1		1	
2	1. 10～ 1. 16						1						1	
3	1. 17～ 1. 23			1			1	1						
4	1. 24～ 1. 30	1	2					1					1	1
5	1. 31～ 2. 6		1										1	
6	2. 7～ 2. 13	2				1	1							
7	2. 14～ 2. 20		3				1	1					1	
8	2. 21～ 2. 27	1					1			1			1	
9	2. 28～ 3. 6							1					1	
10	3. 7～ 3. 13		3											
11	3. 14～ 3. 20		2					1			1		1	
12	3. 21～ 3. 27				1						2		1	1
13	3. 28～ 4. 3						1	1			1	1	1	
14	4. 4～ 4. 10	1						2			1			
15	4. 11～ 4. 17										1	1	1	
16	4. 18～ 4. 24		1					1					3	
17	4. 25～ 5. 1		1											1
18	5. 2～ 5. 8												1	
19	5. 9～ 5. 15	1	2								1		3	
20	5. 16～ 5. 22							1					1	
21	5. 23～ 5. 29		1				1		1		1		2	
22	5. 30～ 6. 5													
23	6. 6～ 6. 12												3	
24	6. 13～ 6. 19		2								2			
25	6. 20～ 6. 26		1										1	
26	6. 27～ 7. 3												2	
27	7. 4～ 7. 10		1		1			1					1	
28	7. 11～ 7. 17		1								1		2	
29	7. 18～ 7. 24												1	
30	7. 25～ 7. 31												1	
31	8. 1～ 8. 7				1						2	1	3	
32	8. 8～ 8. 14	1						1			2		1	
33	8. 15～ 8. 21												3	
34	8. 22～ 8. 28										1		3	
35	8. 29～ 9. 4		1										1	
36	9. 5～ 9. 11							2					4	
37	9. 12～ 9. 18		1										5	
38	9. 19～ 9. 25							1			1		1	
39	9. 26～ 10. 2	1						2			1		1	
40	10. 3～ 10. 9										1			
41	10. 10～ 10. 16										1		1	
42	10. 17～ 10. 23							1			2		2	1
43	10. 24～ 10. 30	1	1					1			1		4	
44	10. 31～ 11. 6													
45	11. 7～ 11. 13		1				1						2	1
46	11. 14～ 11. 20						1							
47	11. 21～ 11. 27						1	5					2	
48	11. 28～ 12. 4							1					2	
49	12. 5～ 12. 11		1								1		1	
50	12. 12～ 12. 18			1									2	
51	12. 19～ 12. 25										2		1	
52	12. 26～ 1. 1		1				2						1	
	合 計	9	27	2	3	2	13	27	1	1	27	3	72	5

表3-1(3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数 2011年第1週～2011年第52週

週	期間	五類															
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹
1	1. 3～ 1. 9	2	1				1	9				1					2
2	1. 10～ 1. 16	3		2			1	7				6					
3	1. 17～ 1. 23	5	1			1	1	9				5					4
4	1. 24～ 1. 30	1	2	2			2	13				3					3
5	1. 31～ 2. 6	2					1	3	2			1					1
6	2. 7～ 2. 13	3	1	1		1		11									3
7	2. 14～ 2. 20	2		1	1	1		6				7					1
8	2. 21～ 2. 27	3					2	20	1			6				1	1
9	2. 28～ 3. 6	8	1			2		9				4					1
10	3. 7～ 3. 13	2					2	10				5	1			1	2
11	3. 14～ 3. 20	5					1	4				4					2
12	3. 21～ 3. 27	3	1			1		6				2					1
13	3. 28～ 4. 3	4	1	1	1		1	5	1			4				1	1
14	4. 4～ 4. 10	4	1			1		4				3					3
15	4. 11～ 4. 17	4	2			1	1	4				1				2	14
16	4. 18～ 4. 24	3						10				1				2	13
17	4. 25～ 5. 1	3						6				5					23
18	5. 2～ 5. 8	1					1	3	1	1		4					13
19	5. 9～ 5. 15	3					1	8				5	1			2	16
20	5. 16～ 5. 22	4	3			1	2	5				5	1			1	19
21	5. 23～ 5. 29	1					1	11				2				3	12
22	5. 30～ 6. 5		1	1			1	9				5					6
23	6. 6～ 6. 12	2	3					10		1		11			1	1	4
24	6. 13～ 6. 19	6	2				1	6				4	1			1	4
25	6. 20～ 6. 26	5	1	1				8				6				2	
26	6. 27～ 7. 3	1	2					4	1			4	1			1	2
27	7. 4～ 7. 10	5	1					9	1			6					2
28	7. 11～ 7. 17	4	1			1		8				6				4	1
29	7. 18～ 7. 24	1		1			2	8				5					1
30	7. 25～ 7. 31	2					1	8				4				1	1
31	8. 1～ 8. 7	7	1	1				9				6	1			1	1
32	8. 8～ 8. 14	7	1	1		1		3				6				1	2
33	8. 15～ 8. 21	1		1		1		5				5					
34	8. 22～ 8. 28	3	1				1	12	1			8				1	
35	8. 29～ 9. 4	7					3	8				5					5
36	9. 5～ 9. 11	4				1		7				4					
37	9. 12～ 9. 18	3	1					5				8					
38	9. 19～ 9. 25	2						9	1			2					
39	9. 26～ 10. 2	2					1	11				4				1	
40	10. 3～ 10. 9	6	1					10				7					3
41	10. 10～ 10. 16	1		1				2				4					2
42	10. 17～ 10. 23	4						8				6					1
43	10. 24～ 10. 30	2	1	3				10				8	1				2
44	10. 31～ 11. 6	6	1					9	1			3			1		
45	11. 7～ 11. 13	4	1					11				7				1	2
46	11. 14～ 11. 20	5						9				4				1	
47	11. 21～ 11. 27	2	2					6				5				1	3
48	11. 28～ 12. 4	2						6				4	1		2		
49	12. 5～ 12. 11	3	1	2				8	1			8			1		
50	12. 12～ 12. 18	5	1				2	12				10			1	1	
51	12. 19～ 12. 25	5	2					2	2			3				1	
52	12. 26～ 1. 1	5	1					14				6					1
	合 計	178	40	19	2	13	30	409	13	2		248	8		6	32	178

表3-2(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数

2011年第1週～2011年第52週

保健所	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田									145					2	4		
中央区									41					4	1	1	1
みなと									101					11	16		
新宿区									225				1	14	6	1	3
文京									121					10	8		1
台東									185					1	5		
墨田区									106					2	10		1
江東区									164					1	2		
品川区									143					3	10		
目黒区									92					1	6		
大田区									281					6	17		1
世田谷									238					3	19		
渋谷区									76						1		
中野区									140				1	2	5		
杉並									188					4	9		
池袋									127						4		
北区									154						3		
荒川区									99						6	1	
板橋区									250					2	7		1
練馬区									209					2	7		
足立									334					1	5	1	
葛飾区									163					1	11		
江戸川									242				1	2	8	1	
八王子市									166					2	5		
町田市									80						1		
西多摩									82					2	2		
南多摩									106					1	6	1	
多摩立川									219					2	22		
多摩府中								1	311					6	30		1
多摩小平									350					1	21		
島しょ									9								
合 計								1	5,147				3	86	257	6	9

* 2012年4月19日現在の報告数

表3-2(2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数

2011年第1週～2011年第52週

保健所	四類												
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	2											1	
中央区										2		1	
みなと					1		3			7		3	
新宿区	3	9				1	13			9	1	8	1
文京		5	1				2				1	6	
台東													
墨田区							6			3			2
江東区													
品川区	3	2				1						2	
目黒区		1										3	
大田区						1	3			3		9	
世田谷						2				1		2	1
渋谷区		1						1				1	
中野区												1	
杉並		1										1	
池袋													
北区												3	1
荒川区		1											
板橋区				1		1			1		1	2	
練馬区													
足立												1	
葛飾区												1	
江戸川		1										2	
八王子市				1								1	
町田市		1								1		2	
西多摩	1	1				1						1	
南多摩		1										2	
多摩立川						1						13	
多摩府中		3	1							1		3	
多摩小平				1	1							3	
島しょ						5							
合 計	9	27	2	3	2	13	27	1	1	27	3	72	5

表3-2 (3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数

2011年第1週～2011年第52週

保健所	五類															
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病 クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
千代田	9	2			1	1	3	2			4				1	
中央区	7		1			1	10	2			6			1		1
みなと	19	5				1	21	2			17				2	2
新宿区	17	10	5	1	4		91	3			132				4	14
文京	19	2			2	3	29				14	2			2	7
台東	5						7									3
墨田区	9	2	1	1			8				1				2	7
江東区	5	1					2				5					4
品川区	5	2			1	1	9	1	1		2				2	12
目黒区	2	1	1		1		5				1			1	3	12
大田区	2	3	2		1	3	8	1			3			3		6
世田谷	11	2					8				2				1	14
渋谷区	4		1			1	100				6					8
中野区	7					1	10				12				2	4
杉並	6	7					5	1			4				3	6
池袋						1	4				2					
北区	1						6									4
荒川区			2			3	1				3	1			1	2
板橋区	5				1	3	17		1		7	1				11
練馬区	5	1	2				4				3					5
足立	7					1	2							1		3
葛飾区	3						1				1					3
江戸川	2	1					4				8				3	31
八王子市	3						5									2
町田市	2					1	1									2
西多摩	1						7	1							1	1
南多摩	2		1				1				3					2
多摩立川	4						5				2	1			3	2
多摩府中	13	1			2	4	27				6	2				4
多摩小平	3		3			5	8				4				2	6
島しょ												1				
合 計	178	40	19	2	13	30	409	13	2		248	8		6	32	178

表3-3 (1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数

2011年第1週～2011年第52週

年齢階級	一 類							二 類					三類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳								1	55								
1～4歳									89					2	19	1	
5～9歳									42					1	21	2	1
10～14歳									71					2	26		
15～19歳									107					1	23		
20～24歳									292					10	35		3
25～29歳									341				1	15	22		1
30～34歳									322				1	12	19	1	1
35～39歳									358					12	11	1	1
40～44歳									365				1	6	10		
45～49歳									356					9	13		1
50～54歳									317					5	15		1
55～59歳									332					3	7		
60～64歳									436					5	7	1	
65～69歳									313						5		
70歳以上									1,351					3	24		
合 計								1	5,147				3	86	257	6	9

* 2012年4月19日現在の報告数

表3-3 (2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数

2011 年第1週～2011 年第52 週

年齢階級	四類												
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳													
1～4歳							1				1	1	
5～9歳		2				1							
10～14歳			1										
15～19歳						1							
20～24歳	2						5						1
25～29歳		3					4			4			1
30～34歳		2					4	1		9		1	
35～39歳		4			2		1			7			1
40～44歳		1	1			5	8			3		3	1
45～49歳	2	3								1	1	4	
50～54歳		2				2				1	1	5	
55～59歳	2	3				1	2					10	
60～64歳	3	3		1		1	2			1		13	
65～69歳		1				2				1		9	
70歳以上		3		2					1			26	1
合 計	9	27	2	3	2	13	27	1	1	27	3	72	5

表3-3 (3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数

2011 年第1週～2011 年第52 週

年齢階級	五類															
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
0歳			2													7
1～4歳	1		5												3	40
5～9歳		1	5													15
10～14歳	1		1									1				14
15～19歳		1					6				7				4	17
20～24歳	4	4		1			40				22				3	16
25～29歳	8	7	1				64	5			47				4	18
30～34歳	12	3				3	76	2			51				6	24
35～39歳	21	4	2	1		2	66	3			41				4	10
40～44歳	25	10				2	60				28				1	9
45～49歳	32	4	1			1	34				17	1			4	5
50～54歳	21	4			1	2	25		1		10				1	2
55～59歳	15	1			3	2	24				5				1	
60～64歳	15		1			3	8				11			1	1	
65～69歳	9	1	1		1	4	4				2	2				1
70歳以上	14				8	11	2	3	1		7	4		5		
合 計	178	40	19	2	13	30	409	13	2		248	8		6	32	178

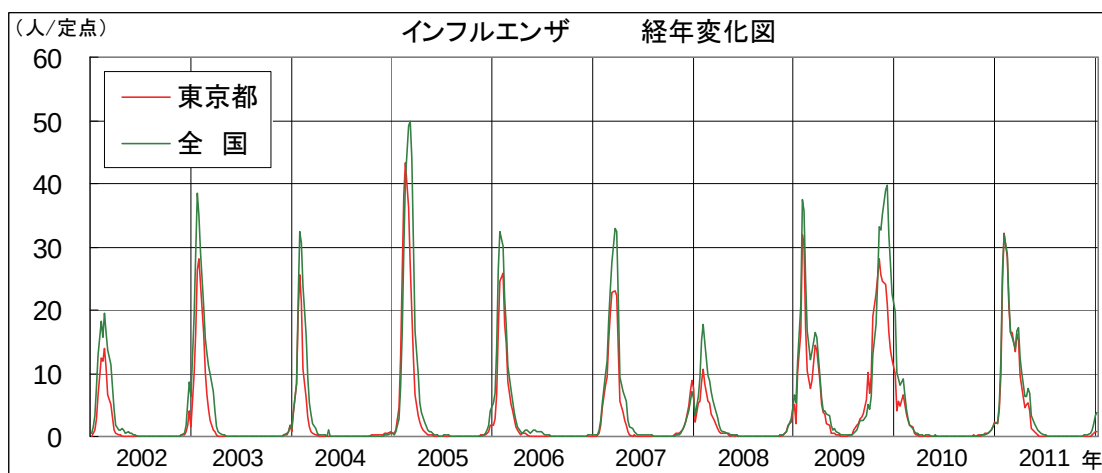
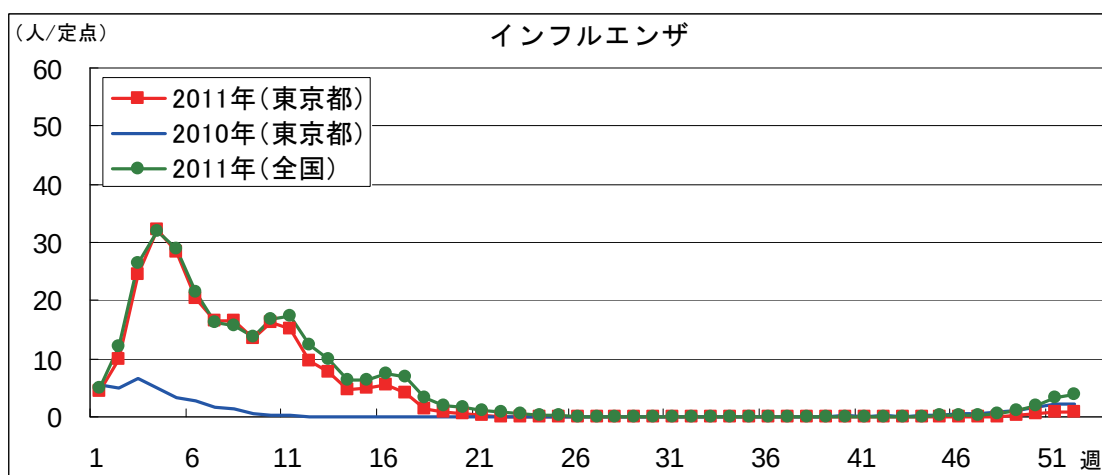
(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2011 年の報告数は 99,940 人、定点当たり 240.03 人であった。過去 10 年では、定点当たり 2009 年の 495.53 人、2005 年の 243.46 人に次いで 3 番目の報告数であった。

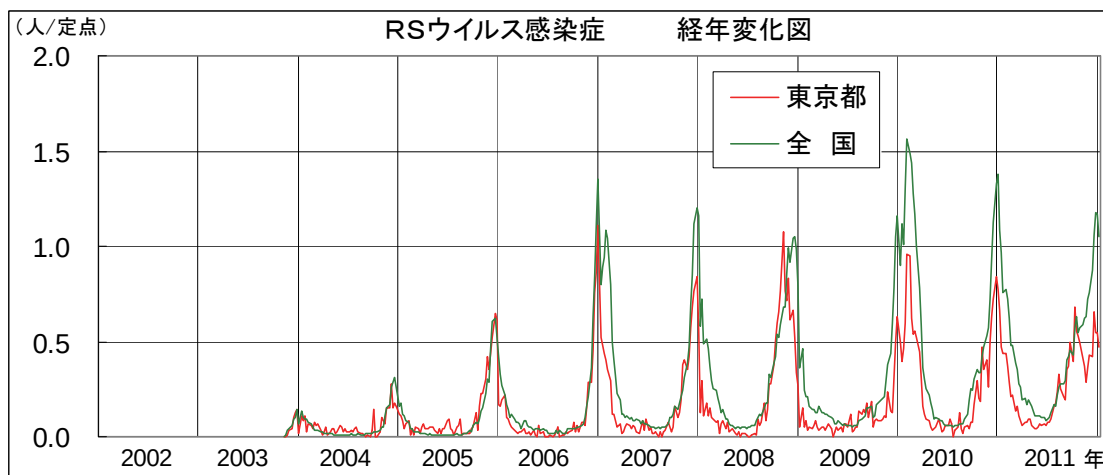
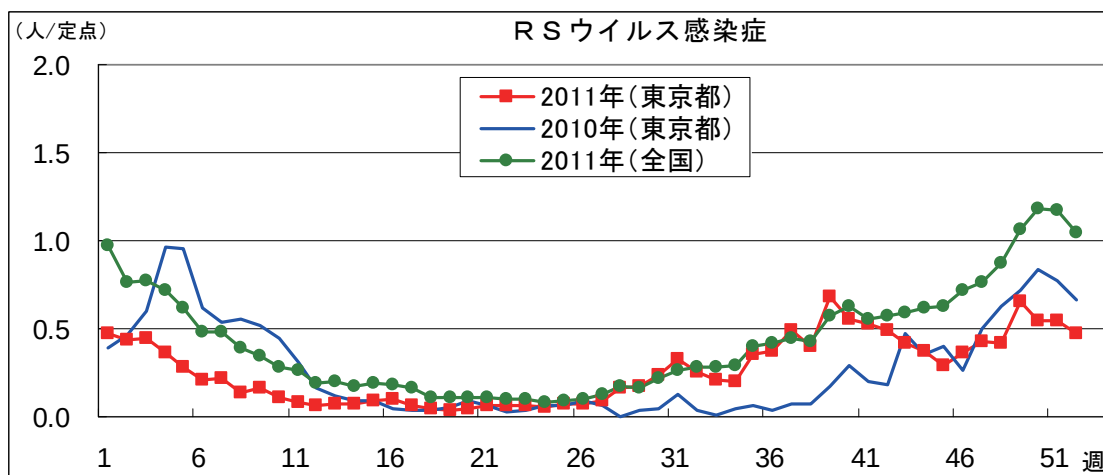
2010/11 シーズンの流行は 2010 年 49 週(12 月 6 日～12 月 12 日)に定点当たり 1.04 人と流行の目安となる 1.00 人を超えた。その後 2011 年の 1 週(1 月 3 日～1 月 9 日)には定点当たり 4.29 人と増加し、4 週(1 月 24 日～1 月 30 日)には定点当たり 32.08 人とピークを迎えた。その後、減少したが 10 週(3 月 7 日～3 月 13 日)に定点当たり 16.26 人、16 週(4 月 18 日から 4 月 24 日)に定点当たり 5.43 人の小さなピークを作り、18 週(5 月 2 日～5 月 8 日)の定点当たり 1.38 人を最後に以降は 1.00 人を切り流行は終息した。

2011/12 シーズンは最終 52 週(12 月 26 日～1 月 1 日)でも定点当たり 0.82 人であり葛飾区など 9 保健所管内では定点当たり 1.00 人を超えたが、都全体で 1.00 人を超えたのは 2012 年 2 週(1 月 9 日～1 月 15 日)の 3.22 人になってからである。



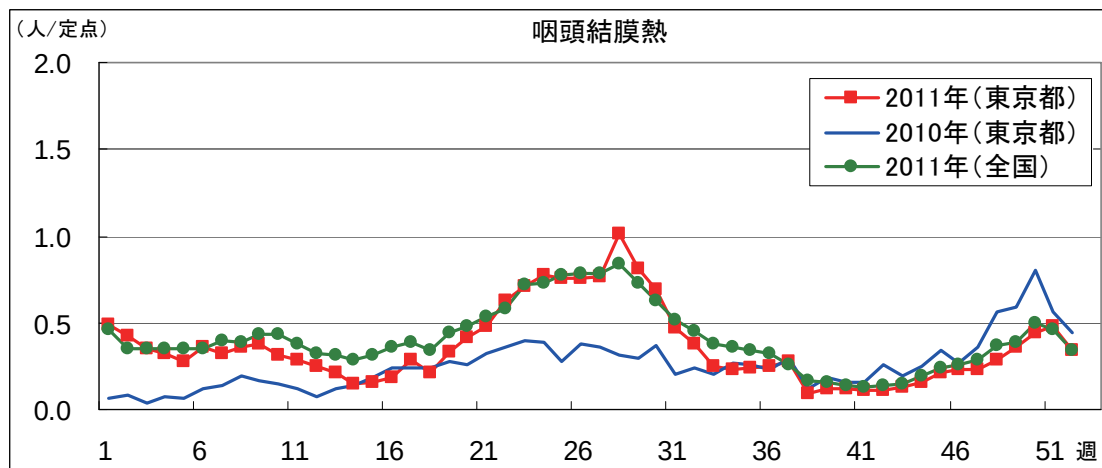
イ RSウイルス感染症

2011年の報告数は3,628人で定点当たり13.94人であった。RSウイルス感染症は2003年11月より五類定点把握対象疾患となり調査が開始された。2011年の報告数は定点当たりでは2010年に次ぐ報告数となっている。週別報告数を見ると、定点当たり0.50人以上の報告があるのは、39週～41週(9月26日～10月16日)と49週～51週(12月5日～12月25日)でありピークは39週の0.68人であった。保健所管内別で定点当たり報告数が多いのは、荒川区67.00人、大田区37.60人となっている。年齢階級別で見ると報告数3,628人中、6か月未満が595人、6か月以上12か月未満が903人、1歳代1,327人、2歳代417人で2歳以下で全体の89.4%を占めている。



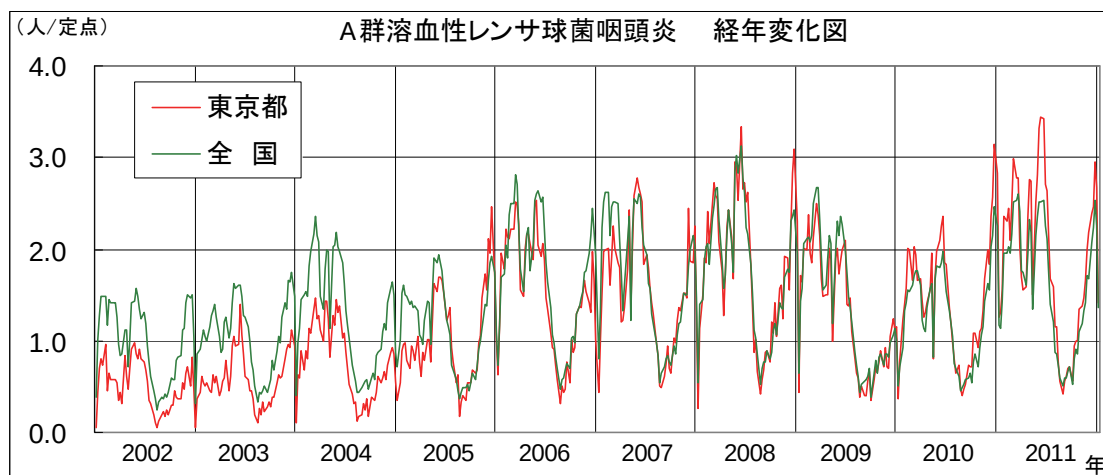
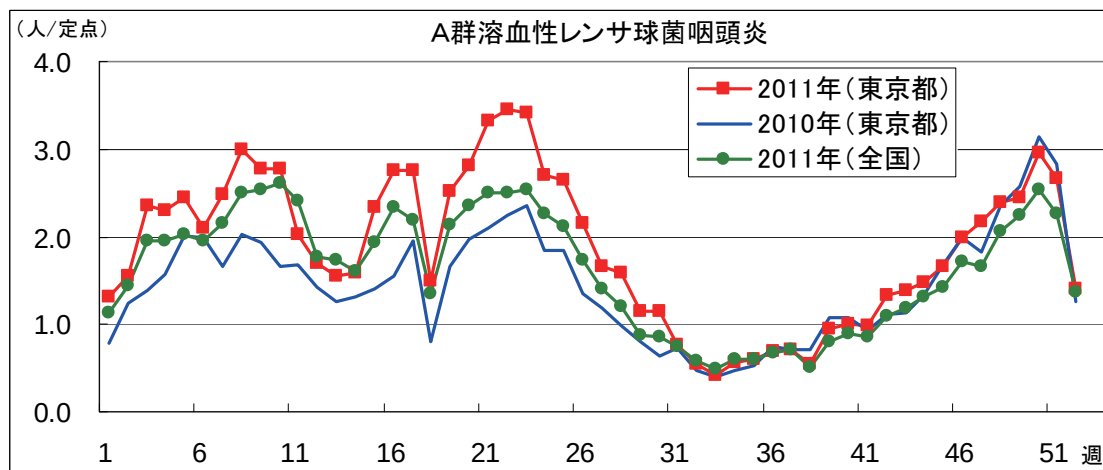
ウ 咽頭結膜熱

2011年の報告数は4,936人で定点当たり18.95人であった。過去10年では4番目の報告数であった。週別報告数で定点当たり0.5人を超えているのは22週～30週(5月30日～7月31日)であり、ピークは28週(7月11日～7月17日)の1.01人であった。保健所別報告数では、定点当たり多摩小平が46.40人、荒川区が42.25人と多くなっている。年齢階級別では、1歳代にピークがあり5歳以下で全報告数の81.3%を占めており前年と同様である。



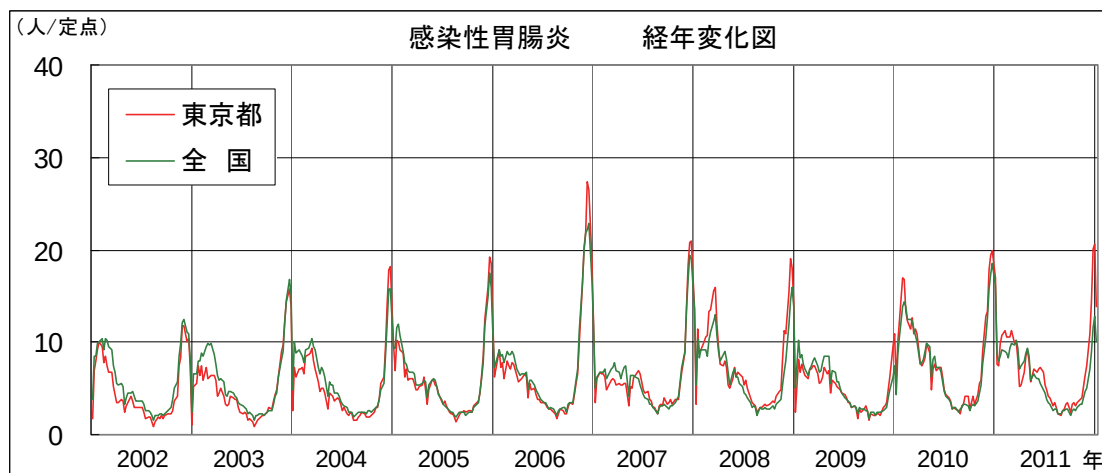
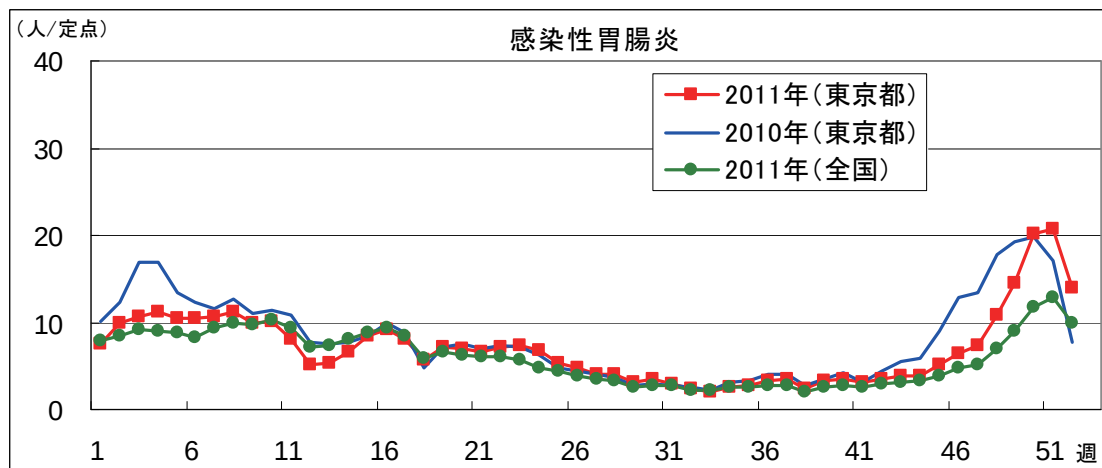
エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2011年の報告数は25,487人で定点当たり97.66人となっており、過去10年で最多の報告数となっている。週別報告数では、21週～23週(5月23日～6月12日)で定点当たり3.00人を超えており、ピークは22週(5月30日～6月5日)の定点当たり3.45人であった。保健所別では定点当たり町田市が265.00人、八王子市が202.55人と前年と同様に多く報告されている。年齢階級別報告数では、5歳代の3,637人をピークに4歳代から7歳代で全報告数の53.0%を占めている。



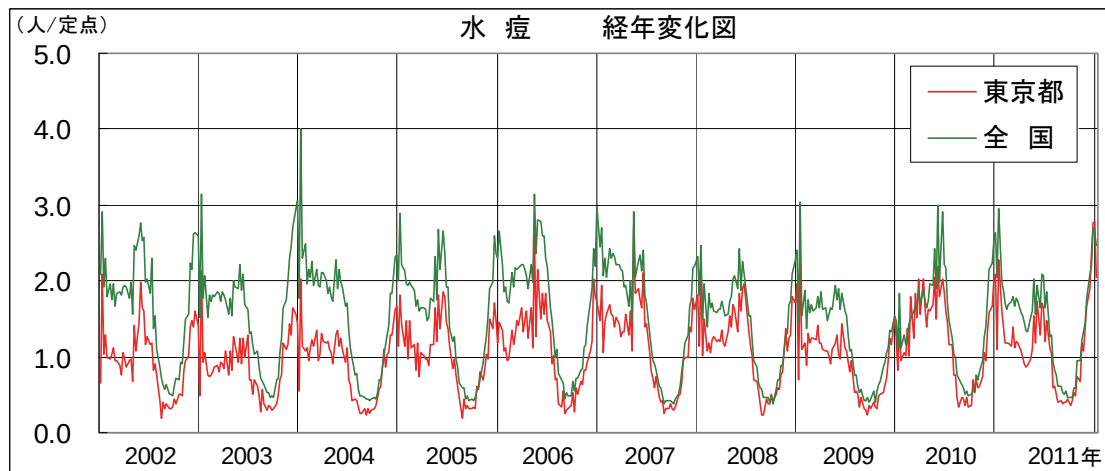
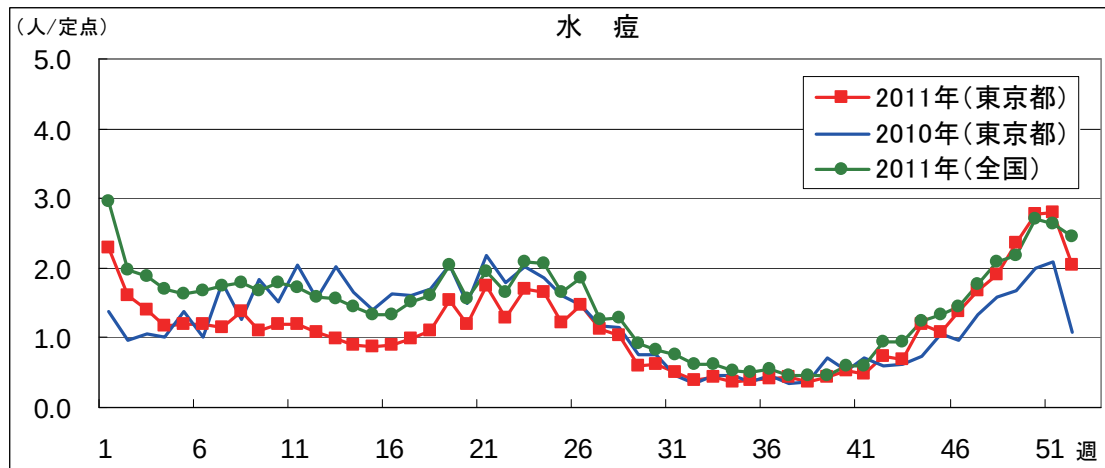
オ 感染性胃腸炎

2011年の報告数は95,910人で定点当たり367.56人であった。過去10年では3番目に多い報告数となっている。週別報告数では50週～51週(12月12日～12月25日)に定点当たり20.00人を超えており、ピークは51週(12月19日～12月25日)の定点当たり20.66人であった。保健所別では定点当たり江東区が658.89人、八王子市が622.00人、町田市が604.25人と前年と同様に多く報告されている。また年齢階級別報告数では前年と同様に1歳代にピークがみられた。



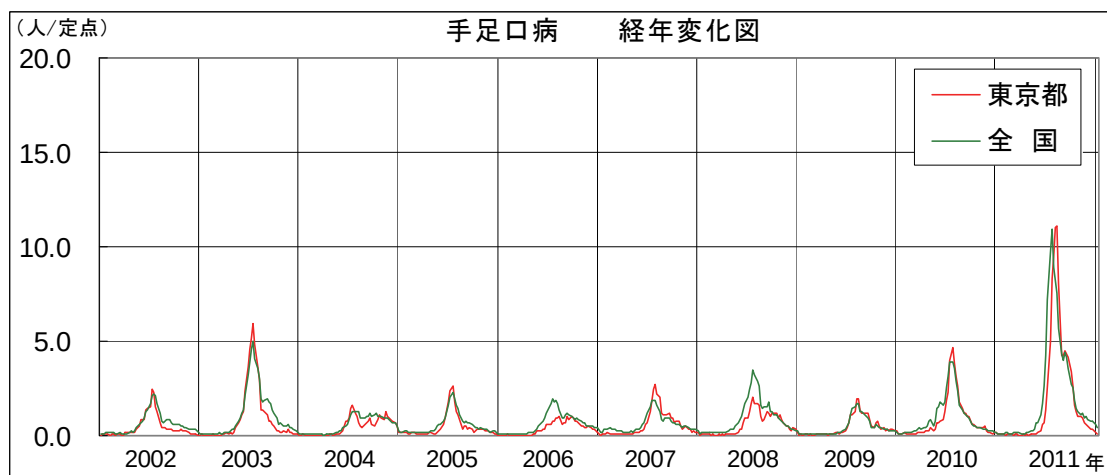
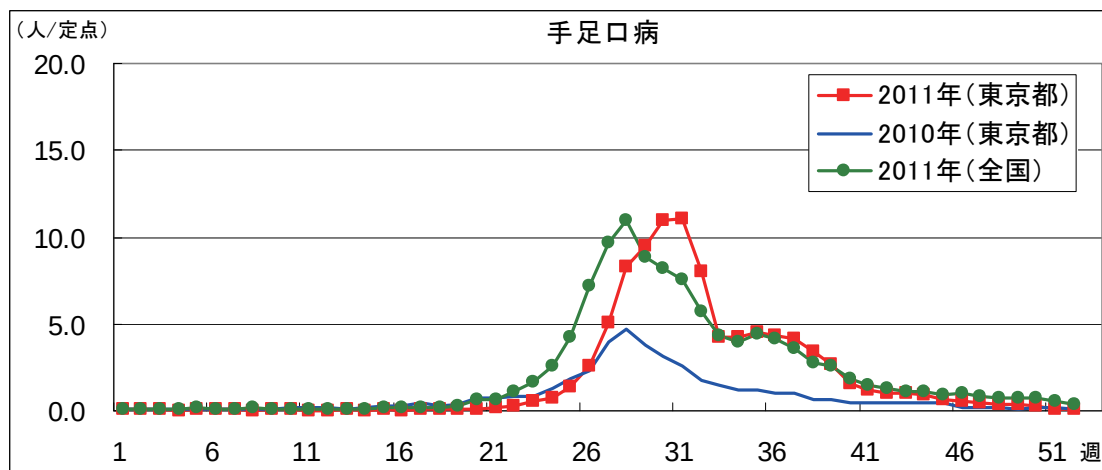
カ 水 痘

2011年の報告数は15,679人、定点当たり60.11人で過去10年では3番目の報告数であった。週別報告数で定点当たり2.00人を超えているのは1週(1月3日～1月9日)及び49週～52週(12月5日～1月1日)でありピークは51週(12月19日～12月25日)の2.79人であった。保健所別定点当たり報告数は、町田市が145.75人、八王子市が99.27人と前年と同様に多く報告されている。年齢階級別報告数では、3歳代の2,593人が最も多く、1歳代～5歳代で75.0%を占めている。



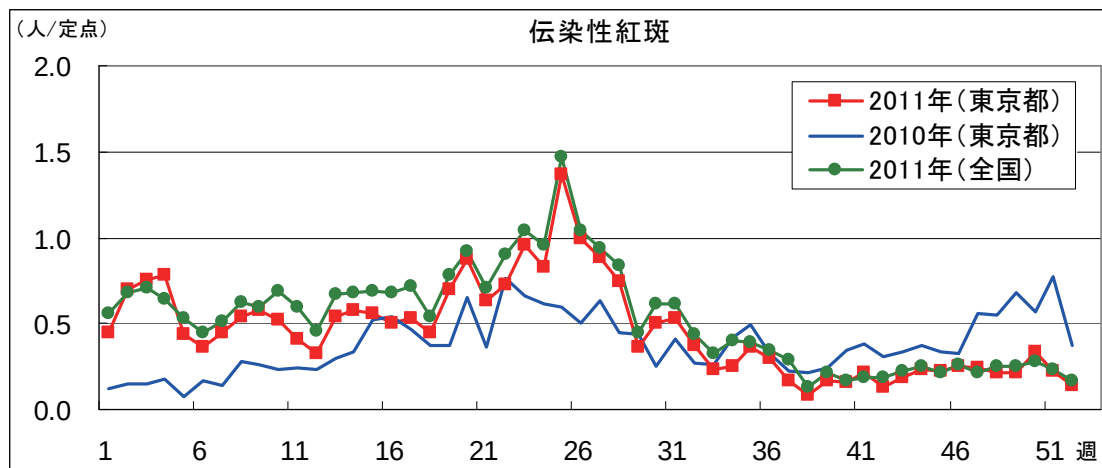
キ 手足口病

2011年の報告数は24,786人で定点当たり95.84人で過去10年で最も多い報告数であった。週別報告数では定点当たり5.00人を超えているのは27週～32週(7月4日～8月14日)でありピークは31週(8月1日～8月7日)の11.07人であった。非常に大きな流行の年となった。保健所別定点当たり報告数は、八王子市190.73人、南多摩162.91人、江東区161.78人などが多くなっている。年齢階級別報告数は1歳代が7,214人と最多である。



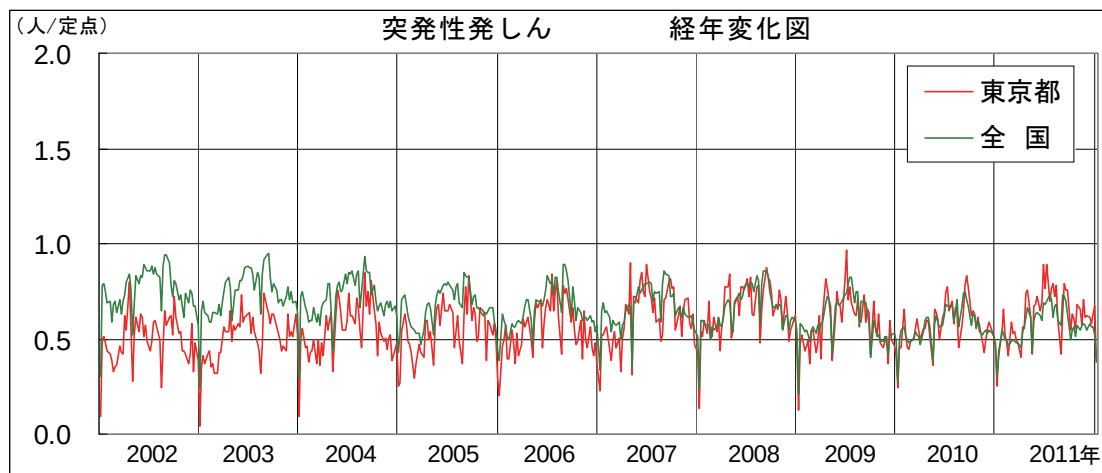
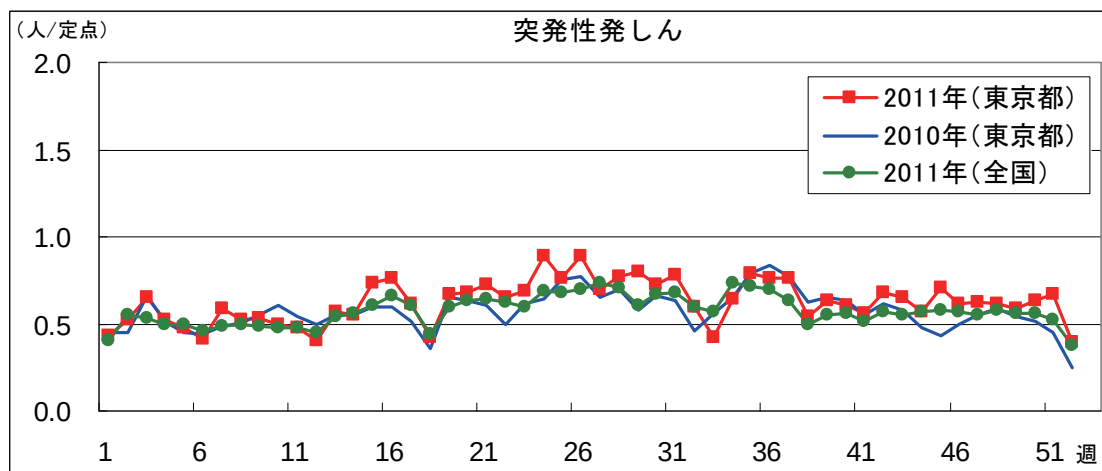
ク 伝染性紅斑

2011年の報告数は6,317人で定点当たり24.23人であった。過去10年で定点当たり最も多い報告数であった。週別定点当たりの報告数では、25週～26週(6月20日～7月3日)で1.00人を超えており、ピークは25週(6月20日～6月26日)の1.37人となっている。保健所別定点当たり報告数では八王子市が45.36人と最多であった。年齢階級別報告数では5歳代が1,032人、4歳代が1,009人と多く、4～5歳代で全体の32.3%を占めている。



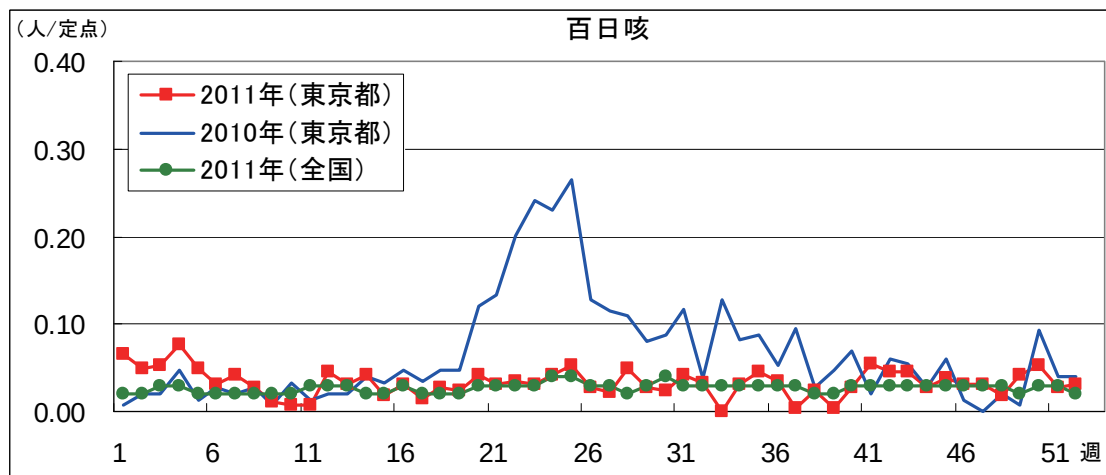
ケ 突発性発しん

2011年の報告数は8,447人で、定点当たり32.44人であった。経年的な推移では定点当たりの報告数の変動は少ないが、過去10年では2番目に多い報告数であった。週別定点当たりの報告数では、24週～31週(6月13日～8月7日)にかけて0.70人を超えるゆるやかなピークが見られるが例年どおり季節変動は少ない。保健所別定点当たり報告数では、荒川区で52.25人、八王子市で50.91人と報告数が多くなっている。年齢階級別報告数では、8,447人中1歳代が4,114人、6～11か月が3,314人で両方で87.9%を占めている。



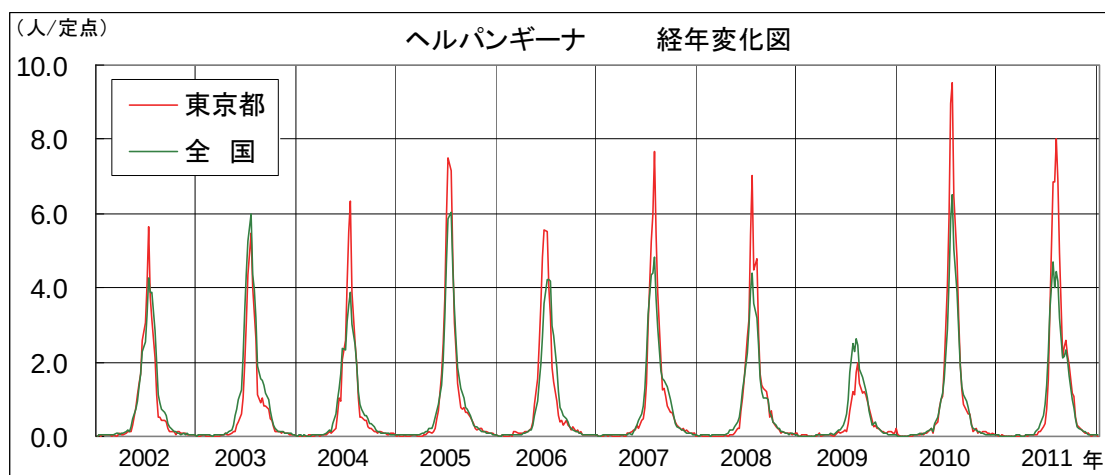
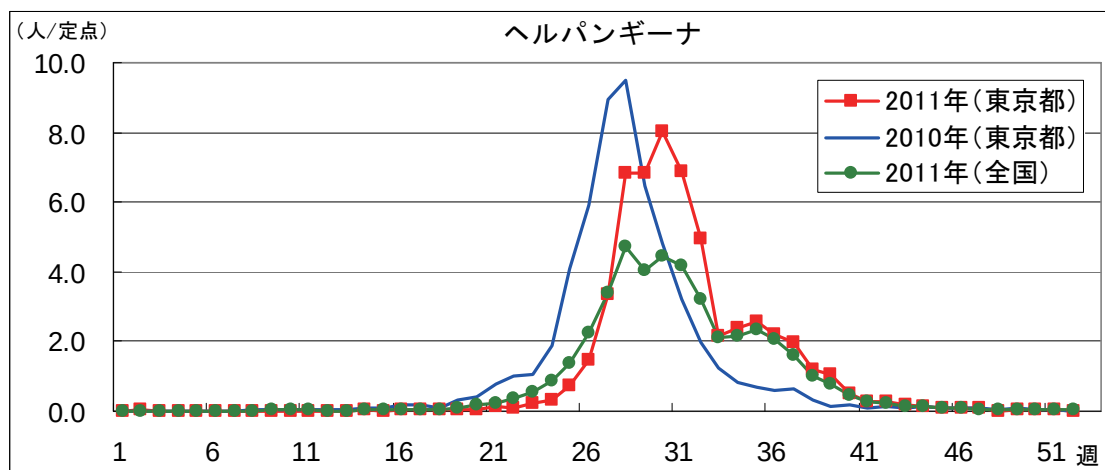
コ 百日咳

2011 年の報告数は 450 人、定点当たり 1.73 人で過去 10 年では 3 番目に多い報告数であった。前年は定点当たり 3.42 人と過去 10 年では最多であったが、2011 年は半減している。週別定点当たり報告数では 4 週(1 月 24 日～1 月 30 日)が 0.08 人と最多であるが季節変動ははっきりしない。保健所別定点当たり報告数では荒川区が 12.50 人と突出して多くなっている。年齢階級別では、0～4 歳 124 人、5～9 歳 58 人、10～14 歳 47 人、15～19 歳 16 人、20 歳以上 205 人となっている。



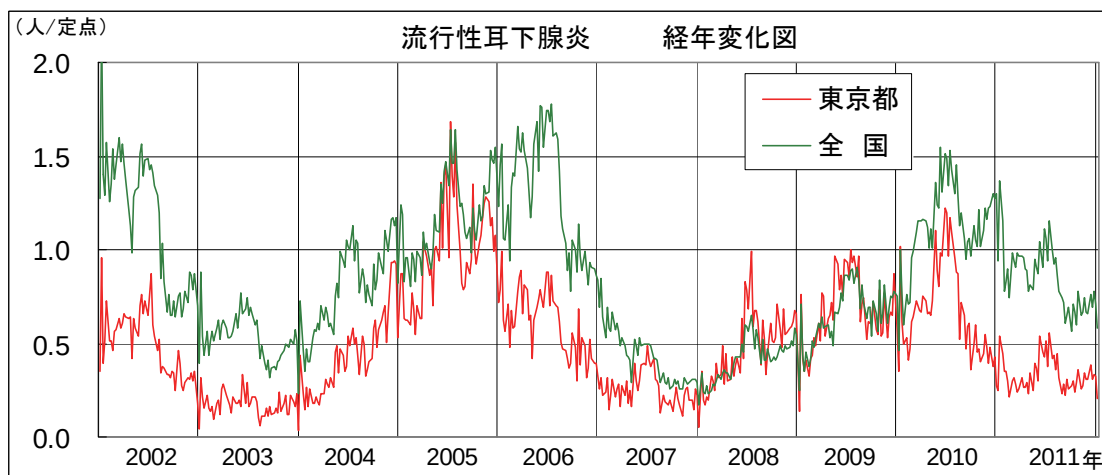
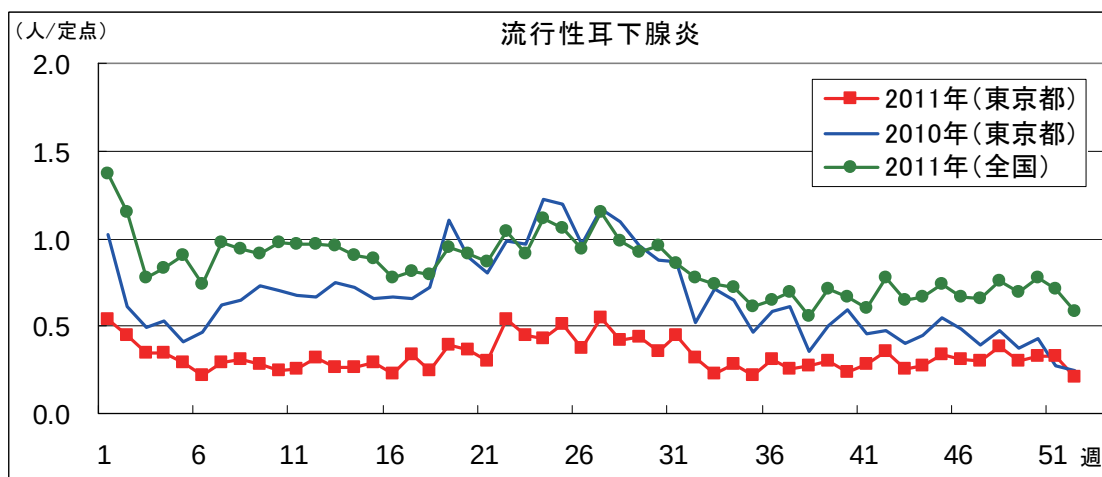
サ ヘルパンギーナ

2011年の報告数は14,431人、定点当たり55.78人であり、過去10年では前年に次いで2番目に多い報告数となっている。週別定点当たり報告数は、27週～32週(7月4日～8月14日)で3.00人を超え、30週(7月25日～7月31日)が8.03人とピークになっている。保健所別定点当たり報告数では、荒川区143.25人、江戸川112.90人、町田市103.25人、足立102.41人が多かった。年齢階級別では、14,431人中1～3歳が8,310人と57.6%を占めている。



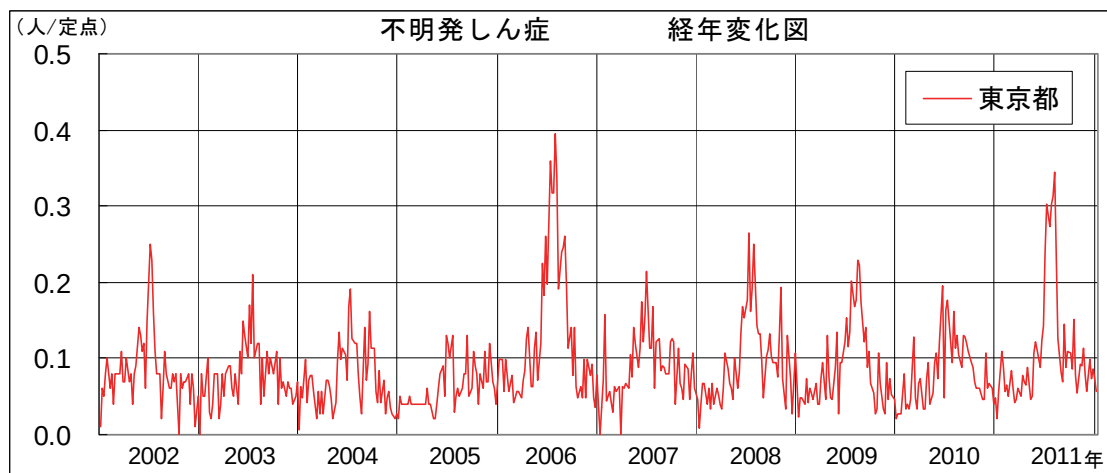
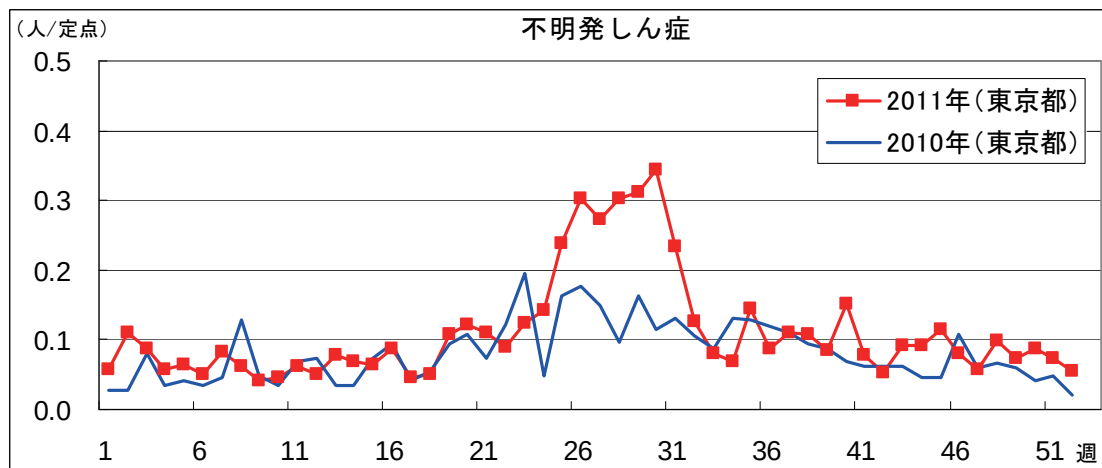
シ 流行性耳下腺炎

2011年の報告数は4,488人で、定点当たり17.23人であった。過去10年では3番目に少ない報告となった。週別定点当たり報告数は、1週(1月3日～1月9日)に0.54人、22週(5月30日～6月5日)に0.54人、25週(6月20日～6月26日)に0.51人、27週(7月4日～7月10日)に0.55人とそれぞれ0.50人を超えているが季節変動ははっきりしていない。保健所別定点当たり報告数では南多摩42.84人、八王子市35.64人と多くなっている。年齢階級別報告数では4歳代が756人と最も多く6歳以下で3,051人と全報告数の68.0%を占めている。



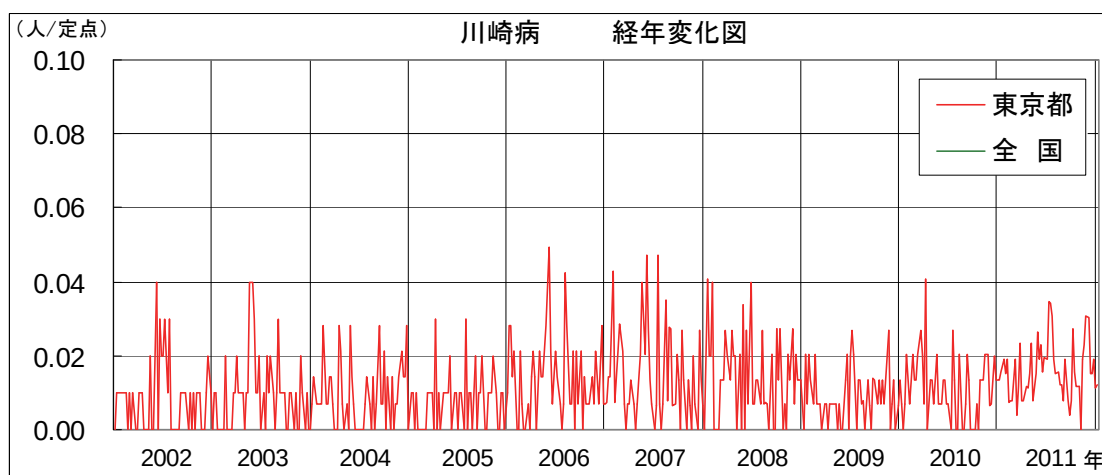
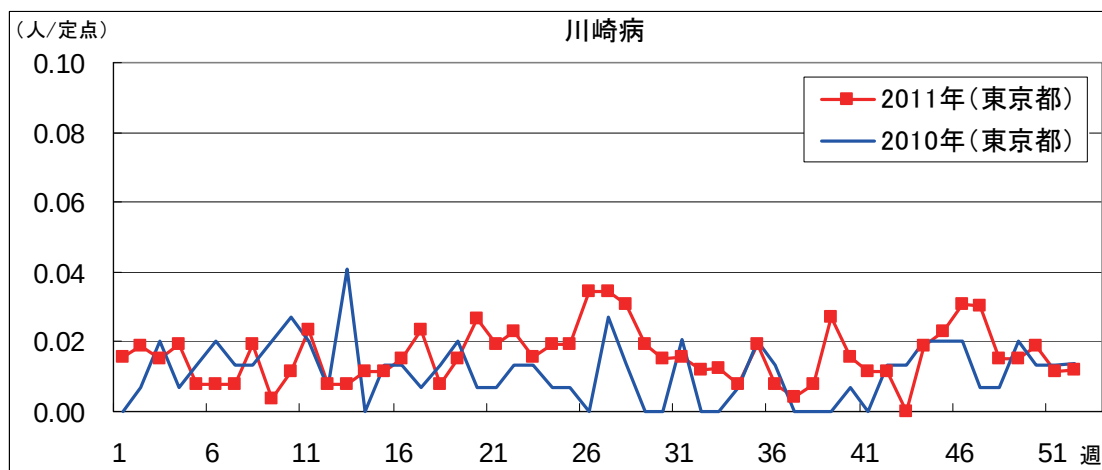
ス 不明発しん症

2011 年の報告数は 1,506 人、定点当たり 5.78 人で過去 10 年では 2 番目に多い報告数であった。週別定点当たり報告数は 25 週～31 週(6 月 20 日～8 月 7 日)に 0.20 人を超え、30 週(7 月 25 日～7 月 31 日)が 0.34 人とピークとなった。保健所別定点当たり報告数では、町田市 18.00 人、荒川区 14.25 人、墨田区 10.40 人が多かった。年齢階級別報告数では、1 歳代が 506 人と最も多く、3 歳以下が 1,174 人と全報告の 78.0%を占めている。



セ 川崎病

2011 年の報告数は 217 人で、定点当たり 0.83 人で過去 10 年で最多の報告数であった。週別定点当たり報告数は 0～0.03 人であり季節変動は不明である。保健所別定点当たり報告数では、千代田 5.00 人、荒川区 4.75 人、多摩小平 2.27 人が多かった。年齢階級別報告数では、1 歳代が 61 人と最も多く、4 歳以下で 192 人と全体の 88.5%を占めている。



(3)眼科疾患

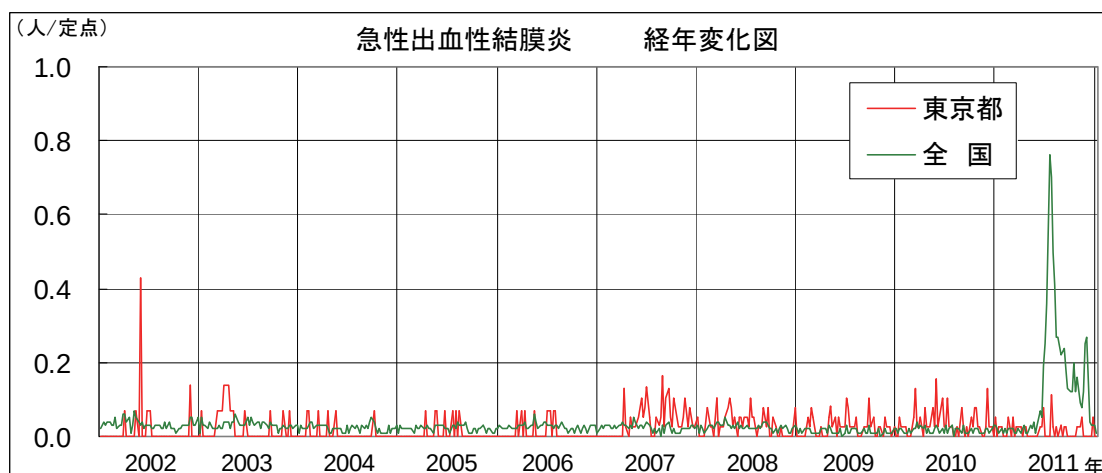
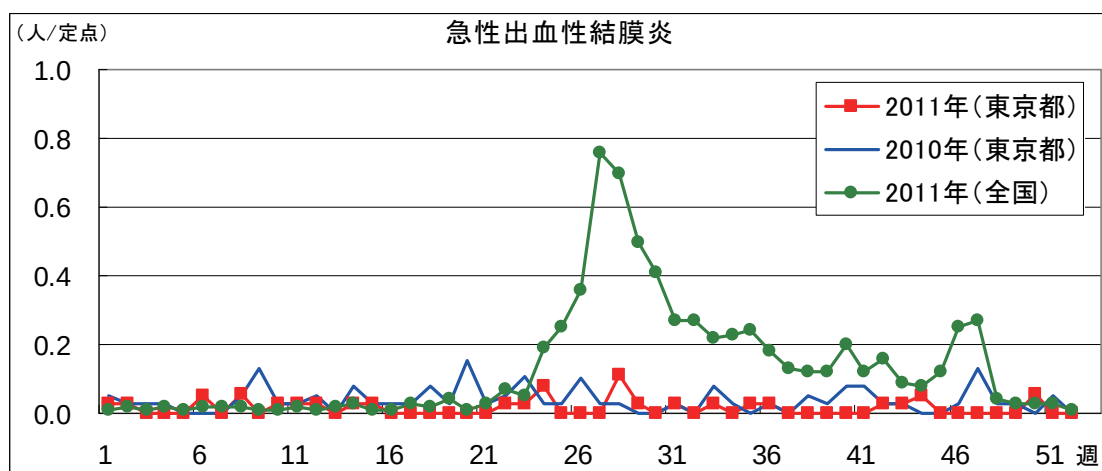
ア 急性出血性結膜炎

2011年の報告数は31人、定点当たり0.84人であった。眼科定点が増加した2007年以降で最少だった。

患者発生数の推移にはあまり特徴がなく、24週(6月13日～19日)に3人、28週(7月11日～17日)に4人発生した以外は各週2人以下であり、年間30週は発生がみられず、定点当たりでは平均0.02人であった。全国的には24週(6月13日～19日)以降増加したものの、東京都は全国の発生動向と状況を異にした。

保健所別定点当たり報告数では足立が6.00人と突出しており、次いで世田谷3.50人、葛飾区2.00人が多かった。眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは6医療圏で、区東北部圏が突出して多かった。

報告年齢は分散していたが、20歳以上の成人が18人と全体の58.1%を占め、特に30歳台で6人の発生がみられた。



イ 流行性角結膜炎

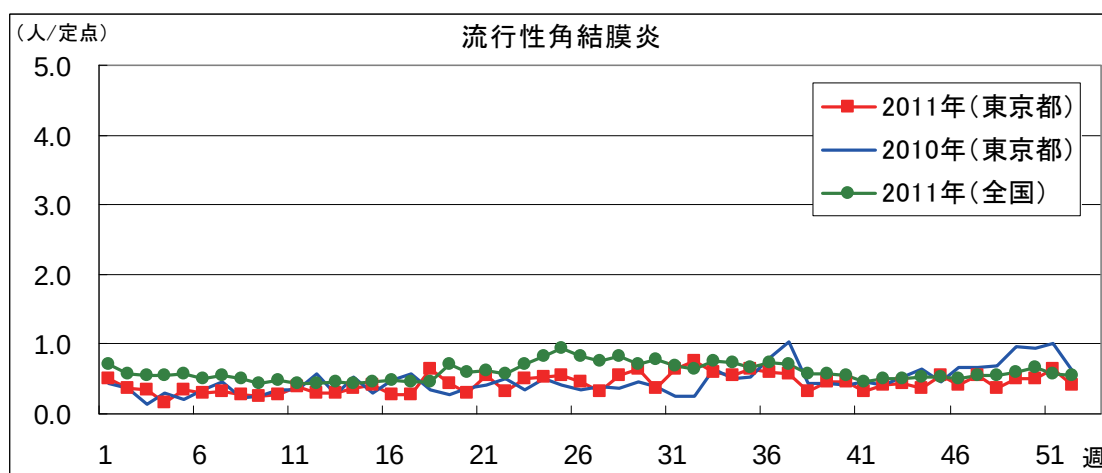
2011 年の報告数は 842 人、定点当たり 22.73 人であった。昨年の 951 人、定点当たり 24.60 人より減少したが、過去 5 年間でほぼ同等であった。

患者発生数は 6 月から 9 月にかけてわずかにゆるやかなピークを認めるものの、年間を通じて週 6～26 人の発生であった。週別定点当たり報告数では 0.16～0.76 人となり、平均 0.43 人と通年にわたり散発していた。全国と比較すると若干低い水準であった。

保健所別定点当たり報告数では、文京 56.00 人、中央区 48.00 人、葛飾区 41.00 人、新宿区 40.00 人が多く、定点当たり年間 40 人を超えていた。

医療圏別定点当たり報告数では北多摩北部圏 53.00 人、区中央部圏 52.00 人が多かった。

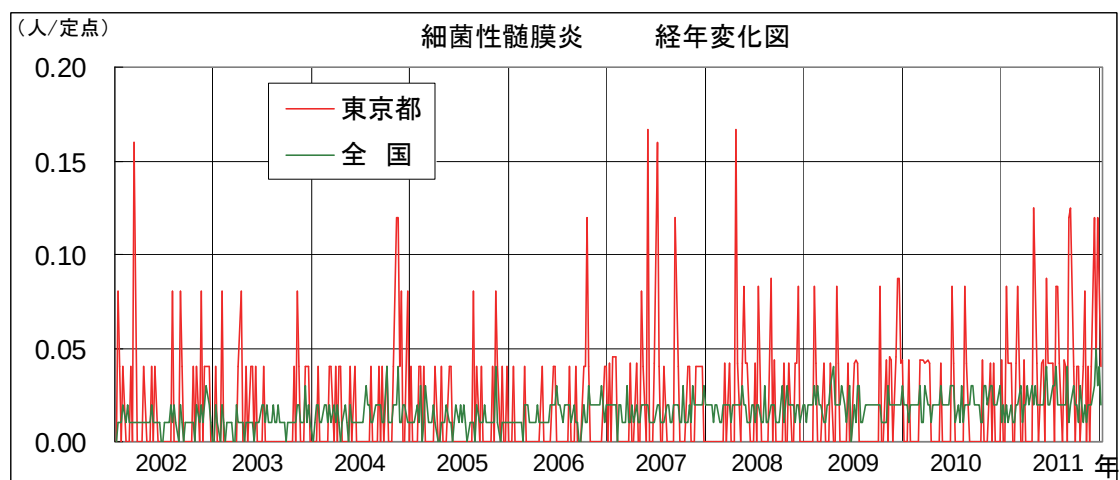
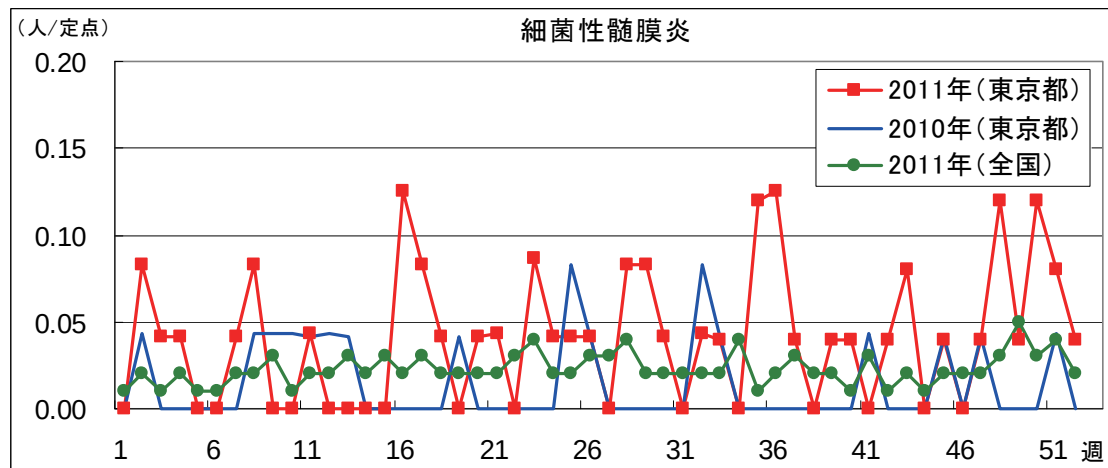
報告年齢は 20 歳から 49 歳が 512 人と 60.8% を占め、20 歳以上の成人が 666 人 (79.1%) であった。10 歳未満は 130 人 (15.4%) で、各年齢層に分散してみられた。



(4) 基幹定点における週報告疾病

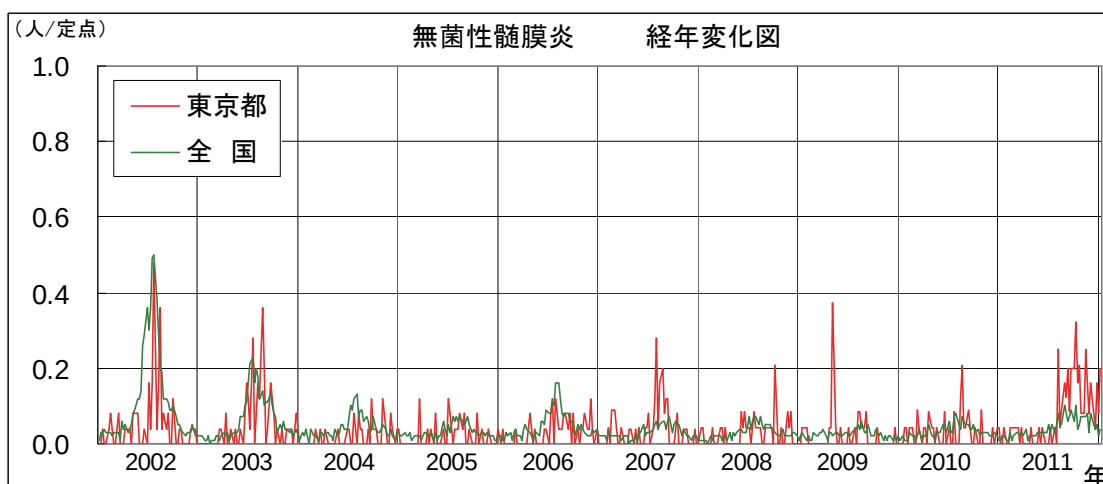
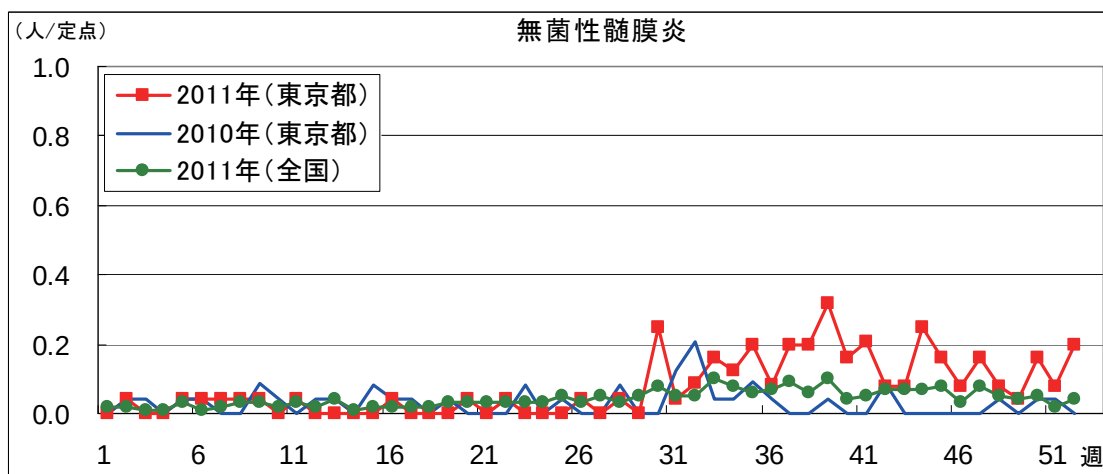
ア 細菌性髄膜炎

2011年の報告数は52人、定点当たり2.14人であり、過去10年で最多の報告数であった。週別定点当たり報告数では季節変動は明らかではない。年齢階級別報告数では1歳未満が17人であり、32.7%を占めている。保健所別定点当たり報告数では多摩府中5.33人が多い。



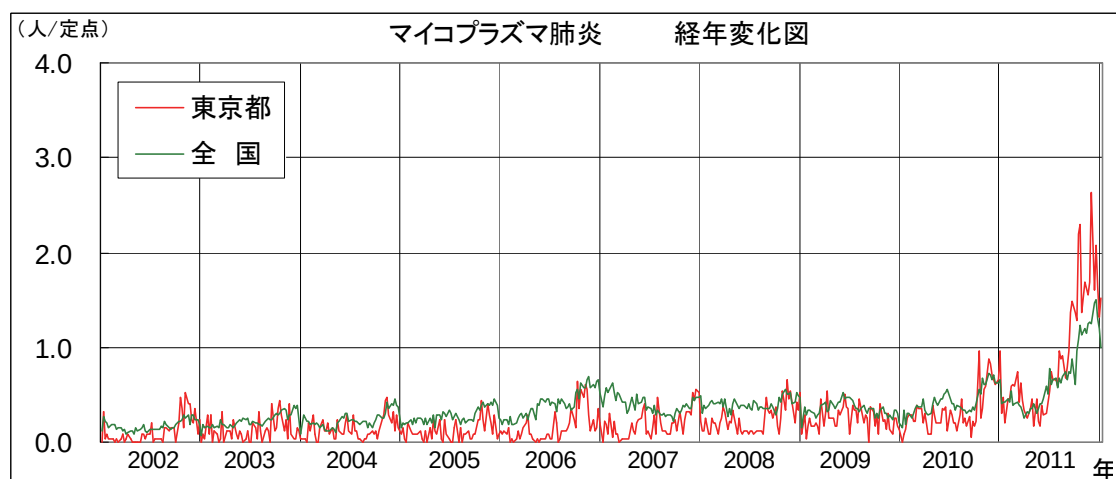
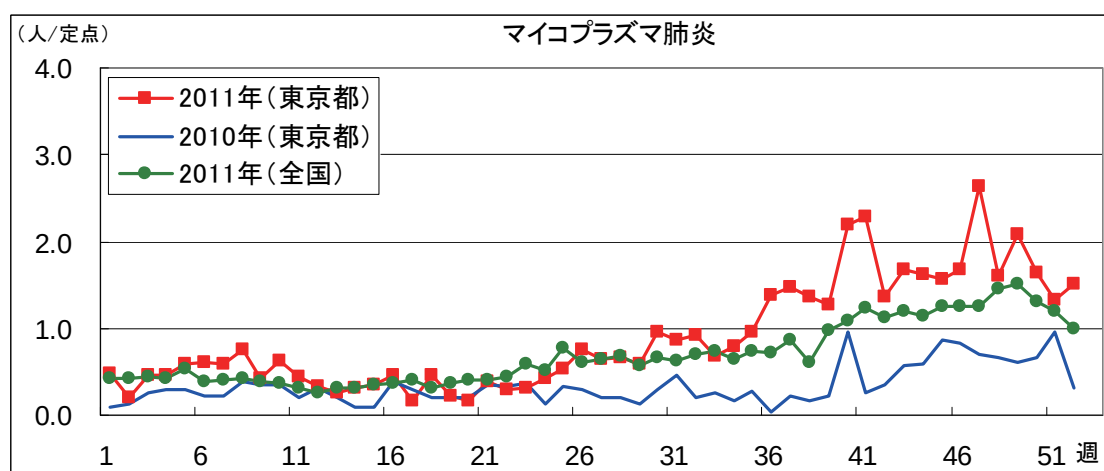
イ 無菌性髄膜炎

2011年の報告数は96人で、定点当たり3.91人であり、過去10年で最多であった。週別定点当たり報告数では39週(9月26日～10月2日)の0.32人が最も多く、次いで30週(7月25日～7月31日)及び44週(10月31日～11月6日)の0.25人であった。年齢階級別報告数では6か月未満16人(16.7%)、6か月～9歳23人(24.0%)、10～19歳19人(19.8%)、20歳以上38人(39.6%)であった。保健所別定点当たり報告数では墨田区が21.00人と最も多かった。



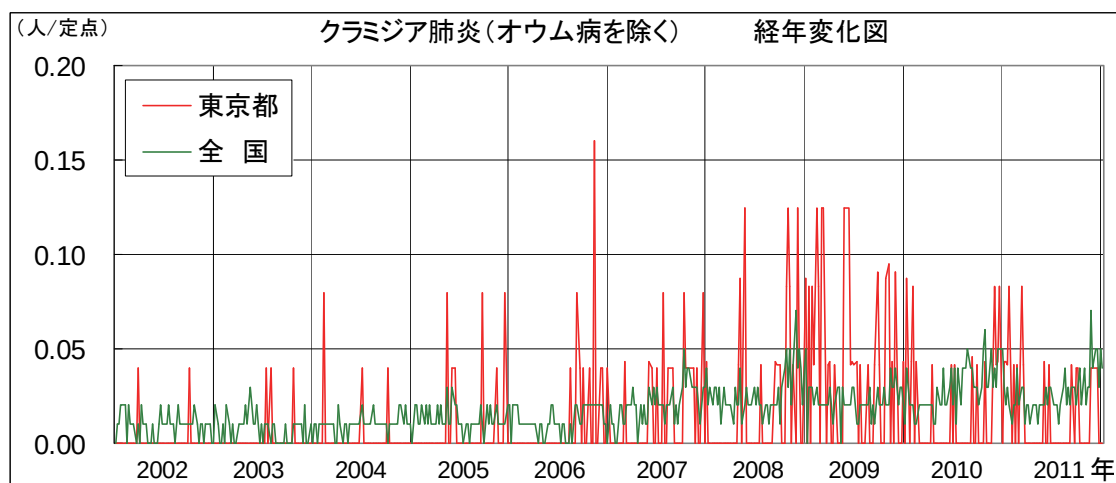
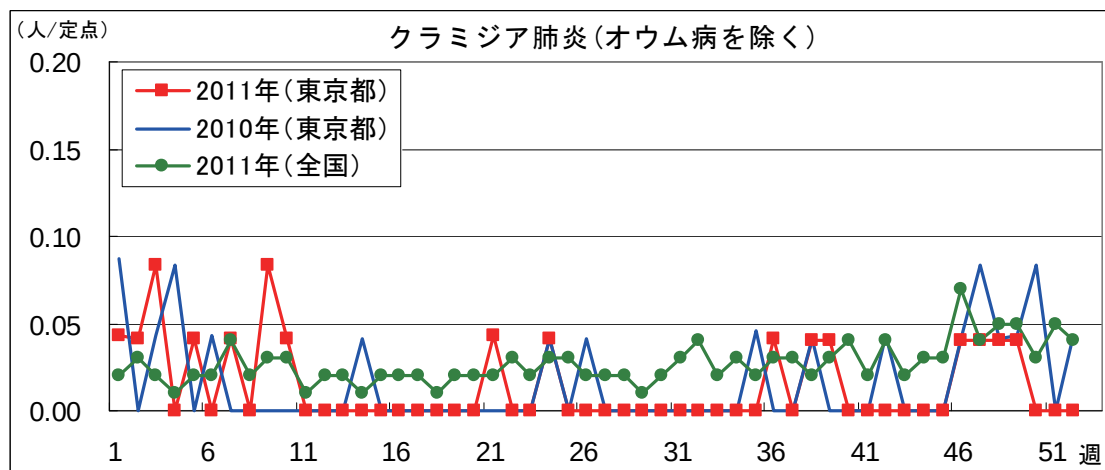
ウ マイコプラズマ肺炎

2011年の報告数は1,143人、定点当たり46.78人であった。2002年から2010年の定点当たり報告数は6.52～17.76人であり、過去10年で最多の報告数であった。週別定点当たり報告数では、36～52週(9月5日～11日)で1.00人を超え、40～41週(10月3日～10月16日)、47週(11月21日～11月27日)、49週(12月5日～12月11日)では2.00人を超えた。年齢階級別報告数では、1～9歳794人(69.5%)、10～19歳229人(20.0%)、20歳以上110人(9.6%)であった。保健所別定点当たり報告数では、葛飾区391.00人、多摩小平111.00人、新宿区88.50人が多かった。



エ クラミジア肺炎(オウム病を除く)

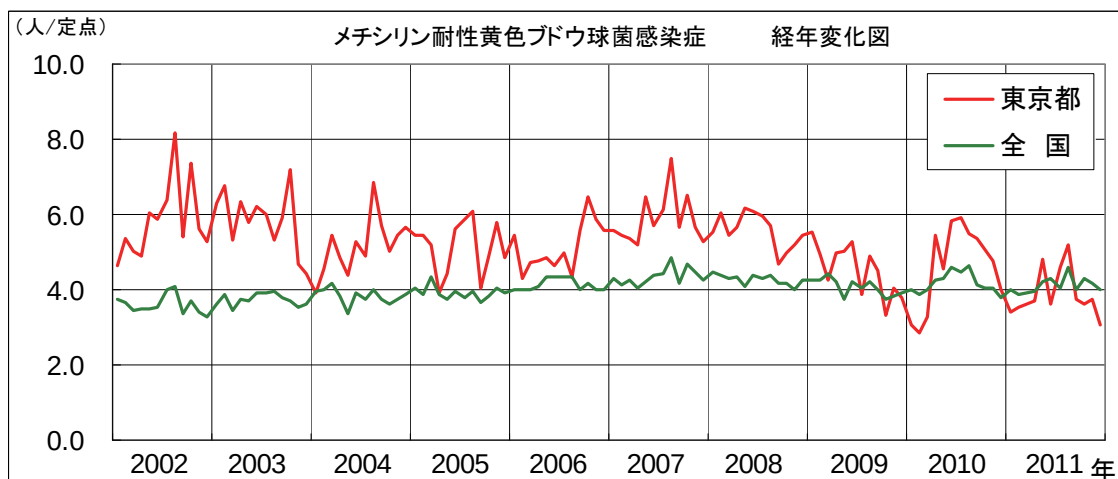
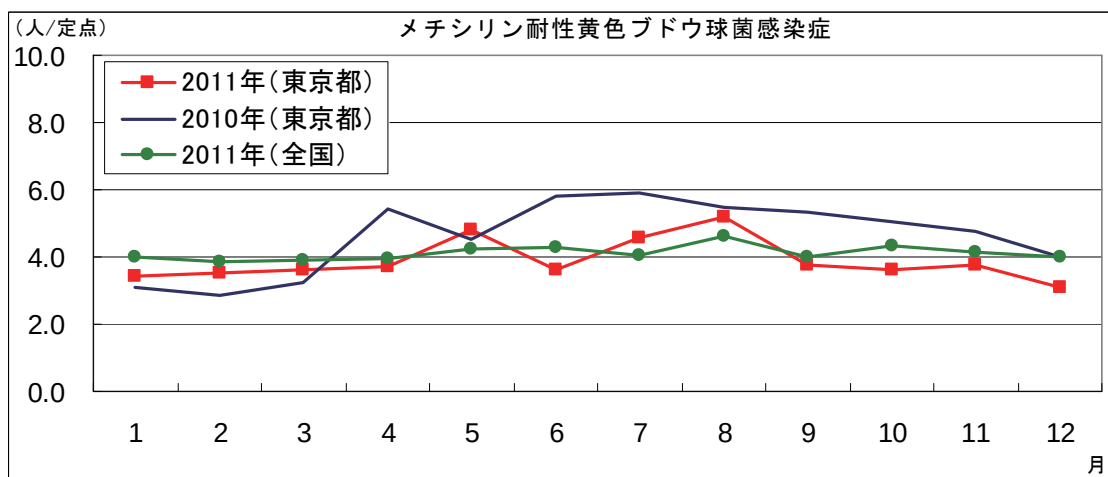
2011 年は 18 人、定点当たり 0.74 人の報告があった。過去 5 年では一番少ない報告数であった。週別の報告数は例数が少ないため季節性ははっきりしないが 18 人中 9 人が 1～10 週(1 月 3 日～3 月 13 日)に報告されている。年齢階級別報告数では、9 歳以下の報告はなかった。保健所別報告数は新宿区 7 人、葛飾区 7 人が多かった。



(5) 基幹定点における月報告疾病

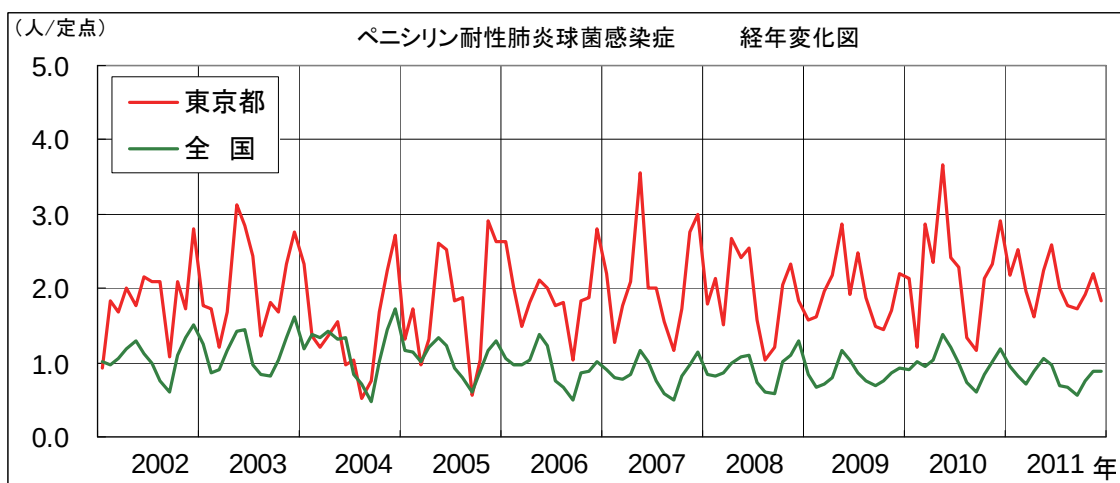
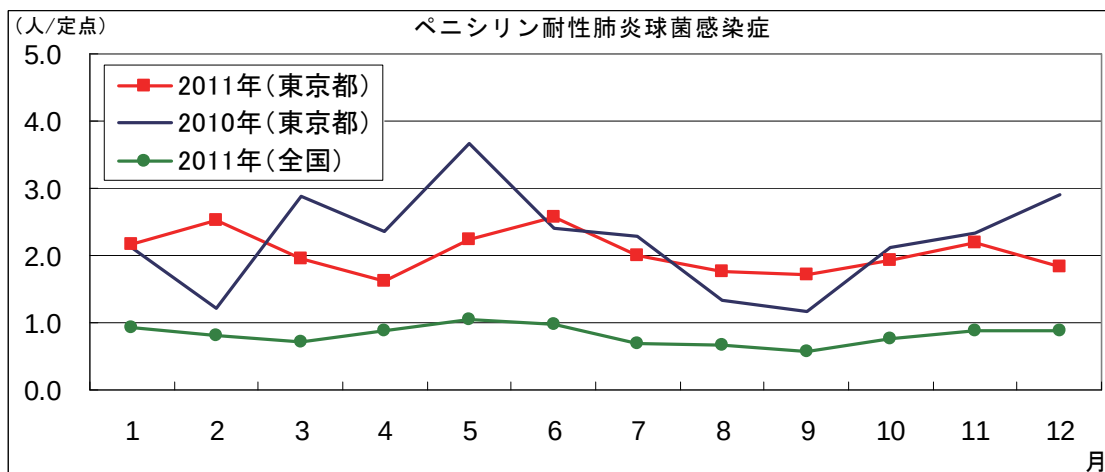
ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2011年の報告数は1,136人、定点当たり46.67人で、過去10年で最も少ない報告数である(過去10年の平均は定点当たり61.98人)。月別定点当たり報告数は8月が最多の5.20人であった。最少は12月の3.08人であったが、季節変動は明確ではない。男女別では男性748人、女性388人で例年と同様男性に多かった。年齢階級別では60歳以上が652人(57.4%)と最も多く、次いで9歳以下が283人(24.9%)であった。



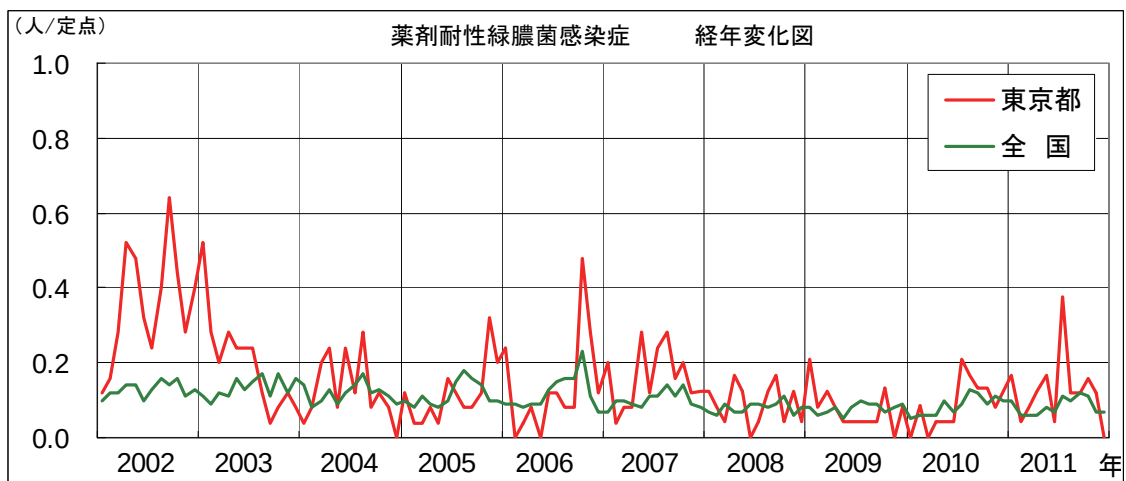
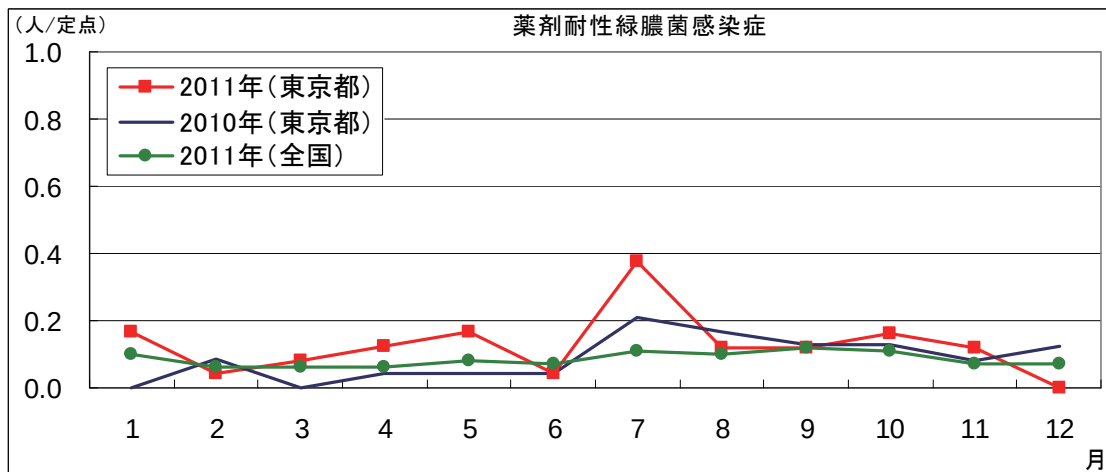
イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2011年の報告数は596人、定点当たり24.55人であり(過去10年の平均23.20人)、過去10年で平均的な報告数であった。月別定点当たり報告数は最多は6月の2.58人、最少は4月の1.63人であり季節変動は少ない。男女別では男性359人、女性237人で男性に多い。年齢階級別では9歳以下が318人(53.4%)で最も多く、次いで60歳以上が209人(35.1%)と多かった。



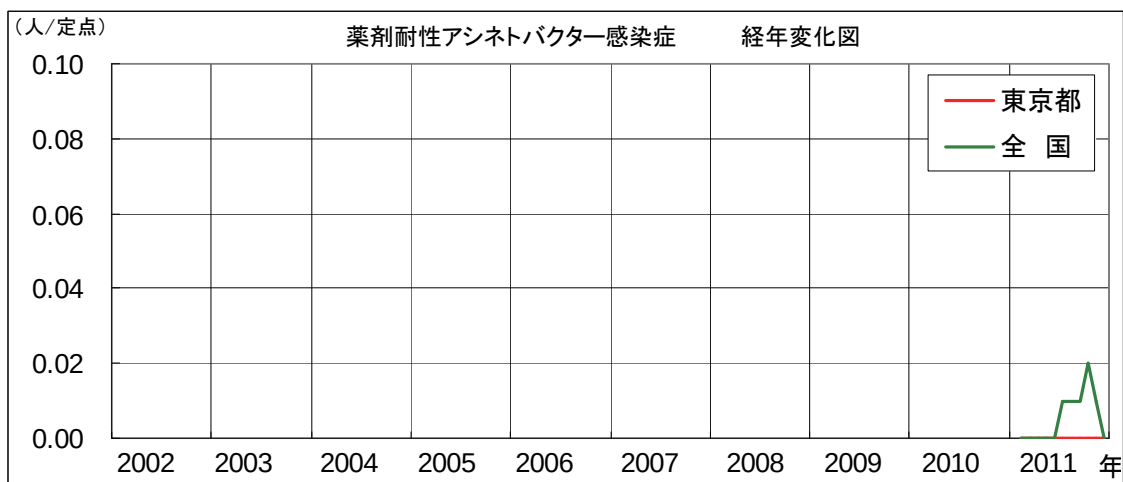
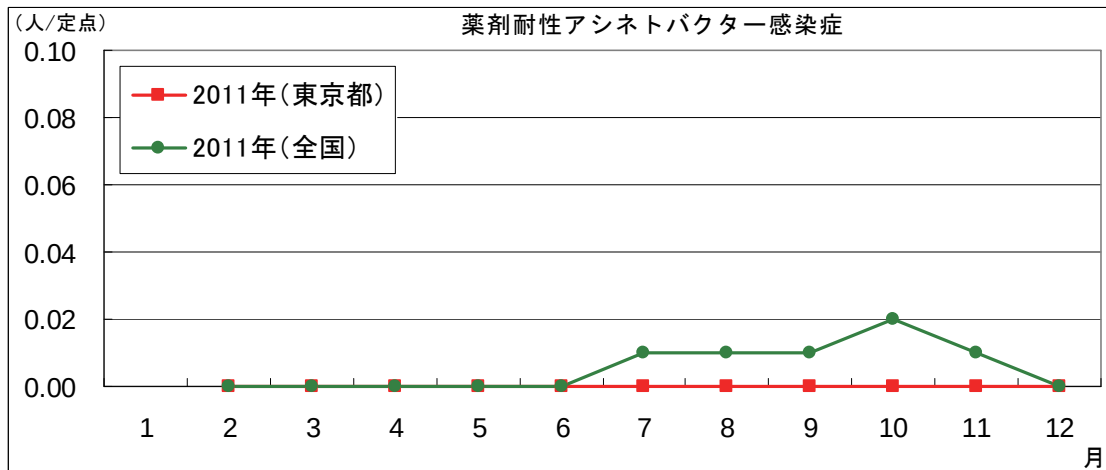
ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2011年の報告数は37人で、定点当たり1.52人(過去10年の平均1.79人)であった。月別定点当たり報告数では7月が0.38人と多かった。男女別では男性24人、女性13人で男性に多い。年齢階級別報告数では60歳以上が29人(78.4%)と多かった。



エ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2011年2月より調査が開始されたが報告例はなかった。



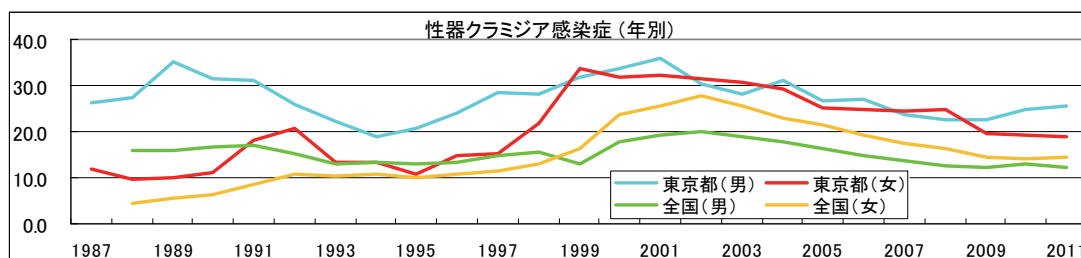
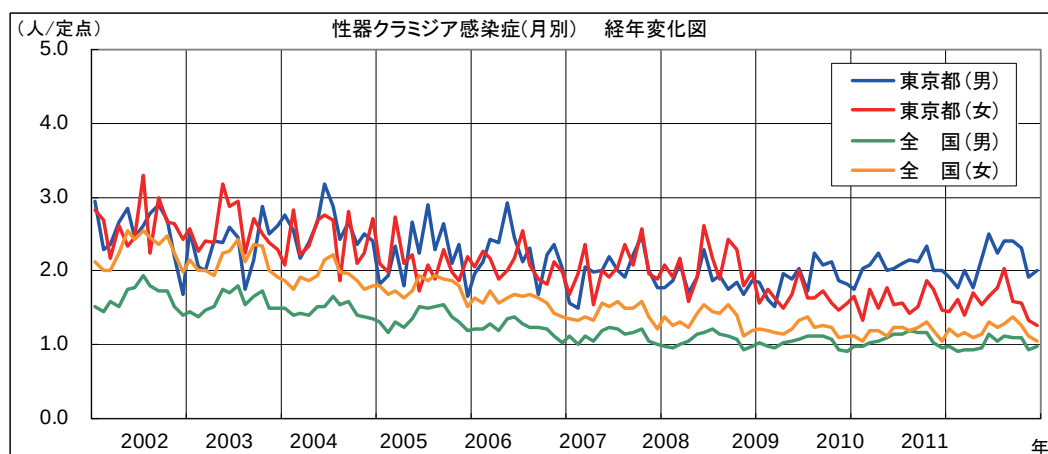
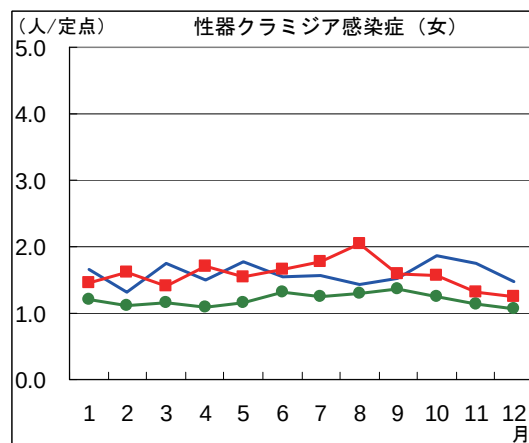
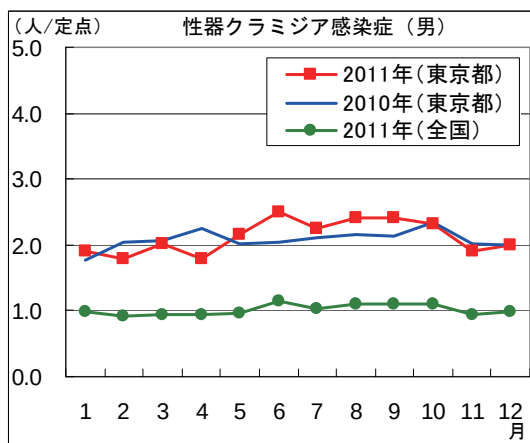
(6) 性感染症 (STI)

ア 性器クラミジア感染症

2011 年の報告数は 2,426 人、定点当たり 44.37 人であった。

男女別では、男性の報告数は 1,390 人、定点当たり 25.43 人（前年比 1.02）、女性の報告数は 1,036 人、定点当たり 18.95 人（前年比 0.99）で男性に多い。男性では、2002 年以降、減少傾向であったものが 2009 年頃よりやや増加傾向に転じている。女性では、過去 10 年の定点当たりの報告数は減少傾向にある。月別定点当たり報告数は男性では 6 月が 2.50 人で最多、2 月と 4 月が 1.78 人で最小、女性では 8 月が 2.04 人で最多、12 月が 1.26 人で最小であった。男女とも季節変動ははっきりしないが、夏場にやや報告数が多い。年齢階級別では、男性では 20～39 歳が 932 人で男性全体の 67.1%を占め、女性では 20～29 歳が 568 人で女性全体の 54.8%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、江東区 67.50 人、文京 57.00 人、女性は、多摩立川 82.50 人、江戸川 50.50 人などが多くなっている。全国では過去 10 年、女性が男性を上回る形で推移してきたが、東京都では男女が拮抗し 2009 年後半以後は男性が女性を上回る状況が続いている。



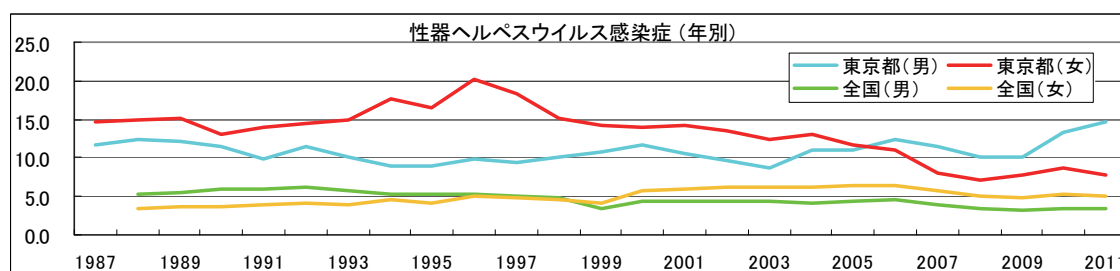
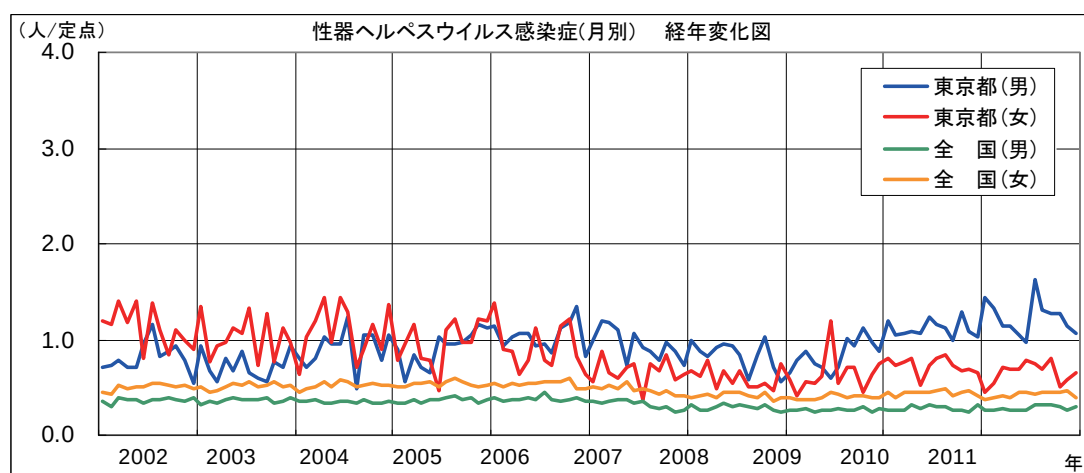
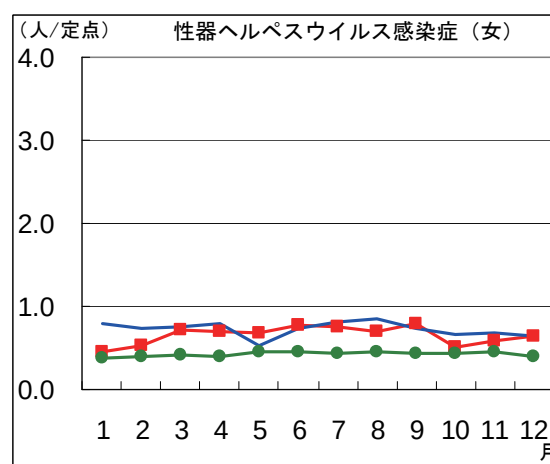
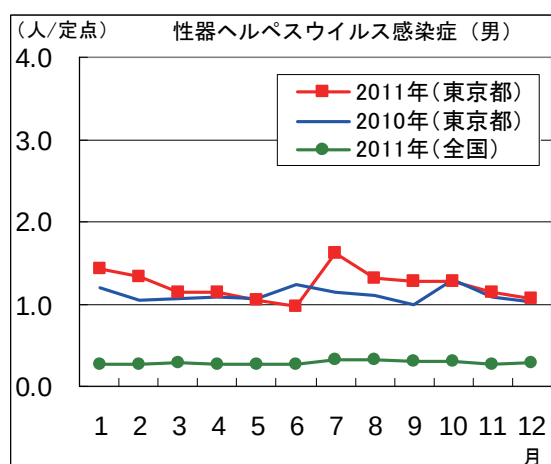
イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2011年の報告数は1,236人、定点当たり22.60人であった。

男女別では、男性の報告数は808人、定点当たり14.77人（前年比1.10）、女性の報告数は428人、定点当たり7.83人（前年比0.90）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は男性では7月が1.62人で最多、6月が0.96人で最小となり、女性では9月が0.80人で最多、1月が0.45人で最小であった。男女とも季節変動ははっきりしないが男性では7月に報告数の増加が見られた。

年齢階級別では、男性では30～49歳が491人で男性全体の60.8%を占め、女性では20～39歳が286人で女性全体の66.8%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、みなと151.50人、江東38.05人、女性は、みなと23.05人、新宿区18.43人などが多くなっている。全国では1999年以後女性が男性を上回り続け、東京都では2005年まで女性が男性を上回り続けたが2006年以後逆転している。



ウ 尖圭コンジローマ

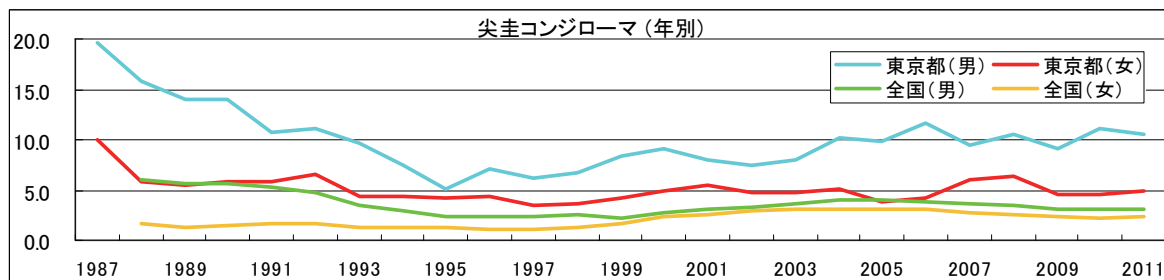
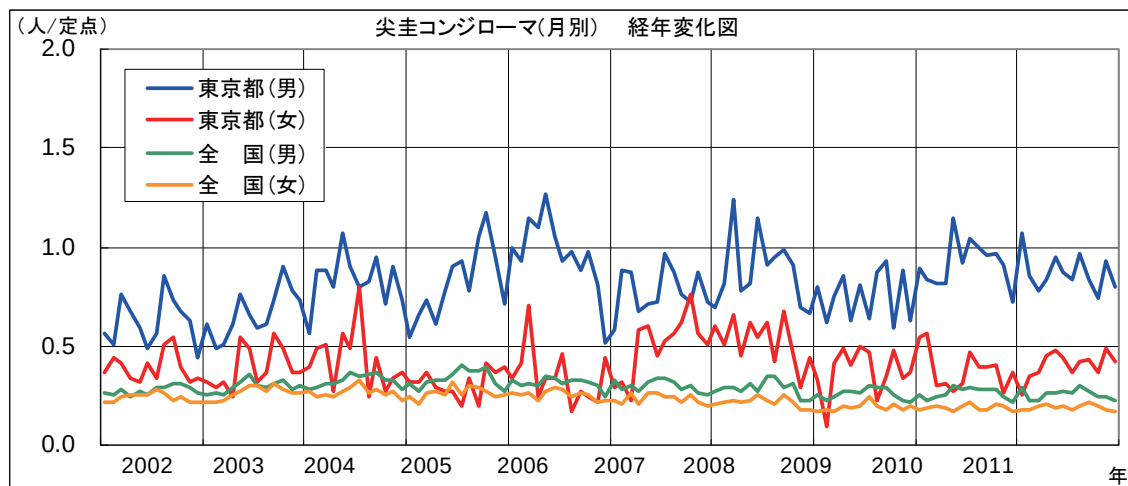
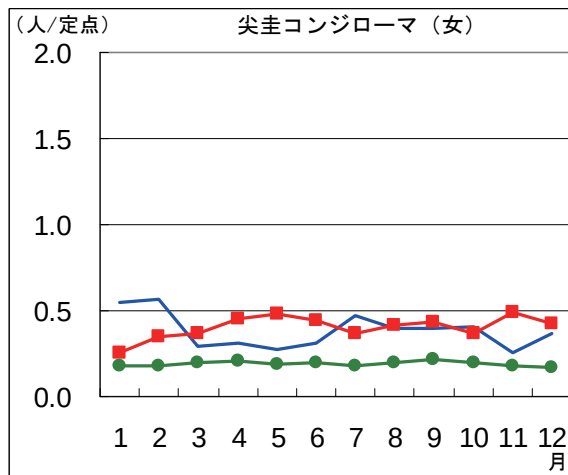
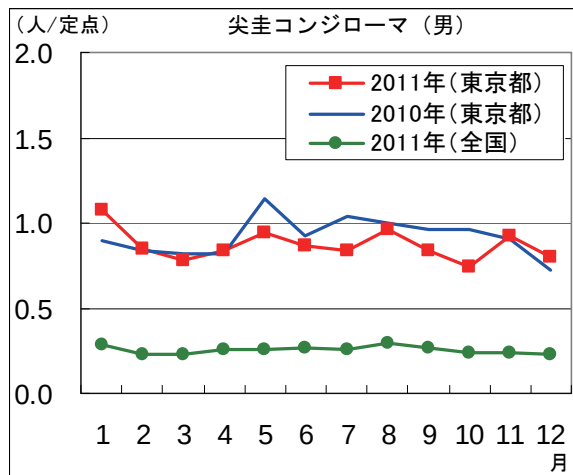
2011年の報告数は837人、定点当たり15.31人であった。

男女別では、男性の報告数は572人、定点当たり10.46人（前年比0.95）、女性の報告数は265人、定点当たり4.85人（前年比1.06）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は男性では1月が1.07人で最多、10月が0.75人で最小、女性では11月が0.49人で最多、1月が0.25人で最小であるが、季節変動ははっきりしない。

年齢階級別では、男性では25～44歳が378人で男性全体の66.1%を占め、女性では20～39歳が219人で女性全体の82.6%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、みなと52.00人、新宿区35.86人、女性は、みなと14.00人、新宿区13.29人などが多くなっている。全国、東京都ともに1980年代から男性が女性を上回り続け、東京都の男女差は全国より大きい状況が続いている。



エ 淋菌感染症

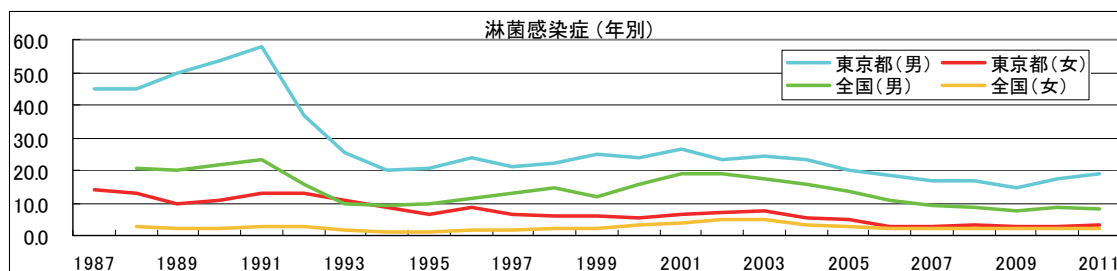
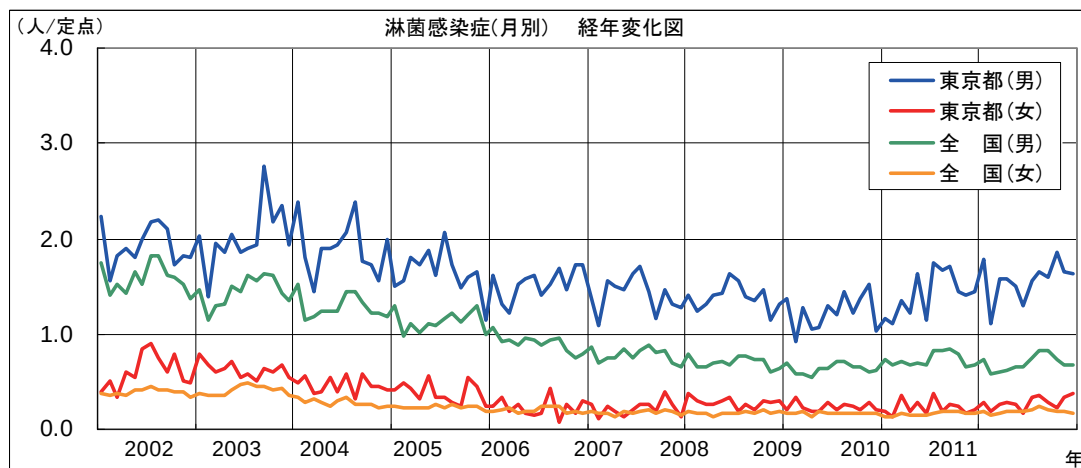
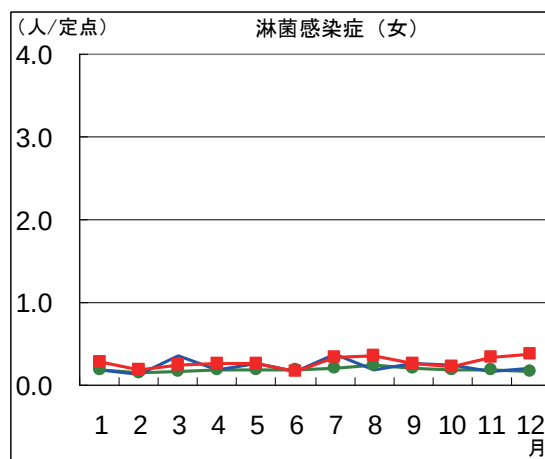
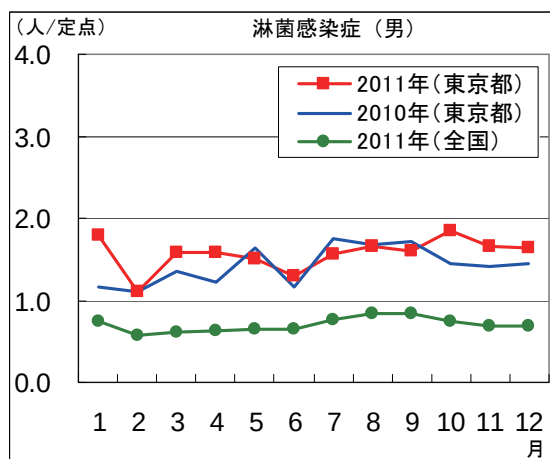
2011 年の報告数は 1,212 人、定点当たり 22.15 人であった。

男女別では、男性の報告数は 1,029 人、定点当たり 18.81 人（前年比 1.10）、女性の報告数は 183 人、定点当たり 3.35 人（前年比 1.23）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は男性では 10 月が 1.85 人で最多、2 月が 1.11 人で最小、女性では 12 月が 0.37 人で最多、6 月が 0.17 人で最小であった。男女とも季節変動ははっきりしないが、男性では 2 月に報告数の減少が見られた。

年齢階級別では、男性では 20～39 歳が 721 人で男性全体の 70.1%を占め、女性では 20～29 歳が 109 人で女性全体の 59.6%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、新宿区 59.71 人、千代田 49.50 人、女性は、多摩立川 11.00 人、池袋 10.00 人などが多くなっている。過去 10 年、国の動向と同様に減少傾向が続いていたが、2009 年以降ゆるやかな増加に転じ、今後の動向に注目を要する。



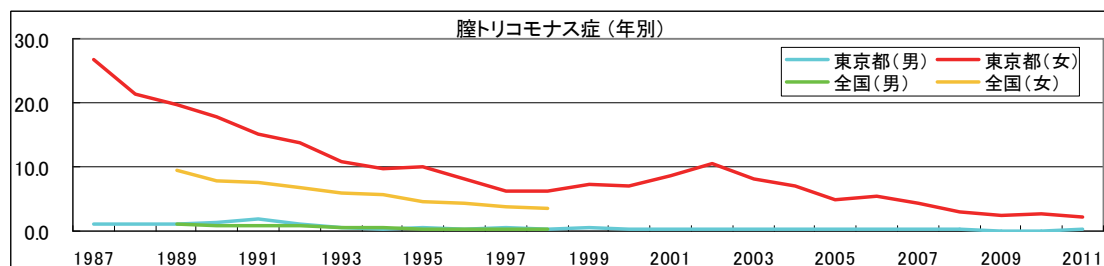
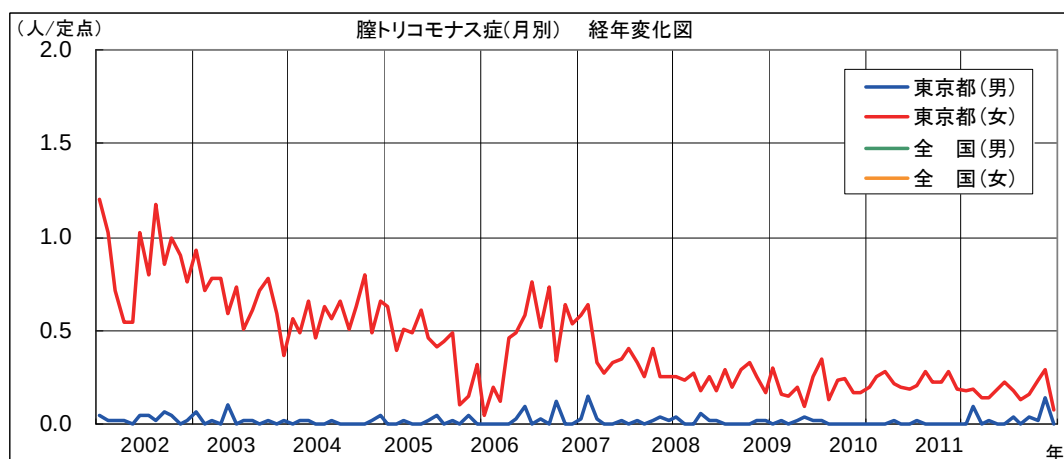
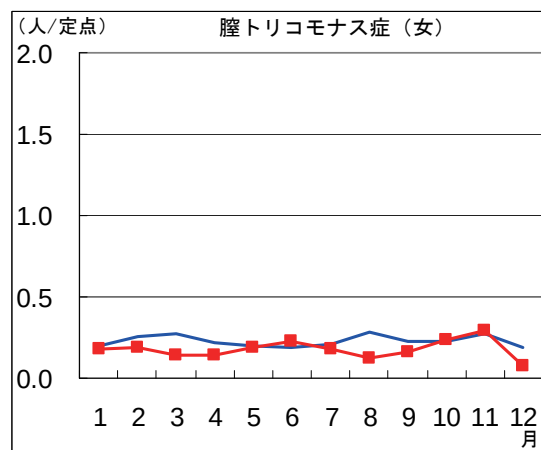
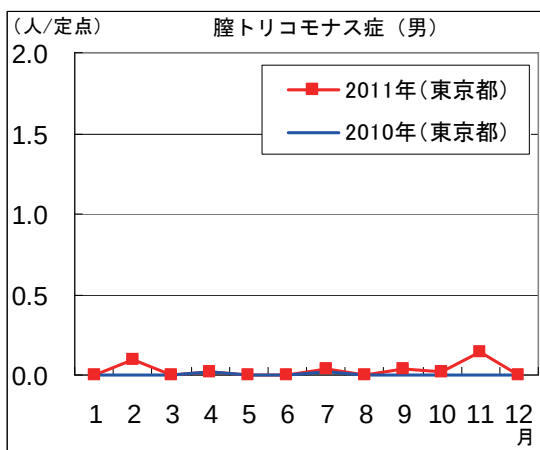
オ 臍トリコモナス症

2011年の報告数は136人、定点当たり2.49人であった。

男女別では、男性の報告数は19人、定点当たり0.35人（前年比9.38）、女性の報告数は117人、定点当たり2.14人（前年比0.78）で女性に多い。男性では1月、3月、5月、6月、8月、12月は報告がなかった。男性の報告数は、前年と比べて大幅に増加した（前年の男性の報告数は2人）が、女性の報告数は前年と比べて減少した。

月別定点当たり報告数は、男性では、報告があった月では11月が0.15人で最大、4月と10月が0.02人で最小、女性では11月の0.29人が最多、12月の0.07人が最小であった。男女とも季節変動ははっきりしないが、女性では12月の報告数は少なかった。年齢階級別では、男性では25～39歳が10人で男性全体の52.6%を占め、女性では20～39歳が72人で女性全体の61.5%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、江東区4.00人、女性は、町田市12.00人などが多い。過去10年、女性では減少傾向が続いている。



カ 梅毒様疾患

2011 年の報告数は 117 人、定点当たり 2.14 人であった。

男女別では、男性の報告数は 106 人、定点当たり 1.94 人（前年比 1.32）、女性の報告数は 11 人、定点当たり 0.20 人（前年比 2.73）で男性に多い。女性では、2 月、3 月、5 月、7 月、9 月は報告がなかった。女性の報告数は前年と比べて増加した（前年の女性の報告数は 4 人）。

月別定点当たり報告数は男性で 10 月が 0.27 人で最多、2 月が 0.04 人で最小、女性では報告があった月では 4 月が 0.05 人と最多、1 月、6 月、11 月、12 月が 0.02 人と最小であった。季節変動ははっきりしないが、男性では 10 月から 12 月に報告の増加がみられた。

年齢階級別では、男性では 30～39 歳が 44 人で男性全体の 41.5%を占め、女性では 25～34 歳が 4 人で女性全体の 36.4%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、新宿区 9.43 人、女性は、墨田区 1.00 人、足立 1.00 人、江戸川 1.00 人などが多くなっている。男性では 2011 年は一貫して増加傾向を示し今後の動向に注目を要する。女性では近年、報告の減少が著しい。

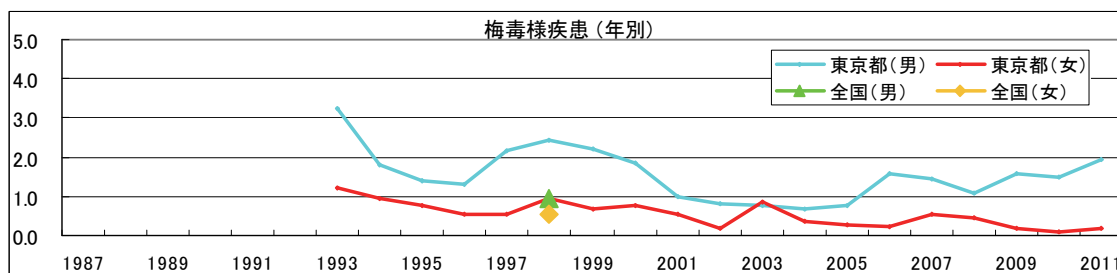
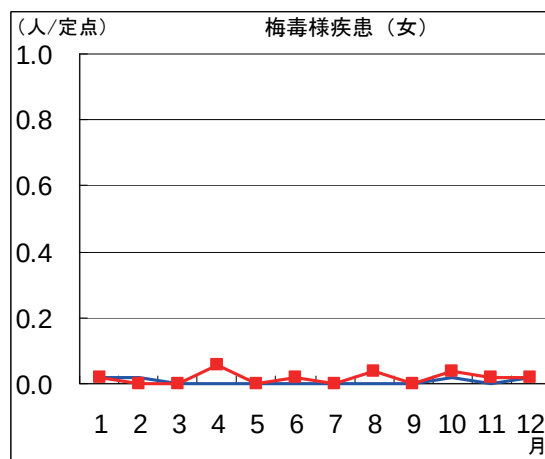
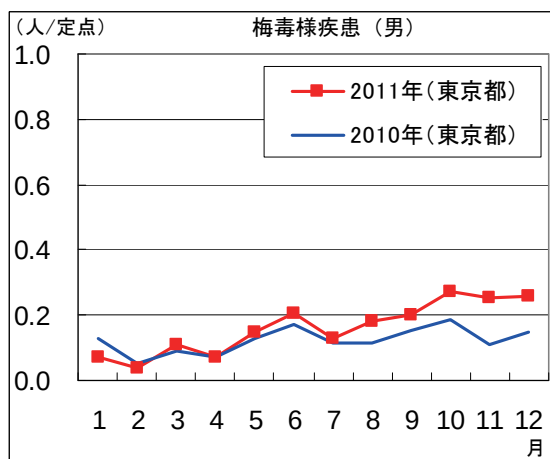


表４－１（１） 週別患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2011 年第 1 週～2011 年第 52 週

人																
週	期間	報告 インフル エンザ 点数	インフル エンザ 人	報告 小児科 定点 数	感 染 症 R S ウ ィ ル ス	咽 頭 結 膜 熱	球 A 群 溶 血 性 レ ン サ 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	人
1	1. 3～ 1. 9	413	1,770	260	123	127	340	1,946	594	17	116	113	17	4	140	
2	1. 10～ 1. 16	419	4,141	264	115	112	409	2,592	422	19	183	137	13	7	117	
3	1. 17～ 1. 23	417	10,233	263	116	91	622	2,813	367	13	198	172	14	4	92	
4	1. 24～ 1. 30	417	13,378	262	96	84	602	2,953	307	8	205	137	20	5	91	
5	1. 31～ 2. 6	419	11,899	264	75	73	645	2,767	312	24	115	126	13	2	78	
6	2. 7～ 2. 13	417	8,510	262	55	93	550	2,751	311	16	96	107	8	2	57	
7	2. 14～ 2. 20	418	6,872	263	57	85	655	2,783	302	15	118	154	11	1	78	
8	2. 21～ 2. 27	417	6,867	262	35	93	783	2,954	363	10	141	138	7	4	82	
9	2. 28～ 3. 6	417	5,602	262	42	100	727	2,586	291	15	150	140	3	3	74	
10	3. 7～ 3. 13	414	6,730	260	29	81	724	2,626	312	13	135	129	2	5	63	
11	3. 14～ 3. 20	414	6,316	259	22	73	524	2,110	306	10	107	124	2	2	66	
12	3. 21～ 3. 27	415	4,037	261	16	65	443	1,347	280	5	85	105	12	2	83	
13	3. 28～ 4. 3	412	3,192	260	20	54	404	1,393	259	12	140	147	8	5	70	
14	4. 4～ 4. 10	414	1,928	260	20	38	415	1,739	234	8	149	144	11	7	68	
15	4. 11～ 4. 17	417	2,098	262	24	40	611	2,202	228	17	147	193	5	4	77	
16	4. 18～ 4. 24	415	2,253	261	25	49	721	2,394	233	8	131	198	8	6	60	
17	4. 25～ 5. 1	412	1,656	259	16	75	712	2,072	253	14	137	159	4	6	88	
18	5. 2～ 5. 8	411	566	259	11	56	390	1,488	284	14	115	109	7	8	65	
19	5. 9～ 5. 15	416	308	262	10	87	660	1,878	403	18	183	176	6	14	102	
20	5. 16～ 5. 22	417	202	263	13	108	741	1,817	312	32	230	178	11	17	96	
21	5. 23～ 5. 29	412	94	261	17	126	868	1,740	452	41	164	188	8	32	78	
22	5. 30～ 6. 5	415	38	260	16	163	896	1,859	334	71	189	169	9	29	141	
23	6. 6～ 6. 12	414	34	259	17	185	886	1,879	442	144	249	178	8	65	117	
24	6. 13～ 6. 19	414	11	259	15	200	699	1,736	426	185	214	230	11	88	110	
25	6. 20～ 6. 26	414	11	260	20	196	688	1,401	315	349	355	198	14	194	133	
26	6. 27～ 7. 3	413	9	261	19	197	563	1,248	384	663	260	232	7	389	98	
27	7. 4～ 7. 10	417	15	263	24	200	439	1,085	293	1,325	232	183	6	885	145	
28	7. 11～ 7. 17	415	3	261	42	264	417	1,031	272	2,177	195	200	13	1,787	109	
29	7. 18～ 7. 24	413	3	262	46	212	302	822	155	2,497	94	208	7	1,796	115	
30	7. 25～ 7. 31	415	3	262	62	182	303	928	161	2,878	131	189	6	2,104	94	
31	8. 1～ 8. 7	408	7	257	84	120	199	765	130	2,846	136	201	11	1,772	115	
32	8. 8～ 8. 14	386	9	247	62	94	136	571	98	1,983	92	148	8	1,222	79	
33	8. 15～ 8. 21	394	2	246	51	61	104	506	106	1,036	58	103		534	57	
34	8. 22～ 8. 28	408	2	259	51	59	146	679	96	1,100	64	166	8	622	73	
35	8. 29～ 9. 4	414	1	261	93	63	159	740	103	1,171	95	206	12	675	58	
36	9. 5～ 9. 11	416	7	262	97	65	181	852	106	1,136	77	199	9	573	81	
37	9. 12～ 9. 18	409	10	256	126	71	182	877	112	1,056	44	194	1	502	65	
38	9. 19～ 9. 25	415	8	261	104	25	145	615	95	884	23	142	6	308	72	
39	9. 26～ 10. 2	412	6	258	175	32	243	862	111	680	44	163	1	277	78	
40	10. 3～ 10. 9	409	7	258	144	31	257	880	135	416	40	156	7	133	61	
41	10. 10～ 10. 16	410	27	258	137	28	256	796	124	321	56	144	14	75	74	
42	10. 17～ 10. 23	415	15	260	128	29	349	907	192	256	33	177	12	71	93	
43	10. 24～ 10. 30	414	18	261	108	34	361	1,003	178	260	48	170	12	45	66	
44	10. 31～ 11. 6	419	12	264	98	42	389	1,037	312	248	62	151	7	32	73	
45	11. 7～ 11. 13	411	23	263	76	56	436	1,375	282	179	58	185	10	21	90	
46	11. 14～ 11. 20	414	36	261	94	60	521	1,681	359	146	65	160	8	25	81	
47	11. 21～ 11. 27	417	29	263	112	60	574	1,944	438	130	63	164	8	19	80	
48	11. 28～ 12. 4	418	35	264	111	76	632	2,864	500	98	57	162	5	5	101	
49	12. 5～ 12. 11	416	102	262	172	94	643	3,811	618	90	56	153	11	12	80	
50	12. 12～ 12. 18	418	190	264	145	117	781	5,314	731	76	89	166	14	17	87	
51	12. 19～ 12. 25	417	291	262	144	125	701	5,413	732	35	59	176	7	11	85	
52	12. 26～ 1. 1	397	324	251	118	85	353	3,478	514	21	34	100	8	3	52	
合 計			99,940		3,628	4,936	25,487	95,910	15,679	24,786	6,317	8,447	450	14,431	4,488	

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2011年第1週～2011年第52週

週	期間	報告 小児科 定点数	不明 発しん 症	人 川 崎 病
1	1. 3～ 1. 9	260	15	4
2	1.10～ 1.16	264	29	5
3	1.17～ 1.23	263	23	4
4	1.24～ 1.30	262	15	5
5	1.31～ 2. 6	264	17	2
6	2. 7～ 2.13	262	13	2
7	2.14～ 2.20	263	22	2
8	2.21～ 2.27	262	16	5
9	2.28～ 3. 6	262	11	1
10	3. 7～ 3.13	260	12	3
11	3.14～ 3.20	259	16	6
12	3.21～ 3.27	261	13	2
13	3.28～ 4. 3	260	20	2
14	4. 4～ 4.10	260	18	3
15	4.11～ 4.17	262	17	3
16	4.18～ 4.24	261	23	4
17	4.25～ 5. 1	259	12	6
18	5. 2～ 5. 8	259	13	2
19	5. 9～ 5.15	262	28	4
20	5.16～ 5.22	263	32	7
21	5.23～ 5.29	261	29	5
22	5.30～ 6. 5	260	23	6
23	6. 6～ 6.12	259	32	4
24	6.13～ 6.19	259	37	5
25	6.20～ 6.26	260	62	5
26	6.27～ 7. 3	261	79	9
27	7. 4～ 7.10	263	72	9
28	7.11～ 7.17	261	79	8
29	7.18～ 7.24	262	82	5
30	7.25～ 7.31	262	90	4
31	8. 1～ 8. 7	257	60	4
32	8. 8～ 8.14	247	31	3
33	8.15～ 8.21	246	20	3
34	8.22～ 8.28	259	18	2
35	8.29～ 9. 4	261	38	5
36	9. 5～ 9.11	262	23	2
37	9.12～ 9.18	256	28	1
38	9.19～ 9.25	261	28	2
39	9.26～10. 2	258	22	7
40	10. 3～10. 9	258	39	4
41	10.10～10.16	258	20	3
42	10.17～10.23	260	14	3
43	10.24～10.30	261	24	
44	10.31～11. 6	264	24	5
45	11. 7～11.13	263	30	6
46	11.14～11.20	261	21	8
47	11.21～11.27	263	15	8
48	11.28～12. 4	264	26	4
49	12. 5～12.11	262	19	4
50	12.12～12.18	264	23	5
51	12.19～12.25	262	19	3
52	12.26～ 1. 1	251	14	3
合 計			1,506	217

報告 眼科 定点数	急性 出血性 結膜炎	人 流行性 角結膜炎
38	1	19
37	1	14
37		13
38		6
38		13
38	2	11
37		12
37	2	10
38		10
37	1	10
36	1	14
37	1	11
37		11
37	1	14
38	1	16
37		10
35		10
37		24
37		16
37		11
37		20
38	1	12
37	1	19
38	3	20
37		20
37		17
37		12
36	4	20
36	1	23
38		14
38	1	24
34		26
35	1	21
38		21
37	1	24
37	1	22
37		21
37		12
37		17
37		17
37		12
38	1	16
37	1	16
38	2	14
37		20
37		15
37		20
38		14
37		19
37	2	19
38		24
38		16
	31	842

報告 基幹 定点数	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミ ジア肺炎 (オウム病は 除く)	人 インフル エンザ入 院
23			11	1	
24	2	1	5	1	
24	1		11	2	
24	1		11		
24		1	14	1	
23		1	14		
24	1	1	14	1	
24	2	1	18		
24		1	10	2	
24			15	1	
23	1	1	10		
24			8		
24			6		
23			7		
23			8		
24	3	1	11		
24	2		4		
24	1		11		
23			5		
24	1	1	4		
23	1		9	1	
24		1	7		
23	2		7		
24	1		10	1	
24	1		13		
24	1	1	18		
23			15		
24	2	1	16		
24	2		14		
24	1	6	23		
24		1	21		
23	1	2	21		
25	1	4	17		
24		3	19		
25	3	5	24		
24	3	2	33	1	
25	1	5	37		
25		5	34	1	
25	1	8	32	1	
25	1	4	55		
24		5	55		1
25	1	2	34		
25	2	2	42		
24		6	39		
25	1	4	39		1
25		2	42	1	
25	1	4	66	1	
25	3	2	40	1	
25	1	1	52	1	1
25	3	4	41		1
25	2	2	33		1
25	1	5	38		7
	52	96	1,143	18	12

表４－２（１）週別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）2011年第１週～2011年第52週

週	期間	人／定点		報告 小児科 定点数	感 染 症 RS ウィ ルス	咽 頭 結 膜 熱	球 A 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
		報告 イン フル エン ザ 点数	イン フル エン ザ												
1	1. 3～ 1. 9	413	4.29	260	0.47	0.49	1.31	7.48	2.28	0.07	0.45	0.43	0.07	0.02	0.54
2	1. 10～ 1. 16	419	9.88	264	0.44	0.42	1.55	9.82	1.60	0.07	0.69	0.52	0.05	0.03	0.44
3	1. 17～ 1. 23	417	24.54	263	0.44	0.35	2.37	10.70	1.40	0.05	0.75	0.65	0.05	0.02	0.35
4	1. 24～ 1. 30	417	32.08	262	0.37	0.32	2.30	11.27	1.17	0.03	0.78	0.52	0.08	0.02	0.35
5	1. 31～ 2. 6	419	28.40	264	0.28	0.28	2.44	10.48	1.18	0.09	0.44	0.48	0.05	0.01	0.30
6	2. 7～ 2. 13	417	20.41	262	0.21	0.35	2.10	10.50	1.19	0.06	0.37	0.41	0.03	0.01	0.22
7	2. 14～ 2. 20	418	16.44	263	0.22	0.32	2.49	10.58	1.15	0.06	0.45	0.59	0.04	0.00	0.30
8	2. 21～ 2. 27	417	16.47	262	0.13	0.35	2.99	11.27	1.39	0.04	0.54	0.53	0.03	0.02	0.31
9	2. 28～ 3. 6	417	13.43	262	0.16	0.38	2.77	9.87	1.11	0.06	0.57	0.53	0.01	0.01	0.28
10	3. 7～ 3. 13	414	16.26	260	0.11	0.31	2.78	10.10	1.20	0.05	0.52	0.50	0.01	0.02	0.24
11	3. 14～ 3. 20	414	15.26	259	0.08	0.28	2.02	8.15	1.18	0.04	0.41	0.48	0.01	0.01	0.25
12	3. 21～ 3. 27	415	9.73	261	0.06	0.25	1.70	5.16	1.07	0.02	0.33	0.40	0.05	0.01	0.32
13	3. 28～ 4. 3	412	7.75	260	0.08	0.21	1.55	5.36	1.00	0.05	0.54	0.57	0.03	0.02	0.27
14	4. 4～ 4. 10	414	4.66	260	0.08	0.15	1.60	6.69	0.90	0.03	0.57	0.55	0.04	0.03	0.26
15	4. 11～ 4. 17	417	5.03	262	0.09	0.15	2.33	8.40	0.87	0.06	0.56	0.74	0.02	0.02	0.29
16	4. 18～ 4. 24	415	5.43	261	0.10	0.19	2.76	9.17	0.89	0.03	0.50	0.76	0.03	0.02	0.23
17	4. 25～ 5. 1	412	4.02	259	0.06	0.29	2.75	8.00	0.98	0.05	0.53	0.61	0.02	0.02	0.34
18	5. 2～ 5. 8	411	1.38	259	0.04	0.22	1.51	5.75	1.10	0.05	0.44	0.42	0.03	0.03	0.25
19	5. 9～ 5. 15	416	0.74	262	0.04	0.33	2.52	7.17	1.54	0.07	0.70	0.67	0.02	0.05	0.39
20	5. 16～ 5. 22	417	0.48	263	0.05	0.41	2.82	6.91	1.19	0.12	0.87	0.68	0.04	0.06	0.37
21	5. 23～ 5. 29	412	0.23	261	0.07	0.48	3.33	6.67	1.73	0.16	0.63	0.72	0.03	0.12	0.30
22	5. 30～ 6. 5	415	0.09	260	0.06	0.63	3.45	7.15	1.28	0.27	0.73	0.65	0.03	0.11	0.54
23	6. 6～ 6. 12	414	0.08	259	0.07	0.71	3.42	7.25	1.71	0.56	0.96	0.69	0.03	0.25	0.45
24	6. 13～ 6. 19	414	0.03	259	0.06	0.77	2.70	6.70	1.64	0.71	0.83	0.89	0.04	0.34	0.42
25	6. 20～ 6. 26	414	0.03	260	0.08	0.75	2.65	5.39	1.21	1.34	1.37	0.76	0.05	0.75	0.51
26	6. 27～ 7. 3	413	0.02	261	0.07	0.75	2.16	4.78	1.47	2.54	1.00	0.89	0.03	1.49	0.38
27	7. 4～ 7. 10	417	0.04	263	0.09	0.76	1.67	4.13	1.11	5.04	0.88	0.70	0.02	3.37	0.55
28	7. 11～ 7. 17	415	0.01	261	0.16	1.01	1.60	3.95	1.04	8.34	0.75	0.77	0.05	6.85	0.42
29	7. 18～ 7. 24	413	0.01	262	0.18	0.81	1.15	3.14	0.59	9.53	0.36	0.79	0.03	6.85	0.44
30	7. 25～ 7. 31	415	0.01	262	0.24	0.69	1.16	3.54	0.61	10.98	0.50	0.72	0.02	8.03	0.36
31	8. 1～ 8. 7	408	0.02	257	0.33	0.47	0.77	2.98	0.51	11.07	0.53	0.78	0.04	6.89	0.45
32	8. 8～ 8. 14	386	0.02	247	0.25	0.38	0.55	2.31	0.40	8.03	0.37	0.60	0.03	4.95	0.32
33	8. 15～ 8. 21	394	0.01	246	0.21	0.25	0.42	2.06	0.43	4.21	0.24	0.42		2.17	0.23
34	8. 22～ 8. 28	408	0.00	259	0.20	0.23	0.56	2.62	0.37	4.25	0.25	0.64	0.03	2.40	0.28
35	8. 29～ 9. 4	414	0.00	261	0.36	0.24	0.61	2.84	0.39	4.49	0.36	0.79	0.05	2.59	0.22
36	9. 5～ 9. 11	416	0.02	262	0.37	0.25	0.69	3.25	0.40	4.34	0.29	0.76	0.03	2.19	0.31
37	9. 12～ 9. 18	409	0.02	256	0.49	0.28	0.71	3.43	0.44	4.13	0.17	0.76	0.00	1.96	0.25
38	9. 19～ 9. 25	415	0.02	261	0.40	0.10	0.56	2.36	0.36	3.39	0.09	0.54	0.02	1.18	0.28
39	9. 26～10. 2	412	0.01	258	0.68	0.12	0.94	3.34	0.43	2.64	0.17	0.63	0.00	1.07	0.30
40	10. 3～10. 9	409	0.02	258	0.56	0.12	1.00	3.41	0.52	1.61	0.16	0.60	0.03	0.52	0.24
41	10. 10～10. 16	410	0.07	258	0.53	0.11	0.99	3.09	0.48	1.24	0.22	0.56	0.05	0.29	0.29
42	10. 17～10. 23	415	0.04	260	0.49	0.11	1.34	3.49	0.74	0.98	0.13	0.68	0.05	0.27	0.36
43	10. 24～10. 30	414	0.04	261	0.41	0.13	1.38	3.84	0.68	1.00	0.18	0.65	0.05	0.17	0.25
44	10. 31～11. 6	419	0.03	264	0.37	0.16	1.47	3.93	1.18	0.94	0.23	0.57	0.03	0.12	0.28
45	11. 7～11. 13	411	0.06	263	0.29	0.21	1.66	5.23	1.07	0.68	0.22	0.70	0.04	0.08	0.34
46	11. 14～11. 20	414	0.09	261	0.36	0.23	2.00	6.44	1.38	0.56	0.25	0.61	0.03	0.10	0.31
47	11. 21～11. 27	417	0.07	263	0.43	0.23	2.18	7.39	1.67	0.49	0.24	0.62	0.03	0.07	0.30
48	11. 28～12. 4	418	0.08	264	0.42	0.29	2.39	10.85	1.89	0.37	0.22	0.61	0.02	0.02	0.38
49	12. 5～12. 11	416	0.25	262	0.66	0.36	2.45	14.55	2.36	0.34	0.21	0.58	0.04	0.05	0.31
50	12. 12～12. 18	418	0.45	264	0.55	0.44	2.96	20.13	2.77	0.29	0.34	0.63	0.05	0.06	0.33
51	12. 19～12. 25	417	0.70	262	0.55	0.48	2.68	20.66	2.79	0.13	0.23	0.67	0.03	0.04	0.32
52	12. 26～ 1. 1	397	0.82	251	0.47	0.34	1.41	13.86	2.05	0.08	0.14	0.40	0.03	0.01	0.21
平 均			4.53		0.26	0.36	1.84	6.94	1.13	1.81	0.46	0.61	0.03	1.05	0.33

表４－２（２）週別定点当たり患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2011年第1週～2011年第52週

週	期間	人／定点		
		報告小児科 定点数	不明発しん症	川崎病
1	1. 3～ 1. 9	260	0.06	0.02
2	1. 10～ 1. 16	264	0.11	0.02
3	1. 17～ 1. 23	263	0.09	0.02
4	1. 24～ 1. 30	262	0.06	0.02
5	1. 31～ 2. 6	264	0.06	0.01
6	2. 7～ 2. 13	262	0.05	0.01
7	2. 14～ 2. 20	263	0.08	0.01
8	2. 21～ 2. 27	262	0.06	0.02
9	2. 28～ 3. 6	262	0.04	0.00
10	3. 7～ 3. 13	260	0.05	0.01
11	3. 14～ 3. 20	259	0.06	0.02
12	3. 21～ 3. 27	261	0.05	0.01
13	3. 28～ 4. 3	260	0.08	0.01
14	4. 4～ 4. 10	260	0.07	0.01
15	4. 11～ 4. 17	262	0.06	0.01
16	4. 18～ 4. 24	261	0.09	0.02
17	4. 25～ 5. 1	259	0.05	0.02
18	5. 2～ 5. 8	259	0.05	0.01
19	5. 9～ 5. 15	262	0.11	0.02
20	5. 16～ 5. 22	263	0.12	0.03
21	5. 23～ 5. 29	261	0.11	0.02
22	5. 30～ 6. 5	260	0.09	0.02
23	6. 6～ 6. 12	259	0.12	0.02
24	6. 13～ 6. 19	259	0.14	0.02
25	6. 20～ 6. 26	260	0.24	0.02
26	6. 27～ 7. 3	261	0.30	0.03
27	7. 4～ 7. 10	263	0.27	0.03
28	7. 11～ 7. 17	261	0.30	0.03
29	7. 18～ 7. 24	262	0.31	0.02
30	7. 25～ 7. 31	262	0.34	0.02
31	8. 1～ 8. 7	257	0.23	0.02
32	8. 8～ 8. 14	247	0.13	0.01
33	8. 15～ 8. 21	246	0.08	0.01
34	8. 22～ 8. 28	259	0.07	0.01
35	8. 29～ 9. 4	261	0.15	0.02
36	9. 5～ 9. 11	262	0.09	0.01
37	9. 12～ 9. 18	256	0.11	0.00
38	9. 19～ 9. 25	261	0.11	0.01
39	9. 26～10. 2	258	0.09	0.03
40	10. 3～10. 9	258	0.15	0.02
41	10. 10～10. 16	258	0.08	0.01
42	10. 17～10. 23	260	0.05	0.01
43	10. 24～10. 30	261	0.09	
44	10. 31～11. 6	264	0.09	0.02
45	11. 7～11. 13	263	0.11	0.02
46	11. 14～11. 20	261	0.08	0.03
47	11. 21～11. 27	263	0.06	0.03
48	11. 28～12. 4	264	0.10	0.02
49	12. 5～12. 11	262	0.07	0.02
50	12. 12～12. 18	264	0.09	0.02
51	12. 19～12. 25	262	0.07	0.01
52	12. 26～ 1. 1	251	0.06	0.01
	平 均		0.11	0.02

報告眼科 定点数	人／定点	
	急性出血性 結膜炎	流行性角結膜炎
38	0.03	0.50
37	0.03	0.38
37		0.35
38		0.16
38		0.34
38	0.05	0.29
37		0.32
37	0.05	0.27
38		0.26
37	0.03	0.27
36	0.03	0.39
37	0.03	0.30
37		0.30
37	0.03	0.38
38	0.03	0.42
37		0.27
35		0.29
37		0.65
37		0.43
37		0.30
37		0.54
38	0.03	0.32
37	0.03	0.51
38	0.08	0.53
37		0.54
37		0.46
37		0.32
36	0.11	0.56
36	0.03	0.64
38		0.37
38	0.03	0.63
34		0.76
35	0.03	0.60
38		0.55
37	0.03	0.65
37	0.03	0.59
37		0.57
37		0.32
37		0.46
37		0.46
37		0.32
38	0.03	0.42
37	0.03	0.43
38	0.05	0.37
37		0.54
37		0.41
37		0.54
38		0.37
37		0.51
37	0.05	0.51
38		0.63
38		0.42
	0.02	0.44

報告基幹 定点数	人／定点				
	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	インフルエンザ入院
23			0.48	0.04	
24	0.08	0.04	0.21	0.04	
24	0.04		0.46	0.08	
24	0.04		0.46		
24		0.04	0.58	0.04	
23		0.04	0.61		
24	0.04	0.04	0.58	0.04	
24	0.08	0.04	0.75		
24		0.04	0.42	0.08	
24			0.63	0.04	
23	0.04	0.04	0.43		
24			0.33		
24			0.25		
23			0.30		
23			0.35		
24	0.13	0.04	0.46		
24	0.08		0.17		
24	0.04		0.46		
23			0.22		
24	0.04	0.04	0.17		
23	0.04		0.39	0.04	
24		0.04	0.29		
23	0.09		0.30		
24	0.04		0.42	0.04	
24	0.04		0.54		
24	0.04	0.04	0.75		
23			0.65		
24	0.08	0.04	0.67		
24	0.08		0.58		
24	0.04	0.25	0.96		
24		0.04	0.88		
23	0.04	0.09	0.91		
25	0.04	0.16	0.68		
24		0.13	0.79		
25	0.12	0.20	0.96		
24	0.13	0.08	1.38	0.04	
25	0.04	0.20	1.48		
25		0.20	1.36	0.04	
25	0.04	0.32	1.28	0.04	
25	0.04	0.16	2.20		
24		0.21	2.29		0.04
25	0.04	0.08	1.36		
25	0.08	0.08	1.68		
24		0.25	1.63		
25	0.04	0.16	1.56		0.04
25		0.08	1.68	0.04	
25	0.04	0.16	2.64	0.04	
25	0.12	0.08	1.60	0.04	
25	0.04	0.04	2.08	0.04	0.04
25	0.12	0.16	1.64		0.04
25	0.08	0.08	1.32		0.04
25	0.04	0.20	1.52		0.28
	0.04	0.08	0.90	0.01	0.01

表５－１（１） 保健所別患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2011 年第 1 週～2011 年第 52 週

人			人											
保健所	設置 定点数 インフル エンザ	インフル エンザ	設置 小児科 定点数	感 染 症 RS ウ イル ス	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
千代田	4	326	3	28	4	36	283	69	60	41	28	1	66	7
中央区	5	706	3	7	25	93	383	175	307	35	113	1	113	34
みなと	9	1,598	6	169	194	341	1,997	306	772	141	223	27	242	77
新宿区	12	1,456	8	225	128	475	1,581	288	361	73	150	9	274	107
文京	7	1,203	4	34	33	182	614	92	204	60	70		116	48
台東	7	1,161	4	55	44	323	1,796	237	224	91	136		238	74
墨田区	8	1,472	5	109	116	430	1,028	282	335	171	183	1	186	29
江東区	14	3,603	9	213	162	940	5,930	717	1,456	210	408	12	784	195
品川区	12	1,679	8	40	110	653	3,055	451	582	112	240		272	50
目黒区	8	785	5	14	22	149	966	118	224	39	78		95	35
大田区	21	4,824	13	480	486	1,634	7,023	715	1,518	496	448	53	706	212
世田谷	25	6,243	16	162	335	1,702	5,667	749	1,460	336	403	7	861	236
渋谷区	7	793	4	33	52	132	932	132	388	53	74	3	65	34
中野区	11	1,717	7	72	28	353	2,494	270	656	67	157	1	360	112
杉並	16	3,498	10	40	45	739	3,573	360	681	225	227	3	226	161
池袋	8	1,374	5	13	18	74	722	43	148	17	55	16	61	17
北区	11	1,926	7	18	20	270	1,660	261	420	70	213		374	115
荒川区	7	1,924	4	264	168	557	2,030	246	469	95	206	50	561	77
板橋区	16	1,752	10	43	76	253	1,976	371	329	293	234	9	243	149
練馬区	21	5,024	13	48	226	1,331	4,532	966	1,179	318	436	57	926	237
足立	20	5,108	13	123	185	1,286	5,511	731	552	200	426	42	1,314	121
葛飾区	13	3,807	8	26	59	637	3,042	414	460	110	276	1	600	142
江戸川	19	5,991	12	140	369	1,686	5,638	736	792	275	438	13	1,340	159
八王子市	18	7,014	11	211	285	2,228	6,842	1,092	2,098	499	560	21	544	392
町田市	13	5,593	8	69	85	2,120	4,834	1,166	938	178	339	15	826	148
西多摩	14	2,947	8	58	155	372	2,094	499	733	218	135	8	189	64
南多摩	14	3,864	9	167	157	810	3,635	593	1,434	295	358	3	556	382
多摩立川	21	5,510	14	227	177	1,106	4,293	957	1,434	314	380	24	403	266
多摩府中	33	9,740	21	214	471	2,022	6,001	1,493	2,512	704	713	45	765	398
多摩小平	23	6,751	15	322	696	2,542	5,776	1,095	1,976	564	728	28	1,107	386
島しょ	2	551	1	4	5	11	2	55	84	17	12		18	24
合 計	419	99,940	264	3,628	4,936	25,487	95,910	15,679	24,786	6,317	8,447	450	14,431	4,488
定点当たり報告数		240.03		13.94	18.95	97.66	367.56	60.11	95.84	24.23	32.44	1.73	55.78	17.23
前年定点当たり報告数		43.97		14.52	13.37	75.80	427.41	63.93	42.52	19.79	29.74	3.42	57.06	34.87
当年/前年		5.46		0.96	1.42	1.29	0.86	0.94	2.25	1.22	1.09	0.50	0.98	0.49

表５－１（２） 保健所別患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2011 年第１週～2011 年第 52 週

保健所	設置小児科 定点数	不明 発しん症	人		設置眼科 定点数	急性出血性 結膜炎	流行性角 結膜炎	人		設置基幹 定点数	細菌性髄 膜炎	無菌性髄 膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミジア 肺炎（オ ウム病は 除く）	インフル エンザ入 院
			川崎 病												
千代田	3	10	15							2	1	1	33	1	2
中央区	3	3	5		1		48								
みなと	6	8	8							1	3	4	5		
新宿区	8	36	13		2		52			2	9	17	177	7	
文京	4	16			1		56			1		2	12		
台東	4	3	1												
墨田区	5	52	3		1	1	9			1	2	21	25		
江東区	9	75	6		1		26								
品川区	8	18	4		1	1	10								
目黒区	5	1	1		1		14								
大田区	13	121	12		2	1	21			1	3	3	37		1
世田谷	16	149	10		2	7	21			2	7	17	26		1
渋谷区	4	6			1		35			1			18	1	2
中野区	7	34			1		15			1			1		
杉並	10	20	3		1		38			1	3	4		1	
池袋	5				1	1	19			1		1	8		
北区	7	19	6		1	1	13								
荒川区	4	57	19		1	1	37								
板橋区	10	82	4		2		14			1	1		12		2
練馬区	13	31	7		2		46								
足立	13	33	4		2	12	79								
葛飾区	8	55	7		1	2	41			1			391	7	1
江戸川	12	71	4		2	2	33								
八王子市	11	105	5		2		39			1			2		
町田市	8	144	6		1										
西多摩	8	17	4		1		7			1	5	3	36		
南多摩	9	17	9		1		9								
多摩立川	14	79	9		2		16			1					
多摩府中	21	126	16		3	2	38			3	15	18	134	1	2
多摩小平	15	118	34		2		106			2	3	5	222		1
島しょ	1		2							1			4		
合 計	264	1,506	217		39	31	842			25	52	96	1,143	18	12
定点当たり報告数		5.78	0.83			0.84	22.73				2.14	3.91	46.78	0.74	0.48
前年定点当たり報告数		4.21	0.60			1.91	24.60				0.76	1.61	17.76	0.85	
当年/前年		1.37	1.39			0.44	0.92				2.80	2.42	2.63	0.88	

表５－２（１）保健所別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2011年第1週～2011年第52週

保健所	人／定点														人／定点	
	設置 定点数 インフル エンザ	イン フル エン ザ	設置 小児科 定点数	感 染 症 RS ウイ ルス	咽 頭 結 膜 熱	球 A 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎		
千代田	4	81.50	3	9.33	1.33	12.00	94.33	23.00	20.00	13.67	9.33	0.33	22.00	2.33		
中央区	5	141.20	3	2.33	8.33	31.00	127.67	58.33	102.33	11.67	37.67	0.33	37.67	11.33		
みなと	9	179.76	6	28.37	32.77	57.67	336.80	51.57	128.70	23.67	37.40	4.50	40.33	13.00		
新宿区	12	121.95	8	28.48	16.29	60.55	199.45	36.86	46.09	9.46	19.13	1.13	35.20	13.41		
文京	7	177.55	4	8.75	9.42	53.42	163.58	25.75	59.75	18.25	18.75		34.92	13.33		
台東	7	165.86	4	13.75	11.00	80.75	449.00	59.25	56.00	22.75	34.00		59.50	18.50		
墨田区	8	184.00	5	21.80	23.20	86.00	205.60	56.40	67.00	34.20	36.60	0.20	37.20	5.80		
江東区	14	257.36	9	23.67	18.00	104.44	658.89	79.67	161.78	23.33	45.33	1.33	87.11	21.67		
品川区	12	139.92	8	5.00	13.75	81.63	381.88	56.38	72.75	14.00	30.00		34.00	6.25		
目黒区	8	98.13	5	2.85	4.55	29.85	195.65	23.60	46.80	7.85	15.75		20.35	7.20		
大田区	21	231.99	13	37.60	38.06	127.83	548.46	55.63	119.30	38.98	35.19	4.11	55.66	16.51		
世田谷	25	249.77	16	10.24	21.08	106.68	355.53	47.02	92.21	21.09	25.31	0.44	54.47	14.83		
渋谷区	7	115.41	4	8.42	13.00	33.25	237.75	34.33	97.08	13.67	19.00	0.75	16.25	8.50		
中野区	11	156.09	7	10.29	4.00	50.43	356.29	38.57	93.71	9.57	22.43	0.14	51.43	16.00		
杉並	16	218.63	10	4.00	4.50	73.90	357.30	36.00	68.10	22.50	22.70	0.30	22.60	16.10		
池袋	8	176.58	5	2.80	3.70	15.57	156.03	9.25	32.17	3.72	11.90	3.57	14.08	3.78		
北区	11	175.27	7	2.69	2.93	39.05	239.96	37.92	63.04	10.25	31.20		56.45	17.06		
荒川区	7	274.86	4	67.00	42.25	139.50	509.00	61.75	123.50	23.75	52.25	12.50	143.25	19.25		
板橋区	16	109.56	10	4.31	7.61	25.34	198.57	37.36	33.06	29.33	23.60	0.90	24.33	14.92		
練馬区	21	239.24	13	3.69	17.40	102.44	348.82	74.33	91.44	24.48	33.60	4.40	72.06	18.29		
足立	20	256.07	13	9.63	14.45	99.91	427.68	56.85	43.48	15.51	33.19	3.26	102.41	9.39		
葛飾区	13	293.08	8	3.25	7.39	80.44	381.96	52.28	60.26	14.07	34.63	0.13	81.75	18.01		
江戸川	19	323.76	12	11.93	31.28	142.95	479.48	62.46	67.01	23.41	37.17	1.12	112.90	13.41		
八王子市	18	389.67	11	19.18	25.91	202.55	622.00	99.27	190.73	45.36	50.91	1.91	49.45	35.64		
町田市	13	430.23	8	8.63	10.63	265.00	604.25	145.75	117.25	22.25	42.38	1.88	103.25	18.50		
西多摩	14	210.85	8	7.25	19.39	46.55	262.63	62.52	91.63	27.32	16.89	1.00	23.63	8.00		
南多摩	14	276.07	9	18.95	17.59	90.54	407.52	66.51	162.91	33.06	40.21	0.33	63.28	42.82		
多摩立川	21	262.41	14	16.27	13.00	80.03	308.80	68.95	102.55	22.86	27.35	1.74	28.80	19.09		
多摩府中	33	301.48	21	10.76	23.73	101.10	299.11	74.46	128.77	35.18	36.04	2.27	39.91	19.93		
多摩小平	23	293.52	15	21.47	46.40	169.47	385.07	73.00	131.73	37.60	48.53	1.87	73.80	25.73		
島しょ	2	275.50	1	4.00	5.00	11.00	2.00	55.00	84.00	17.00	12.00		18.00	24.00		
定点当たり報告数		240.03		13.94	18.95	97.66	367.56	60.11	95.84	24.23	32.44	1.73	55.78	17.23		
前年定点当たり報告数		43.97		14.52	13.37	75.80	427.41	63.93	42.52	19.79	29.74	3.42	57.06	34.87		
当年/前年		5.46		0.96	1.42	1.29	0.86	0.94	2.25	1.22	1.09	0.50	0.98	0.49		

表５－２（２）保健所別定点当たり患者報告数（小児科・眼科・基幹）2011年第1週～2011年第52週

保健所	人／定点			設置眼科 定点数	人／定点		設置基幹 定点数	人／定点				
	設置小児科 定点数	不明発しん症	川崎病		急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（オウム病は除く）	インフルエンザ入院
千代田	3	3.33	5.00				2	0.50	0.50	16.50	0.50	1.00
中央区	3	1.00	1.67	1		48.00						
みなと	6	1.33	1.33				1	3.00	4.00	5.00		
新宿区	8	4.59	1.63	2		40.00	2	4.50	8.50	88.50	3.50	
文京	4	5.33		1		56.00	1		2.00	12.00		
台東	4	0.75	0.25									
墨田区	5	10.40	0.60	1	1.00	9.00	1	2.00	21.00	25.00		
江東区	9	8.33	0.67	1		26.00						
品川区	8	2.25	0.50	1	1.00	10.00						
目黒区	5	0.25	0.20	1		14.00						
大田区	13	9.51	0.96	2	0.50	10.50	1	3.00	3.00	37.00		1.00
世田谷	16	9.39	0.63	2	3.50	11.50	2	3.50	8.50	13.00		0.50
渋谷区	4	1.50		1		35.00	1			18.00	1.00	2.00
中野区	7	4.86		1		15.00	1			1.00		
杉並	10	2.00	0.30	1		38.00	1	3.00	4.00		1.00	
池袋	5			1	1.00	19.00	1		1.00	8.00		
北区	7	3.05	0.86	1	1.00	13.00						
荒川区	4	14.25	4.75	1	1.00	37.00						
板橋区	10	8.21	0.40	2		7.00	1	1.00		12.00		2.00
練馬区	13	2.40	0.54	2		23.00						
足立	13	2.61	0.31	2	6.00	39.50						
葛飾区	8	7.08	0.88	1	2.00	41.00	1			391.00	7.00	1.00
江戸川	12	5.94	0.33	2	1.00	18.00						
八王子市	11	9.55	0.45	2		19.50	1			2.00		
町田市	8	18.00	0.75	1								
西多摩	8	2.13	0.50	1		7.00	1	5.00	3.00	36.00		
南多摩	9	1.90	1.03	1		9.00						
多摩立川	14	5.67	0.65	2		8.00	1					
多摩府中	21	6.39	0.81	3	1.00	18.83	3	5.33	6.33	48.83	0.33	0.66
多摩小平	15	7.87	2.27	2		53.00	2	1.50	2.50	111.00		0.50
島しょ	1		2.00				1			4.00		
定点当たり報告数		5.78	0.83		0.84	22.73		2.14	3.91	46.78	0.74	0.48
前年定点当たり報告数		4.21	0.60		1.91	24.60		0.76	1.61	17.76	0.85	
当年/前年		1.37	1.39		0.44	0.92		2.80	2.42	2.63	0.88	

表6-1 年齢階級別患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2011年第1週～2011年第52週

年齢階級	インフルエンザ	人										
		RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
6か月未満	230	595	25	19	1,025	228	216	10	200	31	133	3
12か月未満	974	903	266	118	6,714	840	2,263	130	3,314	31	1,326	12
1歳	2,960	1,327	1,008	675	14,566	2,270	7,214	353	4,114	31	3,381	168
2歳	3,343	417	673	1,182	10,024	2,573	4,655	463	581	10	2,627	296
3歳	4,780	212	814	2,369	9,131	2,593	3,493	689	107	12	2,302	545
4歳	7,196	87	732	3,414	8,716	2,468	2,557	1,009	51	9	1,635	756
5歳	7,695	38	493	3,637	7,083	1,860	1,694	1,032	29	6	1,114	748
6歳	8,527	16	273	3,481	5,680	1,109	870	851	12	10	647	523
7歳	8,919	3	160	2,967	4,922	664	517	610	14	15	407	426
8歳	7,517	6	114	2,091	3,970	415	314	433	8	8	244	323
9歳	5,890	4	84	1,458	3,382	205	220	266	2	19	184	196
10～14歳	16,334	9	141	2,531	8,333	343	329	310	9	47	248	342
15～19歳	3,566	1	9	213	1,738	21	37	12		16	32	28
20～29歳	5,641	10	144	1,332	10,626	90	407	149	6	205	151	122
30～39歳	7,472											
40～49歳	5,403											
50～59歳	1,991											
60～69歳	982											
70～79歳	393											
80歳以上	127											
合 計	99,940	3,628	4,936	25,487	95,910	15,679	24,786	6,317	8,447	450	14,431	4,488

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6-2 年齢階級別患者報告数（小児科・眼科・基幹）

2011年第1週～2011年第52週

年齢階級	人		人		人				
	不明発しん症	川崎病	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	インフルエンザ入院
6か月未満	71	16		4	10	16	2		
12か月未満	261	40	1	7	7	1	8		
1歳	506	61	2	21	3	1	77		
2歳	224	32		18	1		91		2
3歳	112	21	1	22	1	3	90		
4歳	92	22	1	11		3	125		1
5歳	69	8	1	13	2	2	77		1
6歳	44	7	2	11	2	4	87		
7歳	22	2		3		3	85		1
8歳	22	2		14		4	95		
9歳	18	2	1	6	1	2	67		
10～14歳	33	3	2	27	4	14	187	2	
15～19歳	6	1	2	19		5	42	1	
20～29歳	26		3	146	3	10	34	1	
30～39歳			6	207	1	16	36	2	1
40～49歳			2	159	4	7	18	3	
50～59歳			3	68	2	1	5	4	
60～69歳			3	48	5	1	8		
70～79歳			1	38	3	3	5	1	2
80歳以上					3		4	4	4
合 計	1,506	217	31	842	52	96	1,143	18	12

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 (1) 二次医療圏別患者報告数（インフルエンザ・小児科） 2011年第1週～2011年第52週

二次医療圏	人		設置小児科 定点数	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
	設置インフルエンザ 定点数	インフルエンザ												
1 区中央部圏	32	4,994	20	293	300	975	5,073	879	1,567	368	570	29	775	240
2 区南部圏	33	6,503	21	520	596	2,287	10,078	1,166	2,100	608	688	53	978	262
3 区西南部圏	40	7,821	25	209	409	1,983	7,565	999	2,072	428	555	10	1,021	305
4 区西部圏	39	6,671	25	337	201	1,567	7,648	918	1,698	365	534	13	860	380
5 区西北部圏	56	10,076	35	122	340	1,928	8,890	1,641	2,076	698	938	82	1,604	518
6 区東北部圏	40	10,839	25	413	412	2,480	10,583	1,391	1,481	405	908	93	2,475	340
7 区東部圏	41	11,066	26	462	647	3,056	12,596	1,735	2,583	656	1,029	26	2,310	383
8 西多摩圏	14	2,947	8	58	155	372	2,094	499	733	218	135	8	189	64
9 南多摩圏	45	16,471	28	447	527	5,158	15,311	2,851	4,470	972	1,257	39	1,926	922
10 北多摩西部圏	21	5,510	14	227	177	1,106	4,293	957	1,434	314	380	24	403	266
11 北多摩南部圏	33	9,740	21	214	471	2,022	6,001	1,493	2,512	704	713	45	765	398
12 北多摩北部圏	23	6,751	15	322	696	2,542	5,776	1,095	1,976	564	728	28	1,107	386
13 島しょ圏	2	551	1	4	5	11	2	55	84	17	12	0	18	24
合 計	419	99,940	264	3,628	4,936	25,487	95,910	15,679	24,786	6,317	8,447	450	14,431	4,488

表7-1 (2) 二次医療圏別患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2011年第1週～2011年第52週

二次医療圏	人			設置眼科 定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置基幹 定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	インフルエンザ入院
	設置小児科 定点数	不明発疹症	川崎病									
1 区中央部圏	20	40	29	2		104	4	4	7	50	1	2
2 区南部圏	21	139	16	3	2	31	1	3	3	37		1
3 区西南部圏	25	156	11	4	7	70	3	7	17	44	1	3
4 区西部圏	25	90	16	4		105	4	12	21	178	8	
5 区西北部圏	35	132	17	6	2	92	2	1	1	20		2
6 区東北部圏	25	145	30	4	15	157	1			391	7	1
7 区東部圏	26	198	13	4	3	68	1	2	21	25		
8 西多摩圏	8	17	4	1		7	1	5	3	36		
9 南多摩圏	28	266	20	4		48	1			2		
10 北多摩西部圏	14	79	9	2		16	1					
11 北多摩南部圏	21	126	16	3	2	38	3	15	18	134	1	2
12 北多摩北部圏	15	118	34	2		106	2	3	5	222		1
13 島しょ圏	1		2				1			4		
合 計	264	1,506	217	39	31	842	25	52	96	1,143	18	12

表7-2 (1) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2011年第1週～2011年第52週

二次医療圏	人／定点		設置小児科 定点数	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	球菌咽頭炎	A群溶血性 レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
	設置インフルエンザ 定点数	インフルエンザ													
1 区中央部圏	32	158.04	20	14.99	15.41	50.23	259.47	45.09	81.24	19.13	29.25	1.46	40.51	12.29	
2 区南部圏	33	198.21	21	25.04	28.70	110.03	484.40	55.95	101.61	29.31	33.23	2.54	47.26	12.59	
3 区西南部圏	40	196.51	25	8.47	16.56	79.82	305.02	40.28	84.15	17.23	22.36	0.40	41.55	12.31	
4 区西部圏	39	171.30	25	13.53	8.08	63.17	307.03	36.95	68.42	14.72	21.47	0.52	34.63	15.25	
5 区西北部圏	56	180.75	35	3.55	9.84	55.70	257.72	47.56	60.72	20.12	27.25	2.38	47.12	15.07	
6 区東北部圏	40	271.41	25	16.75	16.66	99.86	425.97	56.14	60.99	16.36	36.66	3.76	101.74	13.74	
7 区東部圏	41	273.34	26	17.99	25.08	118.46	489.02	67.32	99.99	25.43	39.86	1.01	89.36	14.83	
8 西多摩圏	14	210.85	8	7.25	19.39	46.55	262.63	62.52	91.63	27.32	16.89	1.00	23.63	8.00	
9 南多摩圏	45	366.08	28	16.07	18.87	184.59	548.35	102.11	160.76	34.81	45.04	1.39	69.23	33.04	
10 北多摩西部圏	21	262.41	14	16.27	13.00	80.03	308.80	68.95	102.55	22.86	27.35	1.74	28.80	19.09	
11 北多摩南部圏	33	301.48	21	10.76	23.73	101.10	299.11	74.46	128.77	35.18	36.04	2.27	39.91	19.93	
12 北多摩北部圏	23	293.52	15	21.47	46.40	169.47	385.07	73.00	131.73	37.60	48.53	1.87	73.80	25.73	
13 島しょ圏	2	275.50	1	4.00	5.00	11.00	2.00	55.00	84.00	17.00	12.00		18.00	24.00	

表7-2 (2) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（小児科・眼科・基幹）

2011年第1週～2011年第52週

二次医療圏	人／定点			設置眼科 定点数	急性出血性 結膜炎	流行性角結膜炎	設置基幹 定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	インフルエンザ入院
	設置小児科 定点数	不明発しん症	川崎病									
1 区中央部圏	20	2.08	1.49	2		52.00	4	1.00	1.75	12.50	0.25	0.50
2 区南部圏	21	6.70	0.78	3	0.67	10.33	1	3.00	3.00	37.00		1.00
3 区西南部圏	25	6.29	0.44	4	1.75	17.83	3	2.33	5.67	14.67	0.33	1.00
4 区西部圏	25	3.62	0.64	4		31.17	4	3.00	5.25	44.50	2.00	
5 区西北部圏	35	3.85	0.49	6	0.33	15.33	2	0.50	0.50	10.00		1.00
6 区東北部圏	25	5.88	1.20	4	3.83	39.50	1			391.00	7.00	1.00
7 区東部圏	26	7.64	0.50	4	0.75	17.42	1	2.00	21.00	25.00		
8 西多摩圏	8	2.13	0.50	1		7.00	1	5.00	3.00	36.00		
9 南多摩圏	28	9.53	0.72	4		12.00	1			2.00		
10 北多摩西部圏	14	5.67	0.65	2		8.00	1					
11 北多摩南部圏	21	6.39	0.81	3	1.00	18.83	3	5.33	6.33	48.83	0.33	0.66
12 北多摩北部圏	15	7.87	2.27	2		53.00	2	1.50	2.50	111.00		0.50
13 島しょ圏	1		2.00				1			4.00		

表 8-1 月別患者報告数（基幹）
2011 年 1 月～2011 年 12 月

月	報告基幹 定点数	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	緑膿菌感染症 薬剤耐性	薬剤耐性アシネト バクター感染症
1月	24	82	52	4	
2月	23	81	58	1	
3月	24	87	47	2	
4月	24	89	39	3	
5月	24	115	54	4	
6月	24	87	62	1	
7月	24	110	48	9	
8月	25	130	44	3	
9月	25	94	43	3	
10月	25	90	48	4	
11月	25	94	55	3	
12月	25	77	46		
合 計		1,136	596	37	0

表 8-2 月別定点当たり患者報告数（基幹）
2011 年 1 月～2011 年 12 月

月	報告基幹 定点数	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	緑膿菌感染症 薬剤耐性	薬剤耐性アシネト バクター感染症
1月	24	3.42	2.17	0.17	
2月	23	3.52	2.52	0.04	
3月	24	3.63	1.96	0.08	
4月	24	3.71	1.63	0.13	
5月	24	4.79	2.25	0.17	
6月	24	3.63	2.58	0.04	
7月	24	4.58	2.00	0.38	
8月	25	5.20	1.76	0.12	
9月	25	3.76	1.72	0.12	
10月	25	3.60	1.92	0.16	
11月	25	3.76	2.20	0.12	
12月	25	3.08	1.84		
平 均		3.89	2.05	0.13	0.00

表 8-3 月別・性別患者報告数（基幹） 2011 年 1 月～2011 年 12 月

月	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネト バクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	49	33	34	18		4		
2月	60	21	33	25	1			
3月	63	24	27	20	1	1		
4月	62	27	22	17	3			
5月	82	33	31	23	4			
6月	57	30	37	25	1			
7月	67	43	33	15	7	2		
8月	75	55	30	14	2	1		
9月	66	28	25	18	3			
10月	53	37	27	21	1	3		
11月	68	26	37	18	1	2		
12月	46	31	23	23				
合計	748	388	359	237	24	13	0	0

表 8－4 年齢階級別患者報告数（基幹） 2011 年 1 月～2011 年 12 月

年齢階級	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネトバクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	80	49	32	16				
1～4歳	53	42	131	100				
5～9歳	41	18	20	19	1			
10～14歳	18	7	6	5				
15～19歳	12	1	4	1				
20～24歳	5	1			2			
25～29歳	6	2	1	2				
30～34歳	13	5	2	6				
35～39歳	10	5	7	2				
40～44歳	16	7	10	5		1		
45～49歳	27	4	6	1	1			
50～54歳	21	8	3	1				
55～59歳	22	11	4	3	2	1		
60～64歳	47	25	13	10	2	1		
65～69歳	57	25	18	9	2	2		
70歳以上	320	178	102	57	14	8		
合 計	748	388	359	237	24	13	0	0
定点当たり報告数	30.76	15.91	14.78	9.76	0.99	0.53	0.00	0.00
前年定点当たり報告数	35.32	20.03	15.90	10.86	0.72	0.38	－	－
当年／前年	0.87	0.79	0.93	0.90	1.38	1.40	－	－

表 9－1 月別患者報告数（STI）

2011 年 1 月～2011 年 12 月

表 9－2 月別定点あたり患者報告数（STI）

2011 年 1 月～2011 年 12 月

(男女計)		人					
月	報告 STI 定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	55	185	104	73	114	10	5
2月	54	183	101	65	70	15	2
3月	55	188	102	63	101	8	6
4月	55	192	101	71	102	9	7
5月	54	200	94	77	95	10	8
6月	54	225	94	71	79	12	12
7月	55	222	130	66	105	12	7
8月	55	244	110	76	111	7	12
9月	55	220	114	70	103	11	11
10月	55	213	98	61	114	14	17
11月	55	178	95	78	110	24	15
12月	54	176	93	66	108	4	15
合 計		2,426	1,236	837	1,212	136	117

(男女計)		人／定点					
月	報告 STI 定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	55	3.36	1.89	1.33	2.07	0.18	0.09
2月	54	3.39	1.87	1.20	1.30	0.28	0.04
3月	55	3.42	1.85	1.15	1.84	0.15	0.11
4月	55	3.49	1.84	1.29	1.85	0.16	0.13
5月	54	3.70	1.74	1.43	1.76	0.19	0.15
6月	54	4.17	1.74	1.31	1.46	0.22	0.22
7月	55	4.04	2.36	1.20	1.91	0.22	0.13
8月	55	4.44	2.00	1.38	2.02	0.13	0.22
9月	55	4.00	2.07	1.27	1.87	0.20	0.20
10月	55	3.87	1.78	1.11	2.07	0.25	0.31
11月	55	3.24	1.73	1.42	2.00	0.44	0.27
12月	54	3.26	1.72	1.22	2.00	0.07	0.28
平 均		3.70	1.88	1.28	1.85	0.21	0.18

表9-3 月別・性別患者報告数（STI） 2011年1月～2011年12月

人

月	報告 STI 定点数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	105	80	79	25	59	14	98	16		10	4	1
2月	54	96	87	72	29	46	19	60	10	5	10	2	
3月	55	111	77	63	39	43	20	87	14		8	6	
4月	55	98	94	63	38	46	25	87	15	1	8	4	3
5月	54	117	83	57	37	51	26	81	14		10	8	
6月	54	135	90	52	42	47	24	70	9		12	11	1
7月	55	124	98	89	41	46	20	86	19	2	10	7	
8月	55	132	112	72	38	53	23	91	20		7	10	2
9月	55	132	88	70	44	46	24	88	15	2	9	11	
10月	55	127	86	70	28	41	20	102	12	1	13	15	2
11月	55	105	73	63	32	51	27	91	19	8	16	14	1
12月	54	108	68	58	35	43	23	88	20		4	14	1
合 計		1,390	1,036	808	428	572	265	1,029	183	19	117	106	11

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数（STI） 2011年1月～2011年12月

人/定点

月	報告 STI 定点数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	1.91	1.45	1.44	0.45	1.07	0.25	1.78	0.29	0.00	0.18	0.07	0.02
2月	54	1.78	1.61	1.33	0.54	0.85	0.35	1.11	0.19	0.09	0.19	0.04	0.00
3月	55	2.02	1.40	1.15	0.71	0.78	0.36	1.58	0.25	0.00	0.15	0.11	0.00
4月	55	1.78	1.71	1.15	0.69	0.84	0.45	1.58	0.27	0.02	0.15	0.07	0.05
5月	54	2.17	1.54	1.06	0.69	0.94	0.48	1.50	0.26	0.00	0.19	0.15	0.00
6月	54	2.50	1.67	0.96	0.78	0.87	0.44	1.30	0.17	0.00	0.22	0.20	0.02
7月	55	2.25	1.78	1.62	0.75	0.84	0.36	1.56	0.35	0.04	0.18	0.13	0.00
8月	55	2.40	2.04	1.31	0.69	0.96	0.42	1.65	0.36	0.00	0.13	0.18	0.04
9月	55	2.40	1.60	1.27	0.80	0.84	0.44	1.60	0.27	0.04	0.16	0.20	0.00
10月	55	2.31	1.56	1.27	0.51	0.75	0.36	1.85	0.22	0.02	0.24	0.27	0.04
11月	55	1.91	1.33	1.15	0.58	0.93	0.49	1.65	0.35	0.15	0.29	0.25	0.02
12月	54	2.00	1.26	1.07	0.65	0.80	0.43	1.63	0.37	0.00	0.07	0.26	0.02

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI） 2011年1月～2011年12月

人

保健所	設置 定点数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	99	12	31		25	1	99	4			6		260	17
中央区	3	138	35	31	8	8	4	31	2		6			208	55
みなと	2	100	78	303	47	104	28	54	9		8	9		570	170
新宿区	7	373	105	165	129	251	93	418	64	6	12	66		1,279	403
文京	1	57		14		15		41						127	
台東	2		40		12		1		1		10				64
墨田区	2	26	9	8	9	11	11	17	4		3		2	62	38
江東区	2	135	14	77	3	28	4	87	5	8	4	1		336	30
品川区	1	33	3	11	1	8		31	1		1	1		84	6
大田区	2	22	69				3	5					1	27	73
渋谷区	5	83	69	43	81	17	39	44	10		4	2	4	189	207
中野区	2	50	11	10		1	12	41	2	1	12	6		109	37
杉並	2	27	12			1	3	11	3		1			39	19
池袋	3	133	100	75	55	68	24	60	30		7	7		343	216
北区	1	7		3		23	1	2				1		36	1
荒川区	1		24	2	7		5		5	1	3			3	44
板橋区	2	18	43	5	17	4	2	28	5		2	1		56	69
足立	2	31	1	8		6	1	28				1	2	74	4
江戸川	2	42	101	17	12	2	9	18	4	2	12	5	2	86	140
八王子市	4	2	90		14		9		8		6			2	127
町田市	1		44	5	11		1		2		12			5	70
多摩立川	2	3	165		21		13		22	1	13			4	234
多摩府中	3	11	2					14						25	2
多摩小平	1		9		1		1		2		1				14
合 計	55	1,390	1,036	808	428	572	265	1,029	183	19	117	106	11	3,924	2,040
定点当たり報告数		25.43	18.95	14.77	7.83	10.46	4.85	18.81	3.35	0.35	2.14	1.94	0.20	71.76	37.31
前年定点当たり報告数		24.92	19.15	13.41	8.74	11.02	4.60	17.08	2.73	0.04	2.74	1.47	0.07	67.94	38.04
当年/前年		1.02	0.99	1.10	0.90	0.95	1.06	1.10	1.23	9.38	0.78	1.32	2.73	1.06	0.98

区中央部圏	10	394	165	379	67	152	34	225	16		24	15		1,165	306
区南部圏	3	55	72	11	1	8	3	36	1		1	1	1	111	79
区西南部圏	5	83	69	43	81	17	39	44	10		4	2	4	189	207
区西部圏	11	450	128	175	129	253	108	470	69	7	25	72		1,427	459
区西北部圏	6	158	143	83	72	95	27	90	35		9	9		435	286
区東北部圏	3	31	25	10	7	6	6	28	5	1	3	1	2	77	48
区東部圏	6	203	124	102	24	41	24	122	13	10	19	6	4	484	208
南多摩圏	5	2	134	5	25		10		10		18			7	197
北多摩西部圏	2	3	165		21		13		22	1	13			4	234
北多摩南部圏	3	11	2					14						25	2
北多摩北部圏	1		9		1		1		2		1				14

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI） 2011年1月～2011年12月

人／定点

保健所	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	49.50	6.00	15.50		12.50	0.50	49.50	2.00			3.00		130.00	8.50
中央区	3	46.00	11.67	10.33	2.67	2.67	1.33	10.33	0.67		2.00			69.33	18.33
みなと	2	50.00	39.00	151.50	23.50	52.00	14.00	27.00	4.50		4.00	4.50		285.00	85.00
新宿区	7	53.29	15.00	23.57	18.43	35.86	13.29	59.71	9.14	0.86	1.71	9.43		182.71	57.57
文京	1	57.00		14.00		15.00		41.00						127.00	
台東	2		20.00		6.00		0.50		0.50		5.00				32.00
墨田区	2	13.00	4.50	4.00	4.50	5.50	5.50	8.50	2.00		1.50		1.00	31.00	19.00
江東区	2	67.50	7.00	38.50	1.50	14.00	2.00	43.50	2.50	4.00	2.00	0.50		168.00	15.00
品川区	1	33.00	3.00	11.00	1.00	8.00		31.00	1.00		1.00	1.00		84.00	6.00
大田区	2	11.00	34.50				1.50	2.50					0.50	13.50	36.50
渋谷区	5	17.10	14.35	9.20	17.15	3.75	8.15	9.00	2.15		0.85	0.40	0.80	39.45	43.45
中野区	2	25.00	5.50	5.00		0.50	6.00	20.50	1.00	0.50	6.00	3.00		54.50	18.50
杉並	2	13.50	6.00			0.50	1.50	5.50	1.50		0.50			19.50	9.50
池袋	3	44.33	33.33	25.00	18.33	22.67	8.00	20.00	10.00		2.33	2.33		114.33	72.00
北区	1	7.00		3.00		23.00	1.00	2.00				1.00		36.00	1.00
荒川区	1		24.00	2.00	7.00		5.00		5.00	1.00	3.00			3.00	44.00
板橋区	2	9.00	21.50	2.50	8.50	2.00	1.00	14.00	2.50		1.00	0.50		28.00	34.50
足立	2	15.50	0.50	4.00		3.00	0.50	14.00				0.50	1.00	37.00	2.00
江戸川	2	22.00	50.50	8.50	6.00	1.00	4.50	10.50	2.00	1.00	6.00	2.50	1.00	45.50	70.00
八王子市	4	0.50	22.50		3.50		2.25		2.00		1.50			0.50	31.75
町田市	1		44.00	5.00	11.00		1.00		2.00		12.00			5.00	70.00
多摩立川	2	1.50	82.50		10.50		6.50		11.00	0.50	6.50			2.00	117.00
多摩府中	3	3.67	0.67					4.67						8.33	0.67
多摩小平	1		9.00		1.00		1.00		2.00		1.00				14.00
合 計	55	1,390	1,036	808	428	572	265	1,029	183	19	117	106	11	3,924	2,040
定点当たり報告数		25.43	18.95	14.77	7.83	10.46	4.85	18.81	3.35	0.35	2.14	1.94	0.20	71.76	37.31
前年定点当たり報告数		24.92	19.15	13.41	8.74	11.02	4.60	17.08	2.73	0.04	2.74	1.47	0.07	67.94	38.04
当年/前年		1.02	0.99	1.10	0.90	0.95	1.06	1.10	1.23	9.38	0.78	1.32	2.73	1.06	0.98

区中央部圏	10	39.40	16.50	37.90	6.70	15.20	3.40	22.50	1.60		2.40	1.50		116.50	30.60
区南部圏	3	18.33	24.00	3.67	0.33	2.67	1.00	12.00	0.33		0.33	0.33	0.33	37.00	26.33
区西南部圏	5	17.10	14.35	9.20	17.15	3.75	8.15	9.00	2.15		0.85	0.40	0.80	37.80	41.40
区西部圏	11	40.91	11.64	15.91	11.73	23.00	9.82	42.73	6.27	0.64	2.27	6.55		129.73	41.73
区西北部圏	6	26.33	23.83	13.83	12.00	15.83	4.50	15.00	5.83		1.50	1.50		72.50	47.67
区東北部圏	3	10.33	8.33	3.33	2.33	2.00	2.00	9.33	1.67	0.33	1.00	0.33	0.67	25.67	16.00
区東部圏	6	34.43	20.70	17.20	4.03	7.00	4.03	20.60	2.23	1.67	3.17	1.00	0.67	80.67	34.67
南多摩圏	5	0.40	26.80	1.00	5.00		2.00		2.00		3.60			1.40	39.40
北多摩西部圏	2	1.50	82.50		10.50		6.50		11.00	0.50	6.50			2.00	117.00
北多摩南部圏	3	3.67	0.67					4.67						8.33	0.67
北多摩北部	1		9.00		1.00		1.00		2.00		1.00				14.00

表9-7 年齢階級別患者報告数 (STI) 2011年1月～2011年12月

人

年齢階級	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1～4歳														
5～9歳														
10～14歳		6				2				2				10
15～19歳	40	124	8	30	10	26	33	29	2	5	1		94	214
20～24歳	176	295	33	74	48	87	136	63	1	20	13		407	539
25～29歳	277	273	86	89	88	74	214	46	3	22	19	3	687	507
30～34歳	247	168	168	72	110	33	219	22	4	13	22	1	770	309
35～39歳	232	87	111	51	117	25	152	9	3	17	22		637	189
40～44歳	174	49	107	36	63	5	101	5	2	8	15		462	103
45～49歳	119	21	105	19	62	5	76	7	1	11	5	1	368	64
50～54歳	61	8	79	22	33	5	42		2	6	4		221	41
55～59歳	38	4	41	9	22		27	1		4	4		132	18
60～64歳	18		32	7	4	2	19			3	1	2	74	14
65～69歳	5		17	9	10	1	5			1		2	37	13
70歳以上	3	1	21	10	5		5	1	1	5		2	35	19
合 計	1,390	1,036	808	428	572	265	1,029	183	19	117	106	11	3,924	2,040

表10 検査結果別報告数 (基幹) 2011年1月～2011年12月

人

検査結果	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミジア 肺炎	合計
インフルエンザ菌	8				8
肺炎球菌	6				6
B群レンサ球菌	5				5
大腸菌K1	3				3
緑膿菌	2				2
黄色ブドウ球菌	2				2
エンテロコッカス フェカリス	1				1
リステリア モノサイトゲネス	1				1
表皮ブドウ球菌	1				1
レンサ球菌(群不明)	1				1
レンサ球菌(群その他)	1				1
その他の細菌	1				1
ムンプスウイルス		4			4
水痘帯状疱疹ウイルス		2			2
クリプトコッカス ネオフォルマンس		1			1
エンテロウイルス(型不明)		1			1
単純ヘルペスウイルス1型		1			1
結核菌		1			1
パレコウイルス1型		1			1
肺炎マイコプラズマ		1	1,121		1,122
肺炎クラミジア				18	18
陰性		6	2		8
記載なし	20	78	20		118
合計	52	96	1,143	18	1,309

表 1 1 疑似症サーベイランス報告数 2011 年第 1 週～2011 年第 52 週

週	期間	報告定点数	発熱及び呼吸器症状	発熱及び発しん・水疱
1	1. 3～ 1. 9	437	2	
2	1. 10～ 1. 16	443		
3	1. 17～ 1. 23	441		
4	1. 24～ 1. 30	441		
5	1. 31～ 2. 6	443		
6	2. 7～ 2. 13	441	1	
7	2. 14～ 2. 20	442		
8	2. 21～ 2. 27	441		
9	2. 28～ 3. 6	441		
10	3. 7～ 3. 13	438	1	1
11	3. 14～ 3. 20	438		
12	3. 21～ 3. 27	439		
13	3. 28～ 4. 3	436		
14	4. 4～ 4. 10	438		
15	4. 11～ 4. 17	441	1	
16	4. 18～ 4. 24	439		
17	4. 25～ 5. 1	436		
18	5. 2～ 5. 8	435	1	
19	5. 9～ 5. 15	440		1
20	5. 16～ 5. 22	441		
21	5. 23～ 5. 29	436		1
22	5. 30～ 6. 5	439		
23	6. 6～ 6. 12	438		
24	6. 13～ 6. 19	438		
25	6. 20～ 6. 26	438		
26	6. 27～ 7. 3	437		
27	7. 4～ 7. 10	441		
28	7. 11～ 7. 17	439		
29	7. 18～ 7. 24	437		
30	7. 25～ 7. 31	439		
31	8. 1～ 8. 7	432		
32	8. 8～ 8. 14	410		
33	8. 15～ 8. 21	418		
34	8. 22～ 8. 28	432		
35	8. 29～ 9. 4	438		
36	9. 5～ 9. 11	440		
37	9. 12～ 9. 18	433		
38	9. 19～ 9. 25	439		
39	9. 26～10. 2	436		
40	10. 3～10. 9	433		
41	10. 10～10. 16	434		
42	10. 17～10. 23	439		
43	10. 24～10. 30	438		
44	10. 31～11. 6	443		
45	11. 7～11. 13	435		1
46	11. 14～11. 20	438	2	
47	11. 21～11. 27	441	1	
48	11. 28～12. 4	442		
49	12. 5～12. 11	440		
50	12. 12～12. 18	442		
51	12. 19～12. 25	441		
52	12. 26～ 1. 1	421		
合 計			9	4

保健所	設置定点数	発熱及び呼吸器症状	発熱及び発しん・水疱
千代田	4		
中央区	5		
みなと	9		
新宿区	13		
文京	8		
台東	7		
墨田区	9		
江東区	14		
品川区	13	2	
目黒区	8		
大田区	22		
世田谷	28		
渋谷区	9		
中野区	11		
杉並	16		
池袋	9		
北区	11		
荒川区	7		
板橋区	18	6	1
練馬区	21		1
足立	21		
葛飾区	13		
江戸川	19		
八王子市	19		
町田市	13		
西多摩	15		
南多摩	15		
多摩立川	23		
多摩府中	36		
多摩小平	24	1	2
島しょ	3		
合 計	443	9	4

年齢階級	発熱及び呼吸器症状	発熱及び発しん・水疱
0～5 か月		
6～11 か月		
1歳	1	3
2歳	1	1
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳	1	
15～19歳		
20～29歳	2	
30～39歳	3	
40～49歳		
50～59歳	1	
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2011年1月から12月末までの間に、東京都内の小児科及び基幹病原体定点より2,492件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液1,524件、鼻汁257件、髄液333件、糞便246件、血液40件、尿39件、結膜拭い液41件及びその他（胸水、皮膚病巣等）12件であった（表1）。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診 断 名		検 体 種								
		総 計	咽 頭 拭 い 液	鼻 汁	髄 液	糞 便	血 液	尿	結 膜 拭 い 液	そ の 他
呼吸器系疾患	上気道炎	185	172	10	1	1	1			
	下気道炎	248	205	38		3		1		
	インフルエンザ	261	99	159	2			1		
	RSウイルス感染症	47	39	8						
	咽頭結膜熱	80	73	1					6	
	マイコプラズマ肺炎	16	16							
	百日咳	9	5	4						
	不明熱	94	79	5	8	2				
感染性胃腸炎		182	18		2	159	1			2
神経系疾患	無菌性髄膜炎	261	51	3	178	21		8		
	脳炎・脳症	97	23	3	44	15	1	10		1
	けいれん	78	19	1	55	2	1			
	脊髄炎	26	6		8	6		6		
発疹性疾患	手足口病	127	120	1		4		1		1
	突発性発しん	54	51		2	1				
	ヘルパンギーナ	39	37			1		1		
	伝染性紅斑	39	36	2		1				
	川崎病	38	30	1	2	4			1	
	水痘	21	18		1	1				1
	口内炎	10	9							1
	麻しん	9	6				2	1		
	風しん	2	2							
	不明発しん症	241	220	10		4	6		1	
流行性耳下腺炎		82	80		2					
流行性角結膜炎		34	4						30	
デング熱		19					19			
リンパ節炎		26	25				1			
肝機能障害		14	9	2		2	1			
その他		153	72	9	28	19	7	10	3	5
総 計		2492	1524	257	333	246	40	39	41	12

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患940件（上気道炎185件、下気道炎248件、インフルエンザ261件、RSウイルス感染症47件、咽頭結膜熱80件、マイコプラズマ肺炎16件、百日咳9件、

不明熱 94 件)、感染性胃腸炎 182 件、神経系疾患 462 件 (無菌性髄膜炎 261 件、脳炎・脳症 97 件、けいれん 78 件、脊髄炎 26 件)、発しん性疾患 580 件 (手足口病 127 件、突発性発しん 54 件、ヘルパンギーナ 39 件、伝染性紅斑 39 件、川崎病 38 件、水痘 21 件、口内炎 10 件、麻しん 9 件、風しん 2 件、不明発しん症 241 件)、流行性耳下腺炎 82 件、流行性角結膜炎 34 件、デング熱 19 件、リンパ節炎 26 件、肝機能障害 14 件、「その他」153 件であった。「その他」には尿路感染症、てんかん、子宮内感染症、敗血症、貧血等があり、診断名の記載のないもの 22 件が含まれる。

イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 2,492 件のうち、主に血液を除く 2,452 件を対象に、細胞培養(HeLa、Hep-2、RD-18S、MDCK、Vero、B95a、C6/36 細胞等)によるウイルス分離試験と酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った結果、406 件のウイルスが分離検出された(表 2)。分離されたウイルスの内訳は、アデノウイルス 134 株(33.0%)、インフルエンザウイルス 79 株(19.5%)、コクサッキーウイルス 58 株(14.3%)、エコーウイルス 51 株(12.6%)、ムンプスウイルス 27 株(6.7%)、ポリオウイルス 9 株(2.2%)、単純ヘルペスウイルス 7 株(1.7%)、RS ウイルス 4 株(1.0%)、麻しんウイルス 1 株(0.2%)であった。2011 年は、節電の影響で動物舎が使用できなかったため、マウスを使用するコクサッキー A 群ウイルスの分離試験は実施できなかった。A 群ロタウイルス抗原は 36 件(8.9%)が確認された。

表 2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

		陽性 総計	上気道炎	下気道炎	インフル エンザ	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	マイコプラズマ 感染症	百日咳	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	手足口病	突発性発しん	ヘルパンギーナ	伝染性紅斑	川崎病	口内炎	不明発しん症	麻しん	流行性角結膜炎	流行性耳下腺炎	リンパ節炎	その他
検査検体数		2452	184	248	261	47	80	16	9	94	181	261	96	77	127	54	39	39	38	10	235	7	3	82	25	146
分離ウイルス	AH1pdm09亜型	23	1		22																					
	AH3亜型	21			21																					
	B型	35	2	3	28				1	1																
アデノ	1型	23	4	3			5			1	3				2	1	1		1		2					
	2型	38	6	5		1	6	2		2	7				2		1				3			1		2
	3型	40	8	1	1		17			5	1									1	1		3			1
	4型	1						1												1	1					
	5型	12	1	3	1		1				2				1						1				1	1
	6型	2	1	1																						
	11型	1																								1
	31型	2									2															
	37型	4																						4		
	41型	2									1															1
	56型	9					1																8			
ポリオ	1型	6	1	2							1					1					1					
	2型	2		1							1															
	3型	1		1																						
コクサッキー	B群1型	22	4				2		1	2		2		1	2	1	3				2					2
	B群2型	13	3							8		1														1
	B群3型	3																								3
	B群4型	4					1					3														
	B群5型	16	10									4						1								1
エコー	6型	50	1									48	1													
	30型	1									1									1						
単純ヘルペス	1型	7	1				1													1			2	2		
ムンプス		27										3												23	1	
麻しん		1																				1				
RS		4		3																	1					
A群ロタ		36	1								34					1										
総 計		406	44	23	73	1	34	3	2	19	53	61	1	1	7	4	6	1	1	2	11	1	17	26	3	12

2010 年最も多く分離されたウイルスは表 2 に示したように、エコーウイルス 6 型(50 株)で、無菌性髄膜炎患者の検体から最も多く分離された(48 株)。この他、脳炎・脳症患者(1 株)、上気道炎(1

株)、患者の検体からも分離されており、2011 年の無菌性髄膜炎の流行株と推察された。

次に多く分離されたのは、アデノウイルス 3 型で、主に咽頭結膜熱患者検体から多く分離されていた (17 株) が同ウイルスは上気道炎 (8 株)、流行性角結膜炎 (3 株) 等の患者検体からも検出されていた。

アデノウイルス 56 型が流行性角結膜炎患者検体から 8 株分離された。56 型は 2011 年に提唱された新型アデノウイルスで、血清型別が困難なため、分離したアデノウイルス遺伝子のヘキソン領域を解析して型別を決定した。

分離されたポリオウイルス株は全て VP1 領域の遺伝子を解析し、ワクチン由来株であることを確認している。

また、感染性胃腸炎患者検体から、酵素抗体法により A 群ロタウイルス 34 件が確認された。

ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を図 1 及び表 3 に示した。

搬入された総検体 2,492 検体中 2,448 検体を対象に 8,941 件の遺伝子検索を実施した結果、1,321 検体 (54.0%) から 1,626 件のウイルス遺伝子が検出された (複数種のウイルス遺伝子の同時検出例を含む)。陽性例の内訳をみると、エンテロウイルスが 375 件 (23.1%)、と最も多く、以下インフルエンザウイルス 228 件 (14.0%)、ヒトヘルペスウイルス 202 件 (12.4%)、アデノウイルス 201 件 (12.4%)、ライノウイルス 173 件 (10.6%)、RS ウイルス 101 件 (6.2%)、EB ウイルス 74 件 (4.6%)、パルボウイルス B19 65 件 (4.0%)、ムンプスウイルス 51 件 (3.1%)、ノロウイルス 36 件 (2.2%)、パラインフルエンザウイルス 31 件 (1.9%)、サイトメガロウイルス 25 件 (1.5%)、ヒトメタニューモウイルス 20 件 (1.2%)、単純ヘルペスウイルス 20 件 (1.2%)、水痘帯状疱疹ウイルス 9 件 (0.6%)、サポウイルス 7 件 (0.4%)、麻しんウイルス 6 件 (0.4%)、デングウイルス 2 件 (0.1%)、であった。

エンテロウイルスについては、ダイレクトシーケンス法により遺伝子増幅産物の遺伝子配列を決定し、遺伝子データベースを利用して遺伝子の相同性検索を行い、検出ウイルス遺伝子のさらなる分類を試みた。エンテロウイルス遺伝子検査結果が陽性となった 226 検体の遺伝子を解析した結果は、コクサッキーウイルス A 群 187 件、コクサッキーウイルス B 群 70 件、ポリオウイルス 22 件、エコーウイルス 59 件、71 型 2 件、型別不明 35 件であった。

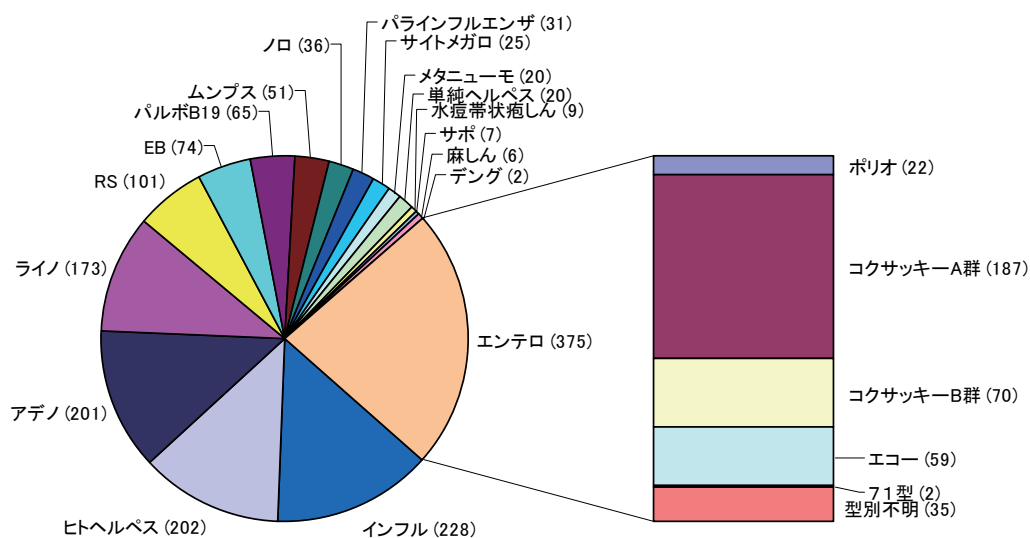


図 1. ウイルス遺伝子検出数 (陽性例 : 1,626 件)

表 3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

		陽性 総数	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	RS ウイ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	百 日 咳	不 明 熱	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜炎	脳 炎・ 脳 症	け い れ ん	脊 髄 炎	手 足 口 病	突 発 性 発 し ん	ヘル パ ン ギ ー ナ	伝 染 性 紅 斑	川 崎 病	水 痘	口 内 炎	麻 し ん	風 し ん	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	デ ン グ 熱	肝 機 能 障 害・ 肝 炎	リン パ 節 炎	そ の 他	
検査検体数		1321	185	247	261	47	80	16	9	86	181	261	97	77	26	127	54	39	39	38	21	10	9	2	241	82	34	17	12	26	124	
インフルエンザ	INH1pdm09亜型	68	1	1	65																				1						1	
	INH3亜型	95	2	3	84	1	1									1									2							
	INB型	65	2	4	47	1	2		1	3	2						2															
アデノ		201	29	24	9	5	40	3	1	10	17					10	4	3	2	3		1			13	6	12		1	3	5	
エンテロ	ポリオ1型	18	3	4		1	2							1				3	1						2						1	
	ポリオ2型	2										1																				
	ポリオ3型	2										1	1																			
	コクサッキーA6型	99	5			2				3			1			57		13			2				16							
	コクサッキーA9型	3				1																		2								
	コクサッキーA10型	39	4	3		1						1	2	1			6	2	8	1	4		2		3	1						
	コクサッキーA16型	46	1	4		1				1	1	1		1		28		1	1			1			3		1				1	
	コクサッキーB1型	27	3				1			1	3	10			1				2						6							
	コクサッキーB2型	18	4	3							6	4																				1
	コクサッキーB4型	5					1				1	2						1														
	コクサッキーB5型	20	10			1	1				2	5																				1
	エコー3型	3	1	1							1																					
	エコー6型	53	4	2	1						2	4	37	1													1					1
	エコー7型	1	1																													
	エコー9型	1															1															
	エコー30型	1										1																				
型別不明	2										1					1																
ライノ	173	3	1		1	2	1			1	1	5	1			7	2	4							6							
単純ヘルペス	1型	16	2				1									7	3	2	2	3	2				1	20	8	1		2	2	11
	2型	4														2		1				3			1	1	3					1
サイトメガロ		25	3			1				3		1		1						1					7	1				3	1	2
EB		74	6	3	1		1	1			1	2	2		2		1		2	1				1	16	20				2	9	3
水痘帯状疱疹しん		9														3					6											
ヒトヘルペス	6型	163	6	4							4	1		6	9		23	38	2	3		1		1		63						2
	7型	39	2										1	1	2		6	7	2	1	1	1			15							
パラインフルエンザ	1型	2	1	1																												
	3型	29	3	19			3				1						1									2						
RS		101	14	34		35	2	2	1	5						1	1									2						4
麻しん	A型	3	1																							2						
	D9型	2																						2								
型別不明		1																								1						
ヒトメタニューモ		20	3	16																												
ムンプス		51										8	1													1					2	
バルボB19		65	1				1							1			3	1		29	1				1	25		40				
デング		2																														2
プロ	1型	2																														
GⅡ型		36									35		1																			
サボ	7	7																														
総計		1626	136	177	214	54	63	8	5	49	84	85	22	17	2	156	67	39	41	14	13	6	3	3	209	78	17	2	8	19	35	

この解析の結果、2011 年に流行した手足口病の原因ウイルスはコクサッキーウイルス A 群 6 型と同 16 型であることが判明した。コクサッキーウイルス A 群 6 型による手足口病の流行は過去になく、2011 年が初めてであった。病原体定点医療機関からは、2011 年の手足口病は従来のウイルスによるものよりも強い症状が出る例が多くみられたと報告が寄せられた。不明発しん症として搬入された検体からコクサッキーウイルスが検出された例が多かったのは従来の手足口病の臨床像と異なるためと思われたが、その傾向は特にコクサッキーA 群 6 型に顕著であった。またコクサッキーA 群 6 型ウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 10 型と共にヘルパンギーナ患者検体からも多く検出されていた。

無菌性髄膜炎患者からは、エコーウイルス 6 型が最も多く検出されており、ウイルス分離の結果と一致した。

エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、マイコプラズマ肺炎、百日咳患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から多く検出された上位 7 種のウイルスのうちインフルエンザウイルスの検出状況を図 2 に、その他のエンテロウイルス、パラインフルエンザウイルス、アデノウイルス、ライノウイルス、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルスの月別の検出状況を図 3 に示した。

インフルエンザウイルス AH3 亜型（香港型）の検出は 1 月の流行期から緩やかに減少し、5 月まで続いた、B 型は 4 月を検出のピークとし、6 月まで検出された。季節性の A/H1（ソ連型）の検出はなかつ

た。新型インフルエンザ A/H1N1pdm09 は、1 月を大きなピークとして 2 月まで検出が続いた。12 月には AH3 亜型によるインフルエンザの検出数の増加が見られた。本年は 8 月、9 月、11 月を除き、ほぼ一年を通して、インフルエンザウイルスが検出されていた。

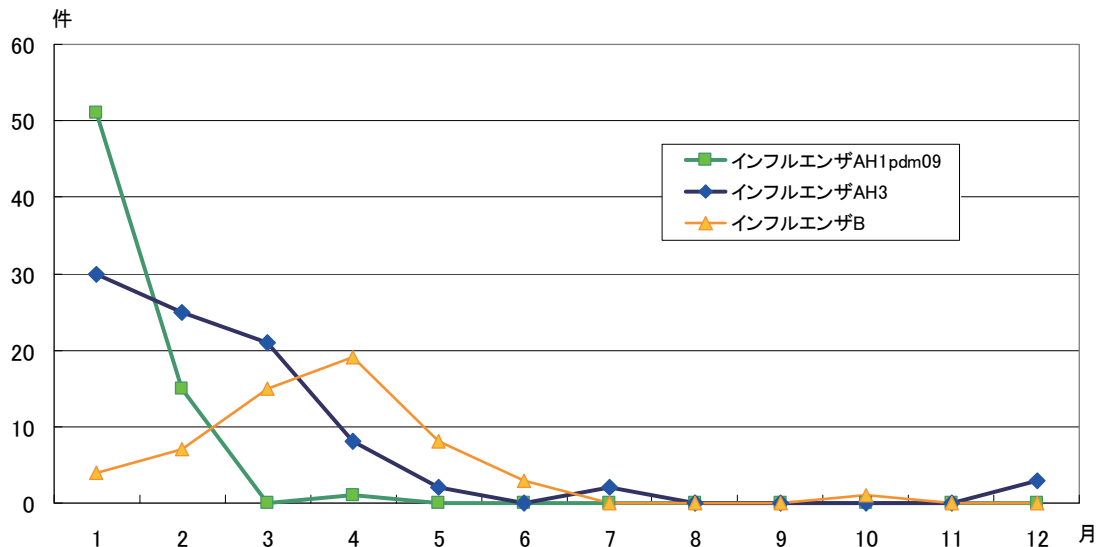


図 2. 呼吸器感染症患者検体からのインフルエンザウイルスの月別検出状況

その他の呼吸器系ウイルスの検出状況については、春から初夏に検出されることの多いヒトメタニューモウイルスは 4 月から 8 月まで検出が続いた。初夏に流行することが多いパラインフルエンザウイルスは、例年通り 6 月をピークとし 5 月から 7 月まで検出が続いた。また、春と秋に流行することの多いライノウイルスは、特に 10 月を中心として秋季に大きな流行のピークを形成し、夏風邪の原因とされるエンテロウイルスは、9 月をピークとする夏季を中心とした流行が見られた。

一方、毎年咽頭結膜熱の原因ウイルスとして夏に多く検出されるアデノウイルスは、5 月から 6 月に大きな流行のピークが見られ夏季の流行は小さかった。秋から冬にかけて流行が見られる事が多い RS ウイルスは 5 月を除きほぼ一年を通して検出され、例年とは逆に 9 月に大きな流行がみられた。

昨年初めて都内で検出されたエンテロウイルス 68 型は、2011 年は全く検出されなかった。

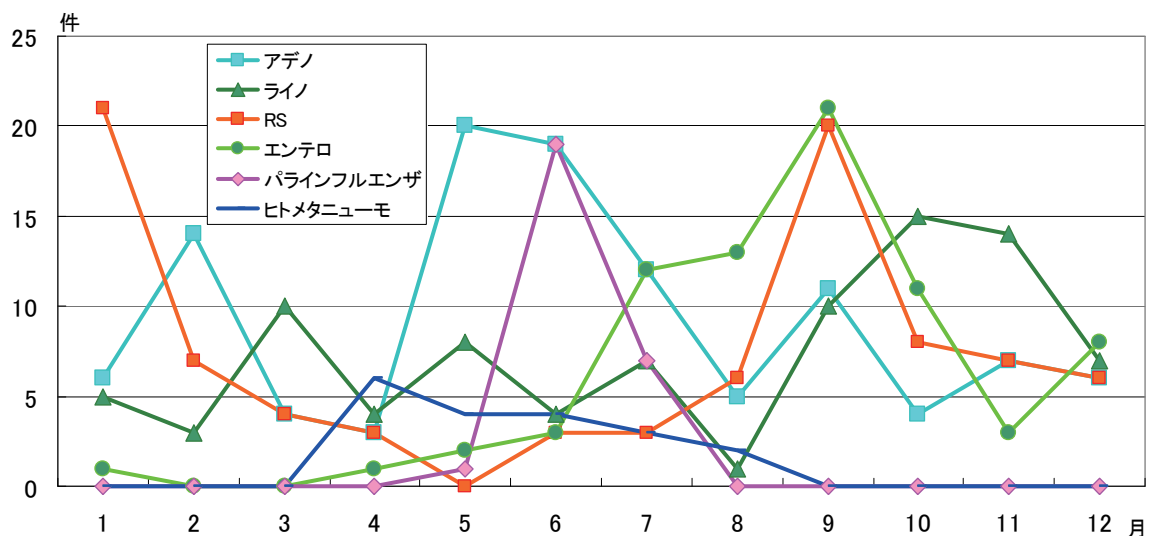


図 3. 呼吸器感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス、ムンプスウイルス及びヘルペスウイルスについて月別の検出状況を図 4 に示した。なお、ヒトヘルペスウイルス、単純ヘルペスウイルス、EB ウイルス等のヘルペスウイルス科に属するウイルスをまとめて「ヘルペス」として計上している。

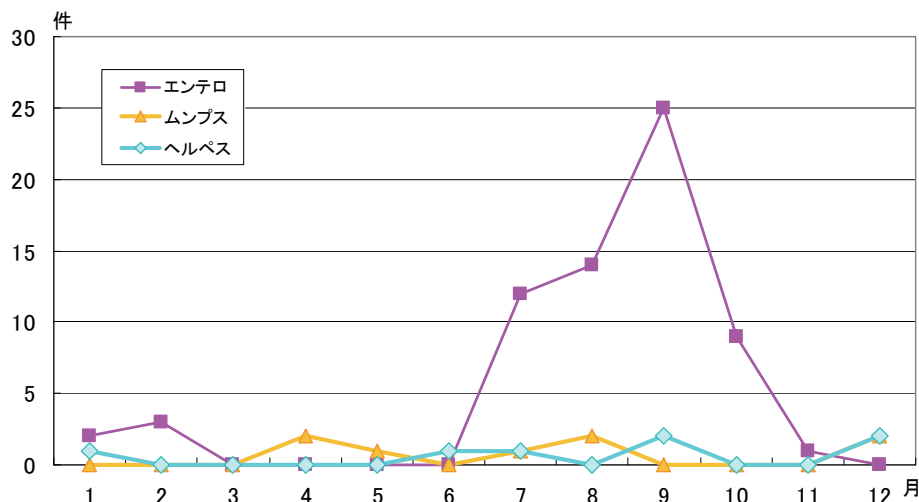


図 4. 無菌性髄膜炎患者からの月別ウイルス検出状況

無菌性髄膜炎は、夏季を中心として流行する中枢神経系の疾患で、毎年夏季に大小の流行を起こすが、原因ウイルスの種類は毎年異なっている。本疾患は、主にエンテロウイルスによって起こることが多いが、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスによっても起こることが知られている。2011 年は無菌性髄膜炎患者検体から 66 件のエンテロウイルスが検出された。エンテロ以外にはムンプスウイルスが 8 件、ヘルペスウイルスが 7 件検出された。

2011 年の無菌性髄膜炎の原因となった主なウイルスはエンテロウイルスで、中でもエコーウイルス 6 型は 9 月をピークとして 7 月から 11 月にかけて流行がみられた。また、コクサッキーウイルス B 群 1 型も 8 月から 10 月にかけて検出され、同群 2 型、4 型、5 型が、またコクサッキーウイルス A 群 10 型の検出もみられ、2011 年の無菌性髄膜炎の流行が多種のエンテロウイルスによって引き起こされていたことが示唆された。

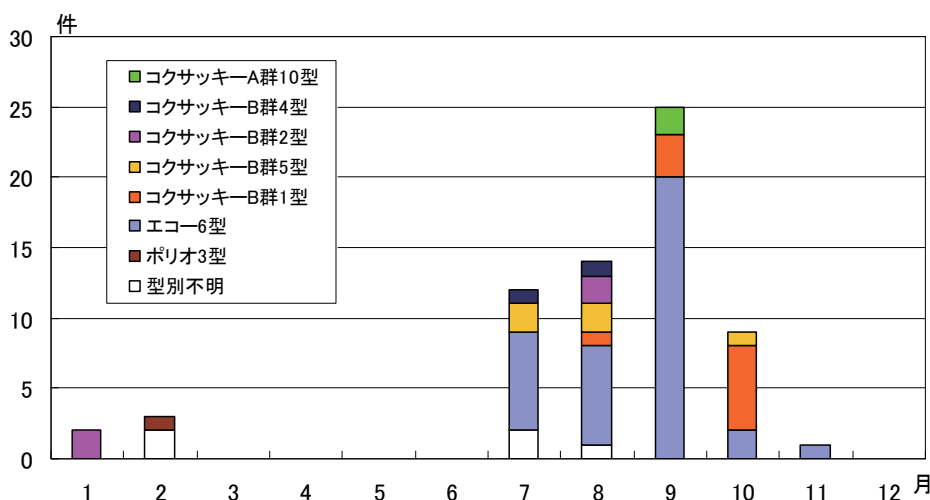


図 5. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別エンテロウイルス検出状況

③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検出（酵素抗体法）によって検出されたウイルスの月別検出数を図 6 に示した。ノロウイルスは前年から続く流行がそのまま 7 月まで続き、9 月から 12 月にかけて再び検出数の急激な増加が見られた。ノロウイルスが検出されなかったのは 8 月のみであった。毎年、春先に流行の見られることが多いロタウイルスは、1 月から 6 月にかけて検出され 4 月に大きな流行のピークを形成していた。アデノウイルスの検出は、4 月から 6 月に多くサポウイルスの検出も同時期にみられた。

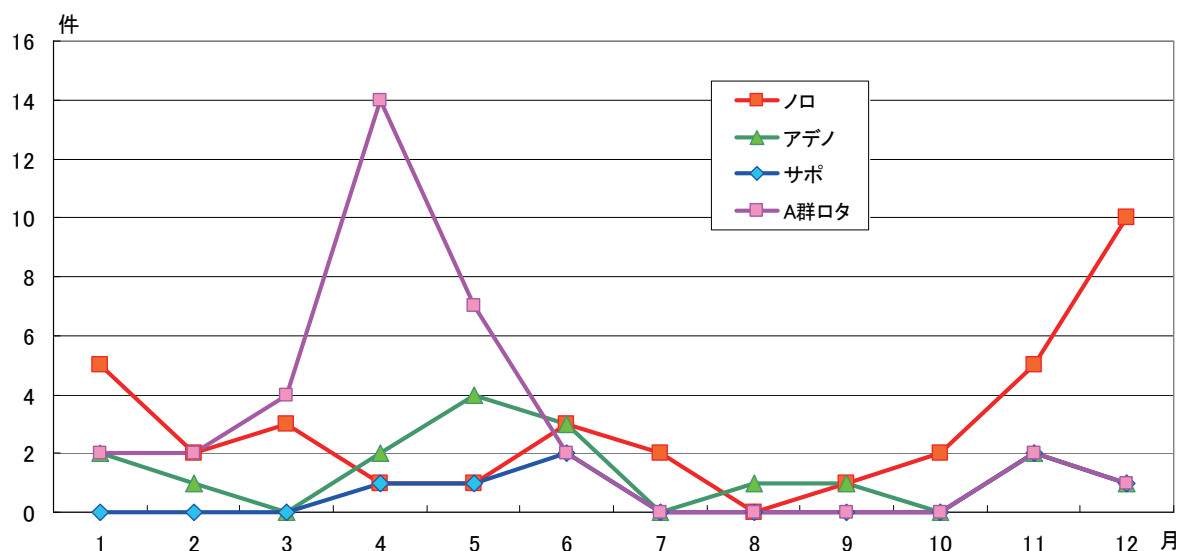


図 6. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

発しん性疾患（手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、川崎病、水痘、口内炎、麻しん、風しん）の患者検体 339 件よりアデノウイルス 11 株（1 型 5 株、2 型 3 株、3 型 2 株、5 型 1 株）、ポリオウイルス 3 型 1 株、コクサッキーウイルス B 群 7 株（1 型 6 株、5 型 1 株）、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 株の計 20 株が分離された。また酵素抗体法により A 群ロタウイルス 1 件が検出された。

月別の遺伝子検出状況を図 7 に示す。アデノウイルス 23 件、エンテロウイルス属 148 件（遺伝子解析結果；ポリオウイルス 4 件、コクサッキーウイルス A 群 126 件、同 B 群 3 件、エコーウイルス 1 件、エンテロウイルス 71 型 1 件、型別不明 13 件）、ライノウイルス 20 件、ヘルペスウイルス属 108 件（ヒトヘルペスウイルス 6 型 68 件、同 7 型 18 件、単純ヘルペスウイルス 1 型 6 件、EB ウイルス 5 件、水痘帯状疱疹しんウイルス 9 件、サイトメガロウイルス 2 件）、パルボ B19 ウイルス 35 件、インフルエンザウイルス 3 件、RS ウイルス 2 件、麻しんウイルス D9 型 2 件、パラインフルインフルエンザウイルス 3 型 1 件の計 342 件が検出された。

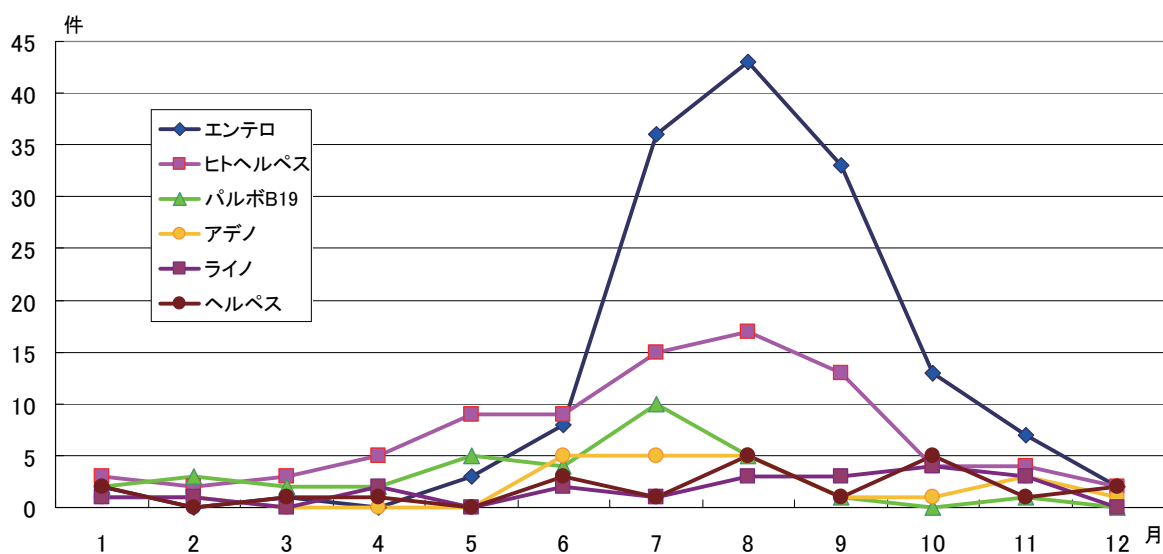


図7. 発しん性疾患患者検体からの主な月別ウイルス遺伝子検出状況

コクサッキーウイルス A 群は、夏季に多く流行する手足口病やヘルパンギーナの原因ウイルスとされている。本年は、手足口病や、ヘルパンギーナの流行が見られたこともあり、本年の発しん性患者検体から同ウイルスは、126 件（6 型 72 件、10 型 23 件、16 型 31 件）と多数検出された。

エンテロウイルスでは他にエコーウイルス 9 型 1 件、エンテロウイルス 71 型 1 件であった。コクサッキーウイルス A 群 6 型による手足口病の流行は本邦初のことである。月別のエンテロウイルスの検出状況を図 8 に示す。

また、本年はヒトヘルペスウイルス、パルボウイルス B19 も例年に比べて検出数が増加しており、いずも夏季を中心とした流行であった。

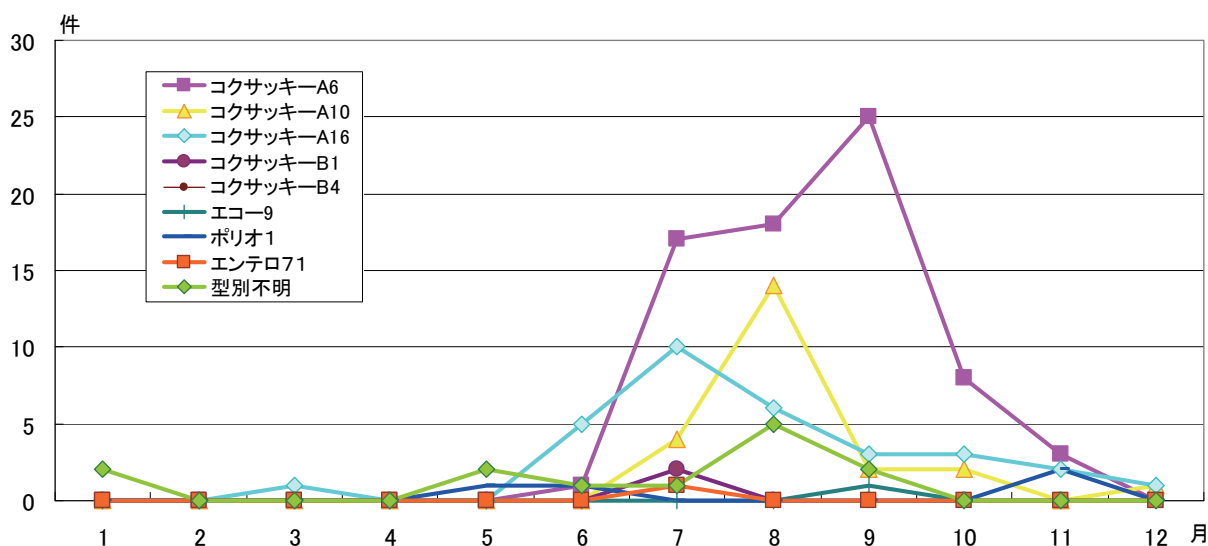


図8. 発しん性疾患患者からの主な月別エンテロウイルス遺伝子検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

不明発しん症患者検体 235 件から、アデノウイルス 7 株（1 型 2 株、2 型 3 株、3 型 1 株）、ポリオウイルス 1 型 1 株、コクサッキーウイルス B 群 1 型 2 株および RS ウイルス 1 株が分離された。

遺伝子検出状況は図 9 に示した。陽性例 209 件の内、ヒトヘルペス 6 型は 63 件（30.1%）と最も多く検出された。さらにパルボ B19 25 件（12.0%）、コクサッキーA 群 24 件（11.5%）、ライノ 20 件（9.6%）、EB ウイルス 16 件（7.7%）、アデノ 13 件（6.2%）、サイトメガロ 7 件（3.3%）コクサッキーB 群 6 件（2.9%）、エンテロ型別不明 6 件（2.9%）、麻しん 3 件（1.4%）、その他インフルエンザ AH3 亜型、パラインフルエンザ 3 型、ポリオ 1 型、RS がそれぞれ 2 件（1.0%）、単純ヘルペス、インフルエンザ AH1pdm09、ヒトメタニューモの遺伝子がそれぞれ 1 件（0.5%）検出された。

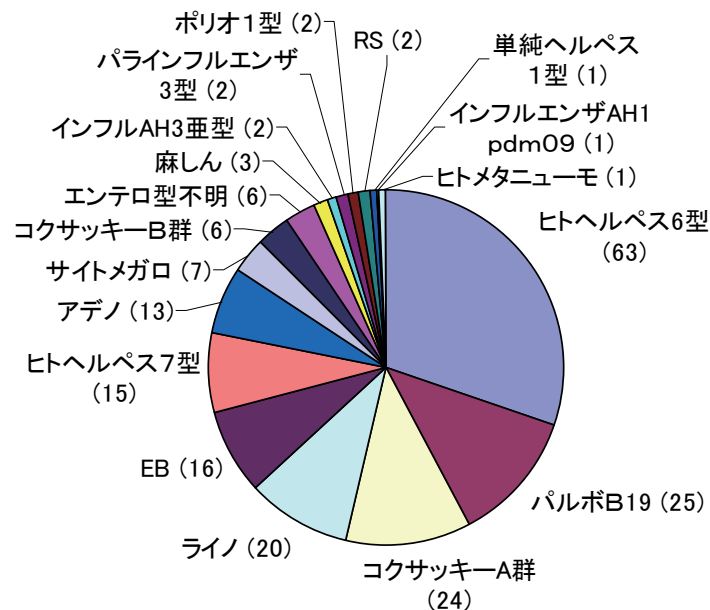


図 9. 不明発しん症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑥ 川崎病患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）再掲

川崎病患者検体 38 検体からアデノウイルス 1 型 1 件が分離された。

遺伝子検索状況を図 10 に示した。14 件からウイルス遺伝子が検出され、コクサッキーA 群 10 型が 4 件（28.6%）、アデノとライノが 3 件（21.4%）ずつ、またサイトメガロ、EB、パルボ B19 がそれぞれ 1 件（7.1%）検出された。

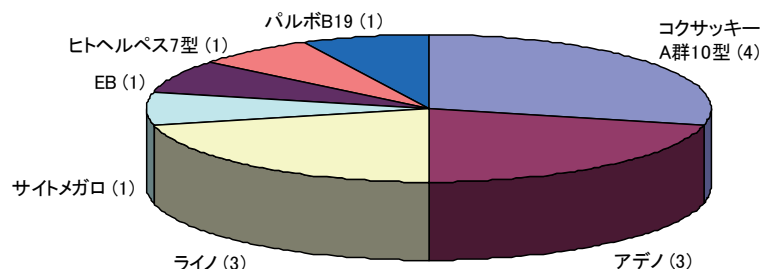


図 10. 川崎病患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

2011 年は、都内 3 定点医療機関からデング熱疑い患者の検体が 19 件搬入された。それらの検体についてデングウイルスの抗体検査を行った結果、抗デングウイルス IgM が 5 検体から検出された。

また、2011 年度は、都内 4 医療機関からリケッチア症（紅斑熱、つつが虫病、猫ひっかき病、Q 熱）の疑い患者検体が 14 件、ライム病疑いの検体が 1 件搬入された。リケッチア症疑いの検体では、単項目での検査依頼は 8 件で、他の 6 件は複数項目の検査依頼であった。そのほとんどが紅斑熱群リケッチア検査と猫ひっかき病の検査依頼であり、一部に Q 熱疑いの検査が依頼された。多くは臨床診断上、リケッチア症を疑っているものが多いが、非定型肺炎、不明熱やウイルス脳炎等の明確な診断のつかない疾患の検査依頼事由としているものが散見された。検体は 4～7 月と 11～翌年 2 月までの時期に集中し、リケッチア症の発生時期とされる春と秋からは暦の上でややずれていた。特に冬期の気候により発生時期がずれることが多く、予防の観点からも注意が必要である。検査の結果は、つつが虫病 IgM 陽性、IgG 陽性：1 件、紅斑熱 IgM 弱陽性、IgG 陽性：1 件が確認された。猫ひっかき病とライム病に関しては搬入されたすべての検体で IgM、IgG 共に陰性が確認された。

（２）内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 2010/2011 年シーズンのウイルス検出状況（再掲分）

インフルエンザウイルスの流行シーズンは毎年 9 月を境にシーズン分けをしており、2011 年第 14～35 週までに搬入された 75 検体の結果が未掲載であるため 2010/2011 年シーズン分として再掲する。2010/2011 年シーズン再掲分のインフルエンザウイルスは、A/H1N1pdm09 亜型が 2 件、AH3 亜型が 5 件、B 型が 21 件の計 28 件で、いずれも散発発生であり 2011 年 6 月初めにはインフルエンザは終息していた（図 11）。また、その他のウイルスとしてライノウイルス、ポリオウイルス、アデノウイルス 2 型、エコーウイルス 6 型等の呼吸器症状を起こすウイルスや手足口病等の原因となるコクサッキーウイルス A 群 6 型が検出された。

イ 2011/2012 年シーズンのウイルス検出状況

2011/2012 年シーズンのインフルエンザウイルスは、41 週（10 月 11 日に採取）に発生した AH3 亜型の検出をシーズン初発例として 2012 年 4 月末までに 242 件の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が搬入された。遺伝子検査を行った結果、AH3 亜型 133 件、B 型 53 件の計 186 件（76.9%）が検出された。また、ウイルス分離試験では AH3 亜型 68 株、B 型 47 株の計 115 株（47.5%）が分離された。シーズン初となる AH3 亜型が 10 月 12 日に、B 型が 11 月 15 日に検出され、これ以降 2 つの亜型による本格的な流行シーズンを迎えた。2011 年第 46 週（11 月中旬）～2012 年第 6 週（2 月初旬）までは AH3 亜型が主な流行株であったが 2 月初旬以降、B 型の発生が増加し 2012 年第 9 週（3 月初旬）には B 型が主たる流行株となった（図 11）。また、その他のウイルスとして 10 件のライノウイルスが 2011 年第 36 週から 2012 年第 17 週までに散発的に検出された。また、2011 年第 36 週から第 40 週にはコクサッキー A 群、B 群ウイルスの検出も見られ、ライノウイルスと共にピコルナウイルスの検出が例年より多く見られた。さらに、2012 年第 8 週から第 14 週にはアデノウイルスが 3 件検出され、インフルエンザウイルスの流行と共に他の呼吸器系疾患の原因ウイルスが流行していたことが今シーズンの特徴であった。

今シーズンのインフルエンザウイルスの主たる流行株は AH3 亜型であったが 2012 年第 3 週以降は 2 種類の B 型（Victoria 系統と山形系統）の流行が続いており、2 型 3 種類のウイルスによる混合流行となった。

2012 年 4 月末時点では、B 型とエンテロウイルスが入り混じった流行となっており、インフルエンザ

ウイルスの流行は未だ終息には至っておらず、近年、顕著となっている流行時期の延長が見られている。

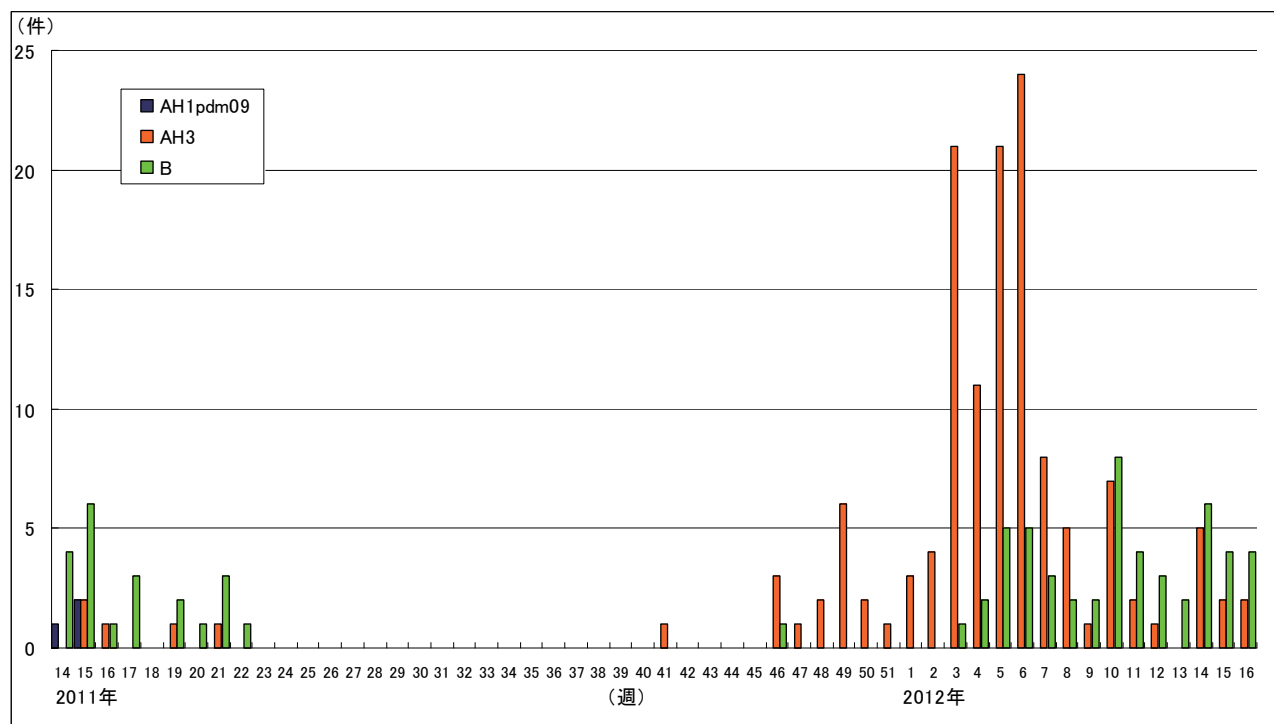


図 1 1. インフルエンザ病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス陽性件数

ウ インフルエンザウイルスの抗原解析

分離したインフルエンザウイルスの抗原性状を特定するために遺伝子配列の比較ならびにワクチン株抗血清を用いた HI 試験による検討を行った。

①遺伝子検査による抗原性状の比較

RT-nested PCR 検査によって得られたインフルエンザ HA（ヘマグルチニン）遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、アミノ酸配列に置換してワクチン株ウイルスならびに過去に流行したウイルス株と遺伝子系統樹上で比較し解析を行った（図 12）。その結果、AH3 亜型の流行株は、ワクチン株（A/Victoria/210/2009；A/Perth/16/2009 クレード）を含む大きな枝に含まれているが、すべての株がワクチン株とは異なったクレード（A/Victoria/208/2009 クレード）に属していることが分かった。このクレードはさらに 3 つのサブクレードに分類され、ワクチン株との解析領域でのアミノ酸相同性は、ワクチン株に最も近くワクチン類似株と思われる株で 96.1%、系統樹上ではワクチン類似株より少し離れており、異なったアミノ酸の変異部位を持つ株でも 96.1%、さらに離れた株で 94.2% であった。AH3 亜型流行株の抗原変異については世界の流行地でも同様な傾向を示したことから WHO は 2012/2013 年シーズンの AH3 亜型のワクチン推奨株をこれまでの A/Perth/16/2009 クレードに属する A/Victoria/210/2009 株から A/Victoria/208/2009 クレードに属する A/Victoria/361/2011（H3N2）類似株に変更した。

今シーズンの B 型流行株は、Victoria 系統株と Yamagata 系統株が混在して流行する形態となった。流行規模は Victoria 系統株がやや優勢であり、同じ地域や医療機関から Victoria 系統株と Yamagata 系統株がシーズンを通じて検出された。都内全域での B 型同時流行が確認されたことはこれまでに無く、インフルエンザウイルスの新たな流行形態として注目されることである。2011/2012 年シーズンのワクチン株は Victoria 系統株の B/Brisbane/60/2008 株であり、Victoria 系統の流行株との解析領域における系統樹

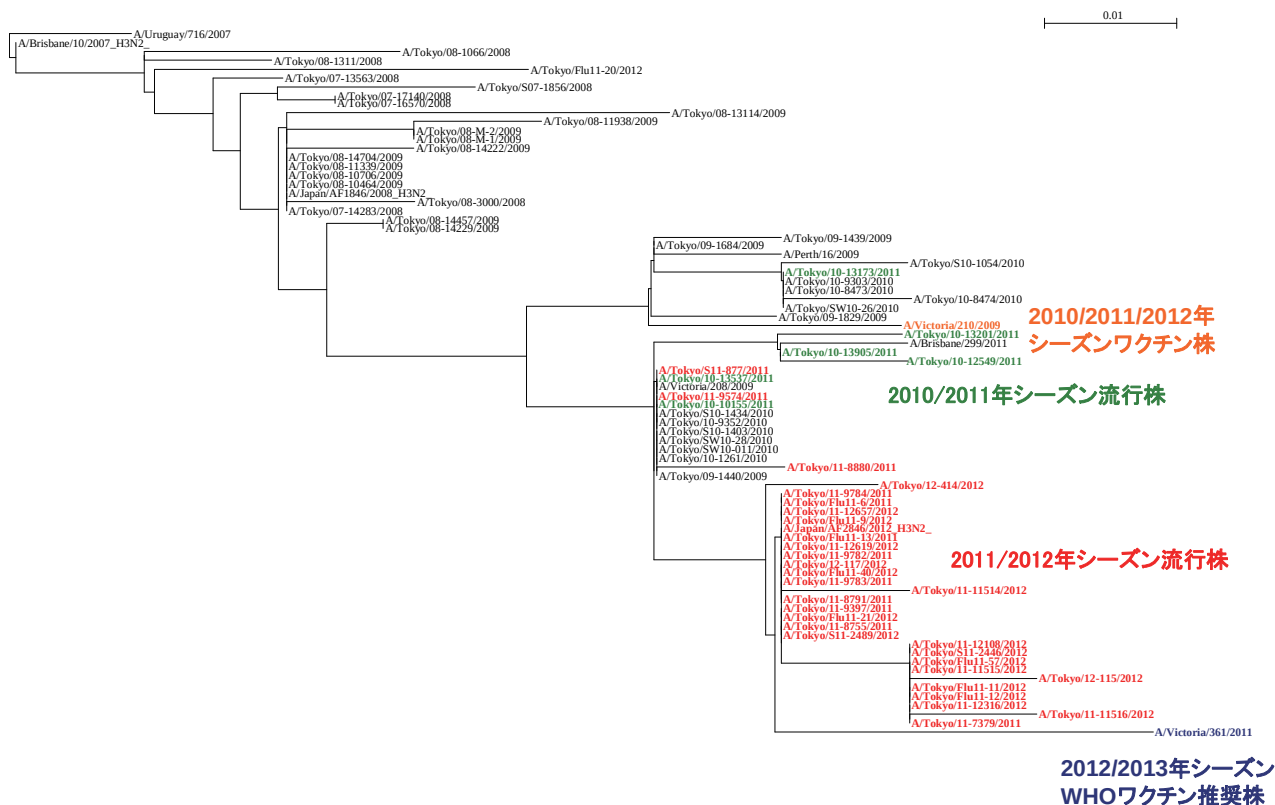


図 1 2. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 遺伝子系統樹

上での位置関係は同じ枝に含まれていた (図 13)。アミノ酸相同性に関しても多くの株が 100% 合致しているが、1 アミノ酸変異が見られる株 (ワクチン株との相同性 : 98.5%) や 2 アミノ酸変異が見られる株 (ワクチン株との相同性 : 97.0%) があつた。一方、Yamagata 系統の流行株は、系統樹上で 3 つのグループに分かれていることが判明した。直近の Yamagata 系統ワクチン株である B/Florida/4/2006 株 (2008/2009 年シーズンワクチン株) のアミノ酸相同性について比較すると、グループ①の株は 3 から 5 個のアミノ酸変異 (B/Florida/4/2006 株との相同性 : 92.5~95.5%)、グループ②の株は 3 個のアミノ酸変異 (B/Florida/4/2006 株との相同性 : 95.5%)、グループ③の株は 2 個のアミノ酸変異 (B/Florida/4/2006 株との相同性 : 97.0%) が認められた。WHO の 2012/2013 年シーズンのワクチン推奨株は、Yamagata 系統株の B/Wisconsin/01/2010 類似株である。

② ワクチン株抗血清を用いた HI 試験による抗原性状の比較

ウイルス分離株を国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキットならびにデンカ生研製のワクチン株抗血清を用いた HI 試験 (0.7% のモルモット赤血球液を使用) に供した結果、AH3 亜型分離株は、A/Victoria/210/2009 株抗血清 (ホモ HI 価 640 倍) に対して、10~320 倍と様々であつたが、低 HI 価 (<10~20 倍) の割合が多く (80.9%)、HI 試験による判定不能な株が 44.1% を占めた。また、辛うじて HI 試験での判定が可能であつた株は 36.8%、HI 試験による判定が過不足なく行えた株は 19.1% であつた。AH3 亜型は、全国的に抗原変異による難分離性および難増殖性の株が多く、ワクチン株との交差反応性の低い株が多かつたため HI 試験成績のみで型別を決定できない場合があつた。Victoria 系統の B 型分離株は、ワクチン株である B/Brisbane/60/2008 株抗血清 (ホモ HI 価 160 倍) に対しては、10~160 倍の HI 価で一部に低 HI 価を示したがほとんどの株がワクチン株との交差反応性により型別が可能な株であつた。また、Yamagata 系統の B 型分離株は、Yamagata 系統の参照株である B/Bangladesh/3333/2007

Phylogenetic tree of influenza A virus H3N2 subtypes in Japan, 2012/2013 season. The tree is rooted on the left and branches out to the right. It is divided into two main sections: 'Yamagata系統' (Yamagata lineage) at the top and 'Victoria系統' (Victoria lineage) at the bottom. The Yamagata section includes three groups: 'グループ①' (Group 1) with sequences from Bangladesh and Tokyo (2007-2008); 'グループ②' (Group 2) with sequences from Tokyo (2007-2011); and 'グループ③' (Group 3) with sequences from Florida, Shanghai, and Tokyo (2006-2011). The Victoria section includes sequences from Victoria (2007), Tokyo (2007-2011), and various international strains (2002-2011). A scale bar of 0.01 is shown at the top right. A legend at the bottom right identifies the colors: red for '2012/2013年シーズン流行株' (2012/2013 season circulating strain), green for '2010/2011年シーズン流行株' (2010/2011 season circulating strain), and black for '2010/2011/2012年シーズンワクチン株' (2010/2011/2012 season vaccine strain).

③2011/2012 年シーズンに流行したインフルエンザウイルスの抗原解析結果

今シーズンは2種類のB型が流行した地域が多く、WHOの報告ではA型2種類とB型1種類の3種混合ワクチンかB型を更に追加した4種混合ワクチンの使用を勧めている。日本におけるワクチン製造では、諸外国と異なり使用される抗原蛋白量の上限が決められているため、4種類の抗原をワクチン性能を損なわないように添加すると必要な抗原蛋白総量が規定値を超えてしまうことが明らかとなっている。このため4種類の混合ワクチンの製造が難しいのが現状であり、2012/2013年シーズンの国内ワクチン製造は、国内の流行状況を詳細に検討した上で製造株の選定がなされることになっている。

2 細菌検査結果

(1) 三類感染症の病原体検索

ア 腸管出血性大腸菌感染症

溶血性尿毒症症候群(HUS)を発症した患者(21歳、女性)の血清について、O157抗原(LPS)に対する血中抗体をウイダル反応法で測定した結果、陽性(x160)であった。また、発熱、下痢、血便を呈する腸管出血性大腸菌感染症を疑う患者(83歳、女性)の血清3件について、腸管出血性大腸菌(O157、O26、O111、O91、O103、O121、O128、O145、O165)に対する血中抗体価を測定した結果、いずれの血清も陰性であった。

(2) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

2011年に搬入されたレジオネラ症患者の喀痰5件および患者由来株5件の合計10件について、病原体検索を実施した。喀痰からの菌検出を実施した結果、4検体から*Legionella pneumophila*の遺伝子が検出され、1検体から*L.pneumophila*が分離された。患者由来株6件(喀痰由来株を含む)について血清型別試験を実施した結果、すべてが*L.pneumophila*1群であった。また、患者由来株2件については、患者関連の環境水由来株が搬入されたため、患者株との相同性を見るためにパルスフィールドゲル電気泳動法により遺伝子解析を行った。その結果、2件とも患者株と環境水由来株とは遺伝子型が一致しなかった。

(3) 五類感染症(全数把握対象)の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2011年に搬入された患者由来株は15株で、A群レンサ球菌が9株、B群レンサ球菌が1株、G群レンサ球菌が5株であった。A群レンサ球菌9株のT血清型は、1型が4株、4型が1株、13型が2株、B3264型が1株、型別不能が1株であり、T1型4株のうち3株が発熱性毒素産生性株(A+B)であった。また、B群レンサ球菌の血清型は1b型であり、G群レンサ球菌5株については全て*Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis*と同定された。

イ 髄膜炎菌性髄膜炎

2011年に搬入された患者由来株は1株であり、PCR法による菌型別の結果は型別不能であった。

ウ バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

2011年に搬入された菌株は、患者由来株7株であり、その内訳は*Enterococcus gallinarum*:3株、*E.casseliflavus*:4株であり、血液由来株が3株、腹膜炎由来株が2株、胆汁由来株と尿由来株が1株ずつであった。すべて*vanC*遺伝子を保有し、*vanA*および*vanB*遺伝子は保有していなかった。

(4) 五類感染症(定点把握対象)の病原体検索

ア A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の小児科定点および基幹定点から、2011年に送付された試料を対象に、A群溶血性レンサ球菌の検出及び型別試験を実施した。患者由来55株及び患者咽頭拭い液から分離した37株の合計92株について、月別の検出状況を調査するとともに、T血清型別を実施した。

A 群レンサ球菌の月別検出状況は 1 月～3 月：21 株、4 月～6 月：41 株、7 月～9 月：14 株、10 月～12 月：16 株であった（表 4）。

T 血清型別の結果、1 型が 30 株と最も多く、次いで 28 型が 12 株、12 型が 11 株、B3264 型が 7 株であった。2010 年に 26.4%と多かった 1 型は、92 株中 30 株（32.6%）を占め、増加傾向が続いていることが判明した。

表 4. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S. pyogenes* の T 血清型及び月別検出状況

T 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計(%)
1	4		5	1	7	3	5	2				3	30(32.6)
2												1	1(1.1)
4					2	1	1				3		7(7.6)
6					1	2							3(3.3)
11									1				1(1.1)
12		1	2		1	4			1			2	11(12.0)
13				1	2								3(3.3)
22											1		1(1.1)
25			1		1	1	1						4(4.3)
28	1		1	4	2	2						2	12(13.0)
B3264	3				1	2	1						7(7.6)
UT*	1		2	1	1	1		1	1		1	3	12(13.0)
計	9	1	11	7	18	16	8	3	3	0	5	11	92(100)

*UT: 型別不能

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 47 件について細菌検査を実施した。その結果、9 件（19.1%）から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、カンピロバクター 6 件（*C. jejuni* 5 件、*C. coli* 1 件）、サルモネラ 2 件（共に *S. Enteritidis*）、カンピロバクター（*C. jejuni*）およびブレジオモナス同時検出 1 件であった。患者年齢階級別病原体の検出状況を表に示した。

また、2 歳男児の糞便より検出された大腸菌 1 株について、毒素検査を行った結果、LT（易熱性エンテロトキシン）、ST（耐熱性エンテロトキシン）、VT（ベロ毒素）のいずれについても陰性であった。

表 5. 感染性胃腸炎患者からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	検 出 病 原 菌		
		カンピロバクター	サルモネラ	ブレジオモナス
1歳未満	8			
1 - 4歳	12		1	
5 - 9歳	4	2		
10 - 14歳	7	3	1	1
15 - 19歳	3	2		
20歳以上	11			
不明	2			
計	47	7	2	1
(%)		(17.0)	(4.3)	(2.1)

ウ 百日咳

2011 年に都内の小児科定点及び基幹定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁及び鼻腔拭い液が 183

検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、109 件から百日咳菌遺伝子が検出され、百日咳菌が 12 株分離された。百日咳菌以外には、肺炎球菌 9 株、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）3 株、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌（MSSA）41 株が分離された。

エ マイコプラズマ肺炎

2011 年に都内の小児科定点及び基幹定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が 124 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、14 件から肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、5 株の肺炎マイコプラズマが分離された。5 株の分離株について、23S 遺伝子領域の遺伝子を増幅後、塩基配列を決定した結果、4 株で A2063G の変異が認められた。この変異はマクロライド耐性マイコプラズマで最も多く報告されている変異として知られている。

オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

2011 年に都内の小児科定点及び基幹定点から送付された百日咳疑い患者由来検体等の試料 240 件を対象に、黄色ブドウ球菌の検索を実施した。分離された黄色ブドウ球菌について、薬剤感受性、コアグララーゼ型別（コ型と略す）、エンテロトキシン（SE と略す）産生性及び Toxic shock syndrome toxin-1（TSST-1 と略す）産生性の試験を実施した。その結果、MRSA は 8 株分離され、コ型は I が 1 株、II が 1 株、III が 4 株、VII が 2 株であった。毒素産生性については、コ型 III のうち 3 株が SEC+TSST-1 産生性であり、1 株が TSST-1 産生株であった。また、68 株の MSSA が分離され、コ型は I が 1 株、II が 4 株、III が 4 株、IV が 15 株、V が 18 株、VI が 3 株、VII が 17 株、VIII が 1 株、型別不能が 5 株であった。毒素産生性については、コ型 IV の 15 株中 10 株が SEA+TSST-1 産生株であった。

3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果

2011 年 1 月から 12 月に、都内 4 ヶ所の性感染症（STI）病原体定点より搬入された検体について、クラミジア、淋菌、トリコモナス、パピローマウイルスおよびヘルペスウイルス等の病原体検出・型別を行うとともに、男女、年齢別および臨床診断別等の検出状況を調査した。

（１）クラミジア、淋菌遺伝子検査および細菌分離・同定

STI 病原体定点医療機関より搬入された 316 例について検査を実施した。搬入検体の内訳は、女性では子宮頸管擦過(分泌)物(スワブ)18 例、尿 1 例の 19 例、男性では陰部尿路擦過物（スワブ）50 例および尿 246 例の 296 例、および性別年齢不明の尿 1 例（計 316 例）である。

遺伝子検査については各検体から核酸抽出後、クラミジア・トラコマチスおよび淋菌遺伝子の検索を PCR 法で行った。また、クラミジア・トラコマチス血清型検査は PCR 法で陽性となった検体を対象とし、新たにゲノム DNA を抽出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白遺伝子(*omp1*)の可変領域を挟む共通プライマーにより PCR 法で増幅後、その塩基配列を決定し、NCBI（米国生物工学情報センター）の核酸データベースにおける BLAST 検索、ならびに系統樹解析により血清型を判定した。

淋菌およびその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地およびサイヤー・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。同定された淋菌については薬剤感受性試験を行った。

搬入された検体の年齢構成および検査成績を表 6 に示した。クラミジア・トラコマチス遺伝子は女性 9 例（47.4%）、男性 63 例（21.3%）から、淋菌遺伝子は女性では 7 例（36.8%）、男性 58 例（19.6%）から検出され、両遺伝子が共に検出された例は、女性 5 例、男性では 11 例あった。

淋菌遺伝子が検出された 65 例のうち、女性 1 例、男性 46 例から淋菌が分離された。遺伝子が検出

された 65 例における淋菌分離率は 72.3%、全検体における分離率は 14.9%であった。その他の分離された主な菌は、髄膜炎菌が男性から 1 例(0.3%)、A 群溶血性レンサ球菌が男性 6 例 (2.0%)、B 群溶血性レンサ球菌が女性 3 例 (15.8%)、男性 52 例 (17.6%)であった。また、カンジダ・アルビカンスは女性 1 例(5.3%)、男性 3 例 (1.0%)から分離された。

表 6. 性感染症病原体定点から搬入された検体の年齢階級別内訳と検査成績

年 齢 群		検査数 男、女計 に対する 割合		遺伝子検査 クラミジア トラコマチス		淋 菌		細 菌 分 離							
								ナイセリア		溶血性レンサ球菌		カンジダ アルビカンス			
								A 群		B 群					
女 性	10歳代	4	21.1%	3	75.0%	3	75.0%	1	25.0%						
	20歳代	6	31.6%	3	50.0%	2	33.3%						1	16.7%	
	30歳代	3	15.8%	1	33.3%	1	33.3%					1	33.3%		
	40歳代	1	5.3%									1	100.0%		
	50歳代	1	5.3%	1	100.0%										
	60歳代	1	5.3%									1	100.0%		
	不明	3	15.8%	1	33.3%	1	33.3%								
	計	19		9	47.4%	7	36.8%	1	5.3%			3	15.8%	1	5.3%
男 性	10歳代	3	1.0%	1	33.3%	2	66.7%	2	66.7%			1	33.3%		
	20歳代	72	24.3%	20	27.8%	24	33.3%	18	25.0%	1	1.4%	2	2.8%	10	13.9%
	30歳代	94	31.8%	22	23.4%	19	20.2%	16	17.0%			1	1.1%	15	16.0%
	40歳代	75	25.3%	15	20.0%	8	10.7%	6	8.0%			2	2.7%	10	13.3%
	50歳代	27	9.1%	2	7.4%	3	11.1%	2	7.4%					9	33.3%
	60歳代以上	24	8.1%	3	12.5%	2	8.3%	2	8.3%			1	4.2%	7	29.2%
	不明	1	0.3%												
	計	296		63	21.3%	58	19.6%	46	15.5%	1	0.3%	6	2.0%	52	17.6%
不 明		1													
合 計		316		72	22.8%	65	20.6%	47	14.9%	1	0.3%	6	1.9%	55	17.4%

臨床診断別の病原体検査成績を表 7 に示した。臨床上、クラミジア感染症の女性 4 例中 3 例 (75.0%) から、男性では 255 例のうち 56 例 (22.0%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、女性 1 例、男性 27 例(10.6%)から淋菌遺伝子が検出された。なお、淋菌が分離されたのは男性 17 例(6.7%)である。またクラミジア・トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子共に検出されたのは女性 1 例と男性の 5 例であった。この他男性 1 例(0.4%)から髄膜炎菌が分離され、男性 2 例(0.8%)から A 群溶血性レンサ球菌、男性 50 例(19.6%)から B 群溶血性レンサ球菌、男性 3 例(1.2%)からカンジダ・アルビカンスが分離された。

淋菌感染症では女性 2 例中 1 例から、男性では 37 例中 30 例(81.8%)で淋菌遺伝子が検出された。淋菌が分離されたのは女性の 1 例と男性の 28 例(75.7%)からである。またクラミジア・トラコマチス遺伝子が女性の 2 例と男性の 7 例(18.9%)から検出されている。淋菌以外では A 群溶血性レンサ球菌が男性 4 例(10.8%)、B 群溶血性レンサ球菌が男性 2 例(5.4%)から分離された。このほか女性ではカンジダ症の 2 例からは淋菌遺伝子、クラミジア遺伝子が共に検出されており、うち 1 例においてカンジダ・アルビカンスが分離同定された。細菌性膣炎では淋菌遺伝子が 1 例から検出され、B 群溶血性レンサ球菌が 2 例から分離されている。

表 7. 臨床診断別の病原体検査成績

臨床診断 (疑い例を含む)		検査数 男、女計 に対する 割合		遺伝子検査 クラミジア トラコマチス		淋 菌		細 菌 分 離									
								ナイセリア 淋 菌		髄膜炎菌		溶血性レンサ球菌		カンジダ アルビカンス			
												A 群	B 群				
女 性	クラミジア感染症	4	21.1%	3	75.0%	1	25.0%										
	淋菌感染症	2	10.5%	2	100.0%	1	50.0%	1	50.0%								
	カンジダ症	2	10.5%	2	100.0%	2	100.0%					1	50.0%				
	細菌性膣炎	5	26.3%			1	20.0%				2	40.0%					
	トリコモナス症	3	15.8%	1	33.3%												
	その他	3	15.8%	1	33.3%	2	66.7%				1	33.3%					
	計	19		9	47.4%	7	36.8%	1	5.3%		3	15.8%	1	5.3%			
男 性	クラミジア感染症	255	86.1%	56	22.0%	27	10.6%	17	6.7%	1	0.4%	2	0.8%	50	19.6%	3	1.2%
	淋菌感染症	37	12.5%	7	18.9%	30	81.1%	28	75.7%			4	10.8%	2	5.4%		
	その他	4	1.4%			1	25.0%	1	25.0%								
	計	296		63	21.3%	58	19.6%	46	15.5%	1	0.3%	6	2.0%	52	17.6%	3	1.0%
不明	クラミジア感染症	1															
合 計		316		72	22.8%	65	20.6%	47	14.9%	1	0.3%	6	1.9%	55	17.4%	4	1.3%

クラミジア・トラコマチス遺伝子陽性（コバス法）の 72 例のうち、遺伝子検査により血清型が同定出来たのは 66 例あり、その結果を表 8 に示した。クラミジア・トラコマチスの血清型は、B 群（B、Ba、D、Da、E、L1、L2）、C 群（A、C、H、I、Ia、J、Ja、K、L3）およびその中間群（F、G）に分けられ、一部血清型にはその亜型も存在している。

2011 年の結果は 2010 年同様に、D、E、F が全体の 68.2 % を占め、その他の血清型は J 型を除き、各々 7.6 % 以下であった。D 型はやや減少傾向にあり、逆に F 型が 27.3%と多くを占めていた。J 型は 2009 年に 2.4 % であったものが年々増加し、2011 年には 13.6 % となっており、今後の動向が注目される。

表 8. クラミジア・トラコマチスの血清型別成績

検体数	血清型								
	D	E	F	G	H	I	I及びIa	J	K
66	12	15	18	3	5	1	1	9	2
100.0%	18.2%	22.7%	27.3%	4.5%	7.6%	1.5%	1.5%	13.6%	3.0%

次に分離された淋菌 47 株の薬剤耐性試験の結果を表 9 に示す。ペニシリンでは最小発育阻止濃度が中等度（0.125 μ g/ml）以上の耐性株は 37 株(78.7%)あった。テトラサイクリンでは中等度（0.5 μ g/ml）以上の耐性株は 33 株(70.2%)と、昨年まで 55%前後であった中等度以上の耐性割合から上昇していた。シプロフロキサシンでは中等度（0.125 μ g/ml）以上の耐性株は 29 株(61.7%)、セフロキシムでは中等度（2 μ g/ml）以上の耐性株は 17 株(36.1%)あった。セフトキシム、セフトリアキソン、およびスペクチノマイシンにはすべての株が感受性を示した。

表 9. 分離された淋菌（47 株）の薬剤感受性成績

抗生剤 感受性	ペニシリン PCG	テトラ サイクリン TC	シプロフロ キサシン CPFX	セフロ キシム CXM	セフトラ キシム CTX	セフトリ アキソン CTR	スペクチノ マイシン SPCM
耐性	2	1	29	12	0	0	0
中等度耐性	35	32	0	5	0	0	0
感受性	10	14	18	30	47	47	47

（２）ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 60 例の検体（陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、または尖圭コンジローマ患部生検材料）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法による HPV 遺伝子の検出を行った。また、標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価（High 及び Low リスク）に基づいて分類した。

その結果、60 例中 41 例（68.3%）から HPV 遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、18、58 型などの High リスク群に分類されたものは 4 例（6.7%）、6、11、81 型などの Low リスク群に分類されたものは 31 例（51.7%）であった。また、4 例（6.7%）から同時に二つの HPV 遺伝子型を検出した（HPV18 型と HPV11 型：1 例、HPV58 型と HPV11 型：2 例、HPV51 型と HPV62 型：1 例）。

（３）単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 118 例の検体（主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、性器ヘルペス部位擦過物、水泡内容物、または痂皮）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

その結果、118 例中 13 例（11.2%）から HSV-1 型、37 例（31.4%）から HSV-2 型の遺伝子を検出した。また、HSV-2 型遺伝子を検出した 37 例のうち 2 例は、同一人の口腔部位および陰部の性器ヘルペス部位擦過物から検出された。

（４）膣トリコモナス検査

子宮頸管擦過(分泌)物(スワブ)4 例について、膣トリコモナスの ITS1, 5.8S rRNA, ITS2 領域を標的とした遺伝子検査を行った。3 例から標的遺伝子が検出され、内 1 例からクラミジア・トラコマチス遺伝子も検出された。他の 1 例からは淋菌遺伝子と B 群溶血性レンサ球菌が検出された。

第 3 章

資 料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

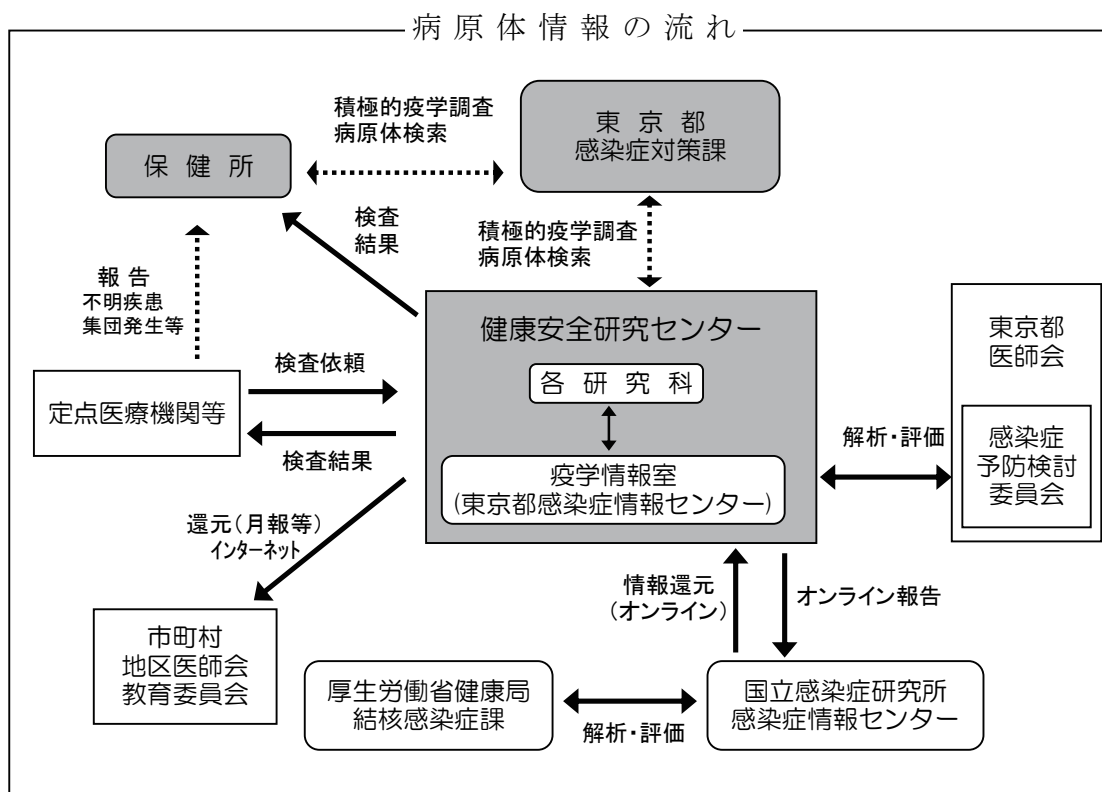
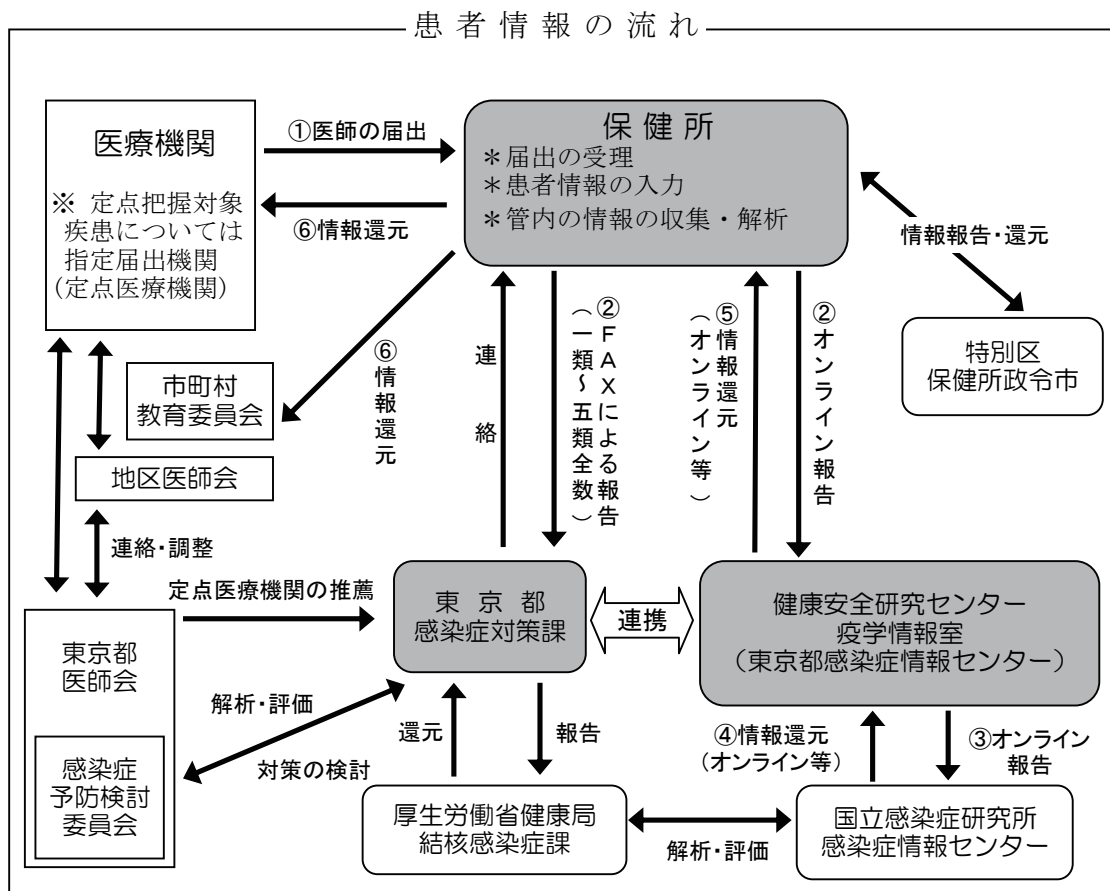
平成23年(2011年)12月31日現在：順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	幡多希望の家理事長、元東京都健康局技監
○ 岡 部 信 彦	国立感染症研究所感染症情報センター長
○ 沼 口 俊 介	練馬区医師会（東京小児科医会）
長 山 直 弘	独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器内科医長
尾 形 英 雄	（財）結核予防会複十字病院副院長
佐 藤 泰 信	江戸川保健所長
早 川 和 男	多摩小平保健所長
味 澤 篤	東京都立駒込病院感染症科部長
田 崎 達 明	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
杉 下 由 行	東京都健康安全研究センター微生物部副参事研究員
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
吉 田 道 彦	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長 谷 川 潤	荒川区医師会
松 田 静 治	江東区医師会（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	北多摩医師会（東京小児科医会）
井 上 賢 治	神田医師会（東京都眼科医会）
遠 藤 弘 良	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授
平 山 宗 宏	（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長
池 田 忠 生	NP0法人 日本パスツール協会副会長
角 田 徹	東京都医師会理事（公衆衛生担当）

◎は委員長

○は副委員長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号
平成12年3月30日
最終改正 23 福保健感第404号
平成23年8月9日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ感染症のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成23年7月29日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1－1から4－42を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5

ー 1 から 5-14-2、及び本要綱の別記様式 9 を用いて、7 日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表 1 の 76 から 88 までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力

するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表１の８９に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表１の９０及び９１に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表１の９２から９７までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表１の８９に掲げるインフルエンザ（届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される）、別表１の９８から１０５までに掲げるものについては、患者を３００人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に１か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの（ア）により選定された患者定点の概ね 10%を小児科病原体定点とする。

(ウ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね 10%をインフルエンザ病原体定点とする。

(エ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(オ) アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(カ) アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表２のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式２から７に記載する。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式1（インフルエンザ定点については別記様式8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

(ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

(イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。
- (イ) (2) のアの(ア)の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式10に記載する。なお、届出に当たっては、法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式2又は別記様式3による報告を行う。
- (ウ) (2) のアの(イ)の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム(以下「K-net」という。)へ入力する。なお、届出に当たっては、法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位でK-netへの入力による報告を行う。

イ 保健所

- (ア) 保健所は、(2) のアの(ア)の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-netへ入力するものとする。
また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。
- (イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１５年１１月５日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成１６年８月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１８年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１８年６月１２日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１９年６月１５日から施行し、同年４月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年１月３１日から施行し、同年１月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年７月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２２年３月１６日から施行し、同年３月１１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年２月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年９月５日から施行する。

別表 1

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
一 類	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	痘そう					
	4	南米出血熱					
	5	ペスト					
	6	マールブルグ病					
	7	ラッサ熱					
二 類	8	急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9	結核	○	○	△※		
	10	ジフテリア	○	—	○		
	11	重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12	鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
三 類	13	コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	14	細菌性赤痢	○	—	○		
	15	腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	16	腸チフス	○	—	○		
	17	パラチフス	○	—	○		
四 類	18	E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	19	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	20	A型肝炎	○	—	○		
	21	エキノкокクス症	○	—	○		
	22	黄熱	○	—	○		
	23	オウム病	○	—	○		
	24	オムスク出血熱	○	—	○		
	25	回帰熱	○	—	○		
	26	キャサスル森林病	○	—	○		
	27	Q熱	○	—	○		
	28	狂犬病	○	—	○		
	29	コクシジオイデス症	○	—	○		
	30	サル痘	○	—	○		
	31	腎症候性出血熱	○	—	○		
	32	西部ウマ脳炎	○	—	○		
	33	ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	34	炭疽	○	—	○		
	35	チクングニア熱	○	—	○		
	36	つつが虫病	○	—	○		
	37	デング熱	○	—	○		
	38	東部ウマ脳炎	○	—	○		
	39	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)	○	—	○		
	40	ニパウイルス感染症	○	—	○		
	41	日本紅斑熱	○	—	○		
	42	日本脳炎	○	—	○		
	43	ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	44	Bウイルス病	○	—	○		
	45	鼻疽	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 別	時 期
四 類	46	ブルセラ症	○	—	○	全数	直ちに
	47	ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
	48	ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	49	発しんチフス	○	—	○		
	50	ボツリヌス症	○	—	○		
	51	マラリア	○	—	○		
	52	野兔病	○	—	○		
	53	ライム病	○	—	○		
	54	リッサウイルス感染症	○	—	○		
	55	リフトバレー熱	○	—	○		
	56	類鼻疽	○	—	○		
	57	レジオネラ症	○	—	○		
	58	レプトスピラ症	○	—	○		
	59	ロッキー山紅斑熱	○	—	○		

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 別	時 期
指定感染症		—	—	—	—	—	—

※平成23年1月26日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 別	時 期
60		アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
61		ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
62		急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
63		クリプトスポリジウム症	○	—	—		
64		クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
65		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
66		後天性免疫不全症候群	○	—	○		
67		ジアルジア症	○	—	—		
68		髄膜炎菌性髄膜炎	○	—	—		
69		先天性風しん症候群	○	—	—		
70		梅毒	○	—	○		
71		破傷風	○	—	—		
72		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
73		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
74		風しん	○	—	—		
75		麻しん	○	—	—		

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
106	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
107	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別 (定点)	時 期
76	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
77	咽頭結膜熱	○	—	—		
78	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
79	感染性胃腸炎	○	—	—		
80	水痘	○	—	—		
81	手足口病	○	—	—		
82	伝染性紅斑	○	—	—		
83	突発性発しん	○	—	—		
84	百日咳	○	—	—		
85	ヘルパンギーナ	○	—	—		
86	流行性耳下腺炎	○	—	—		
87	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
88	川崎病 (都単独)	○	—	—		
89	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
90	急性出血性結膜炎	○	—	—		
91	流行性角結膜炎	○	—	—		
92	性器クラミジア感染症	○	—	—		
93	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
94	尖圭コンジローマ	○	—	—		
95	淋菌感染症	○	—	—		
96	膣トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
97	梅毒様疾患 (都単独)	○	—	—		
98	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
99	細菌性髄膜炎	○	—	—		
100	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
101	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
102	無菌性髄膜炎	○	—	—		
103	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
104	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—		
105	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調査単位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
108	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	—	○	—	別表3参照	
109	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

別表 2

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点 種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科 定点 ※	R S ウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症 (都単独)		
	梅毒様疾患 (都単独)		
基 幹 定 点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	細菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

別表 3

疑似症の調査単位と報告時期

定点 種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

別記様式一覧表

番号	件名等
別記様式 1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式 2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 3	五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式 5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式 6－1、6－2	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（週報告分）
別記様式 7	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（月報告分）
別記様式 8	インフルエンザ検査票（内科病原体定点用）
別記様式 9	麻しん発生届
別記様式 10	疑似症定点報告票

別記様式 1

感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】		センター検体受付日	センター収受番号	検体番号
医療機関名				
医師名				
診断名				
ID (イニシャル)			居住地	区市町村
発病日	年 月 日	検体採取日	年 月 日	性別 男・女 年齢 歳 カ月
検体	- 便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 - 咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 - 吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 - 結膜ぬぐい液 (結膜擦過物、眼脂) - その他 []			
臨床症状・兆候等	- 発熱 (最高 ℃) ・頭痛 - 筋肉痛、関節痛 (関節炎) - 上気道炎 (咽頭炎/痛、扁桃炎) - 下気道炎 (肺炎、気管支炎) - 口内・咽頭所見 () - 発疹 (丘疹、紅斑、バラ疹、水疱) - 唾液腺腫脹、リンパ節腫脹 (部位) (上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。) - 胃腸炎 (下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) - 結膜炎、角膜炎、角結膜炎 - 髄膜炎、意識障害 - 中枢神経系症状 (脳炎、脳症、髄膜炎) - 肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの - 腎機能障害 - 尿路生殖器症状 (排尿時痛、かゆみ、膿) - コンジローマ ・下腹部痛			
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡 (原因)			
発生の状況	- 散発 ・地域流行 ・家族内発生 - 集団発生 (保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 [])			
最近の海外渡航歴	国名 期間 年 月 日 ~ 年 月 日			
ワクチン接種歴 (当該疾患に係るもの)	(無、有、不明) 最近の接種年月日 年 月 日 ワクチン名 年 月 日			
備考欄 (主治医等からの連絡事項、詳細な症状、動物との接触など)				
センター記入欄につき ここには記入しないで下さい。				
検出方法	- 抗体検出 (蛍光、EIA、イムノプロット、その他 []) - 分離培養 (培養細胞:細胞名 [], 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []) - 抗原検出等 (蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応 (RPHA、LA、PA、その他)、その他 []) - 遺伝子検出 増幅 (PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他 []) - 鏡検			

(1) 複 写 1組6枚 (病原体定点控)

別記様式 2

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ～ 月 日(日)

医療機関名：

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合 計
疾患名	男															
	女															
R S ウ イ ル ス 感 染 症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A 群溶血性レンサ 球 菌 咽 頭 炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水 痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
百 日 咳	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流行性耳下腺炎	男															
	女															
不 明 発 し ん 症	男															
	女															
川 崎 病	男															
	女															

注) 川崎病、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症 をのぞく)	男														
	女														
		30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合 計							
	男														
	女														

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合 計
※			

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

インフルエンザ (鳥インフルエ ンザ及び新型イ ンフルエンザ等 感染症をのぞ く)	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計
	男																				

疑似症 ※	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
---------------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名:

		0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計
急性出血性 結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（S T I 定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
性器クラミジア 感染症																	
性器ヘルペス ウイルス感染症																	
尖圭コンジローマ																	
淋菌感染症																	
腫トリコモナス症																	
梅毒様疾患																	

定点医療機関からのコメント

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

ID 番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法 **	検体名
1			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	

* 疾病名

- 1：細菌性髄膜炎
2：無菌性髄膜炎（真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む）
3：マイコプラズマ肺炎
4：クラミジア肺炎（全数届出疾患のオウム病を除く）

** 病原体検査方法

- 1：分離・同定 2：抗原検出 3：核酸検出（PCR・LAMP等）
4：塗抹鏡検 5：電顕 6：抗体検出
7：その他

<記載上の注意>

- ・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎：病原体が判明している場合は、その病原体名（複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載）、その結果を得た病原体検査方法（複数の場合は、最も根拠となった方法一つを選択）及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください（病原体検査欄の記載は不要）。
- ・マイコプラズマ肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法は（1、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。
- ・クラミジア肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法は（1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。

感染症発生動向調査（基幹定点）
（インフルエンザによる入院患者の報告）

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0 報告であってください。

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日				医療機関名				
ID番号	性別	年齢 (0歳は月齢)	入院時の対応					備考
			ICU入室	人工呼吸器 の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検査 (予定含む)	脳波検査 (予定含む)	
1	男・女							
2	男・女							
3	男・女							
4	男・女							
5	男・女							
6	男・女							
7	男・女							
8	男・女							
9	男・女							
10	男・女							
11	男・女							
12	男・女							
13	男・女							
14	男・女							
15	男・女							

<記載上の留意>

○ インフルエンザに罹患し、入院した患者（院内感染を含む）を報告してください

○ 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

感染症発生動向調査（基幹定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	検体採取部位 **
1			1 2 3 4	
2			1 2 3 4	
3			1 2 3 4	
4			1 2 3 4	
5			1 2 3 4	
6			1 2 3 4	
7			1 2 3 4	
8			1 2 3 4	
9			1 2 3 4	
10			1 2 3 4	

* 疾病名（番号を○で囲む）
1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3：薬剤耐性緑膿菌感染症
4：薬剤耐性アシネトバクター感染症

** 検体採取部位
複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

インフルエンザ検査票
(内科病原体定点用)

医療機関名（または定点コード） 医 師 名			
I D		年 齢	歳 か月
性 別	男 ・ 女	居住地	区市町村
発 病 日	年 月 日	検体採取日	年 月 日
臨床症状・徴候等		該当するものをすべてを○で囲んでください。	
患者情報		℃	
患 者 情 報		・ 発熱 (最高	
		・ 関節痛、筋肉痛	
		・ 口内炎、上気道炎、下気道炎（肺炎、気管支炎）	
		・ 胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛）	
		・ 中枢神経系症状（脳炎、脳症、脊髄炎、その他_____）	
		・ その他の症状	
		[_____]	
迅速診断キットによる診断		無 ・ 有（A型：	B型：_____）
最近のインフルエンザワクチン接種歴		無 ・ 有（_____年 月 日）	
最近の海外渡航歴		国 名	_____
		期 間	_____年 月 日 ～ _____年 月 日
発生状況		集団発生（学校等）、家族内発生等、わかる範囲で記入してください。	

健康安全研究センター記入欄		検体受付日		収受番号		検体番号	
結 果		報告日	年 月 日	病原体検出方法	遺伝子増幅（PCR）		
インフルエンザ ウイルス		AH1 型					
		AH3 型					
		B 型					
		型					
		型					
※ ウイルス分離結果については、後日報告します。							

1. 麻しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をしていただくこととなっておりますが、麻しんに対するより迅速な行政対応に資するため、麻しんを診断した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いいたします。
2. 臨床診断例については、届出後であっても可能な限り検査診断を実施し、その結果について最寄りの保健所に報告していただくようお願いいたします。

別記様式 5-14-3

麻 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所設置市・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）（ ）（ ）（ ）（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検案）した者（死体）の類型 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体	2 性 別 男 ・ 女	3 診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ ）か月（ ）
---	----------------	------------------------------

病 型 1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例） 3) 修飾麻しん（検査診断例） 4 症 状 ・発熱（月 日出現） ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹（月 日出現） ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クルーズ ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします） ・その他（ ） 5 診断方法 陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ ）月（ ）日（ ） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ ）月（ ）日（ ） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (ウ) 血清IgM抗体の検出 検体採取日（ ）月（ ）日（ ） 結果（陽性・陰性・判定保留） 抗体価：（ ） (エ) ペア血清での抗体の検出 検体採取日（1回目 月 日 2回目 月 日） 抗体価（1回目 2回目） 結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NT・PA・その他（ ） (オ) その他の検査方法（ ） 検体（ ） 検体採取日（ ）月（ ）日（ ） 結果（ ） (カ) 臨床決定（ ）	1 1 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：（ ）） 2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：（ ）） 3 その他（ ） ②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ ）都道府県（ ）市区町村（ ） 2 国外（ ）国（ ） 詳細地域（ ） 渡航期間（ ） ③麻しん含有ワクチン接種歴 1回目 有（ ）歳・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ ）/（ ） 2回目 有（ ）歳・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ ）/（ ） 6 初診年月日 平成 年 月 日 7 診断（検案※）年月日 平成 年 月 日 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 9 発病年月日（*） 平成 年 月 日 10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日 （1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6 から 10 欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。）
---	--

診断した医師の方へのお願い

1. 集団感染のおそれがある場合には、感染拡大防止指導を実施いたします。このため、以下の情報提供をお願い致します。

- (1) 集団感染を起こしやすい要因
ア. 集団生活：無、有（園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ））
イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ））
ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ））
- (2) 患者の住所：（ ）区・市・町・村

2. 集団感染のおそれがある場合には、感染症法第15条により、積極的疫学調査（患者個人情報を含む）を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な集団感染防止対策のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、裏面調査票により情報提供をお願い致します。

保健所への個人情報等の提供に関する患者（あるいは保護者）の同意（有・無）

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。

質問については、可能な範囲でご記入ください。

保健所における麻しん対応調査票

患者氏名	
患者住所・電話番号	・（ ）
所属名（学校、勤務先等）・連絡先（学校、勤務先）	・（ ）
同居している家族の構成	

質問1 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間： 月 日～ 月 日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（ ）、期間 月 日～ 月 日）
- 3) 咳：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）

質問2 患者のご家族についてお聞きします。

- 1) 患者家族で今回、麻しんに罹患した人はいますか。無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）
- 2) 患者家族で麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいますか。
無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）

質問3 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きします。発熱初日の2週間前から解熱3日後までの期間についてお答えください。

- 1) 最終登園・登校・出勤日：（ 月 日）
- 2) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所： 時期： ）

この届出は診断後直ちに行ってください

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日 医療機関名: _____

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
2	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
3	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
4	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
5	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
6	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
7	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
8	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
9	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
10	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）

（上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

感染症発生動向調査事業報告書
平成23年（2011年）

平成24年7月

登録番号 (24) 7

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1
電 話 （03）3363-3231
印 刷 所 有限会社 太平印刷
〒171-0051 東京都豊島区长崎6-22-10
電 話 （03）3957-3911